



民法草案人事編理由書

下卷

1265



414  
A 2673  
2

第七章及第八章正誤

五丁裏三行 「佛國法」ノ上ハチ脱ス  
 六丁表六行 「十五年」ノ下年チ脱ス  
 九丁表七行 爲スハ爲スチノ誤  
 十二丁裏八行 「佛國」ノ下法チ脱ス  
 十六丁裏五行 能力ナハ能力チノ誤  
 十八丁表十行 「二ヶ月内」ノ下ニチ脱ス  
 二十七丁表十行 無縁ハ無効ノ誤  
 同裏十二行 縁ニハ効コノ誤  
 三十三丁表五行 「實子ア」ノ下ルチ脱ス  
 三十九丁表二行 「得」ノ下ヘチ脱ス  
 四十一丁表十二行 「所長ニ」ノ下請願チ脱ス  
 同裏四行 入トハ入レノ誤  
 四十五丁裏十二行 「許」ノ下サチ脱ス  
 四十六丁表二行 疎遠ノ規ハ疎遠ノ親ノ誤  
 四十七丁裏四行 「父親」ノ下權チ脱ス  
 五十一丁表一行 之ニハ之チノ誤

五十四丁表九行

同十二行

同裏二行

五十五丁表四行

第九章乃至第十一章正誤

二丁裏十二行 「ラ」管理者ハノ管理者ノ誤  
 四丁表九行 理管ハ管理ノ誤  
 五丁六裏行 「裁判所」ノ下判事チ削ル  
 七丁表一行 「レハ」ノ上然チ削ル  
 十二丁表四行 待クハ待クノ誤  
 十五丁表一行 ハ親族會事ハ事ノ親族會ノ誤  
 二十丁裏七行 破産者ハ破産者ノ誤  
 三十一丁裏十三行 「四十」ノ下八チ脱ス  
 四十九丁表十二行 「子孫」ノ下チ脱ス  
 第六丁裏八行 「アル」ノ下モチ削ル  
 第十八丁表八行 確書ハ證書ノ誤

第十一章乃至第十五章正誤

十八丁表九行  
 同十二行  
 同裏三行  
 二十丁表二行  
 二十一丁裏四行  
 二十六丁裏九行  
 三十七丁裏五行  
 三十八丁表五行  
 四十一丁表二行  
 六十三丁表十行  
 同裏十三行  
 六十六丁表十三行  
 同裏六行

証定ハ確定ノ誤  
 [此規則云々]ハ別項  
 保獲ハ保護ノ誤  
 宣告ハ宣言ノ誤  
 訟言ハ證言ノ誤  
 過ハ過キノ誤  
 賸本ハ賸本ノ誤  
 其他ハ其地ノ誤  
 アレハアラノ誤  
 [原]ノ下由チ脱シ固ハ因ノ誤  
 失踪在ハ失踪者ノ誤  
 賸本ハ賸本ノ誤  
 關係ハ關係ノ誤



民法草案 人事編理由書 下卷 目次

第七節	緣組	至第四百三十六條	法律取調報告委員 高野真遜 起稿	自第二百零九十七條
第六節	罰則	至第四百三十五條	法律取調報告委員 熊野敏三 起稿	自第二百零九十七條
第五節	緣組ノ效果	至第四百三十二條	法律取調報告委員 熊野敏三 起稿	自第二百零九十七條
第四節	緣組ノ不成立及ヒ無効	至第四百二十二條	法律取調報告委員 熊野敏三 起稿	自第二百零九十七條
第三節	緣組ノ證據	至第四百一十二條	法律取調報告委員 黑田綱彦 起稿	自第二百零九十七條
第二節	緣組ノ法式	至第四百九十六條	法律取調報告委員 光妙寺三郎 起稿	自第二百零九十七條
第一節	緣組ノ爲メ必要ナル條件	至第四百九十六條	法律取調報告委員 熊野敏三 起稿	自第二百零九十七條

大正十一年四月贈

第八章 親權

第一節 父母其子ノ身上ニ有スル

權

第二節 子ノ財産ノ管理

第三節 親權ノ喪失

第四節 庶出子ノ父母ニ特別ナル

規則

第九章 後見

總則

第一節 後見人

第二節 副後見人

第三節 親族會

第四節 後見ノ認免

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

至自 第二百六十八條

第五節 後見人及ヒ親族會員ノ欠

格斥除及ヒ罷黜

第六節 後見人ノ管理

第七節 副後見人ノ任務

第八節 後見ノ了終

第九節 後見ノ計算

第十章 未成年者ノ自治

第十一章 禁治產

第一節 民事上禁治產

第二節 准禁治產

第三節 刑事上禁治產

附錄 瘋癲者ノ假管理

第十二章 戸主及ヒ家族

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

至自 第三百九十九條

第十三章	住所	至自	第四百	第十二	條
第十四章	失踪	至自	第四百	第十一	條
第一節	失踪ノ推測	至自	第四百	三十一	條
第二節	失踪ノ宣言	至自	第四百	三十一	條
第三節	失踪宣言ノ效果	至自	第四百	三十一	條
第四節	失踪ノ推測及ヒ宣言ノ	至自	第四百	三十一	條
第十五章	兩期ニ通用スル規則	至自	第四百	三十一	條
第一節	身分證書	至自	第四百	三十六	條
第二節	總則	至自	第四百	三十六	條
第三節	出生證書	至自	第四百	三十六	條
第四節	婚姻及ヒ離婚證書	至自	第四百	三十六	條
第五節	縁組證書	至自	第四百	三十六	條
第六節	死去證書	至自	第四百	三十六	條

第六節	種々ノ證書	至自	第四百	九	條
第七節	特別ノ身分證書	至自	第四百	九	條
第八節	身分證書ノ訂正	至自	第四百	九	條
第九節	罰則	至自	第四百	九	條

第七章 縁組

(理由) 佛國ニ於テハ革命ノ時羅馬ノ共和政治ニ心醉シテ縁組ノ制ヲ採用シ  
民法ヲ以テ之ヲ規定セリト雖モ實際太ク稀ニシテ父母其庶出子ヲ養子トナ  
スノ外其例ナシト云フ此ノ如ク無益ノ制度ナルヲ以テ和蘭民法ハ之ヲ廢シ  
タリ伊國民法ノ如キ往々羅馬法ニ復歸セリト雖モ縁組ノ制ハ全ク其模範ヲ  
佛國法ニ採レリ白耳義草案ハ縁組ヲ以テ契約又ハ遺囑ニ由ル相續人ノ設定  
ト看做シ大ニ其性質ヲ變セリ要スルニ歐洲諸國ニ於テハ縁組ハ其實益微少  
ニシテ殆ント虚飾ノ制度ナリト云フモ可ナリ  
我國ニ於テハ縁組ノ制深ク習慣ニ入り古昔羅馬ノ外比較スヘキモノヲ見ス  
蓋シ羅馬ト我國トハ宗教政体ノ大ニ類似スル所アルヲ以テナリ縁組ノ廣ク  
行ハル、所以ヲ察スルニ第一、宗教上ノ必要ニ出テタルモノナリ即チ祖先ノ  
祭祀ヲ絶テサルノ主意ニシテ古代ノ人情ニ於テ止ムヲ得サルモノナリ死者  
ハ此世ヲ去ルト雖モ棺槨以テ之ヲ埋葬スルニ非サレハ幽魂彷徨トシテ寄ル

所ヲ得ス歲時墳墓靈壇ヲ清掃シ酒食ヲ供ヘ祀典ヲ致スニ非サレハ死者饑餓  
シテ安ニスルヲ得ス若シ一家斷絶スルハ死者其子孫ノ追養ヲ得スシテ其  
不幸如何ソヤ故ニ一家ノ繼續ハ宗教上最モ緊要ナル原則ニシテ縁組ハ之ヲ  
繼續セシムルノ制度ナリ第二貴族政体ノ國ニ於テハ縁組ノ制常ニ盛ナル  
ヲ見ル右族名家廢絶スルキハ其國ノ政体ヲ變更スルニ至ルヘキヲ以テ之ヲ  
保存スル爲メ養子ヲ爲スノ必要アリ且ツ封建時代ニ於テハ家名ノ斷絶ハ士  
分以上ニ於テ忽チ世祿ヲ失フニ至リシヲ以テ縁組ノ必要ナリハ深ク怪ム  
ニ足ラス第三我國ニ於テ縁組ノ制ハ尙ホ經濟上ノ必要ヲ有スルカ如シ富家  
ニ在テハ子女相當ノ年齢ニ至レハ父母之ニ媳婦ヲ迎ヘ其身代ヲ讓リ躬ヲ隱  
居シ貧家ニ在テハ其子女ノ稼業ニ依頼シ生活スルヲ常トスルカ故ニ實子ナ  
キ者ハ勿論男子ナキ者モ縁組ヲ爲スノ必要ヲ感スルモノナリ以上ノ理由ハ  
今日マテ縁組ノ盛ナル所以ニシテ西洋開化ノ益傳播スルニ至ラハ多少減  
少スヘシト雖モ今後數十年ノ間ハ大ニ變更ヲ覩ルヘカラス故ニ縁組ノ制ハ

民法上重要ナルハ勿論幾何カ政治上ニ關係アルモノナレハ之ヲ規定スルニ  
臨ミ最モ注意ヲ加ヘサルヘカラス  
我國ノ縁組ハ羅馬ノ制度ト大ニ類似スト雖モ佛國民法トハ全ク其性質ヲ異  
ニセリ佛國民法ノ縁組ハ殆ント相續人ノ設定ニ過キサレハ我國ノ縁組ハ民法  
上親子ノ關係ヲ生シ養子ハ其實家ヲ去リ養家ニ入ルモノナレハ佛國民法ヲ以  
テ模範ト爲スヲ得ヘカラス且ツ縁組ハ實際無數ノ需用ニ應ジ我國親屬法ノ  
基本タルモノナレハ其條件法式ノ如キモ佛國民法ノ如ク嚴重ニシテ窮屈ナル  
キハ實際ノ必要ニ適セサルナルヘシ故ニ縁組ノ規則ハ之ヲ外國法ヨリ採用  
スト雖モ勉メテ慣習ニ抵觸セサルコトニ注意セサルヘカラス  
第百九十六條 法律ハ三種ノ縁組即チ普通ノ縁組婚姻ニ由ル  
縁組及ヒ遺囑ノ縁組ヲ認許ス  
縁組ハ一旦成立シタルキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス  
本章ノ條例ハ特別ニ規定スルモノヲ除クノ外三種ノ縁組ニ

適用ス

(理由) 草案ハ三種ノ縁組ヲ認許ス是レ我國ノ慣習ニ依ルモノナリ縁組ハ雙方ノ合意ヲ以テ之ヲ爲スコトアリ之ヲ普通ノ縁組ト云フ一個人其女ヲ婚姻セシメ其婿ヲ養子ト爲スヲ婚姻ニ依ル縁組ト云フ又一個人其死後ノ爲メ遺囑書ヲ以テ養子ヲ爲スヲ遺囑ノ縁組ト云フ是レ稍稀ナリト雖モ往々其實例ヲ見ル此三種ノ縁組ノ差別ハ專ラ法式ニ依ルモノナレハ其法式ヲ説明スルニ至リ更ニ明瞭ナルヘシ此外我國ニハ死後養子ト稱シ一個人相續人ナク死去シタル場合ニ於テ親族熟議シテ養子ヲ爲シ其家ヲ繼カシムルコトアリ然レハ縁組ハ親子ノ關係ヲ造成セントスルモノコシテ死者ノ爲メ他人ヨリ養子ヲ爲スハ甚ク其謂ハレナキカ如シ是レ家督相續人ノ設定ニシテ之ヲ養子ト看做サ、ルヲ至當ナリト思考ス

第二項ハ縁組ノ効力ヲ定ムルモノニシテ最モ困難ノ問題ニ屬ス縁組ハ一旦成立スト雖モ場合ニ由リ之ヲ廢棄スルヲ允許スヘキヤ否ヤ是レナリ佛國法

ハ此點ニ付明文ナシト雖モ縁組ハ雙方ノ承諾ヲ以テモ之ヲ廢棄スルヲ許サ、ルハ一定ノ說ナリ然レハ我國ノ慣習ニハ離縁ヲ允許スルモノナリ而シテ草案ニ之ヲ禁シタルモノハ蓋シ止ムヲ得サルノ理由アルヲ以テナリ

夫レ縁組ハ人ノ身分ヲ變更スル行爲ニシテ民法上親子ノ關係ヲ造成スルモノナレハ其確定シテ變更セサルヲ良シトス若シ人ノ身分曖昧未定ニ屬スルハ其不都合決シテ少々ニアラス若シ離縁ヲ允許シ其効果既往ニ及フモノト爲スハ養子其實家ニ於テ受クヘキ相續ノ離縁前ニ發開シタルモノハ之ヲ請求スルヲ得ヘク又養家ニ於テ其獲得シタル相續ハ之ヲ返還セサルヘカテサルニ至ルヘシ是レ既得權ヲ害シ確定ノ地位ヲ變更シ甚ク不都合ナルヘシ之ニ反シ離縁ノ效果將來ニ止マルモノトナスハ其養家ニ於テ受ケタル相續ヲ保有シ而シテ其實家ニ於テ開キタル相續ヲ請求スルヲ得サルヘシ若シ彼是相殺スルハ別ニ不利益ナカルヘシト雖モ或ハ養家ノ財産ヲ他家ニ移スノ不都合ヲ生スルコトアルヘシ或ハ養子ハ養家ニ於テ相續スルニ至ラス



シテ既ニ實家ノ相續ヲ失ヒタルカ如キ結果ヲ生スルコトアルヘシ  
且ツ離縁ヲ允許スルハ婿養子ノ場合ニ於テハ殊ニ不都合ノ結果ヲ生スヘ  
シ離縁ヲ爲スモ其婚姻ハ存立スヘキモノト爲スルハ養子ハ其妻子ヲ携帶シ  
テ實家ニ復歸スルノ外アルヘカラス此ノ如クハ實家ニ於テハ養子ハ其固  
有ノ財産ナキヲ以テ頗ル迷惑ナルヘク又養家ニ於テハ其家女ヲ失ヒ更ニ婿  
養子ヲ爲シ其家ヲ繼カシムル能ハサルヘシ若シ又離縁ニ由リ婚姻マテモ解  
離スルモノト爲スルハ法律上離婚ノ原由ヲ定メタルハ徒法ニ屬スルニ至ル  
ヘシ加之婚姻ハ夫婦間ノ關係ニシテ縁組ハ親子間ノ關係ナレハ其一旦成立  
シタルハ互ニ獨立シ此ヲ以テ彼ヲ解離スルノ理由アルヘカラス離婚ハ今  
日ノ習慣ニ由ルモ縁組ヲ解離スルモノニ非サレハ離縁モ亦婚姻ヲ解離セサ  
ルチ當然ト爲スナリ  
又離縁ヲ禁スルハ自由ヲ制限シ少シク窮屈ナルカ如シト雖モ別ニ之ヲ允許  
スルノ必要アルチ見ス夫婦ハ一家ニ同居スヘキモノナルカ故ニ場合ニ由リ

同居スルチ得サルノ情實ヲ生シ止ムチ得スシテ離婚ヲ允許スト雖モ親子ハ  
必ス一家ニ同居スルチ要セサルニ由リ又離縁ヲ允許スルノ必要アルヘカ  
ス養親ニ於テ殘酷ノ取扱ヲ爲シ養子ニ於テ忘恩不孝ヲ爲スカ如キアラハ親  
子別居シテ可ナリ縁組ハ他人ヲ以テ我子ト爲スモノニシテ血肉ノ關係アル  
ニアラサレハ親子ノ間天倫ノ恩愛ヲ生スル能ハサルハ勿論ノコトニシテ何人  
ト雖モ之ヲ知ラサルノ理ナシ是レ普通ノ注意ヲ以テ豫知スルチ得ヘキモノ  
ナレハ其初メニ當リ利害ヲ熟考スヘキ所ニシテ事後ニ至リ其不都合ヲ唱フ  
ルモ其愚チ憐ムニ足ラス  
或ハ云ハシ双方成年者タルハ自由ニ縁組ヲ承諾シタルモノナレハ離縁ヲ  
禁スルモ別ニ不都合ナシト雖モ草案ハ未成年者ノ縁組ヲ允許セリ父母其未  
成年ノ子ヲ他家ノ養子ト爲シ子其縁組ヲ解クチ得サルハ子ノ權利ヲ害シ  
條理ニ違フノ太甚シキモノナリト此非難ハ太ク當然ニシテ吾輩モ未成年者  
ハ成年ニ至リ縁組ヲ解除スルチ得ヘシト爲スノ意思ナリシカ其不都合チ如

何セシ若シ解除ノ權ヲ與フルハ前陳述シタル身分不確定ノ弊害ニ陷ルヘシ解除ハ其効力ヲ既往ニ及ホスモノコシテ既コ發開シタル相續ノ分配ヲ仕直シ養子ハ其養家ニ於テ受ケタル養育ノ入費ヲ辨濟スルヲ要スルニ至ルヘシ若シ養親非道ノ取扱ヲ爲シ又ハ其養育ヲ爲サ、ルハ之ニ對シ親權ノ喪失ヲ宣告シ子ノ監護ヲ他人ニ委ヌルヲ得ヘキカ故ニ是亦深ク患フルニ足フサルナリ今日ノ慣習ニ依ルモ未成年ノ養子家督相續ヲ爲シタルハ其縁組ヲ解キ實家ニ取返スヲ得サルモノナリ故ニ假令未成年者ノ縁組ハ成年ニ至リ之ヲ解除スルヲ得ヘキモノトナスモ家督相續ヲナシタル場合ニ於テハ之ヲ禁セサルヲ得サルヘシ

第一節 縁組ノ爲メ必要ナル條件

第九十七條 何人ト雖モ滿四十年以上ニシテ且ツ其養ハントスル者ヨリ年長ナルニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得ス(佛第三百四十三條、伊第二百二條)

然レモ四十年未滿ノ者ト雖モ婚姻ニ依リ養子ヲ爲スヲ得遺囑ヲ以テ養子ヲ爲スノ能力ハ遺囑ヲ爲ス能力ニ關スル規則ニ從フ

(理由) 縁組ノ條件ハ養親ノ身ニ必要ナルモノアリ又養子ノ身ニ必要ナルモノアリ法律ハ最初ニ養親ノ身ニ關スル條件ヲ規定シ次ニ養子ノ身ニ關スル條件ニ及フモノトス本條ハ養親ニ關シ二箇ノ條件ヲ要求スルモノニシテ養親ハ滿四十年以上ニシテ且ツ養子ヨリ年長ナルヲ要ス先ツ年齢ヨリ論センニ縁組ハ實子ナキカ又ハ實子ヲ喪ヒタル者ヲ憫ミ設ケタル制度ナレハ實子ヲ持ツノ望ミアル間ハ之ヲ允許スヘカラス男女婚姻シテ四十年ニ至ルモ子ナキハ殆ント其望ミナカルヘシ又四十年マテ婚姻セサル者ハ婚姻セント欲スルヲナカルヘシ或ハ婚姻セサル者ニ縁組ヲ允許スルハ人ヲ婚姻ヨリ遠クルニ至ルヘシト云フ者アラシク然レモ老年ニ至リ養子ヲ爲サンカ爲メ婚姻ヲ爲サ、ルヲ患フルハ人情ヲ解セサルノ說ナリ或ハ

婚姻スル能ハスシテ止ム者アリ或ハ獨身ノ自由ヲ愛シ婚姻セサル者アリト雖モ養子ノ望ミアルカ故ニ婚姻セサル者アルヘカラス四十年ノ年齢ヲ採用シタル佛國法ニ比較シ十年ヲ減縮シタルニ過キス蓋シ國人ハ之ヲ佛國人ニ比スレハ早ク衰老シ且ツ短命ナレハナリ然レモ四十年未滿ノ人ト雖モ養子ヲ爲スノ必要ヲ感スルコトアラフ故ニ白耳義草案ハ成年ニ至レハ養子ヲ爲スコトヲ允許セリ其理由ニ曰ク子ナキ悲ム者ハ誰ソヤ壯年ノ夫婦殊ニ壯年ノ婦ナリ早ク之ニ養子ヲ爲スコトヲ允許セハ習其性ト爲リ相親愛スルヲ希フヘシ老年ニ至レハ愛情既ニ減シ他人ニ親着スヘカラスト此説タル人情ニ透徹セリト雖モ頗ル不都合ヲ生スヘシ養子ヲ爲シタル後實子ノ生ル、アリテ養子ヲ嫌忌シ之ヲ虐待シ之ヲ離縁スルハ其例甚ク多シ草案ハ離縁ヲ允許セスト雖モ是レ一家ノ混雜ヲ生スヘキ端緒タルヘシ

次ニ養親ハ養子ヨリ年長ナルコトヲ要求スルモノハ天倫ヲ模倣シ親子ノ關係

ヲ立テントスルモノナレハナリ若シ其同年ナルカ又ハ其年少ナルカハ甚ク奇怪タルヘシ佛國法ハ此理由ニ依リ普通ノ縁組ニ於テハ養親ハ其養子ヨリ十五年年長ナルヲ要求セリ然レモ恩義ノ縁組ニ於テハ只年長ナルヲ以テ充分ト爲セリ我國ニ於テハ養親子ノ間年齢ノ懸隔スルヲ普通ト爲セバ必スモ必要ナラサルカ如シ養父母ト養子トノ間十五年ノ差アルヲ要求セハ前妻ノ女ニ婚養子ヲ爲サントスル場合ノ如キハ繼母ハ婚養子ヨリ十五年長ナルヲ要シ甚ク不都合ナルヘシ

第二項ハ婚姻ニ依ル縁組ニ付年齢ニ關スル特例ヲ設ク四十年未滿ノ者ト雖モ婚姻ノ年齢ニ達シタル女子アルカ之ニ婚養子ヲ爲スヲ得ルモノトス然レモ養父母ハ婚養子ヨリ年長ナルヲ要スルハ勿論トス故ニ夫婦ニシテ婚養子ヲ爲スルハ兩人正其養子ヨリ年長ヲサレハカラス若シ婦其養子ヨリ年少ナルカハ其縁組ハ無効タルヘシ尤モ夫ノ縁組ハ有効タルコト妨ケナシ

第三項ハ遺囑ノ縁組ニ關スル特例ヲ設ク若シ滿四十年ニ非サレハ養子ヲ爲

ス能ハサルハ其年齢ニ達セズテ死去スルハ其家斷絶スヘシ故ニ外國ノ法律中不具等ノ爲メ子ナキ者ハ縁組ノ適齡前ト雖モ特許ヲ得テ養子ヲ爲スヲテ允許スルモノアリ草案ニハ年齢ノ特許ヲ設ケサルモノハ專恣ノ弊ニ陷ルヲ以テナリ然レモ養子ヲ爲シ其家ヲ繼續スルヲ得セシメシカ爲メ遺囑ノ縁組ヲ設ケタリ此縁組ハ遺囑ノ能力ニ從ヒ滿十六年ニ至レハ之ヲ爲スヲ得ヘシ遺囑ノ縁組ニ於テモ養親ハ年長ナルヲ要スルハ勿論ナリ

### 第九十八條

自家ニ正出若クハ庶出ノ子孫又ハ養子アル者

ハ特許ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得ス但シ婚姻又ハ

遺囑ニ由ル縁組ハ此例ニ在ラス(同上)

特許ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ與フ可カラズ

(理由) 縁組ハ親子ノ關係ヲ造成シ家名ヲ繼續セシムルノ目的ニ過キサレハ正出庶出ヲ問ハス實子アル者ハ養子ヲ爲スヲテ允許スヘカラス人親タルノ幸福ヲ有シ其家ヲ繼續スヘキ者アレハ養子ヲ爲スノ必要ナカルヘシ親子ハ

天倫ニシテ父母ハ其由テ生スル義務ヲ盡サ、ルヘカラス養子ノ親愛ハ決シテ骨肉ニ勝ルヘカラス故ニ佛國法ハ庶出子アルニ拘ラス養子ヲ允許スト雖モ草案ハ骨肉ノ子アルハ庶出ナリト雖モ養子ヲ爲スヲテ允許セス佛國ニ於テハ胎内ニ在ル實子ハ縁組ノ無効ヲ惹起スヘキヤ否ヤニ付議論ナキニ非サレモ胎内ノ子ト雖モ其利益ニ關スルハ出生シタル者ト看做スカ故ニ若シ子ノ懷胎ヲ知ラスシテ養子ヲ爲セタルハ縁組ハ當然無効タルヘシ是レ第二條ノ適用ニ過キス以上ノ點ニ付テハ白耳義草案モ其規定ヲ同フセリ然レモ草案ハ一ノ制限ヲ設ケ自家ニ正出庶出ノ子孫アル者ハ養子ヲ爲スヲ得スト云ヘリ故ニ他家ニ骨肉ノ子孫アリト雖モ縁組ノ妨礙ト爲ルヘカラス例之ハ家女ヲ他家ニ嫁シ又ハ次男ヲ養子ト爲セタル後嗣子ノ死去シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ骨肉ノ子アリト雖モ其家ヲ繼續ク能ハサルニ由リ養子ヲ爲スヲテ允許スルニ依レハ實子アリト雖モ養子ヲ爲ス此規則ハ少シク慣習ニ反スルナキガ慣習ニ依レハ實子アリト雖モ養子ヲ爲

スノ妨ケト爲ラサルカ如シ然レハ既ニ骨肉ノ子アレハ他人ヲ養子ト爲スノ  
必要ナカルヘシ然リ而シテ全ク養子ヲ禁スルハ實際ノ不便ナシト云フ可  
ラス故ニ正當ノ理由アルハ特許ヲ得テ養子ヲ爲スヲ允許セリ正當ノ理  
由如何ハ之ヲ法律ニ定メシテ政府ノ斟酌ニ任カスモノナリ思フコ實子ア  
レハ失踪シテ其生死ヲ知ラサル場合ハ眞ニ養子ヲ允許スルノ正當理由タル  
ヘシ佛國法ニ於テハ養子ヲ爲ス能ハスニ甚ク不都合ナリ然レハ實子ノ不  
具癡疾瘋癲等ハ之ヲ正當理由ト爲スヲ得ス是等ノ子ハ天民ノ不幸ナルモノ  
ニシテ父母ノ義務ハ一層増加シ其一生ノ安全ヲ確保スルヲ勉メサルヘカラ  
ス且ツ草案ハ後見及ヒ保管ノ規則ヲ設クルカ故ニ其家ヲ繼ガシムルモ別ニ  
不都合アルコトナシ此ノ如ク正當理由ハ失踪ノ場合ニ限ルヲ以テ法文ニ之ヲ  
明言シ特許ヲ以テ養子ヲ允許スルコトヲ廢スヘシ是等ノ事項ニ於テ特許ヲ以  
テ法律ノ適用ヲ變更スルハ甚ク弊害アリ婚姻ノ年齢及ヒ親屬ノ關係ヨリ生  
スル婚姻ノ妨礙ニ付テハ既ニ特許ヲ廢シタリ然ルニ之ヲ茲ニ設クルハ前後

撞着スルノ嫌アリ故ニ第一項中特許ヲ得ルニ非サレハノ一段ヲ削リ但書ニ  
失踪ノ宣言アリタルハ格別ナリト爲シ第二項ヲ削リ現在ノ但書ヲ置キ本  
條ノ規則ハ婚姻又ハ遺囑ニ由ル縁組ニ適用セスト爲スノ至當ナルヘシ  
本條但書ノ例外ハ最モ適當ナルヘシ女子アル者ハ之ニ婿養子ヲ允許スヘキ  
ハ勿論數女アルハ其數女ニ各婿養子ヲ爲スハ法律ノ允許スル所ナリ又遺  
囑ノ養子ハ實子アリト雖モ之ヲ允許セサルヘカラス遺囑ハ死去ノ日ニ其効  
力ヲ生スルモノニシテ實子ハ其父母ニ先チ死去セサル時期ス可ラサレハナ  
リ  
佛國法ニ依レハ養子ハ幾人ナリト之ヲ爲スヲ得ルモノニシテ原案ニハ之ヲ  
允許セシカ數人ノ養子ヲ爲スノ必要ナカルヘシトノ理由ヨリ之ヲ改正セラ  
レ養子アル者モ更ニ養子ヲ爲ス能ハサルモノト定メタリ然レハ縁組ハ天然  
ノ親子ヲ撰擷スルモノナレハ數人ノ養子ヲ允許スルハ其性質ニ適スルカ如  
シ且ツ實子アルトハ大ニ異ニシテ之ヲ允許スルモ別ニ不都合ナカルヘシ

第一百九十九條 後見人ハ其管理ノ計算ヲ爲サ、ル前ニ其後見  
スル未成年者ヲ養子ト爲スヲ得ス但シ遺囑ノ縁組ハ此例  
ニ在ラス(伊第二百七條)  
管理ノ計算ハ未成年者ノ副後見人ニ之ヲ爲シ親族會ノ允許  
ニ付ス

(理由) 本條ノ規則ハ其主意至テ簡單ナリ後見人自由ニ其後見スル未成年者  
ヲ養子ト爲スヲ得レハ其管理ノ計算ヲ免カル、ノ惡計ニ出ツルナシト云フ  
ヘカラス故ニ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メ豫メ計算ヲ爲サシムルヲ要ス  
然レモ遺囑ノ縁組ハ後見人之ヲ爲スヲ得ルモノトス何トナレハ遺囑ハ養親  
死去ノ日ニ其効果ヲ生スルモノニシテ此危險ナクテハナリ

第二百條 配偶者アル者ハ其承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲  
シ又ハ養子ト爲ルヲ得ス但シ配偶者ノ失踪宣言アリタル  
キハ此例ニ在ラス遺囑ヲ以テ養子ヲ爲スキ亦同シ(佛第三百

#### 四十四條

(理由) 本條ハ養親及ヒ養子ニ關スル條件ヲ規定スルニ由リ先ツ養親ニ關ス  
ル條件ヨリ説明スヘシ配偶者アル者ハ其承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲ス  
ヲ得ス若シ其承諾ナクシテ他人ヲ其家ニ入ル、キハ一家ノ不和混雜ヲ生  
スヘキノモナラス配偶者ハ爲メニ其利益ヲ損害セラルヘシ養子ハ養料相續  
等ノ權利ヲ有スルニ由リ配偶者ハ其結果ヲ蒙フルニ至ルヘシ  
然レモ尙ホ一步ヲ進メ夫婦ハ共同一致スルニ非サレハ養子ヲ爲ス得サル  
モノト定ムヘキカ縁組ハ親子ヲ摸擬スルモノナレハ夫婦共ニ養子ヲ爲スハ  
頗ル其性質ニ適スヘキカ如シ佛國民法編纂ノ時那氏ハ盛クニ此論ヲ主張セ  
シト云フ然レモ夫婦ハ往々其利益ト意見ト異ニスヘキカ故ニ若シ兩人一  
致スルニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得サルキハ夫ハ其婦ヲ強迫シ婦ハ其夫ニ服  
從シ竟ニ一家ノ不和ヲ生スルニ至ルヘシ若シ夫婦其意見利益ヲ同フセハ固  
ヨリ一致シテ養子ヲ爲スヘシ且ツ夫婦共同ニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得スト

云フキハ夫婦共ニ滿四十年以上ナルヲ要スヘク而シテ通常夫婦ノ年齢ハ大ニ懸隔スルヲ以テ夫ハ五六十年ニ至ルコト非サレハ實際養子ヲ爲ス能ハサルノ結果ヲ生スヘシ若シ此不都合ヲ避ケント欲セハ成年者養子ヲ爲スコトヲ允許セサル可ラス然レモ若シ此ノ如クスレハ養子ヲ爲シタル後屢實子ヲ設ケルコトアリテ一家ノ混雜ヲ來タスヘシ此外夫婦各別ニ養子ヲ爲スヲ允許スルハ他ノ利益アリ夫婦ノ一方庶出子又ハ前婚ノ子アルキハ若シ夫婦共ニ養子ヲ爲スヲ必要トセハ配偶者ハ其權利ヲ行ヒ養子ヲ爲スコト能ハサルヘシ是レ豈ニ至當ト爲スヘケンヤ或ハ云ハン婦ハ一人コト養子ヲ爲スノ必要ナシト詢ニ縁組ハ一家ヲ繼續スルヲ目的トスレハ他家ニ嫁シタル婦ハ養子ヲ爲スヲ要セサルカ如シ然レモ婦女ノ中戸主タル者ハ養子ヲ爲スノ必要アルハ勿論他家ニ嫁シタル婦ト雖モ或ハ其實家ヲ再興スル爲メ或ハ夫ニハ庶出子又ハ前婚ノ子アルキ自己恩愛ノ爲メ養子ヲ爲スノ利益ヲ有スヘシ假令必要ナシト雖モ男女共ニ私權ヲ享有スヘキモノナレハ有夫ノ婦ト雖モ其權利ヲ有

セサルノ理ナシ  
然レモ實際配偶者ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルキハ如何此場合ニ於テハ止ムヲ得サルヲ以テ承諾ナシト雖モ養子ヲ爲スヲ允許スヘシ例之ハ配偶者失踪ノ宣言ヲ受ケタル場合ノ如シ失踪ノ宣言ハ離婚ノ原由タルモノナレハ養子ヲ允許スルハ當然ナリ此外癡癩ノ爲メ治産ノ禁ヲ受ケ承諾スル能ハサルキハ如何是レ法文ニ明示セスト雖モ同一ノ決定ヲ與フヘキカ如シ此外遺囑ノ養子ヲ爲スコトハ配偶者ノ承諾ヲ要セサルモノトス遺囑ハ婚姻解除ノ日ニ其効果ヲ生スルモノナレハ配偶者ノ承諾ナシト雖モ更ニ不都合アルコトナシ本條ノ規則ヲ婚姻ノ章第四十七條第二項ト對照スルキハ一ノ困難アルカ如シ縁組ハ配偶者ノ承諾アルコト非サレハ之ヲ爲スヲ得スト雖モ婚姻ハ夫婦ノ異議ニ拘ラス夫ノ承諾ヲ以テ充分トスレハ婚姻ニ由ル縁組ノ場合ニ於テハ何レノ規則ニ從フヘキヤノ疑アルヘシ是レ尙ホ本條ノ規則ニ從ヒ婦ノ承諾アルニ非サレハ夫ハ婿養子ヲ爲スヲ得スト決定セサルヘカラス何トナレハ家

女ヲ他家ニ嫁シ又ハ家子ニ迎テ迎フルモ婚姻ハ別ニ配偶者ノ利益ヲ害スヘ  
カラスト雖モ婚養子ハ夫ノ實子ト同一ニ相続養料ノ權利ヲ有シ其結果ハ直  
ニ配偶者ノ身ニ及ヘハナリ  
草案ニ依リ養親ノ身ニ必要ナル條件ハ右ニ述フルカ如シ此外未成年者ノ縁  
組ニ付テハ一ノ特別條件アリ佛國法ニ依レハ養親ハ名譽ノ人タルヲ要求  
セリ蓋シ猥褻ノ目的ヲ以テ養子女ヲ爲ス者アラントチ恐ルレハナリ我國ニ  
於テハ多少此弊風アリテ女子ヲ養ヒ之ヲ藝妓ト爲スノ實例ヲ見ル成年  
者ハ完全ノ能力ヲ有スルモノナレハ別ニ法律ノ干涉ヲ要セスト雖モ未成年  
者ノ縁組ニ付テハ此弊害ヲ豫防セサルヘカラスト故ニ裁判所ニ於テ養親ハ不  
名譽ノ人ニ非サルヲ調査スヘキモノトナセリ此點ハ後ニ至リ更ニ明瞭ナ  
ルヘシ  
佛國法ハ尙ホ養親其養ハントスル子ニ對シ六年間世話給養ヲ爲シタルヲ  
要求セリ蓋シ親子ノ關係ニ相當スヘキ親愛ノ實アラントチ保証スルノ目的

ナリ此條件ヲ容易ニスル爲メ特ニ好意ノ後見ト稱スル制度ヲ設ケ六年間此  
後見ヲ行ヒタル者ハ其未成年者ヲ養子ト爲スヲ得ヘシト爲セリ然レモ親愛  
ノ實アルヤ否ヤハ養親ノ事ニシテ其自由ニ任セテ可ナリ親愛ハ實ニ其然ル  
所以ヲ知ル能ハサルモノニシテ其保證ヲ得ントスルハ到底其効アル可ラス  
故ニ草案ニハ此條件及ヒ好意ノ後見ヲ設定セス伊國民法及ヒ白耳義新案ノ  
如キモ亦然リトス  
又外國ノ法律中養親ニ父母アルキハ其父母ノ承諾ヲ要スルモノアリ蓋シ養  
子ヲ爲セハ父母ハ其貯存財産ニ相続スルノ權利ヲ失フヘキヲ以テナリ然レ  
モ普通ノ縁組ハ四十年以上ノ人之ヲ爲スモノナレハ父母ノ承諾ヲ要求スル  
ハ之ヲ相當ト云フヘカラスト婚姻ニ由ル縁組ハ家女ノ存スル場合ナレハ父母  
ハ相続權ヲ有スルヲナシ然レモ遺囑ノ縁組ハ如何是レ父母ノ相続權ヲ害ス  
ヘシト雖モ遺囑ハ決シテ他人ノ承諾ヲ要ス可ラサルモノナリ  
今ヤ養子ノ身ニ必要ナル條件ニ移ラン其第一ハ本條ニ規定スル所ニシテ夫



婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ他人ノ養子ト爲ルヲ得ス婦ハ其夫ニ  
服従スヘキ義務アレハ自由ニ他人ノ養子ト爲ルヲ允許スルハ相當ナルヘカ  
ラス又夫他人ノ養子トナレハ其氏及ヒ分限ヲ變更シ婦其結果ヲ受クヘキヲ  
以テ婦ノ承諾ヲ要求スルノ適當ナルヘシ然レモ配偶者失踪ノ宣言ヲ受ケタ  
ルキハ其承諾ヲ要スヘカラス瘋癲ノ爲メ治産ノ禁アリタルキハ之ニ准スヘ  
シ

第二百一條 何人ト雖モ夫婦ノ養子ト爲ルノ外同時又ハ順次  
ニ數人ノ養子ト爲ルヲ得ス(佛同上)

(理由) 一個人ニシテ同時又ハ順次ニ數人ノ養子ト爲ルヲ禁スルモノハ親  
子ノ天倫ヲ摸擬センカ爲メナリ且ツ數人ノ養親アルキハ其間不都合ノ論争  
ヲ生スルヲアルヘシ例之ハ未成年者ヲ養子ト爲シタル場合ノ如キハ何人カ  
親權ヲ行フヘキヤ又養子ノ死去スルキハ何人カ之ニ相續スヘキヤ甚ダ困難  
ナルヘシ然レモ庶出子ノ父母之ヲ養子ト爲セハ頗ル天倫ニ適フカ如シト雖

モ他ノ危險アリ其縁組ハ准正ノ効ヲ有スヘシ其父母ノ婚姻ヲ無用ト爲スニ  
至ルヘシ故ニ庶出子ノ父母中一方之ヲ養子ト爲セハ他ノ一方ハ之ヲ養子ト  
爲ヌヲ得ヘカラス我國ノ慣習ニ依レハ養子ヲ爲シ更ニ之ヲ他家ノ養子ニ爲  
スノ風アレモ今之ヲ採用セス未成年者ノ縁組ノ如キ最初ハ骨肉ノ親之ヲ承  
諾スレハ其利害ニ注意スヘシト雖モ養親ハ其養子ヲ嫌忌シ之ヲ棄ツルノ意  
ナシト云フ可ラス且ツ縁組ハ其必要アリテ之ヲ爲スモノナレハ更ニ他家ノ  
養子ト爲スノ理アルヘカラス故ニ夫婦ニ非サレハ一個人ヲ共ニ其養子ト爲  
スヲ得サルモノトス

第二百二條 家督相續ヲ爲シ戸主ト爲リタル者ハ他人ノ養子  
ト爲ルヲ得ス

(理由) 此規則ハ縁組ノ性質ヨリ出ツ縁組ハ一家ヲ繼續スルノ主意ニシテ家  
督相續ヲ爲シタル者他家ノ養子ト爲ルヲ得ハ其家忽チ斷絶スヘシ慣習ニ依  
レハ夫婦養子ト稱シ戸主ヲ養子ト爲スノ制度アリト雖モ縁組ノ性質ニ反ス

ルヲ以テ之ヲ採用セズ然レモ家督ヲ爲サ、ル間ハ長子ト雖モ隨意ニ他家ノ養子ト爲ルヲ妨ケス若シ之ヲ禁セハ長子ノ權利ハ却テ二三男ニ及ハサルニ至ルヘシ但シ長子ニシテ養子ト爲ルハ實際其例稀ナルヘシ然レモ家督相續ヲ爲シタル者ニ非サレハ一家ノ主トリト雖モ他人ノ養子ト爲ルヲ得ヘシ例之ハ二三男ノ者分家セタル後其家ヲ舉ケテ養子ト爲ルモ妨ケアルヘカラス二代目ニ至レハ之ヲ家督相續ト看做スヘキヤ否ヤ此點ハ相續編ノ問題ナレハ茲ニ贅セズ

此外佛國ニ依レハ養子ノ身ニ必要ナル條件尙ホ二箇アリ第一、養子ト爲ル者ハ成年者タルヲ要ス草案ハ未成年者ノ縁組ヲ允許スルモノナレハ後ニ之ヲ辨明スヘシ第二、滿廿五年以下ノ者ハ父母又ハ生存者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス是レ婚姻ノ場合ト大同小異ノ規則ナリ草案ニ依レハ成年者ハ如何ナル行爲ト雖モ之ヲ爲スヲ得ルノ能力アルカ故ニ此條件ヲ設ケス僅ニ一子アリテ其子他家ノ養子ト爲ルカ如キハ不都合ナラント雖モ父母ノ承諾ヲ要スヘキモノ

トナセハ其權利ヲ害スヘシ是レ稀有ノ事實ナルヘキヲ以テ別ニ懸念スルニ及ハス

佛國ニ於テハ庶出子ヲ養子ト爲スヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ大ニ議論アリ此問題ハ太々困難ニシテ佛國大審院ハ三度マテ其說ヲ變シタルヲ以テ之ヲ証スヘシ然レモ立法上ヨリ見ルキハ稍簡單ナリ原案ハ伊國民法ニ倣ヒ之ヲ禁セシナリ蓋シ庶出子ト其父母トノ間ハ天倫ノ親屬ナレハ別ニ縁組ヲ爲スノ理由アルヘカラス縁組ハ天倫ヲ擬スルモノニシテ既ニ骨肉ノ關係アレハ法律上親子ノ關係ヲ設ケントスルハ條理ニ違背シ理解スヘカラサレハナリ然レモ會議中之ヲ修正シ父母ハ其庶出子ヲ養子ト爲スヲ得ヘキコトニ決定シタリ何トナレハ別ニ不都合ナキノミナラス父母ノ一方死去シタル場合ノ如キハ婚姻ニ由ル准正ヲ爲スヲ得サルニ由リ縁組ヲ允許セハ一種ノ准正ト爲リ屢私通又ハ姦通ノ外面ヲ隠包スルヲ得ヘキ便宜アレハナリ

第二節 縁組ノ法式

第二百三條 普通ノ縁組ハ契約ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

縁組契約ハ養親又ハ養子ノ住所若クハ居所ノ身分取扱人ノ前ニ於テ證人二名ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ(佛第三百五十三條)

(理由) 法律ハ最初ニ普通縁組ノ法式ヲ規定ス此縁組ハ契約ヲ以テ爲スモノニシテ其契約ハ有式ノモノトス縁組ハ一家ノ繼續ヲ主トシ親子ノ關係ヲ生シ相續ノ順位ヲ變更スルモノナレハ公益ニ關スル最モ重大ノ事ナルニ由リ嚴重ノ法式ヲ設ケサルヘカラス  
佛國法ニ依レハ縁組ハ身分取扱人ノ前ニ於テ之ヲ爲シ裁判所ノ認可ヲ要スルモノト爲セリ是レ羅馬法ヲ模擬スルモノニシテ鄭重ニ過クルカ如シ故ニ草案ハ裁判所ノ認可ヲ要セサルモノトナシタリ成年者ハ躬ラ其利害ヲ商考スルヲ得ヘクシテ其自由ニ任シテ可ナリ白耳義草案ハ尙ホ一步ヲ進メ私署證書ヲ以テ縁組ヲ爲スヲテ允許ス蓋シ縁組ハ相續人ノ設定ニ過キスシテ親

屬ノ變更ヲ生セサレハ官吏ノ立會ヲ要セスト云フニ在リ然レトモ我國ノ縁組ハ之ト異ニシテ養子ハ實家ヲ去リ養家ニ入り一家ノ繼續ヲ目的トスル公益上ノ制度ナレハ身分取扱人ノ前ニ於テ之ヲ爲スニ至當ナリト信ス  
身分取扱人ハ養親又ハ養子ノ住所若クハ居所ノ者ヲ以テ管轄トス佛國法ニ據レハ必ス養親ノ住所ノ身分取扱人ニ限レリ是レ甚ク窮屈ナルヘキヲ以テ其管轄ヲ廣フセリ殊ニ草案ハ未成年者ノ縁組ヲ允許スルカ故ニ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スヲ許スハ太ク便益ナルヘシ

第二百四條 未成年者ノ縁組ハ其父母ノ承諾ヲ以テ之ヲ爲ス

ヲ得但シ其子現場ニ在ルヲ要ス(佛第三百四十六條)  
父母ノ中一人死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルハ他ノ一人ノ承諾ヲ以テ足レリトス

第二百五條 父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルハ親族會其縁組ヲ承諾スルヲ得

育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ院長之ヲ承諾スルヲ得

(理由) 本條ハ縁組ノ事項中最モ困難ナル問題ヲ規定セリ縁組ハ成年者ニ限ルヘキヤ否ヤ是レナリ一方ヨリ之ヲ見レハ未成年者ハ縁組ニ由リ其身分及ヒ之ニ附着スル權利ヲ喪失スヘキヲ以テ最モ重大ノコトニシテ他人ノ其縁組ヲ承諾スルヲ允許スヘカラサルカ如シ然レモ他ノ一方ヨリ見レハ未成年者ノ縁組ハ我國ノ慣習ニ於テ最モ盛ナル所ニシテ婚姻ニ由ル縁組ノ外ハ概テ然ラサルハナシ佛國ニ於テモ原案ニハ未成年者ニ非サレハ養子ト爲ヌテ得ストノ規則アリキ伊國民法モ未成年者ノ縁組ノ利益ヲ感シタルモノト見ヘ滿十八年ノ者ハ養子ト爲ルヲ允許ス白耳義草案ハ更ニ一步ヲ進メ廣ク未成年者ノ縁組ヲ允許ス蓋シ其縁組ハ我國ノ縁組ト全ク性質ヲ異ニスルニ由ル「ローラン」氏曰ク縁組ハ畢竟契約ヲ以テスル相續人ノ設定又ハ包括名義ノ遺囑ニ過キサレハ未成年者ト雖モ其代理人ノ承諾ヲ以テ養子ト爲ルノ妨ク

アルヘカラス若シ養子ヲシテ實家ヲ去リ養家ニ入ラシムルモノナレハ縁組ハ必ス成年者ニ限ラサルヘカラスト雖モ此草案ノ縁組ハ此ノ如キ効果ヲ生スルモノニ非スト故ニ若シ我國ノ縁組ヲ見ハ未成年者ノ縁組ヲ禁スルヤ必セリ然レモ縁組ハ未成年者ヲ養子ト爲ヌテ得ルニ非サレハ其目的ヲ達スヘカラス成年者ニ對シ忽然親愛ノ情ヲ發スルハ決シテ之レアルヘカラス其情ヲ發スルハ童兒ノ稚弱可憐ナルニ由ル之ヲ子視シテ以テ成長セハ習其性ト爲リ親愛ノ實アルヘシ愛情ハ幼弱ニ原由シ孝心ハ恩義ニ發生スヘシ故ニ未成年者ノ縁組ヲ允許セサレハ殆ント其眼目ヲ奪フニ異ナラサルヘシ然レモ未成年者ハ其縁組ニ由リ身分及ヒ之ニ附從スル權利ヲ失フモノナレハ其利益ヲ保護スルコトヲ注意セサル可ラス故ニ未成年者ノ縁組ニ付テハ佛國法ノ規則ヲ採用シ裁判所ノ認可ヲ要スルモノトナシテ實際ニ於テハ父母其子ヲ他人ノ養子ト爲ヌハ或ハ之ヲ養育スル能ハス或ハ其一生ノ幸福ヲ確保スル能ハサルモノニシテ充分ノ資力アリテ其子ヲ捐棄スルハ極メテ稀ナルヘ

然レ此點ハ不満足ナキニ非サレ其不都合ヲ救正スルノ方法ヲ尋スルニ或ハ養子ハ其實家ニ於テ相續權ヲ保有スルモノト爲スカ或ハ成年ニ至リ縁組ヲ解除スルノ權能ヲ與フルカ二者中其一ヲ採用スルノ外ナシ此點ハ既ニ辯明セタル所ナレハ更ニ之ヲ贅セス

本條ノ規則ハ一讀シテ其意ヲ了解スヘシ只其注目スヘキハ婚姻ノ承諾ニ於ケルト少シク差異アルコトナリ婚姻ニ付テハ父母其意見ヲ異ニスレハ父ノ許諾ヲ以テ充分ト爲セ凡縁組ニ付テハ必ス父母兩人ノ承諾スルヲ要ス蓋シ縁組ハ親子ノ關係ヲ變スル重大ノ事ナレハ父ノ權力ヲ以テ之ヲ專決スルヲ許スヘカヲサレハナリ又婚姻ニ付テハ父母死去セハ父系祖父母ノ承諾ヲ要スレ凡縁組ニ付テハ親族會ノ承諾ヲ要ス是亦子ノ利益ヲ保護スル爲メ老衰セル祖父母ヨリハ親族會ノ最モ適當ナルヘキカ故ナリ又父母ノ知レサル子ノ婚姻ハ親族會ノ承諾ヲ要スト雖モ其子ノ縁組ハ育兒院長之ヲ承諾スルヲ得ヘシ此規則ハ前後相異ナリト雖モ本條ノ規則ノ最モ適切ナランカ若シ縁組

ノ後父母其子ヲ認知スルハ縁組ハ父母ノ承諾ナキヲ以テ無効トナルヘキヤ曰否是レ適法ニ成立シタル縁組ナレハ認知ニ拘ラス其効力ヲ有スヘシ

何レノ場合ニ於テモ未成年者ハ縁組ノ現場ニ在リテ之ヲ抗拒セサルコト要ス幼稚ノ者ハ固ヨリ抗拒スヘキノ理ナシト雖モ十四五年ニ至レハ既ニ人事ヲ辨別スルモノコシテ多少其意見ヲ斟酌セサルヘカラス是レ第二百四條但書ノ旨意ニシテ此但書ハ次條ノ場合ニモ適用スルハ勿論ナリ然レモ法文ニハ抗拒セサル云々ヲ脱シタレト之ヲ加ヘサル可ラス或ハ更ニ一步ヲ進メ相當ノ年齢ニ達シタル未成年者ニ付テハ父母又ハ親族會ノ許諾ヲ以テ躬ラ縁組ヲ承諾スヘキモノト爲スヘキカ然レモ若シ此ノ如クスレハ法律ノ繁雜ヲ致シ而シテ其結果ノ如キハ粗同一ナルヲ以テ此規定ヲ爲サ、リキ

第二百六條 未成年者ノ縁組ハ之ヲ爲ス地ノ地方裁判所ノ認可ヲ經ルニ非サレハ未成年者ニ對シテ完成セス

裁判所ノ認可アリタル縁組ハ契約ノ日ヨリ其効果ヲ生ス可

シ(伊第二百十七條)

(理由) 父母又ハ親族會ノ承諾シタル未成年者ノ縁組ハ之ヲ裁判所ノ認可ニ付スルヲ要ス此認可アリタル後ハ其縁組ハ完成シテ最早廢棄スルヲ得サルハ勿論ナレモ認可前ニハ如何ナル効果チ有スヘキカ認可ハ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メ設ケタル法式ニシテ養親ハ完全ノ能力チ有スルモノナレハ其與ヘタル承諾チ廢棄スルヲ得ヘカラス然レモ未成年者ノ爲メニハ縁組ノ法式未タ完成セサルモノトス

若シ縁組ノ認可アリタルキハ縁組ハ何レノ日ヨリ其効果チ生スヘキヤ縁組ハ認可ノ日ニ完成スルモノナルヤ又ハ契約ノ日ヨリ其効果チ生スヘキヤ是レ佛國ニ於テハ曖昧ニ屬シ議論アル所ナリ然レモ草案ニ依レハ認可ハ縁組ノ公式ニ非スシテ未成年者ノ利益ノ爲メ設ケタル保護ナレハ縁組ハ其契約ノ日ニ成立スルモノニシテ認可アレハ縁組ノ効果ハ既往ニ溯リ契約ノ日ニ及フモノトス伊國民法ハ認可ヲ以テ縁組ノ法式ト爲セモ其効果ハ契約ノ日

第二百七條

右ニ就キ未成年者ノ代表人ハ契約ヨリ一个月内

ニ契約書ノ謄本ヲ地方裁判所長ニ差出ス可シ

裁判所ハ其縁組ノ條件完備スルヤ其縁組ハ未成年者ノ爲メ不利益ト爲ラサルヤ及ヒ其養親ハ不名譽ノ者ニ非サルヤヲ考查シ會議局ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ他ノ手續ヲ要セス又理由ヲ附セス單ニ縁組ヲ允許ス若クハ縁組ヲ允許セスト宣告ス可シ(佛第三百五十四條以下)

(理由) 本條ハ認可ノ手續ヲ規定スルモノニシテ深ク説明スルニ及ハス此認可ハ未成年者ノ代表人ヨリ一ヶ月内ニ請求スヘキモノトス佛國法ハ双方ニ認可ヲ請求スルノ權利ヲ與フルト雖モ草案ニ依レハ認可ハ縁組ノ法式ニ

非スレテ未成年者ノ保護ナレハ未成年者ノ代表人ニ限リ之ヲ請求スルヲ得ルモノトナセリ代表人トハ父母後見人及ヒ育兒院長ヲ云フナリ裁判所ハ縁組ノ條件完備スルヤ縁組ハ未成年者ノ爲メ不利益ナラサルヤ及ヒ養親ハ不名譽ノ人ニ非サルヤヲ考査スヘシ例ヘハ父母其長子ヲ養子ト爲サントシ又ハ養親其養子ヲ藝妓外妾ニ爲サントスルノ恐アル場合ノ如キハ認可ヲ拒絕スヘシ是等ノ諸點ハ裁判官躬ラ世間ニ問合セ之ヲ調査スヘキモノニシテ他ノ手續ヲ用ヰルヲ得サルモノトス故ニ本人又ハ証人ヲ呼出シ其訊問ヲ爲スヲ得ヘカラス但シ配偶者養子ト爲ルヘキ者其他關係人ハ私カニ意見書ヲ呈出スルモ妨ケナカルヘシ此判決ハ理由ヲ附スヘカラス蓋シ養親ノ不名譽如何ヲ調査スレハ本人ノ面目ヲ損センコト恐ルレハナリ以上ノ手續ハ皆秘密ヲ要シ會議局ニ於テ之ヲ爲スモノトス然レモ縁組ヲ認可スルキハ之ヲ訟廷ニ於テ宣告スルヲ當然トス是レ佛國法ニ規定スル所ナリ故ニ之ヲ追加スヘシ佛國法ニ依レハ縁組ノ認可ハ始審及ヒ控訴ヲ經ルヲ要スルモノトス伊國民

法ハ直チニ之ヲ控訴院ノ認可ニ付スヘキモノトナセリ二重ノ手續ハ繁雜ニ涉ルハ勿論控訴院ノ認可モ甚ク不便ナルヘシ故ニ草案ハ始審裁判所ノ認可ニ付スヘキモノトナシ且ツ之ヲ以テ充分トナセリ此認可ノ裁判ハ上告ヲ許サス何トナレハ是レ訴訟ノ判決ニ非スシテ非訴訟事件ナレハナリ且ツ其判決ニハ理由ヲ付セサルヲ以テ上告ノ道アルヘカラス尤モ其判決ノ法式ニ違背シタルキハ格別ナリ

第二百八條 縁組ノ契約ヲ爲シ未ダ地方裁判所ノ認可ヲ經サル前ニ養親ノ死去シタルキト雖モ未成年者ノ代表人ハ其手續ヲ繼續シ縁組ヲ完成スルヲ得(佛第三百六十條)

(理由) 縁組ノ認可ハ一ヶ月内之ヲ請求スヘキモノニシテ若シ認可前ニ養親死去スルキハ如何佛國法ニ依レハ認可ノ請求ヲ裁判所ニ差出シタルキハ養親ノ死去ニ拘ラス其手續ヲ繼續スルヲ得ルモノトナセリ故ニ認可ノ請求前ニ養親ノ死去スルキハ縁組ヲ繼續スルヲ得ルヤ疑ナキニ非サレハ少クモ其

請求ヲ爲シタルキハ養親ノ死去ハ縁組ヲ妨ケサルモノトス草案ニ依レハ縁組ノ契約ハ少クハ養親ヲ羈束スルモノニシテ認可ハ佛國法ニ於ケルカ如ク一種ノ公式ニ非スシテ未成年者ノ保護ニ過キサレハ一旦契約アリタルキハ養親ノ死去ハ決シテ縁組ヲ完成スルノ妨トナルヘカラス

佛國法ニ於テハ縁組ノ條件ハ契約ノ日ニ完備スヘキヤ又ハ認可ノ日ニ完備スルヲ要スルヤニ付數多ノ説アリ然レモ草案ハ認可ヲ以テ縁組ノ公式ト爲サ、ルカ故ニ此問題ヲ生セス縁組ノ條件ハ總テ契約ノ日ニ存立スレハ充分ナリ又契約ノ日ニ存立スルヲ要ス

### 第二百九條 身分取扱人ハ豫メ雙方ヨリ左ノ書類ヲ呈示セシム可シ

- 一 雙方ノ出生證書若クハ之ニ代用スル保證書
- 二 養親住所ノ身分證書ノ簿冊ニ記載シタル正出子庶出子及ヒ養子ナキヲ證スル認定書又ハ縁組ノ特許書

- 三 配偶者アルキハ其承諾書失踪ノ宣言書若クハ死去證書
- 四 副後見人ニ管理ノ計算書ヲ差出シタル證明書

(理由) 佛國法ニ依レハ縁組ハ裁判所ノ認可ニ由リ成立スルカ故ニ身分取扱人ハ其契約ヲ爲スニ當リ縁組ノ條件完備如何ヲ調査スルニ及ハス是レ認可ノ請求ヲ受ケタル裁判所ノ任トス然レモ草案ニ依レハ縁組ハ其契約ニ由リ成立スルモノナレハ其契約ノ日ニ條件ノ完備如何ヲ吟味スルノ必要アリ是レ本條ノ規則ヲ設クル所以ニシテ其要求スル書類ハ條件完備ノ證明ニシテ一讀之ヲ了解スヘシ尤モ第九十八條ニ於テ呈出シタル改正案ヲ採用セハ少シク第二ヲ修正スルヲ要スヘシ

### 第二百十條 身分取扱人ハ縁組ノ妨碍ト爲ルヘキ法律上ノ原由アルニ非サレハ其縁組ヲ拒ムヲ得ス

身分取扱人ハ其拒絕ノ理由ヲ明記シタル拒絕書ヲ授付ス可シ



當事者其拒絕ヲ以テ不當ナリト思料スルキハ之ニ對シテ地方裁判所ニ抗告スルヲ得

(理由) 本條ハ前條ノ制裁ヲ立ツルモノニシテ若シ條件ノ完備セサルキハ身分取扱人縁組ヲ拒絕スルヲ得ルモノトス其手續ハ至テ簡單ナリ然レモ未成年者ノ縁組ニ付諸般ノ調査ヲ爲スハ裁判所ノ任ニシテ特ニ秘密ヲ要スルモノナレハ身分取扱人ハ之ヲ理由トシテ縁組契約ヲ拒絕スルヲ得ヘカラス何トナレハ若シ之ヲ許スキハ訴訟ヲ要スルニ至リ甚タ不都合ナレハナリ

第二百一十一條 婚姻ノ章第七十八條及ヒ第七十九條ノ規則ハ之ヲ縁組ニ適用ス但シ本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルヲ要ス

(理由) 草案ハ縁組ヲ以テ日本人ノ特權ト爲サ、ルニ由リ日本人外國ニ於テ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス縁組ハ如何ナル規則ニ從フヘキヤノ問題ヲ生ス

此問題ハ伊白法案ニ其規定アルヲ見ス草案ハ此點ニ付婚姻ノ章ニ設ケタル規則ニ從フト爲シタリ蓋シ婚姻及ヒ縁組ハ共ニ身分ニ關スル行爲ナレハ同一ノ規則ニ從フヲ至當トス  
日本人ノミノ間又ハ日本人ト外國人トノ間外國ニ於テ縁組ヲ爲スキハ第七十八條ノ規則ヲ適用ス故ニ縁組ノ法式ハ外國ノ法律ニ從フヘキモノニシテ是レ權利行爲ノ法式ハ處ノ規則ニ從フト云フ原則ノ適用ナリ但シ外國ニハ婚姻ニ依ル縁組ナキヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘカラス  
日本人ノミノ縁組ヲ爲スキハ第七十九條ノ例ニ從ヒ公使館又ハ領事館ニ於テ帝國ノ法律ニ從ヒ之ヲ爲スヲ得ヘシ  
如何ナル場合ニ於テモ遺囑ノ縁組ハ外國人ヲ養子ト爲スキト雖モ我國ノ法式ニ從フヘシ何トナレハ遺囑ハ必ス本人ノ本國法ニ從フモノナレハナリ  
外國人我國ニ於テ縁組ヲ爲スキハ如何是レ第八十條ノ規則ヲ適用シ法式ハ我國ノ法律ニ從ヒ能力ハ其本國法ニ從フヘシ然レモ條件ハ如何婚姻ノ條件

中公益ニ係ルモノハ外國人ト雖モ之ヲ完備スルヲ要スレモ縁組ノ條件中ニ  
モ之レアルヤ是レ多少公益ニ係ルモノアリト雖モ之ヲ外國人ニ要求スルニ  
及ハスト思考ス故ニ外國人ハ全ク其管人法ヲ保有スルヲ得ルモノナリ而シ  
テ外國ノ法律ニ要求スル條件ハ我國身分取扱人ノ了知スルヲ得ヘキニ非サ  
レハ第八十條第二項ノ規則ヲ適用スルヲ便利トス  
縁組ノ効果ハ外國人ナレハ其本國法ニ依リ日本人ナレハ此法律ニ依リ之ヲ  
定ムヘシ然レモ内外人ノ間縁組ヲ爲シタルキハ何レノ法律ニ從フヘキヤ外  
國ノ法律ニ依レハ縁組ハ國民分限ヲ變更セサルモノニシテ草案ハ日本人ノ  
養子ト爲ル外國人ニ國民分限ヲ獲得セシムルカ故ニ外國法ト牴觸シ一人ニ  
シテ二箇ノ國民分限ヲ有スルノ結果ヲ生スヘシ日本ニ於テハ之ヲ日本人ト  
看做スニ由リ此法律ヲ適用シ縁組ノ効果ヲ定ムヘシ然レモ日本人カ外國人  
ノ養子ト爲リタルキハ如何此場合ニ於テハ親子其國民分限ヲ異ニスルヲ以  
テ其管人法ハ何レノ法律ニ從フヘキヤ最モ困難ノ問題ヲ生スヘシ親權ハ子

ノ利益ノ爲メ設クルモノナレハ子ノ本國法ヲ適用スルノ允當ナラン  
第二百十二條 婚姻ニ由ル縁組ハ婚姻ノ公式ニ因テ成立ス  
此場合ニ於テハ縁組ニ必要ナル條件ノ欠缺スルヲ原由トシ  
テ婚姻ノ章ニ定ムル規則ニ從ヒ故障ヲ爲スヲ得  
第二百十三條 婚姻ノ公式ヲ行フ時養親ハ豫メ身分取扱人ニ  
縁組ヲ爲スノ意思ヲ申述ス可シ  
身分取扱人ハ養子ト爲ル者ニ婚姻及ヒ縁組ヲ承諾スルヤチ  
質問ス可シ  
養子ト爲ル者ノ婚姻ニ與フル承諾ハ縁組ノ承諾ヲ帶有ス  
(理由) 此兩條ハ婚姻ニ依ル縁組ノ法式ヲ規定スルモノトス婿養子ノ制度ヲ  
ル其性質ヲ察スルニ單純ノ婚姻ニ非ラス又單純ノ縁組ニ非ラス婚姻ト縁組  
トノ二箇ヲ包含スルモノニシテ其間主從ノ別ナケレハ婚姻ノ規則ト縁組ノ  
規則トヲ同時ニ適用スヘキモノトス之ヲ婚姻ニ依ル縁組ト稱シタルハ婚姻

ヲ爲スト同時ニ縁組ヲ生スルノ意コシテ從テ其法式ハ全ク婚姻ノ公式ニ從  
フモノナリ故ニ此縁組ニハ特別ノ法式アルニアラス婚姻ハ即チ其法式ナリ  
婚姻ノ公式ヨリ縁組ノ共ニ成立シ來ルモノナリ  
婿養子ノ縁組ハ總テ婚姻ノ法式ニ從フモノナレハ其公告ヲ爲スヘキモノニ  
シテ公告書ニ縁組ヲ爲スノ目的ナルヲ指示スヘキハ既ニ第五十三條ニ規  
定シタル所ナリ一般ニ縁組ハ其公告ヲ要セスト雖モ婚姻ニ依ル縁組ハ其婚  
姻ヲ公告スヘキモノナレハ同時ニ縁組ヲ公告スルノ便宜アリ又縁組ニ付テ  
ハ法律ハ特ニ故障ノ手續ヲ設ケスト雖モ此場合ニ於テハ婚姻ノ爲メ故障ノ  
規則アルカ故ニ其規則ヲ縁組ニ及ホシ之ヲ利用スルヲ便宜トス故ニ婚姻ノ  
章ニ定ムル規則ニ從ヒ故障ヲ爲スヲ得ヘシ或ハ云ハシ縁組ニ付テハ何故ニ  
故障ヲ設ケサルヤト蓋シ婚姻ノ無効ハ其結果甚ク重大ナルヲ以テ之ヲ豫防  
スルノ必要アリト雖モ縁組ノ無効ハ婚姻ニ依ル縁組ヲ除クノ外別ニ重大ノ  
弊害アラサレハナリ但シ關係人ハ縁組ノ條件欠缺スルヲ私カニ身分取扱

人ニ通知スルヲ得ヘク身分取扱人ハ場合ニ由リ之ヲ斟酌シ縁組ヲ拒ムヲ得  
ヘシ  
婚姻ニ依ル縁組ハ婚姻ニ必要ナル條件ヲ完備スヘキハ勿論コシテ別ニ之ヲ明  
言スルニ及ハス是ヲ以テ此縁組ハ普通又ハ遺囑ノ縁組ト其性質ヲ異ニスル所  
アリ草案ニハ未成年者ノ縁組ヲ允許スト雖モ婚姻ニ依ル縁組ハ婚姻ノ規則ヨ  
リ生スル一ノ制限アリ即チ男子ハ滿十七年ニ至ラサレハ婚姻スルヲ得サル  
ヲ以テ十七年未滿ノ未成年者ハ婿養子ト爲ルヲ得サルモノトス此規則ハ我  
國ノ慣習ニ反セリト雖モ止ムヲ得サルニ出ツ慣習ニ依レハ婚姻ヲ爲スヲ得  
サル未成年者ト雖モ之ヲ婿養子ト爲シ置キ後日ニ其婚姻ヲ行ハシムル變例  
少ナカラス然レモ婿養子ト云ヘハ必ス婚姻ヲ想像スルモノニシテ此ノ如キ  
ノ變例ハ之ヲ廢セサルヘカラス且ツ婚姻ノ條件ヨリ論スルモ婚姻ハ双方ノ  
自由ナル承諾ヲ要スルモノニシテ此自由ヲ妨害スヘキモノハ總テ之ヲ除カ  
サル可ラス故ニ草案ニハ婚姻ノ豫約アリト雖モ婚姻ヲ爲スノ義務ナキモノ

トナセリ若シ幼年者ヲ婚養子ト爲スヲ允許スルハ即チ婚姻ノ豫約ヲ執行スルノ義務アリト爲サ、ルヘカラサルニ至ル而シテ婚養子ノ場合ト雖モ豫約ヲ執行スルノ義務アルハ無數ノ惡縁ヲ生シ其弊害ニ堪ヘサルヘシ婚養子ヲ爲スルハ同時ニ婚姻ト縁組トヲ成就スルモノナレハ婚姻ノ公式ヲ行フ時養親ハ身分取扱人ニ其女ノ婚ヲ養子ト爲スノ意思ヲ申述セサルヘカラス故ニ其席ニハ夫婦ト爲ルヘキ双方及ヒ夫ヲ養子トナサントスル父母ノ立會アルヲ要ス但シ父母ハ自身ニテ出席スルヲ要セス婚養子トナル者ハ縁組ト婚姻トヲ承諾スヘキモノナレハ身分取扱人ハ此二点ヲ之ニ質問シ其承諾ヲ聽取ルヘシ而シテ婚養子ハ婚姻ニ承諾ヲ與フレハ縁組ヲ承諾シタルモノトス此法文ハ前後牴觸スルカ如シ質問ハ二箇アリテ承諾ハ婚姻ノミニ關スルカ如キ文意アリ原案ニハ身分取扱人ノ質問中縁組ヲ明示セスシテ養子ノ婚姻ニ與フル承諾ハ縁組ノ承諾ヲ包含スルモノト爲セリ蓋シ二箇ノ返答ヲ爲セハ婚姻ヲ承諾スルモ縁組ヲ承諾セルカ如キ不都合アルヘキヲ以テ

ナリ縁組ノ關係ハ父母ト婚トノ間ニ生シ婚姻ノ關係ハ家女ト婚トノ間ニ起リ其關係人相異ニシテ若シ二箇ノ行爲ト看做セハ一ハ有効ナルモノハ無効ナルノ結果ニ至ルヘシ而シテ此結果ハ當事者ノ意思ニ反スヘシ

第二百十四條 遺囑ニ由ル縁組ハ公正ノ遺囑書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

此縁組ハ養親死去ノ日ニ家督相續ヲ爲スヘキ正出若クハ庶出ノ子孫及ヒ生存者間ノ養子アラサルキハ有効トス(佛第三百六十六條)

此縁組ノ受諾ハ相續開始ノ地ノ身分取扱人ニ之ヲ爲ス可シ

第二百十五條 養子ノ未成年中ニ遺囑ノ開始シタルキハ第二百四條及ヒ第二百五條ニ指定シタル者縁組ヲ受諾ス可シ

此受諾ハ第二百七條ノ手續ニ從ヒ地方裁判所ノ認可ニ付スルヲ要ス

(理由) 遺囑ニ依ル縁組ハ如何ナル法式ニ從フヘキカ佛國ニ於テハ其明文ナキヲ以テ契約ノ縁組ハ嚴正ノ法式ヲ設定スト雖モ遺囑ノ縁組ハ私署ノ遺囑書ニテモ之ヲ爲スヲ得ルモノニシテ前後抵觸スルカ如シ縁組ハ身分ノ變更ヲ生スル重大ノ事ナレハ公正ノ遺囑書ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノト定ムルハ決シテ不當コアラサルヘシ

遺囑ノ縁組ハ養親死去ノ日ニ其効果ノ確定スルモノニシテ其日ニ家督相續ヲ爲スヘキ實子又ハ養子アラサルキハ有効トス若シ實子又ハ養子ノ現存スルキハ縁組ハ無用ニ屬スヘシ然レモ其實子ハ家督相續ヲ爲スヘキ者ナルヲ要ス例之ハ他家ニ嫁セタル女又ハ其子アリト雖モ遺囑ノ縁組ノ有効ナルコト妨ケナシ

遺囑ノ縁組ハ養子之ヲ受諾スルニ由リ其効力ヲ生スヘシ此受諾ハ一般ノ規則ニ從ハスシテ明瞭ニ之ヲ爲スヘキモノトス財產ノ遺囑ハ暗黙ノ受諾ヲ允許シ債主之ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ縁組ノ受諾ハ養子ヨリ明カニ之ヲ身分取

扱人ニ爲スヘキモノトス蓋シ縁組ハ身分ヲ變更スルモノナレハナリ

若シ養子ノ未成年中ニ縁組ノ遺囑發開スルキハ如何此場合ニ於テハ其父母親族會之ヲ受諾スルヲ得ルモノトス然レモ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メ裁判所ノ認可ヲ受クヘキモノトナセリ是レ亦財產ノ遺囑ト異ナルヲ見ルヘシ

第二百十六條 身分取扱人ハ縁組ノ契約婚姻ノ公式又ハ遺囑縁組ノ受諾ノ後第四百七十六條ニ從ヒ縁組證書ヲ作ル可シ

(理由) 縁組ハ人ノ身分ヲ變更スルモノナレハ其公示ノ方法ヲ設ケサルヘカラス而シテ其方法ハ身分證書ニ依ルヲ當然トス佛國法ニ依レハ縁組ハ之ヲ養子ノ出生證書ノ欄外ニ追記スルノミナレモ我國ノ縁組ハ大ニ其効果ヲ異ニシ且ツ其數夥多ナルヲ以テ特ニ縁組證書ヲ作ルヲ要ス

第二百十七條 未成年者ノ縁組ハ第四百七十八條ニ從ヒ其認可ノ裁判ヲ縁組證書ノ欄外ニ追記シタル後ニ非サレハ第三者ニ之ヲ對抗スルヲ得ス

(理由) 未成年者ノ縁組ハ裁判所ノ認可ヲ要スルモノナリ故ニ身分取扱人ノ前ニ於テ爲シタル契約ハ未タ完成ノモノニアラサレハ認可又ハ不認可ノ旨ヲ其證書ニ追記スルノ必要アリ是レ第四百七十八條ニ規定スル所ナリ是等ノ追記ハ只帳簿整頓ノ手續タルノミナラス第三者ノ利害ニモ關係スルモノナリ故ニ縁組ハ其證書ノ欄外ニ認可ノ判決ヲ追記シタル後ニ非サレハ第三者ニ之ヲ對抗スルヲ得ス此規定ハ伊國民法ヨリ採用シ來ルモノナリ

### 第三節 縁組ノ證據

#### 第二百十八條

縁組ハ縁組證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

若シ縁組證書ヲ呈示スルヲ能ハサルキハ身分證書ノ章第四百五十八條ニ規定スルモノ、外尙ホ左ノ證書ニ依リ縁組ヲ證スルヲ得

一 婚姻ニ由ル縁組ニ係ルキハ其事由ヲ記載シタル婚姻證書

#### 二 未成年者ノ縁組ニ係ルキハ之ヲ認可シタル裁判宣告書

(理由) 何人ト雖モ縁組アリト主張シ其權利ヲ得ントスル者ハ其證據ヲ供スヘキハ證據法ノ原則ニシテ別ニ說明ヲ要セスト雖モ其證據ノ方法ハ普通法ニ從フ能ハス本條以下ハ即チ縁組ニ關スル特別ノ證據規則ヲ定ムルモノナリ

縁組ノ證據ハ縁組證書ヲ以テ之ヲ證スヘキチ原則トス是レ出生證書ノ實子ニ於ケルト同一ニシテ養親子タル分限ノ證據トス然レモ身分證書ヲ呈示スル能ハサルキハ如何若シ身分證書ノ設備ナキカ又ハ其破滅シタル場合ノ如キハ其事由ヲ證明シ更ニ證人ヲ以テ縁組ヲ證明スルヲ得ヘキハ勿論ナリ是レ第四百五十八條ニ規定スル所ナリ此外若シ婚姻ニ依ル縁組ナレハ縁組證書ナシト雖モ婚姻證書ヲ以テ縁組ノ事實ヲ證スルヲ得ヘク又未成年者ノ縁組ナレハ裁判宣告書ヲ以テ之ヲ證スルヲ得ヘシ

第二百十九條 婚姻證書ニ縁組ノ事由ヲ記載セサルキト雖モ

身分ノ占有アリテ婚姻公告書ニ符合スルキハ之ニ依リ其縁組ヲ證スルヲ得

婚姻ノ章第八十二條及ヒ第八十四條ノ規則ハ之ヲ縁組ニ適用ス

(理由) 親子ノ分限ニ關スルキハ證書ナクンハ身分ノ占有ヲ以テ之ヲ證スルヲ許スレバ縁組ニハ此證據方法ヲ適用スルヲ得ス若シ養親子タル身分ノ占有ヲ以テ縁組ノ證據ト爲スルハ縁組ヲ爲スニ以上ノ規則ヲ遵守スルニ及ハサルコ至リ何人ト雖モ自由ニ養子ヲ爲スヲ得ヘシ故ニ身分ノ占有ハ婚養子ノ場合ニ限リ特ニ之ヲ證據ト爲スヲ允許セリ此場合ニ於テハ婚姻ノ公告書ニ縁組ノ旨ヲ記載シアリテ其記載ニ符合スル身分ノ占有アルキハ之ヲ婚姻ニ依ル縁組ノ證據ト爲スモ別ニ不都合ナカルヘシ此外縁組證書ニ違式アルキト雖モ身分ノ占有アレハ之ヲ以テ其違式ヲ完補スルヲ得ヘシ是レ第八十二條ノ例ニ倣フモノナリ又縁組證書ヲ増減毀棄シタル等ノ場合ニ於テ

縁組ノ成立ヲ認メタル判決アルキハ其判決ハ縁組證書ニ代用スルヲ得ヘシ

第四節 縁組ノ不成立及ヒ無効

第二百二十條 縁組ハ左ノ場合ニ於テハ成立セス

- 一 公式ヲ欠キタルキ
- 二 人違ニ由リ若クハ心神喪失ノ時縁組ヲ爲シタルキ
- 三 裁判所未成年者ノ縁組ヲ認可セス若クハ當事者期限内ニ其認可ヲ請求セサルキ

(理由) 本條ハ權利行爲ノ不成立及ヒ無効ノ區別ヲ縁組ニ適用スルモノトス不成立ノ縁組ハ如何ナル効果ヲモ生セサルモノニシテ何人ニ限ラス何時ニテモ之ヲ主張スルヲ得ルモノナリ縁組ノ成立セサル場合ハ三箇アリ第一、縁組ハ有式ノ行爲ナルカ故ニ其公式ニ違ヒタルキ即チ第二百三條第二百十四條ニ背キタル場合はレナリ婚養子ノ場合ニ於テハ縁組ノ不成立ハ婚姻ノ不成立ト混合スヘシ第二、承諾ノ全ク欠缺シタルキ即チ人違ニ由リ又ハ心神喪

失ノ時ニ縁組ヲ爲シタル場合はレナリ然レモ婿養子ニ關スルハ少シク困難アリ養親ノ上ニ付人違ヲ爲セハ配偶者ノ上ニ付テモ同シク人違アリテ婚姻及ヒ縁組ハ不成立ナラント雖モ養親又ハ配偶者カ心神喪失ノ時承諾ヲ爲シタルハ婚姻ハ成立スルモ縁組ハ否ラス又ハ縁組ハ成立スルモ婚姻ハ否ラストノ結果ニ至ルヘキカ如此場合ニ於テハ第二百二十六條ノ規則ヲ適用スヘシ婚姻ハ縁組ノ不成立ニ拘ラス成立スヘシト雖モ縁組ハ婚姻ノ不成立ナルキハ成立セサルヘシ其理由ハ後ニ之ヲ説明スヘシ第三、未成年者ノ縁組ニ關シ裁判所ノ認可アラサルハ認可ハ未成年者ノ縁組ノ爲メ緊要ノ條件ニシテ契約ハ縁組ノ企圖タルコト過キス其縁組ハ認可ヲ待テ完成スルモノナリ又期限内ニ其認可ヲ請求セサルハ縁組ノ契約ハ當然廢滅スルモノトス此規則ハ嚴重ニ失スルカ如シト雖モ縁組ノ成立ヲ曖昧未定ニ付スルハ養親ノ爲メ甚ク不都合ナルノミナラス期限内ニ認可ヲ請求セサルハ縁組ヲ爲スノ意思確實ナルノ保証ナケレハナリ

第二百二十一條 縁組ハ第一節ニ定ムル條件ノ一ヲ欠キタル

此無効ハ養親養子其他何人ニ限ラス現實ノ利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ之ヲ請求スルヲ得  
(理由) 佛國法ニ依レハ縁組ノ成立ニ必要ナル條件ノ完備スルハ其無効ヲ請求スルヲ得ヘキヤ否ヤニ付大ニ議論アリ蓋シ縁組ハ裁判所ノ認可ヲ待テ成立シ裁判所ハ其條件ノ完備如何ヲ調査スルヲ以テ更ニ無効ヲ請求スルヲ允許スルノ理由ナキカ如此理由ハ如何ナラント雖モ佛國法ニハ縁組ノ無効ノ事ヲ規定セサルハ確實ナリ草案ニ依レハ未成年者ノ縁組ヲ除クノ外裁判所ノ認可ヲ要セサルモノナレハ縁組ハ如何ナル場合ニ於テ無縁ナルヤ又其無効ハ何人カ之ヲ請求スルヲ得ヘキヤヲ規定スルハ最も必要ナリトス若シ其規定ナクシハ法律ハ徒法ニ屬スルコト非サレハ其適用嚴酷ニ流ルヘシ本條ハ縁組ノ條件中公益ニ關スルモノヲ想像シ其條件ノ一ヲ欠キタルハ



其縁組ヲ無効トナセリ第一節ノ條件中第九十七條及ヒ第二百條ヲ除クノ外皆公益ニ關スル所ノ條件ナリ佛國學者中ニハ第二百條ノ條件ハ一家ノ和睦ヲ維持スルニ在ルヲ以テ公益ニ關セリトノ説ヲ爲ス者アレヒ今之ニ從ハス公益上ノ無効ハ絶對的ノ効力ヲ有スルモノヨシテ何人ト雖モ利益ヲ有スレハ常ニ之ヲ請求スルヲ得ヘシ養親及養子ハ金錢上ノ利益ナシト雖モ其縁組ヲ訟撃スルヲ得ヘシ

第二百二十二條 官吏ノ管轄違ニ原由スル縁組ノ無効ハ何人ト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得但シ一今年ヲ過キタルキハ其請求ヲ允許ス可カラス

(理由) 身分取扱人ノ前ニ於テ縁組ノ契約ヲ爲シ又ハ遺囑ノ縁組ヲ受諾シタルキハ此縁組ハ成立スト雖モ若シ身分取扱人ノ管轄ナラサルキハ縁組ハ無効ニシテ其無効モ亦絶對的ノモノトス但シ此無効ハ縁組ノ日ヨリ一ケ年ヲ過キタルキハ之ヲ請求スルヲ得ス蓋シ他ニ無効ノ原由アルコアラサレハ縁

組ノ多年繼續シタル後之ヲ無効トナスハ甚ダ不都合ナルヘク而シテ管轄ハ條件ノ完備ヲ求ムル爲メ之ヲ定ムルニ過キサレハナリ法文ニハ未成年者ノ縁組ヲ認可シタル裁判所ノ管轄ナラサル場合ヲ明示セスト雖モ之ヲ包含スヘキハ勿論ニシテ本條ノ規則ヲ之ニ適用セサルヘカラス

第二百二十三條 第九十九條及ヒ第二百條ニ違ヒタル縁組ノ無効ハ未成年者及ヒ配偶者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

未成年者其成年ニ至リ若クハ配偶者縁組ヲ了知シタル後之ヲ確認シ若クハ一今年ヲ過キタルキハ其權利ヲ失フ

(理由) 夫婦ノ一方其配偶者ノ承諾ヲ得シテ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲リタルキ及ヒ後見人其管理ノ計算ヲ爲サスシテ其後見スル未成年者ヲ養子ト爲シタルキハ配偶者又ハ未成年者ニ非サレハ縁組ノ無効ヲ請求スルヲ得ス此二箇ノ條件ハ多少公益ニ關セサルニ非サレヒ配偶者及ヒ未成年者ノ利益ヲ

主トスルモノナレハ之ヲ以テ相對上ノ無効トナセリ故ニ未成年者又ハ配偶者其縁組ヲ確認シ又ハ其無効ヲ請求セスシテ一ケ年ヲ過クルキハ其訴權ハ消滅スヘシ

第二百二十四條 身上ノ錯誤若クハ暴行ニ原由スル縁組ノ無効ハ錯誤ニ陥リ若クハ暴行ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス但シ錯誤ヲ認知シ若クハ暴行ヲ免脱シタル後確認ヲ爲シ若クハ一ケ年ヲ過キタルキハ無効ヲ補フ

(理由) 本條ハ承諾ノ瑕瑾ニ原由スル無効ノ場合ヲ規定スルモノニシテ婚姻ニ於ケル承諾ノ瑕瑾ト全ク其規定ヲ同フセリ此無効ハ相對上ノモノニシテ錯誤ニ陥リ又ハ暴行ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス故ニ其者縁組ヲ確認シ又ハ一ケ年ヲ過クルキハ最早其無効ヲ請求スルヲ得ヘカラス婚姻ノ章ニハ會議中詐欺ノ爲メ錯誤ニ陥リタル場合ニ限り無効ヲ允許セシカ茲ニハ之ヲ改正スルヲ遺忘シ前後法文ノ牴觸スルヲ致セリ

第二百二十五條 未成年者ノ爭拒ニ拘ラス縁組ヲ爲シタルキハ裁判所ハ場合ニ從ヒ未成年者ノ請求ニ依リ其無効ヲ宣告スルヲ得但シ未成年者成年ニ至リ確認ヲ爲シ若クハ一ケ年ヲ過キタルキハ其權利ヲ失フ

(理由) 未成年者ノ縁組ニ付テハ其現場ニ在リテ爭拒セサルヲ要スルモノナレハ若シ其爭拒ニ拘ラス縁組ヲ爲シタルキハ之ヲ無効ト爲スヲ得ヘシ然レモ未成年者ハ辨別ヲ有スルヤ否ヤ判然セサルヲ以テ事實如何ヲ調査シ場合ニ由リ縁組ノ無効ヲ宣告スルヲ得ヘシ故ニ此無効ハ裁判所ノ査定ニ任スルモノナリ若シ未成年者成年ニ至リ其縁組ヲ確認シ又ハ一ケ年ヲ過クルキハ之ヲ請求スルヲ得ス

第二百二十六條 婚姻ニ由ル縁組ニ於テハ婚姻ノ無効ハ當然縁組ノ無効ヲ帶有ス然レモ縁組ノ無効ハ婚姻ノ無効ヲ帶有セス

(理由) 本條ハ婚姻ニ依ル縁組ノ無効ナル場合ヲ規定スルモノコシテ最モ困難ノ點ナリ婿養子ノ事タル婚姻及ヒ縁組ハ彼是互ニ其成立ノ條件ヲ爲スモノニシテ婚姻ノミカ又ハ縁組ノミナレハ双方之ヲ爲スノ意思ナカルヘシ故ニ婚姻ノ無効ナルキハ縁組ノ條件完備スルニ拘ラス其無効ヲ生スヘキヤ又縁組ノ無効ナルキハ婚姻ノ條件完備スト雖モ其無効ヲ生スヘキヤノ問題ヲ起スヘシ若シ縁組ハ婚姻ノ條件コシテ婚姻ハ縁組ノ條件ナリトノ思想果シテ允當ナラシメハ婚姻ノ無効ハ縁組ノ無効ヲ帶有シ又縁組ノ無効ハ婚姻ノ無効ヲ帶有スヘキナリ原案ニハ此ノ如ク規定セシト雖モ會議中之ヲ修正スルコト爲リ縁組ノ無効ハ婚姻ノ無効ヲ帶有セサルモノト爲セリ蓋シ婚姻ノ無効ハ重大ノ不都合ヲ生スルカ故ニ縁組ノ無効ニ拘ラス之ヲ維持スヘシトノ主意ナリキ是レ一理ナキニ非キレモ縁組ノ無効ニ拘ラス婚姻ヲ維持スルキハ養子ハ其妻ヲ携帶シテ實家ニ復歸シ養親ハ家女ヲ失フノ不都合ナキニ非サルナリ

第五節 縁組ノ効果

第二百二十七條 養子ハ實家ノ氏及ヒ族稱ヲ棄テ養家ノ氏及ヒ族稱ヲ冒ス可シ(佛第三百四十七條)

(理由) 縁組ハ民法上親子ノ關係ヲ生スルモノコシテ其効果ハ天倫ノ親子ヨリ生スルモノト殆ント異ナルコトナシ是レ我國ノ縁組ハ佛國法ト大ニ異ナル所ニシテ羅馬法ノ外比較スヘキモノヲ見ス  
本條ハ縁組ヨリ生スル第一ノ効果ヲ定ムルモノニシテ養子ハ其養家ノ氏及ヒ族稱ヲ冒スモノトス佛國法ニ依レハ只之ヲ其實家ノ氏ニ附加スヘキモノトナセリ

第二百二十八條 養子ハ其實家ヲ去リ養家ニ入ルモノトス但シ親屬ノ關係ヨリ生スル養料ノ義務ハ爲メニ變更スルコトナシ(佛第三百四十八條)

(理由) 我國ノ縁組ハ天倫ノ親子ニ均シキ關係ヲ生スルモノナレハ養子ハ其

實家ヲ去リ養家ニ入ルモノトス此親屬ノ變更ハ縁組ノ效果中最モ重要ナルモノニシテ佛國ノ縁組ト全ク其性質ヲ異ニスル所ナリ佛國ニ於テハ養子ハ其實家ニ於テ一切ノ權利義務ヲ保有シ養家ニ於テ之ヲ獲得スルニ非ラス只養親トノ關係上親子ニ准スヘキ多少ノ効果ヲ生スルノミ我國ニ於テハ養子ハ實家ニ於テ一切ノ權利義務ヲ失ヒ養家ニ於テ之ヲ得ルモノナリ然レハ親屬ノ關係ヨリ生スル養料ノ義務ニ付テハ更ニ變更ナキモノトス此義務ハ天倫ニ出ツルモノヨシテ其變更ヲ了解スルヲ得ス

### 第二百二十九條

然レハ婦ノ養子ハ其養母ノ實家ノ氏ヲ稱シ

夫ノ家ニ入ラス

婦其夫ノ子ヲ養子ト爲スキハ養子ハ夫家ノ氏ヲ保有シ其家ヲ去ラス但シ特例婚姻ニ於ケル婦其夫ノ子ヲ養子ト爲スキハ前條ノ規則ニ從フ

(理由) 本條ハ前二條ノ規則ニ例外ヲ設クルモノナリ草案ニ依レハ夫婦ハ各

別ニ養子ヲ爲スヲ得ルモノナレハ婦ノ養子ハ其養親ノ氏ヲ稱スヘキモノトナセハ夫ノ氏ヲ稱スルニ至ルヘシ故ニ此場合ニ於テハ養子ハ婦ノ實家ノ氏ヲ稱シ夫ノ家ニ入ラサルモノトス又婦其夫ノ子ヲ養子トスルキハ養子ハ其氏ヲ保有シ其家ヲ去ラス慣習ニ依レハ嫡母又ハ繼母ト夫ノ子トノ間ハ殆ソト親子ニ均シケレハ其關係ハ親子ニ准スルモノト云ヘリ然レハ是レ只名義上ノミニシテ親子ノ權利義務ヲ生スヘキコアラサレハ若シ親子ノ實アルヲ欲セハ嫡母又ハ繼母ハ其夫ノ子ヲ養子ト爲スノ外アルヘカラス此場合ニ於テハ養子其實家ヲ去ルモノトナセハ大ニ其目的ヲ誤ルヘシ故ニ此例外ヲ設ケタリ然レハ特例婚姻ノ場合ニ於テ婦其夫ノ子ヲ養子ト爲スキハ之ヲ婦家ニ入ル、ノ目的ナルヘケレハ尙ホ前二條ノ規則ニ從ヒ養家ノ氏ヲ稱シ養家ニ入ルモノト爲セリ

### 第二百三十條 縁組ハ養子ト養親及ヒ其親族トノ間養料ノ義務ヲ生ス

此義務ハ實親族ノ間ニ於ケルト其規則ヲ同フス(佛第三百四十九條)

(理由) 縁組ハ養子ト養親及ヒ其血族トノ間血屬ニ同キ關係ヲ生スルモノナレハ從テ養料ノ義務ヲ生スルモノトス佛國法ニ依レハ養料ノ義務ハ養親ト養子トノ間ニ限レリ然レモ我國ノ縁組ハ全ク親屬ノ變更ヲ生スルコ由リ養料ノ義務モ血族ニ於ケルト異ナルヲナシ此養料ノ義務ハ總テ第三章第二節ノ規定ニ從フヘキモノコシテ其程度順序等總テ其規則ニ依ルヘシ

第二百三十一條 養子ノ未成年ナルキハ養親ハ之ヲ養成シ訓戒シ及ヒ教育スルノ義務ヲ負フ(伊第二百一十一條)

養親其養子ヲ養成シ及ヒ教育スルニ充分ノ資力ヲ有セサルキ若クハ其死去シテ養子ノ財産不足スルキハ養家ノ尊屬親其他ノ親族ハ養料ノ義務ノ順序ニ從ヒ其入費ヲ負擔ス可シ

此義務ハ實家ノ父母尊屬親其他ノ親族ノ義務ニ先ス可シ  
第百八十九條第百九十二條及ヒ第百九十三條ハ之ヲ養子ニ適用ス

(理由) 本條ハ未成年者ノ縁組ニ付養育ノ義務ヲ養親及ヒ其血族ニ命スルモノナリ佛國法ハ成年ニ非サレハ養子ト爲ルヲ允許セサルカ故ニ此問題ヲ生セス然レモ未成年者ノ縁組ヲ允許スルキハ養親之ヲ養成シ及ヒ教育スヘキハ當然ノ義務ナリ此義務ヲ養親ノ血族ニ及ホスハ少シク嚴酷ナルカ如シト雖モ縁組ハ親屬ノ變更ヲ生シ養子ト養家ノ血族トノ間養料ノ義務アリトナセハ養育ノ義務ヲ命スルハ當然ナリ其成長シテ自活スル能ハサルニ臨ミ養料ヲ給センヨリハ未成年中ニ其充分ノ養育ヲナシ成長ノ後躬ヲ生活スルヲ得セシムルノ萬々愈レルニ如カス然レモ養親及ヒ養家ノ義務ハ實家ノ父母其他血族ノ義務ニ先ンスヘキカ我國ノ習慣ニ依レハ縁組ハ親屬ノ變更ヲ生スルニ由リ是レ無論ノ事ナルカ如シ然レモ實家ノ義務ハ全ク止息スニ非ラ

ニ養子ト實家トノ間養料ノ義務アル以上ハ養育ノ義務ヲ命スルハ至當ナル  
ヘシ

第四項ハ全ク送リノ法文ニシテ別ニ其理由ヲ再述スルヲ要セス

第二百三十二條 養親ハ次章ニ定ムル規則ニ從ヒ養子ニ對シ  
監護及ヒ懲治ノ權ヲ有ス

(理由) 本條ハ未成年者ノ縁組ニ付親權ヲ養親ニ與フルモノナリ養子ハ養家  
ニ入り養親其養育ニ任スルモノナレハ親權ヲ養親ニ與フルハ當然ノコナリ  
親權ハ父母其養育ノ義務ヲ盡スノ方法タルニ過キサレハナリ

第二百三十三條 養子ハ其持參シ又ハ相續贈與遺囑ニ依リ得  
タル財産ノ所有權ヲ有ス但シ未成年中其財産ノ管理ハ次章  
ノ規則ニ從ヒ養親ニ屬ス

(理由) 本條ノ規則ハ別ニ説明ヲ要セス養子ハ其所持スル財産ノ所有權ヲ保  
有シ養親之ヲ獲得スルモノニ非ス通常ノ場合ニ於テハ養子財産ヲ所持スヘ

第二百三十四條 養子ハ其縁組ノ日ニ生レタルモノト看做シ

其日ヨリ正出子ノ權利ヲ有ス

(理由) 養子ハ其縁組ノ日ヨリ正出子ノ權利ヲ有スヘキモノニシテ正出子ノ  
縁組ノ日ニ生レタル者ニ比スルヲ得ヘシ此規則ハ實子アニ拘ラス養子ヲ  
爲シ又ハ養子ヲ爲シタル後實子ノ生レタルハ何レカ長子ト爲ルヘキヤヲ  
定ムルニ在リ縁組ノ後實子ノ生レタルハ養子ハ長子ノ權利ヲ有スヘシト雖  
モ實子アルニ拘ラス縁組ヲ爲シタルハ養子ハ縁組ノ日ニ生レタル者ト看  
做スニ由リ實子ハ其年齢如何ニ幼稚ナリト雖モ長子タルヘシ是レ長女アリ  
テ次男アルニ拘ラス之ニ婿養子ヲ爲ス場合ニ於テ生スル問題ナリ慣習ニ依  
レハ婿養子ハ長子權利ヲ有スヘシト雖モ縁組ノ日ニ既ニ實子アリテ長子ノ權  
ヲ有スレハ之ヲ害スルヲ得サルハ勿論ナリ何トナレハ縁組ハ其効果ヲ既往  
ニ及ホスノ理ナケレハナリ

第二百三十五條 縁組ノ後生レタル養子ノ子ハ養家ニ於テ正孫ト同一ノ地位及ヒ權利ヲ有ス縁組前ニ生レタル子ト雖モ其縁組ニ之ヲ包含シタルキ亦同シ

(理由) 佛國法ニ依レハ縁組ヨリ生スル關係ハ養親ト養子トノ間ニ限ルモノナレハ養子ノ子ハ之ヲ養親ノ孫ト看做スヘキヤ否ヤニ付大ニ議論アリ草案ニ依レハ縁組ハ全ク親屬ノ變更ヲ生シ養子ハ養家ニ入ルモノナレハ縁組ノ後養子ノ設クル子ハ養家ニ生ル、モノニシテ實孫ノ地位ニ立テ其權利ヲ有スヘシ然レハ縁組前ニ生レタル子ハ實家ニ在リテ其身分ヲ保有スヘク之ヲ養家ノ實孫ニ准スヘカラス但シ之ヲ縁組ニ包含シ親子養子ヲ爲シタルキハ格別ナリ

第二百三十六條 縁組ヨリ生スル相續ノ權利ハ相續ノ章ニ之ヲ規定ス

(理由) 本條ハ相續權ニ付其章ニ送ルモノニシテ必要ナケレハ之ヲ削除シテ

可ナリ  
第六節 罰則

第二百三十七條 本章第二節ノ規則ニ違背シタル身分取扱人ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(理由) 本條ハ縁組ノ法式ニ關シ違背アリタルキハ身分取扱人ニ罰金ヲ科スルモノナリ例之ハ管轄ニ非スシテ縁組ノ契約ヲ爲シ證人ノ立會ヲ求メス若クハ必要ノ書類ヲ呈示セシメサルノ類ノ如シ

第八章 親權

(理由) 法律ハ父母ニ其子ヲ養育スヘキ義務ヲ命シタレハ父母其義務ヲ盡スヲ得ヘキ方法ヲ與ヘサルヘカラス父母其子ヲ養育スルニハ多少ノ權力ヲ有スルヲ要シ親權ハ即チ之ニ權力ヲ與フルモノナリ然レハ此權力ノ性質ヲ誤解スヘカラス親權ハ父母ノ利益ノ爲メ之ヲ與フルモノニ非スシテ子ノ教育ノ爲メ之ヲ與フルモノナリ子ノ養育ハ父母ノ義務ニシテ其權利ニ非サレハ

其方法トシテ監護懲戒ノ權ヲ與フルト雖モ之ヲ眞ノ權利ト看做スヲ得ス  
一切ノ權利ハ子ニ屬シ父母ハ只義務ヲ有スルコト過キス  
此思想ハ我國ノ親屬法ニ反スヘシト雖モ從來ノ慣習ヲ維持スルヲ得ヘカラ  
ス親權ヲ以テ父母ノ利益ノ爲メ存スルモノト爲スルハ條理ニ違背シ其弊害  
ニ堪ヘサルヘシ假令昔日ノ如ク自由ニ遺棄シ賣渡シ殺害スルノ太甚シ  
キニ至ラサルモ父母ハ其子ヲ養成シ教育スルノ義務ナキヤ必セリ何トナレ  
ハ若シ其義務アリト爲セハ子ハ父母ニ對シ養育ヲ求ムルノ權利アルヲ認ム  
ルモノナレハナリ父母其子ニ對シ權力ヲ濫用シ殘酷ヲ行フト雖モ之ヲ咎ム  
ヘカラス何トナレハ父母ノ權力ヲ制限スルハ即チ子ニ權利アルヲ認ムル  
モノナレハナリ此外子成長シテ人親タルニ至ルモ尙ホ親權ニ服從シ子ノ財  
産ハ皆父母ノ所有ト爲ル等ノ結果ハ親權ヲ誤解シ父母ノ利益ノ爲メ存スル  
モノト爲スノ原則ヨリ生スルモノナリ故ニ其原則ヲ一變セスハ是等ノ不  
都合ヲ改正スルヲ得ヘカラス此點ハ本章ノ條文ヲ説明スルニ當リ更ニ詳論

スヘシ  
佛國學者中ニハ民法ノ頒布以來父母ノ權力微弱ト爲リタルヲ歎息シ羅馬  
ノ古制ヲ追慕スル者アリト雖モ之レ誤レルノ太甚シキモノナリ親權ノ次第  
ニ微弱トナルハ世運ノ然ラシムル所ニシテ法律ノ之ヲ致スニ非ス父母ノ權  
力ハ自由ノ思想發達スルニ從ヒ日ニ減縮セサルヲ得ス壓制ハ國家ニ限ラス  
一家内ニ於テモ次第ニ消滅スヘキハ自然ノ數ニシテ之ヲ歎息スルハ今日ノ  
開化ヲ知ラサルモノナリ父母ハ其恩愛ヲ長シ無形ノ權力ヲ養フヘキモノニ  
シテ豈ニ壓制ニ依頼スヘケンヤ恩愛ノ實アルキハ壓制ノ權ヲ有スルノ必要  
ナカルヘク若シ恩愛ナクンハ如何ソ壓制ヲ以テ一家ヲ治スルヲ得ンヤ

第一節 父母其子ノ身上ニ有スル權

第二百三十八條 子ハ其成年若クハ自治ニ至ルマテ親權ニ服從ス(佛第三百七十二條)

(理由) 父母ハ其子ヲ養育スルノ義務アリテ親權ハ此義務ヲ盡スノ方法ニ過



キサレハ親權ハ養育ノ必要ナル間存スヘキモ子ノ成長シテ獨立スルヲ得ル  
ニ至レハ親權ノ必要ナキヤ知ルヘシ故ニ子ハ其成長ニ至ルマテ父母ノ親權  
ニ服從シ親權ハ其自治又ハ成年ト共ニ止息ス此規則ハ之ヲ慣習ニ比スレハ  
大ニ異ナル所アリ

第一親權ハ父母ニ屬シ戸主ニ屬セサルコト父母祖父母並ヒ存スル場合ニ於テ  
子ハ其父母戸主ニ非スト雖モ其權ニ服從シ戸主タル祖父ニ服從セサルモノ  
トス慣習ニ依レハ一家ノ政ハ全ク戸主ニ屬シ家族ハ假令成年者タルモ獨立  
ノ身ニ非スヘテ戸主ニ服從スヘキモノナレハ其子ニ對シテモ親權ヲ有スヘ  
カラス子ノ教育ハ家政ノ一端ニシテ戸主ノ任ニ屬シ父母ハ其命ヲ受ケ其子  
ヲ監護スルニ過キス或ハ親權ハ父母ニ屬シ家政ハ戸主ニ屬スト云フ者アレ  
凡一家内ニ於テ二箇ノ權兩立スルヲ得サルハ勿論父母ハ其身戸主ニ服從ス  
ヘキモノナレハ親權アリトスルモ有名無實ニ過キス草案ハ之ヲ改正シ父母  
ニ親權ヲ與フルモノナリ洵ニ親權ハ子ノ養育ヲ爲スノ方法ニ過キサレハ此

養育ヲ爲スニ適當ナルハ父母ナルカ將タ祖父ナルカト問ハヤ何人ト雖モ一  
點ノ疑ヲ抱カサルヘシ父母ノ慈愛ハ祖父母ニ勝ルヘク祖父ノ老衰ハ父母ノ  
壯強ニ如カサルヤ知ルヘシ况ヤ祖父ハ既ニ時世ニ後レ固陋ノ教育ヲ爲スヘ  
キヤ必セリ故ニ戸主ノ親權ヲ奪ヒ之ヲ父母ニ與フルハ天倫ニ適フハ勿論子  
ノ利益及ヒ社會ノ利益ニ於テモ實ニ然ラサルヲ得ス或ハ云ハシ法律ハ如何  
ナルモ實際ハ父母其子ヲ養育シ祖父之ヲ妨害スルニアラサレハ別ニ不都合  
アルナシト然レモ祖父ニ權力ヲ與フルハ親權ノ執行ニ干涉スルヲ得ヘシ其  
干涉ハ大ニ教育ヲ妨ケ子ノ不利益ヲ來タスヘシ父母ト祖父トノ間意見ヲ異  
ニスル場合ノ如キ其弊害ニ堪ヘサルヘシ以上ノ理由ニ依リ親權ハ父母ニ屬  
シ祖父母ハ決シテ其執行ニ干涉スルヲ得サルモノト定メタリ

第二親權ハ自治又ハ成年ト共ニ止息スルコト在來ノ慣習ニ依レハ親權ニハ更  
ニ終期ナク子ハ其父母ノ生存中其權ニ服從スルモノ、如キ是ヲ以テ子成長  
シテ婚姻ヲ爲シ人親タルニ至ルモ尙ホ其父母ノ權ニ服從シ其子ニ對シテモ

親權ヲ有スルヲ得サルニ至ル然レモ親權ハ父母ノ利益ノ爲メ之ヲ與フルモ  
ノニ非スシテ子ノ教育ヲ盡スノ方法ニ過キサルモノナリ故ニ子成長スレハ  
其養育ヲ終ヘタルモノニシテ子ハ獨立ノ權ヲ有スヘキヤ當然ナリ

### 第二百三十九條 婚姻ノ繼續スル間ハ父親權ヲ行フ(佛第三百 七十三條)

若シ父之ヲ行フ能ハサルキハ其間母此權ヲ行フ  
若シ父母ノ中一人死去シタルキハ生存者此權ヲ行フ但シ其  
再婚シテ他家ニ入ルキハ此限ニ在ラス(伊第二百二十條)

(理由) 親權ハ父母ニ屬スルモノナレハ父母共ニ之ヲ行フヲ得ヘキカ如シ父  
母其意見ヲ同フスルキハ固ヨリ然ルヘシト雖モ其意見ヲ異ニスルキハ一方  
ニ全權ヲ與ヘサルヲ得ス子ノ教育ハ其主義ノ一定ヲ要スルモノニシテ父母  
共ニ親權ヲ行フヲ得ス而シテ婦ハ其夫ノ權力ニ服従スヘキモノナレハ夫親  
權ヲ行フヲ當然トス

此ノ如ク婚姻中ハ父親權ヲ行フヘシト雖モ實際之ヲ行フ能ハサル場合アリ  
此場合ニ於テハ母之ヲ行フヲ得ルモノトス即チ父ノ失踪シ又ハ發狂シタル  
場合ノ如シ  
父母ノ一方死去シタルキハ生存者親權ヲ行フモノトス此規則ハ佛國法ニ異  
ナリ佛國法ニ依レハ父母ノ一方死去スレハ直チニ後見ヲ開始シ生存者ハ親  
權ヲ有スト雖モ後見人トシテ子ノ財產ヲ管理スルモノナリ蓋シ父母ノ一方  
死去スレハ子ハ其一人ノ保護者ヲ失スルノミナラス其相續ヲ受クヘキカ故  
ニ生存者ト利益ノ反對ヲ生シ特別ノ保護ヲ要スヘシト云フニ在リ然レモ親  
權ノ目的ハ子ノ教育ニシテ生存者其教育ニ任スルキハ財產管理ノ爲メ後見  
ヲ開始スルハ大ニ事ノ輕重ヲ誤ルモノト云フヘシ財產管理ニ付テハ生存者  
處分行爲ヲ爲スヲ得サルヲ以テ其危險微少ニシテ法律ノ配慮ヲ要セサルカ  
如シ且ツ親子ノ利益反對スルキハ子ヲ代表スル爲メ臨時保管人ヲ命スルヲ  
得ヘキヲ以テ後見ヲ開始シ其擔保ヲ設クルノ必要アルヘカラス父母ノ恩愛

ハ子ノ利益ヲ保護スル爲メ充分ノ擔保ニシテ法律上ノ擔保ハ天倫ノ情愛ニ勝ルヘクモアラス且ツ夫婦ノ一方死去スルキハ生存者ハ其無量ノ愛情ヲ其子ノ一身ニ聚ルモノニシテ其養育ノ外餘念ナク其恩愛ハ減少スルコアラシクテ却テ増加スルモノナリ

然レモ生存者再婚スルキハ如何此場合ニ於テハ其情愛ニ途ニ分カレ其子ヲ思フノ情ハ配偶者ヲ愛スルノ情ノ爲メ漸ク減少スルノ恐アルヤ明ナリ實際ヲ見ルモ繼父繼母ハ前婚ノ子ニ對シ非道ヲ行フコト少ナカラス此弊害ニ拘ラス親權ヲ保有セシムヘキカ此点ニ付法律ハ一ノ區別ヲ爲シ其再婚シテ他家ニ入ルキハ其親權ヲ剝奪セリ此規則ハ佛國民法第三百九十五條ト殆ント精神ヲ同フスルモノニシテ父再婚スト雖モ婦ハ其權力ニ服従スヘキカ故ニ親權ヲ行ヒ更ニ不都合ナシト雖モ母再婚スルキハ其夫ノ權力ニ服従スヘキモノナレハ後夫其子ニ對シ親權ヲ行フニ至ルヘキヲ以テ再婚シテ他家ニ入ル者ハ親權ヲ行フヲ得サルモノトナセリ蓋シ從來ノ慣習ニ依レハ婚姻ニ由リ

他家ニ入ル者ハ舊家ノ事ニ干渉スルヲ得スシテ實子アルモ殆ント其關係ヲ絶ツカ如キモノナレハナリ此規定ハ討論ノ時改正シタル所ニシテ少シク不注意ニ失スル如シ寡婦更ニ入夫ヲ迎フルキハ他家ニ入ラサルヲ以テ親權ヲ保有シ又寡夫更ニ他家ノ入夫ト爲ルキハ親權ヲ喪失スヘキヤ是等ノ場合ニ於テモ婦其夫ノ權ニ服従スヘキハ固ヨリ異ナルコトナケレハ他家ニ入ルト否トニ從ヒ區別スルノ理由アルヘカラス

白耳義草案ハ全ク父母ノ權利ヲ同フシ生存者再婚セントスルキハ必ス親族會ヲ招集スヘキモノトナセリ前婚ノ子ヲ虐待スルハ繼父ヨリモ繼母ノ所爲ニ出ツルヲ最モ多トシ父ハ再婚スト雖モ夫權ヲ有スルヲ以テ其婦ヲ制御スルヲ得ヘシト云フハ無稽ノ臆說ナリト云ヘリ此言允ニ其當ヲ得タルモノナルカ如シ

我原案ニハ父母ノ中生存者ハ再婚シテ他家ニ入ルト否トヲ問ハス親權ヲ行フヘキモノトナセリ蓋シ繼父及ヒ繼母ノ非道ハ甚ク恐ルヘシト雖モ再婚

前ニ親權ヲ保存スヘキヤ否ヤヲ議決セントスルハ無根ノ想像力ヲ以テ將來ノ可否ヲ豫定セントスルモノナレハ其目的ヲ達スヘカラス寧ロ再婚シタル父若クハ母ヲシテ親權ヲ行ハシメ若シ其配偶者ノ非道ヲ發見スルキハ其親權ノ喪失ヲ宣告スルノ最モ適當ナルヘシトノ旨意ナリキ

第二百四十條 婚姻ノ無効若クハ離婚ノ裁判宣告アリタル後子ノ監護ニ任スル者親權ヲ行フ能ハス若クハ之ヲ失ヒタルキハ他ノ一方之ヲ行フ

(理由) 本條ハ親權ノ執行ニ變更アルニ箇ノ例外ノ場合ヲ規定ス第一ハ婚姻無効ノ場合ナリ無効ノ婚姻ハ善意ノ者ニ對シ民法上ノ効果ヲ生スルモノナリ故ニ一方ノミ善意ナルキハ其一方親權ヲ行ヒ其之ヲ行フ能ハス又ハ之ヲ失ヒタルキハ後見ヲ開始スヘシ然レモ双方善意ナルキハ離婚ノ場合ニ於ケルカ如ク父親權ヲ行ヒ母ハ只之ヲ檢視スニ止マルヘシト雖モ父親權ヲ行フ能ハス又ハ之ヲ失ヒタルキハ母之ヲ行フヘシ第二ハ離婚ノ場合ナリ子ノ監

護ハ合意又ハ裁判ヲ以テ之ヲ定メ夫婦中監護ニ任スル者ハ親權ヲ行フヘシト雖モ其者之ヲ行フ能ハス又ハ之ヲ失ヒタルキハ他ノ一方之ヲ行フヲ得キカ協議ノ離婚ニ於テハ合意ヲ以テ子ノ監護ヲ定ムト雖モ親權ヲ變更スルヲ得サレハ監護ニ任スル者親權ヲ行フ能ハサルキハ他ノ一方之ヲ行フヲ當然トス然レモ特定原因ノ離婚ノ場合ニ於テハ裁判ヲ以テ子ノ監護ヲ定ムルモノナレハ監護ニ任スル者親權ヲ行フ能ハス又ハ之ヲ失ヒタルキハ他ノ一方當然之ヲ行フヲ得ヘカラス必ス裁判所ノ決定ヲ要スヘシ而シテ裁判所ハ場合ニ由リ第三者ニ子ノ監護ヲ委任スルヲ得ヘシ

第二百四十一條 子ハ其服従スル父若クハ母ノ允許ヲ得ルニ非サレハ父母ノ家若クハ其指定シタル家ヲ去ルヲ得ス(佛

第三百七十四條) 若シ此允許ナクシテ子其家ヲ去リタルキハ父若クハ母ハ地方裁判所長ニ請願シテ強ヒテ之ヲ歸家セシムルヲ得(伊第

二百二十一條

(理由) 親權ハ父母其子ヲ教育スルノ方法ニシテ其目的ヲ達スルニハ無數ノ配慮手段ヲ要スト雖モ之ヲ法律ニ規定スルヲ得ス此點ニ付テハ風俗慣習及ヒ父母ノ愛情ニ依頼スルノ外アルヘカラス法律ハ父母其義務ヲ盡スヲ得ンカ爲メ其効果ノ最モ重要ナルモノヲ規定ス即チ子ノ監護及ヒ懲戒ノ權是レナリ

本條ハ子ノ監護ノ事ヲ規定スルモノニシテ子ハ其父母ノ家又ハ其指定サレタル家ニ居住スヘキモノトス是レ子ノ教育ヲ爲ス爲メ必要ナルハ勿論ナリ故ニ父母ハ適宜ニ由リ或ハ其子ヲ左右ニ置キ或ハ之ヲ學校等ニ入宿セシムルヲ得ヘク而シテ子ハ父母ノ允許アルニ非サレハ決シテ其指定サレタル家ヲ去ルヲ得ス然レモ若シ子ノ脱走シタルキハ如何此場合ニ於テハ公力ヲ借り強ヒテ之ヲ歸家セシムルヲ得ヘシ是レ子ノ利益ヲ主トスルモノニシテ之ヲ過度ナリト云フヘカラス若シ子ノ自由ニ任セハ浮浪ノ後惡道ニ陥ルヘキ

二百四十二條

子ハ其父若クハ母若クハ後見人ノ允許ヲ得

ルニ非サレハ未成年中兵役ヲ出願スルヲ得ス(同上)

ヤ必セリ歸家ノ手續ハ之ヲ裁判所長ニ請求スヘキモノトナセリ  
(理由) 佛國法ハ前條ノ規則ニ一ノ例外ヲ設ケ滿十八年ノ子ハ父母ノ承諾ナシト雖モ隨意ニ兵役ヲ出願スルヲ得ヘキモノトナセリ是レ兵役ノ志願ヲ獎勵スルノ目的ナラント雖モ少年ノ教育ヲ完成スルハ國家ノ爲メ一層重要ナルモノナリ父母ヲシテ充分其教育ノ義務ヲ盡サシムルハ社會ノ利益ニシテ其權力ヲ減シ其教育ヲ妨ケサルヲ要ス未成年者ニ兵役ノ志願ヲ允許スルハ父母ノ權力ヲ殺クモノナリ剛愎ノ子ハ兵役志願ヲ以テ其父母ヲ恐喝シ容易ニ父母ヲシテ其意思ヲ變セシメ其望ヲ達スルヲ得ヘシ故ニ草案ハ未成年者其父母又ハ後見人ノ允許ヲ得ルニ非サレハ兵役ヲ出願スルヲ禁セリ  
二百四十三條 父若クハ母ハ家内ニ於テ其子ヲ懲戒スルノ權ヲ有ス但シ過度ノ懲戒ヲ加フルヲ得ス

(理由) 子ノ教育ハ最モ困難ノ事業ニシテ其目的ヲ達スルニハ多少ノ懲戒權ヲ用フルノ必要アリ然レ此權ハ如何ナル程度ニ止マルヘキヤチ定ムルハ極メテ困難ナリ是レ一國ノ風俗及ヒ開化ノ度ニ關スルモノニシテ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ス我國ノ如キ父母未ダ教育ノ何タルヲ知ラサルヲ多數トシ其懲戒モ往々過度殘酷ニ流ル、モノアリ故ニ法律ハ懲戒ノ權ヲ與フルト雖モ過度ノ懲戒ヲ加フルヲ禁ス若シ過度ノ懲戒ヲ加フルキハ親權ノ喪失ヲ宣告スルヲ得ヘシ懲戒ノ果シテ過度ナルヤ否ヤハ裁判官ノ査定ニ放任スル所ナリ

第二百四十四條 父若クハ母其子ノ行狀ニ付重大ナル不滿ノ事由ヲ有スルキハ地方裁判所長ニ請願シテ其子ヲ相當ノ感化場若クハ懲戒場ニ入ル、ヲ得此請願ハ口頭ニテ之ヲ爲スヲ得ヘク又拘引狀ニハ其事由ヲ明示シ且ツ其他裁判上ノ書面及ヒ手續ヲ用ユルヲ得ス

入場ノ日數ハ十六年未滿ノ子ナレハ三個月又滿十六年以上ノ子ナレハ六個月ヲ超過スルヲ得ス但シ父若クハ母ハ常ニ裁判所長ニ請願シテ其日數ヲ延長シ又ハ減縮スルヲ得(佛第三百七十五條以下、伊第二百二十二條) 第二百四十五條 父母及ヒ子ハ裁判所長ノ決定ニ對シテ控訴院長ニ抗告スルヲ得

所長及ヒ院長ハ檢事ノ意見ヲ聽キ裁判ス可シ(伊第二百一十三條)

(理由) 若シ子ノ性質不良ニシテ尋常ノ懲戒ヲ以テ之ヲ改心セシムル能ハサルキハ法律ハ一層嚴酷ナル懲戒處分ヲ用フルヲ許ス即チ其子ヲ拘留セシムルノ權是レナリ本條ハ其手續ヲ規定スルモノトス父母ハ其事由ヲ具シテ地方裁判所長ニスヘシ所長ハ其事情ヲ調査シ檢事ノ意見ヲ聽キ其請願ノ允當ナルキハ其允許ヲ與フヘシ此拘留ハ子ノ爲メ一生ノ恥辱トナルヘケレ

ハ成ル可ク之ヲ秘密ニシ其痕跡ヲ留メサルヲ要ス故ニ其請求ハ口頭ニテモ之ヲ爲スヲ得ヘク且ツ一切ノ書類及ヒ手續ヲ要セサルモノトス拘引狀云々ハ之ヲ削除スヘシ然レモ其子ヲ拘留スヘキ場所ハ如何是レ特別ノ懲戒場ヲササルヘカラス若シ之ヲ普通ノ監獄ニ入ト罪囚ト同居セムルキハ懲戒ニ非ラスシテ却テ惡性ヲ進ムルニ至ルヘシ拘留ノ日數ハ子ノ年齢ニ從ヒ之ヲ定メ滿十六年以下ナレハ三月又十六年以上ナレハ六月ヲ超ユヘカラスルモノトナセリ但シ場合ニ由リ其期限ヲ伸縮スルヲ得ヘシ若シ子其拘留ヲ不當ト信スルキハ之ヲ控訴院長ニ抗告スルヲ得ヘシ

**第二百四十六條** 父若クハ母ハ必要ノ事情アルニ於テハ同居スル成年若クハ自治ニ至リタル子ヲ其家ヨリ遠サクルヲ得

(理由) 親權ハ成年又ハ自治ニ由リ止息スルモノナレハ父母ハ其成年又ハ自治ノ子ニ對シテ如何ナル權力ヲモ有セサルモノナリ若シ子其父母ヲ輕蔑シ

又ハ放蕩ニ流ル、等ノ事アルキハ之ヲ教諭スルノ外ナク而シテ其無形ノ權力ヲ以テ子ノ改心ヲ得サルキハ如何トモスヘカラス故ニ止ムヲ得サルノ事情アルキハ父母ハ其同居ノ子ヲ其家ヨリ遠シルヲ得ルモノト爲セタリ但シ子躬ヲ生活スルヲ得サルキハ養料ヲ給スヘキハ勿論ナリ尤モ必要ノ養料ノミヲ給スレハ充分ナルヘシ

**第二節 子ノ財産ノ管理**

**第二百四十七條** 父ハ一般ノ權利行爲ニ於テ其未成年ナル子ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其子ノ財産ヲ管理ス(伊第二百二十四條、佛第三百八十九條)

(理由) 佛國民法ハ第三百八十九條ヲ以テ父ハ婚姻中其未成年ナル子ノ財産ヲ管理スヘシトノ規則ヲ設クルト雖モ其管理ノ權限并ニ擔保ヲ規定スルコトナク甚ク不完全ニシテ無數ノ議論及ヒ困難ヲ生セリ蓋シ父母ノ生存中ハ子其固有ノ財産ヲ有スルハ太ク稀ナルヘク而シテ父母ノ一方死去スルキハ直

チニ後見ヲ開始スルヲ以テ細密ニ父母ノ管理ヲ規定スルノ必要ヲ感セザリ  
シ爲メナラシカ然レモ父母生存中ト雖モ子ハ相續贈與又ハ遺囑ニ由リ財產  
ヲ獲得スルヲ屢其例ナキニ非サルナリ  
我國ノ習慣ニ依レハ戶主ニ非サル子ハ決シテ財產ヲ有スルヲナケレハ其管  
理ノ事ヲ規定スルハ最モ無益ナルカ如シト雖モ草案ニ依レハ遺囑又ハ普通  
相續ニ由リ財產ヲ得ルヲナシト云フヘカラス且ツ草案ハ父母ノ一方死去ス  
ト雖モ直チニ後見ヲ開始セスシテ生存者ヲシテ親權ヲ行ハシムルカ故ニ生  
存者其子ノ財產ヲ管理スルニハ如何ナル規則ニ從フヘキヤヲ定ムルハ必要  
ナルヘシ  
父母ノ管理ハ如何ナル規則ニ從フヘキヤ佛國ニ於テハ法律ノ規定不完全ナ  
ルニ由リ全ク後見ノ規則ヲ適用スヘシトノ説ヲ立テタル者アレモ其說遂ニ  
行ハレザリキ洵ニ父母ノ生存中ハ其恩愛ハ子ノ利益ヲ保護スルニ充分ナル  
ヘクシテ特別ノ擔保ヲ要セサルハ勿論ナリ然レモ父母ノ一方死去シタルモ

ハ如何此場合ニ於テハ子ノ財產重要トナリ且ツ其利益ハ管理者ノ利益ト相  
反スルコトアルヘキヲ以テ佛國法ハ後見ヲ開始シ副後見人及ヒ親族會ヲシテ  
生存者ノ管理ヲ監督セシム此規定ハ父母ノ恩愛ヲ猜疑シ其管理ヲ監督セン  
トスルモノニシテ頗ル學者ノ駁撃ヲ受クル所ナリ伊國民法ハ既ニ此點ヲ改  
正シ生存者ハ後見ヲ行ハスシテ親權ヲ保有スルモノトナセリ父母ノ管理ニ  
關スルモハ充分ノ信用ヲ置キ後見ト其規則ヲ異ニスルハ大ニ條理ニ適セル  
カ如シ然レモ其後見ト異ナルハ如何ナル點ニ在リヤ之ヲ了知セシムハ後見  
ニ付未成年者ノ爲メ設ケタル管理ノ擔保ヲ一言スルヲ要ス其擔保ハ第一法  
律上ノ抵當第二副後見人ノ設置第三親族會ノ設定第四後見人ノ除斥及ヒ解  
任ノ規則是レナリ父母ノ管理ニ於テハ子ハ法律上ノ抵當ヲ有セス副後見人  
及ヒ親族會ヲ設置セスト雖モ管理不良ノ場合ニ於テハ父母ニ對シ親權ノ喪  
失ヲ宣告スルヲ得ヘシ以上ハ父母ノ管理ニ關スル大抵ノ説明ニシテ其詳細  
ハ以下諸條ニ續述スヘシ



本條ハ子ノ財産ノ管理ヲ其父ニ委任スルモノニシテ此規則ハ後見人ト異ナルナシ未成年者ハ躬ラ權利行爲ヲ爲スヲ得サルモノナレハ其父之ヲ代表スルヲ要ス猶ホ父母ノ死去シタル後ハ後見人之ヲ代表スルカ如シ我國ノ慣例ニ依レハ未成年者ト雖モ躬ラ權利行爲ヲ爲シ其父母後見人之ニ連署スルニ過キサレハ是レ無益ノ繁雜ナレハ父母後見人ハ未成年者ヲ代表スルモノト爲スノ簡便ニシテ勝レルカ如シ

佛國民法ハ父其子ノ財産ノ管理者タルヘシト云ヒ其責任ヲ定メスト雖モ既ニ管理者タレハ其責任アルヤ必セリ此責任ハ如何ナル程度ニ止マルヘキカ白耳義草案ハ善良ナル管理者ノ責任ニ任スヘシト定メ後見人ト其責任ヲ同フセリ草案ハ其責任ヲ輕クシ父ハ自己ノ財産ニ於ケルカ如ク其子ノ財産ヲ管理スヘキモノト定メタリ

第二百四十八條 此管理ニ於テハ第三百二十九條ニ列記シタル行爲ハ尙ホ之ヲ管理所爲ト看做ス

父ハ地方裁判所ノ允許ヲ得ルニ非サレハ第三百三十條ニ列記シタル行爲ヲ爲スヲ得ス此允許ハ必要若クハ利益ノ判然タルキニ非サレハ之ヲ與フ可カラス

後見ノ章ニ於テ動産及ヒ不動産ノ賣買ノ方法ニ關スル規則并ニ資本其他所得ノ利用法及ヒ利子ニ關スル規則ハ父ノ管理ノ性質ニ違ハサルニ於テハ之ヲ此管理ニ適用ス

(理由) 本條ハ父其子ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ其權限ヲ規定スルモノニシテ後見ノ規則ト對照スレハ其別判然タルヘシ父ハ管理者ニシテ所有者ニ非サレハ管理行爲ヲナスヲ得ヘシト雖モ處分行爲ヲナスヲ得サルモノトス後見人ハ管理行爲ト雖モ之ヲ爲スヲ得サルモノアリ後見ノ章第三百二十九條ニ列記スル行爲ハ性質上處分行爲ニ非サレハ後見人ハ親族會ノ允許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス然レハ父ノ管理ニ於テハ之ヲ管理行爲ト看做スモノナリ何トナレハ父母ノ管理ニ於テハ親族會アルナキヲ以テ父一己ニ

テ是等ノ行爲ヲナスヲ得ストスルキハ裁判所ノ允許ヲ要スヘクシテ後見人  
ニ關スルヨリモ其要求ヲ一層嚴重トナスニ至ルヘケレハナリ法律ハ父母ノ  
愛情ニ充分ノ信用ヲ置クモノニシテ此擔保ハ親族會ノ意見ニ劣ラサルヘシ  
然レモ處分行爲ハ動產ト不動產トヲ問ハス裁判所ノ允許ヲ得ルニ非サレハ  
之ヲ爲スヲ得ヘカラス處分行爲トハ子ニ屬スル財產ノ移付ヲ生スル行爲ヲ  
云フモノニシテ今日動產ノ重要ナルコトハ決シテ不動產ニ劣ラサルヲ以テ動  
產ノ移付ト雖モ裁判所ノ允許ヲ要スルモノト爲セリ佛國ニ於テ此點ニ付既  
ニ後見人ノ權限ヲ減縮シ自由ニ動產ヲ處分スルコトヲ禁セリ裁判所ノ允許ハ  
必要アルカ又ハ利益ノ判然タルキニ非サレハ之ヲ與フヘカラサルモノトス  
法律ハ二箇ノ點ニ付後見ノ規則ニ送レリ第一動產及ヒ不動產ノ賣買方法ニ  
關スル規則是レ第三百三十一條及ヒ第三百三十三條ニ規定スル所ナリ第二  
資本及ヒ所得ノ利用法及ヒ利子ニ關スル規則是レ第三百二十五條ニ規定ス  
ル所ナリ然レモ若シ後見ノ規則カ父母ノ性質ニ違フキハ之ヲ適用スルヲ得

ヘカラス即チ親族會ノ干渉ヲ想像スル規則是レナリ

### 第二百四十九條

子ハ其父ト異ナル職業若クハ勞力ニ因リ獲  
得シタル利益并ニ相續贈與若クハ遺囑ニ因リ獲得シタル財  
產ノ所有權ヲ有ス  
父ハ相續贈與若クハ遺囑ノ受諾ヨリ二个月内ニ其財產ノ目  
録ヲ作ル可シ若シ之ヲ作ラサルキハ其箇數及ヒ價額ハ世評  
ヲ以テスルモ之ヲ證スルコトヲ得

(理由) 現行法ニ依レハ家族ハ資產ヲ有セスシテ其獲得スル財產ハ其從屬ス  
ル戸主ノ所有トナルヲ原則トシ近時ニ至リ記名財產ハ戸主ノ身代限ニ包含  
セサルコトナリ從テ家族其戸主ト別居スル場合ニ於テモ其財產ヲ以テ戸主  
ノ所有ト看做サ、ルニ至レリ此變更ハ我國親屬法ノ基礎ヲ一變セントスル  
ノ端緒ナリ家族ト雖モ固有ノ資產ヲ有シ財產ヲ獲得スルノ能力アルヲ認許  
スルモノナリ草案ハ更ニ一步ヲ進メ親權ニ服從スル子ト雖モ其財產ノ所有

權ヲ有スルモノト爲シ此變革ヲ成就セリ何トナレハ財産ノ記名アルト否ト  
又ハ別居スルト否トニ從ヒ區別ヲ爲スノ理由ナケレハナリ或ハ同居ノ家族  
記名ナキ財産ヲ所有スルヲ得ヘシトナスハ戸主身代限ノ時容易ニ其財産  
ヲ隱匿スルヲ得ヘキ不都合ヲ恐ル、者アラント雖モ身代限ノ法律完備セハ  
債主ノ利益ヲ保護スルニ充分ナルヘク家族ノ財産ヲ以テ戸主ノ負債ニ供ス  
ルノ不條理ヲ存スルヲ要セス  
此點ハ親權ノ基本ニ關係スルモノナリ若シ親權ヲ以テ父母ノ利益ノ爲メ設  
ケタルモノトナセハ子ノ財産ハ皆父母ノ所有ニ歸スヘシトノ結果ニ至ルヘ  
シ然レモ親權ヲ以テ父母其養育ノ義務ヲ盡スノ方法トナスハ子ノ財産ニ  
付テモ父母ハ之ヲ管理スルノ義務アルノミニシテ之ヲ其所有トナスノ權利  
ヲ有スヘカラス  
佛國法ハ既ニ親權ノ性質ヲ變更シ父母其子ノ財産ヲ所有トナスヲ許サレモ  
其財産ニ付テハ法律上ノ用收權ヲ與ヘリ是レ教育ノ負擔アルヲ以テ其報酬

トシテ之ヲ與フルモノナルヘシ然レモ親權ノ性質ヲ以テ父母ノ義務トナス  
ルハ父母其義務ヲ盡ス爲メ之ニ報酬ヲ與フルノ理由アルヘカラス疎遠ノ規  
族又ハ他人ニシテ未成年者ノ後見ヲ爲スルハ給料ヲ與フルノ當然ナリト雖  
モ法律ハ決シテ後見人其報酬ヲ求ムルヲ許サス況ンヤ父母其子ヲ養育スル  
ハ天倫ノ義務ニシテ豈ニ之ニ報酬ヲ與フルノ理アラシヤ諸國ノ法律ハ概テ  
父母ニ其子ノ財産ノ用收權ヲ與フルト雖モ英米法ハ然ラスト云ヘリ白耳義  
新案ハ此點ニ付佛國法ヲ改正シ父母ノ用收權ヲ廢シタリ是レ太ク允當ナル  
ヲ以テ草案モ亦之ニ倣ヘリ  
然レモ此原則ノ適用ニ付テハ實際ノ困難ナキコアラサズ下等社會ニ在テハ子  
相當ノ年齢ニ至レハ之ヲ備役ニ就カシメ父母其給料ヲ使用スルハ止ムヲ得  
サル所ナルカ如シ今日ハ教育ノ義務確定セサルヲ以テ幾年ニ至レハ父母其  
子ヲ備役ニ就カシムルヲ得ヘキヤ否ヤヲ知ル能ハス然レモ子ハ相當ノ年齢  
ニ至ルマテ其教育ヲ受クヘキモノニシテ之ヲ教育令ニ確定セサルヘカラス

其年齢ヲ過クレハ備役ニ就カシムルヲ得ヘシト雖モ其給料ハ當然子ニ屬ス  
ヘキモノニシテ父母之ヲ使用スルヲ得ス但シ場合ニ由リ子ハ其給料ノ全部  
又ハ一部ヲ其父母ニ供スヘキヲアリ何トナレハ父母其努力ニ由リ充分一家  
ノ需用ヲ満足スル能ハサルハ子ハ之ニ對シ養料ノ義務アレハナリ故ニ父  
母ハ其子ノ給料ニ付毫モ權利ヲ有セサルモノト思考スヘカラス  
若シ相續贈與遺囑ニ由リ子財産ヲ獲得スルハ父母ハ其管理者タルヲ以テ  
其目録ヲ調製セサルヘカラス父母ハ其管理ノ計算ヲ爲シ其責ニ任スルモノ  
ナレハ目録ノ必要ナルハ太タ明瞭ナリ若シ子其財産ノ箇數ヲ知ル能ハサル  
ハ父母ノ計算及ヒ責任ハ全ク有名無實タルヘク殆ント懈怠濫用ヲ允許ス  
ルニ異ナラサルヘシ此目録ハ財産ノ獲得ヨリ二ヶ月内ニ之ヲ作ルヘシ然レ  
モ父其目録ヲ作ラサルハ如何此場合ニ於テハ其箇數及ヒ價額ハ世評ヲ以  
テ之ヲ証スルヲ得ヘシ若シ其所爲ノ惡意ニ出ツルハ第二百五十八條ヲ適  
用スルヲ得ヘシ

第二百五十條 父子ノ利益相反スルキ若クハ同父ノ權ニ服從  
スル數子ノ利益相反スルキハ其住所ノ地方裁判所ハ其子ノ  
爲メ臨時保管人ヲ命ス可シ(伊第二百二十四條第三項第四項  
(理由) 此規則ハ伊國民法ニ依ルモノニシテ父ノ利益其子ノ利益ト相反スル  
キハ子ノ利益ヲ保護スヘキ副後見人アルナキヲ以テ臨時保管人ヲシテ子ノ  
利益ヲ保護セシムルモノナリ而シテ臨時保管人ヲ命スルハ住所ノ地方裁判  
所ナリ何トナレハ父ノ管理ニ於テハ親族會ヲ設ケサレハナリ  
第二百五十一條 父ハ其管理ノ止息シタルキハ所有權並ニ所  
得ノ計算ヲ爲ス可シ但シ子ノ養成及ヒ教育ノ入費ヲ支出ノ  
部ニ算入スルコトヲ得(佛第三百八十九條第二項)  
此計算ニ付テハ地方裁判所ハ父ノ善意ト其常習トヲ斟酌シ  
テ苛細ナル證明ヲ要ム可カラス  
後見人ノ計算書差出ノ義務ニ關スル時効ハ之ヲ父ノ計算書

差出ノ義務ニ適用ス

(理由) 父ハ前ニ詳説シタルカ如ク其子ノ財産ノ管理者ニ過キサレハ管理ノ止息スルキハ所有權及ヒ所得ノ計算ヲ爲スヘキモノトス父ノ管理ハ親權ト共ニ止息スルモノナレハ子成年又ハ自治ニ至リ若クハ父親ヲ喪失シタルキハ其管理ハ止息スヘシ父ハ子ノ財産ニ付收益スルヲ得スト雖モ子財産ヲ有スルキハ父其固有ノ財産ヲ以テ子ノ養育ヲ爲スニ及ハス其子ノ財産ヲ用フルヲ得ヘシ故ニ父其管理ノ計算中養育ノ入費ヲ支出ノ部ニ記載スルヲ得ルモノトナセリ

計算ハ收入支出ヨリ成立シ其詳細ノ證明書ヲ要スルモノナリ然レモ父ニ關スルキハ法律ハ充分ノ信用ヲ置キ多年ノ計算ヲ爲スハ困難ナルヘキヲ以テ父ノ善意ト其常習トヲ斟酌シ苛細ノ證明ヲ要求スヘカラサルモノトナセリ多數ノ父ハ未タ計算ノ何物タルヲ知ル可ラサレハ嚴重ノ計算ヲ請求スルハ民情ニ適セサルヘシ

此計算ノ義務ハ後見人ノ義務ノ如ク十年ノ時効ニ由リ消滅スルモノトス父ノ管理ハ後見ヨリモ之ヲ寬待スルモノナレハ此特別ノ時効ヲ之ニ適用スルハ至當ナルヘシ

佛國法ハ後見人其管理ノ計算ヲ爲サ、ル前ニ未成年者ト和解契約ヲ爲スルハ之ヲ無効トナセリ此條例ヲ父ノ管理ニ適用スヘキヤ否ヤハ佛國ニ於テ議論ニ係レリ白耳義草案ハ之ヲ父ノ管理ニ適用セリト雖モ今之ニ從ハス此條例ハ未成年者ノ利益ヲ保護スルニ適當ナリト雖モ父子ノ間利益ノ論争ヲ避クル爲メ其間ノ和解契約ヲ有効ト爲スハ有益ナランカ

第二百五十二條 父其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ子損失ヲ

原由トシテ其無効ヲ請求スルコトヲ得ス

父法律ニ定ムル條件ヲ遵守セスシテ爲シタル行爲ハ當然無効トス(伊第二百二十七條)

(理由) 佛國法ハ父其管理中ニ於テ爲シタル行爲ノ効力ヲ規定セサルヲ以テ

白耳義草案ニ倣ヒ之ヲ補ヘリ父其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ全ク有効ノモノトス故ニ假令損失アリト雖モ子之ヲ原由トシテ其取消ヲ求ムルヲ得ス然レモ父其權限外ノ行爲ヲ爲シタルハ當然無効トス是等ノ規則ハ後見ノ規則ト更ニ異ナルヲナシ

### 第二百五十三條 本節ノ規則ハ母其子ノ財産ヲ管理スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

然レモ母ハ常ニ其子ノ財産ノ管理ヲ辭避スルヲ得此場合ニ於テハ後見ヲ開始ス

(理由) 親權ハ父母ニ屬スト雖モ婚姻中現ニ之ヲ行フ者ハ父ナリ故ニ子ノ財産ヲ管理スルハ父ナリト雖モ父親權ヲ行フ能ハサルハ母之ヲ行フモノナリ又父ノ死去シタルハ母親權ヲ行ヒ子ノ財産ヲ管理スヘシ是等ノ場合ニ於テハ以上ノ規則ヲ適用スヘキハ勿論ナリ然レモ法律ハ父母ノ間唯一ノ差別ヲ設ク親權ハ公益ニ關スルモノニシテ如

何ナル事情アリト雖モ父母之ヲ拋棄スルヲ得サルハ勿論ナレモ財産ノ管理ニ付テハ一ノ例外アリ父ハ之ヲ辭避スルヲ允許セスト雖モ母ハ往々財産ノ管理ニ熟練セサルヲアルヘキヲ以テ之ヲ辭避スルヲ得ルモノトス是レ佛國民法第三百九十四條ノ規則ヲ採用スルモノニシテ此規則ハ世間ノ情態ニ適當スヘシ

白耳義草案ニ依レハ父母ノ中生存者ハ親權ヲ行フノ義務アルモノトシ之ヲ辭避スルヲ允許セス其理由ヲ見ルニ夫ノ生存中ハ實際其子ヲ養育セシモノナレハ死後ト雖モ之ヲ繼續セサルノ理由ナク其養育ニ堪ヘスト云フヲ得ス又夫ノ死去ニ由リ其財産ヲ管理スルノ能力ヲ得レハ其子ノ財産ヲモ管理セサルノ理由ナク其負擔ニ堪ヘスト云フヲ得ス親權ハ天倫ノ義務ニシテ之ヲ免除スヘカラスト云ヘリ思フコ子ノ養育ハ眞ニ天倫ニ出テ母之ヲ免ルヘキニアラサレモ財産ノ管理ハ之ト密着ノ關係アルニ非ス場合ニ由リ之ヲ他人ニ委ヌルモ別ニ不都合アルヲ見スシテ却テ子ノ利益ヲ保護スルニ適當ス

佛國民法ハ母其子ヲ後見スヘキハ父ハ其遺囑書ヲ以テ之ニ特別ノ相談人  
ヲ命スルヲ得ヘキモノトナセリ伊國民法ハ父其遺囑書ヲ以テ子ノ教育及ヒ  
財産ノ管理ニ付其條件ヲ定ムルヲ得ヘク若シ母其條件ヲ以テ不當トナスハ  
ハ親族會ノ議決ニ依リ其免除ヲ受クヘキモノトナセリ是等ノ法律ハ母ノ不  
能力ナラシテ恐レ其生存シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ特別ノ制限ヲ設クルモ  
ノナリ然レモ是等ノ制限ハ其弊害ヲ矯ムルニ足ラスシテ母ノ權利ヲ害スル  
ノ甚太シキモノナリ父不能力ナリト雖モ自由ニ親權ヲ行フヲ得レハ母ニモ  
同一ノ自由ヲ與ヘサルヘカラス若シ其任ニ堪ヘサルハ親權ヲ剝奪スルヲ  
得ヘシ

### 第三節 親權ノ喪失

第二百五十四條 刑法第三百五十二條ニ依リ處刑ノ宣告ヲ受  
ケタル父若クハ母ハ其總テノ子ニ對シテ當然親權ヲ失フ

(理由) 刑法第三百五十二條ハ未成年ナル子ノ淫行ヲ勸誘シタル父母ノ犯罪  
ヲ罰スルモノナリ父母ハ其子ノ教育ニ任シ其品行ヲ正スヘキモノナルニ此  
ノ如キ所業ニ及フモノハ全ク其義務ニ背キ父母ノ名ヲ汚スモノナリ故ニ總  
テノ子ニ對シ其親權ヲ剝奪スルハ必要ニシテ止ムヘカラス

第二百五十五條 父若クハ母親權ヲ濫用スルハ若クハ其不行  
跡ノ世上ニ著明ナルハ地方裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ其  
失權ヲ宣告スルヲ得(伊第二百三十三條)

(理由) 佛國法ハ前條ノ場合ノ外親權ヲ剝奪スルヲナク父母其權力ヲ濫用シ  
其子ニ對シ殘酷ノ所爲ヲ行ヒ又ハ父母ノ不行跡其子ノ教育ヲ害スヘキト  
雖モ父母ハ親權ヲ保有スルモノナリ此欠典ハ實ニ不都合ナルヲ以テ學說及  
ヒ判決例ニ依レハ裁判所ハ父母ニ對シ親權ノ喪失ヲ宣告スルヲ得スト雖モ  
子ノ監護ヲ奪ヒ之ヲ他人ニ委託スルヲ得ヘシト云ヘリ此說ハ佛國法ノ解釋  
ニ於テハ最モ不當ナラント雖モ立法上ヨリ見ルハ父母ノ義務ニ對シ制裁

ヲ設クルノ必要ナルハ勿論ナリ  
本條ハ二箇ノ場合ヲ規定ス第一父母其權力ヲ濫用スルキ例之ハ其子ヲ打擲  
シ又ハ必要ノ養料ヲ給セサルカ如シ之レ子ノ生命又ハ健康ニ關スルモノコ  
シテ之ヲ保護セサルヘカラス但シ如何ナル場合ニ於テ果シテ濫用アルヤハ  
裁判官ノ査定ニ放任スルモノナリ第二父母ノ不行跡ナルキ未成年ノ子ヲシ  
テ之ヲ目撃セシムルキハ竟ニ之ニ感染スヘキヲ以テ其教育ヲ害スルコト太甚  
シカルヘシ故ニ其子ヲ遠クルノ必要アリ  
此規則ハ之ヲ我國ニ適用スルキハ多少ノ不都合ヲ生スヘシト雖モ子ノ教育  
ハ社會ノ進歩ニ關スル所ニシテ決シテ之ヲ等閑ニ付スヘカラス未成年ノ女  
ヲ貨視シ之ヲ娼娼妓又ハ外妾ト爲シ更ニ恥ヲサルモノハ我國ノ習俗ニシテ  
之ヲ改メサルヘカラス此外我國遊廓ノ制ヲ見ルニ未成年ノ子女ヲ其裏ニ養  
育シ更ニ嫌忌セサルモノハ最モ其教育ニ害アリ嚴ニ本條ノ規則ヲ適用シ是  
等ノ弊風ヲ矯正スルハ極メテ困難ナルヘシト雖モ其矯正ノ方法ヲ設ケ其適

用ノ如キハ多少之ニ用捨スルモ可ナリ

第二百五十六條 生存者再婚シテ其配偶者前二條ノ所爲ヲ犯  
スルト雖モ地方裁判所ハ生存者ニ對シテ失權ヲ宣告スルコ  
ト得

婚姻ノ無効若クハ離婚ノ裁判宣告アリタル後子ノ監護ニ任  
スル父若クハ母ノ再婚シタル場合ニモ亦前項ノ規則ヲ適用  
ス

(理由) 父母ノ中生存者ハ親權ヲ行フモノニシテ再婚スト雖モ他家ニ入ラザ  
ルキハ親權ヲ失ハス此規則ハ專ラ夫ニ適用スルモノニシテ婦ハ概テ再婚ス  
レハ他家ニ入ルヘキヲ以テ親權ヲ失フヘシ然レモ父再婚スル場合ニ於テハ  
繼母其前婦ノ子ニ對シ非道ノ取扱ヲ爲スコトハ世間其例太々多シ此場合ニ於  
テハ父ハ善意ニシテ其罪ナシト雖モ之ニ對シ親權ノ喪失ヲ宣告スルノ必要  
アルヘシ



婚姻ノ無効又ハ離婚ノ場合ニ於テ子ノ監護ニ任スル者再婚スルハ右ト同一ノ危険ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ其者ニ對シ親權ノ喪失ヲ宣告スルノ必要アルヘシ

### 第二百五十七條

親權ヲ失ヒタル父若クハ母ハ其子ノ婚姻若クハ縁組ヲ承諾シ並ニ其子ニ自治ヲ與フルノ權ヲ失フ

(理由) 父母親權喪失ノ宣告ヲ受ケタルキハ其子ノ婚姻又ハ縁組ヲ承諾シ及ヒ其子ニ自治ヲ與フルノ權ヲ有スヘキヤニ付テハ佛國ニ於テ議論アリ立法上ヨリ見レハ之ヲ剝奪スルヲ當然トス父母ニシテ其義務ヲ盡サス其子ヲ顧ミサル者ハ豈ニ其子ノ利益ヲ保護スルニ足ランヤ自治ニ至テハ親權ヲ有セサル者ハ之ヲ與フルノ權ヲキハ勿論ニシテ若シ此權ヲ與フレハ未成年者ヲシテ後見ヲ脱シ其手許ニ復歸セシムルヲ得ヘキ弊害ヲ生スヘシ以上親權喪失ノ場合ヲ規定スト雖モ之ヲ宣告シタル後更ニ子ニ關スル處分ヲ定メサルモノハ如何是レ第二百六十六條ニ規定スル所ニシテ後見ヲ開始

スヘシ伊國民民法ニ依レハ裁判所ハ子ニ後見人ヲ命ジ又ハ其他相當ノ處分ヲ定ムルヲ得ヘシト云ヘリ然レモ既ニ後見ヲ開始スルハ總テ後見ノ規則ニ從フテ可ナリ

### 第二百五十八條

財產ノ管理ニ於テ父若クハ母重大ノ過失ヲ爲シ若クハ不正實ノ所爲アルキハ地方裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ保管人ヲ命ジ之ニ管理ヲ委任スルコトヲ得(伊第二百三十三條)

父若クハ母ノ浪費又ハ家事衰替ニ因リ子ノ財產ニ危険ヲ來タスノ恐アルキ亦同シ

(理由) 父母ハ當然其子ノ財產ヲ管理スルモノニシテ其管理ニ於テ重大ノ過失ヲ爲シ又ハ不正實ノ所爲ヲ行フコトアルヘシ又父母其財產ヲ浪費シ又ハ其家政ノ衰替シテ子ノ財產ニモ危険ヲ及ホスヘキコトアルヘシ是等ノ場合ニ於テハ其管理ヲ奪フノ必要アリ法律ハ父母ニ信用ヲ置キ後見ニ於ケルカ如ク

子ノ利益ヲ保護スヘキ擔保ヲ設ケスト雖モ若シ其信用ノ粗語シタルキハ特別保管人ヲ命ジ子ノ財産ヲ管理セシム然レモ父母親權ヲ失ヒタルキハ後見ヲ開始スルヲ以テ保管人ヲ要セサルハ勿論ナリ

### 第二百五十九條

血族姻族其他何人ト雖モ本節ニ規定スル事實ヲ聞知シタルキハ之ヲ檢事ニ通知ス可シ

子モ亦躬ラ之ヲ申告スルヲ得

地方裁判所ハ會議局ニ於テ父母及ヒ子ノ陳述及ヒ檢事ノ意見ヲ聽キ裁判ス可シ

(理由) 本條ハ前諸條ノ場合ニ於テ履行スヘキ手續ヲ規定スルモノトス此手續ハ父母教育ノ義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ用フヘキ手續ト同一ナルヘキニ些少ノ差異アルモノハ不注意ニ出テタルモノナリ第百九十二條ハ親族及ヒ檢事ニ親權ノ喪失ヲ請求スルノ訴權ヲ與ヘ本條ニハ之ヲ明示セスト雖モ是レ固ヨリ同一ナルヘシ之ニ反シ本條ハ子モ亦躬ラ申告スルヲ允許スルハ

第百九十二條ノ欠漏ヲ補ヘリ此外第百九十二條ニハ裁判ノ手續ヲ規定セサレハ此点ハ全ク本條ニ依ラサルヘカラス故ニ第百九十二條及ヒ本條ハ全ク同一ノ事ヲ規定シ相通シテ適用スヘキモノトス然レモ多少ノ疑ヲ生スヘキヲ以テ第百九十二條ニハ「父母其教育ノ義務ヲ盡サ、ルキハ第二百五十九條ニ規定スル手續ニ從ヒ裁決スヘシ」ト只送リノ法文ヲ設ケ本條ニ於テ詳ニ其手續ヲ規定スルモ可ナリ

### 第二百六十條 法律上父母ニ屬スル權ヲ變更スル合意ハ無効トス但シ第二百六十八條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

(理由) 親權ハ公ケノ秩序ニ關スルモノニシテ各個人ノ合意ヲ以テ法律ノ規定ヲ變更スルヲ得サルハ勿論ノコトナリ然レモ此規則ニ例外アリ親權ニ服従スル未成年者ニ財産ヲ贈與シ其財産ハ父母之ヲ管理スヘカラサルヲ約束スルモ法律ノ允許スル所ナリ蓋シ子ノ財産ノ管理ハ親權ニ附屬スル權利ナレド之ヲ親權ト分別スルモ別ニ公ケノ秩序ヲ紊亂スルニ非サレハナリ是レ

本條但書ニ明示スル所ナリ此外母親權ヲ行フ場合ニ於テハ子ノ財産ノ管理ヲ辭避スルヲ得ルコトハ第二百五十三條ニ詳ナリ是等ノ例外ヲ除クノ外法律ハ合意ヲ以テ親權ノ執行ヲ變更スルコトヲ禁ス

#### 第四節 庶出子ノ父母ニ特別ナル規則

第二百六十一條 前三節ニ設定スル規則ハ下ノ特例ヲ除クノ外之ヲ庶出子ノ父母ニ適用ス

(理由) 佛國民法ハ第三百八十三條ヲ以テ庶出子ノ父母ニ關シ親權ノ執行ヲ規定スト雖モ其條文太ク不完全ニシテ無數ノ議論アルヲ致セリ親權ノ目的ハ子ノ養育ニシテ其方法ハ監護及ヒ懲戒ノ權是レナリ庶出子ノ父母ハ其子ニ對シ養育ノ義務アルコトハ草案第九十條ヲ以テ之ヲ規定セリ既ニ養育ノ義務アレハ監護及ヒ懲戒ノ權ヲ有スヘキハ當然ニシテ正出子ノ父母ト異ナルコトナリ故ニ前三節ニ規定スル規則ハ總テ之ヲ庶出子ノ父母ニ適用スヘキモノトス本節ニハ只庶出子ノ父母ニ特別ナル規則ヲ掲クルニ過キス正出子

ノ父母ノ間ハ婚姻アリテ婦ハ夫ノ權ニ服從スヘキコト由リ夫親權ヲ行フト雖モ庶出子ノ父母ハ其間他人ナルコト由リ何レカ親權ヲ行フヘキヤヲ規定セサルヘカラス

第二百六十二條 父母ノ中一方ノミニ對シ親子ノ分限確定シタルキハ其分限ノ確定シタル者親權ヲ行フ

第二百六十三條 父母雙方ニ對シ親子ノ分限確定シタルキハ父親權ヲ行フ

若シ父死去シ若クハ之ヲ行フヲ能ハサルキハ後見ヲ開始ス

第二百六十四條 父子ノ中子ノ監護ニ任スル者ハ其子ヲ代表シ其財産ヲ管理ス

(理由) 右三條ハ父母親權ヲ行フヘキ條件ヲ規定スルモノニシテ詳説スルコト及ハス父母ノ中一方ノミ其子ヲ認知シルキハ其一方親權ヲ行フノ外アルヘカラス然レモ雙方之ヲ認知シタルキハ如何此場合ニ於テハ父親權ヲ行フモ

ノト爲セリ此規則ハ別ニ理由ナシト雖モ我國ノ慣習ニ於テ然ルヘシト云ヘ  
リ父其一ヲ認知スルハ之ヲ其家ニ引取り養育スルモノニシテ母トハ殆  
ト關係ヲ絶ツモノナリ是レ私通ノ子ニ付テ然リトス妾出ノ子ニ至テハ妾  
ニテ親權ヲ行ハシムルハ一家整理ノ爲メ或ハ不都合ナルヘシ故ニ父母共ニ  
認知シタルハ父死去シ又ハ失踪癡狂等ニ由リ親權ヲ行フ能ハスト雖モ母  
親權ヲ行フコトヲ許サスシテ直ニ後見ヲ開始スヘキモノトナセリ父母ノ中  
親權ヲ行フ者ハ其子ヲ代表シ其財産ヲ管理スヘシ法文ニ子ノ監護ニ任スル  
者云々トアルハ原案ノ痕跡ニシテ之ヲ修正スルヲ遺忘シタルニ由ル原案ニ  
依レハ父母共ニ認知シタルハ何人カ親權ヲ行ヒ子ノ監護ニ任スヘキヤハ  
裁判所ノ時宜ニ從ヒ決定スヘキモノトナシ他ノ一方ハ之ヲ檢視スルヲ得ル  
ノ權アルモノトナセシナリ

第二百六十五條 子ノ監護ニ任スル者他人ト婚姻ヲ爲シタル  
場合ニモ第二百五十六條第一項ノ規則ヲ適用スルコトヲ得

(理由) 庶出子ノ父母ノ中親權ヲ行フ者婚姻ヲ爲スルハ正出子ノ父母ノ中生  
存者再婚スルト同一ノ地位ニ陷ルヘシ此場合ニ於テハ庶出子ノ地位ハ正出  
子ノ地位ヨリモ一層惡シカルヘシ然レモ當然親權ヲ剝奪スルヲ得サルハ勿  
論ナリ故ニ若シ配偶者之ヲ虐待スルコトアルハ裁判所ハ親權又ハ檢事ノ請  
求ニ由リ親權ノ喪失ヲ宣告スルヲ得ヘキモノトス

第九章 後見

總則

第二百六十六條 後見ハ未成年者ノ父若クハ母ナル生存者ノ死去ニ依リテ開始ス

父母共ニ存シ若クハ生存者アリト雖モ親權ヲ失ヒ又ハ之ヲ行フ不能ハサルキ亦同シ(佛第三百九十條、白第三百八十五條、伊第二百二十條、第二百四十一條)

(理由) 佛國民法ニ從ヘハ父母ノ一人ノ死去ニ因テ後見ヲ開始ス今伊國民法及ヒ白國民法ニ從テ父母共ニ死去スルキニ於テ始メテ後見ヲ開始シ父母ノ一人尙ホ生存スルキハ其生存者親權ノ章ニ規定スル所ニ從テ親權ヲ行フモノトセリ蓋シ父母ノ一人尙ホ生存スルヤ未成年者ヲ保護スルノ点ニ於テ別ニ後見ヲ開始スルノ必要ナキモノトス○然レモ父母若クハ其一人親權ヲ失ヒ又ハ之ヲ行フ能ハサルキハ後見ヲ開始スルノ必要アリ是レ本條第二項ヲ

設ケタル所以ナリトス

第二百六十七條 未成年者ノ人數ノ多少ヲ問ハス後見人ハ一名タル可シ但シ正出庶出ノ未成年者アルキハ庶出未成年者ノ爲メニ別ニ後見人ヲ置ク  
若シ同一ノ後見ニ屬スル數人ノ未成年者ノ間ニ利益相反スルキハ其住所ノ地方裁判所ハ特別ノ保護ヲ要スル未成年者ニ臨時保管人ヲ附ス(伊第二百四十六條、白第三百八十七條、蘭第三百八十六條)

(理由) 佛國民法ニ於テハ未成年者ノ人數又ハ管理スヘキ其財産ノ多少ニ從テ數多ノ後見人ヲ置クヘキヤニ付テハ明文ノ存スル無シ今白伊ノ民法ニ從テ本條ノ如ク未成年者ノ人數ノ多少ヲ問ハス後見人ヲ一名ニ限レリ若シ數多ノ後見人ヲ命スルキハ却テ此後見人ノ間ニ不和ヲ生スルニ至ル可ク是レ決シテ未成年者ノ利益ニ非ス故ニ未成年者ノ保護及ヒ其財産ノ管理宜シク

一人ノ手中ニ存スヘキナリ然レモ若シ正出子ト庶出子ト并ヒ存スルキハ其間ニ利益ノ相反スルアルハ免カルヘカラサル情勢ナルヲ以テ但シ以下ヲ附加シタリ○本條第二項ハ其理由明白ナルヲ以テ敢テ贅辯ヲ費サス

第二百六十八條 親權又ハ後見ニ屬スル未成年者ニ財産ヲ贈與シ又ハ贈遺スル者ハ其指名スル保管人ヲシテ其贈與又ハ贈遺スル財産ヲ管理セシム可キ條件ヲ附スルヲ得此管理ニ付保管人ハ後見人ニ均キ任務ヲ有ス  
未成年者ノ成年ニ達セサル間ニ此管理罷ムキハ地方裁判所其替代者ヲ命ス(白第三百六十八條、第三百八十八條、伊第二百四十七條)

(理由) 贈與者若クハ遺囑者ニシテ其贈與若クハ遺囑ニ本條ニ掲クル條件ヲ附スルキハ法律ハ之ヲ尊敬スルヲ要ス蓋シ此條件ハ未成年者ノ利益ノ爲メニ設クルモノニシテ若シ此條件徴カリセハ贈與者若クハ遺囑者カ贈與若ク

ハ贈遺ヲ爲サ、ルヘキヲ以テナリ。○此場合ハ贈與者若クハ遺囑者カ未成年者ノ父母若クハ後見人ニ財産管理ノ信用ヲ置カサルコト想定セルモノトス而シテ此條件ハ決シテ父母ノ親權ヲ侵害スルモノト云フヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ父母ハ只義務ヲ有スルノミナレハナリ。○管理者ノ替代者ヲ命スル權ヲ親族會ニ與ヘヌシテ裁判所ニ與ヘタルハ贈與者若クハ遺囑者ノ意思ヲ想定スルナリ蓋シ贈與者若クハ遺囑者カ其始メニ於テ躬ヲ管理者ヲ指名スルハ後見ノ普通ノ規則ヲ避ケントスルノ意思ナルヲ推測スルヲ得レハナリ。

第二百六十九條 後見人ハ親族會ノ認免セサル限りハ後見ヲ承諾セサル可カラス若シ後見人之ヲ承諾セス又ハ其任務ノ執行ヲ怠ルキハ關係人及ヒ檢事ノ請求ニ依リ裁判所ハ後見ヲ管理者ヲ命スルコトヲ得  
後見人ハ此管理ノ費用ヲ負擔シ且ツ其管理者ノ管理ノ責ニ

ス(蘭第三百八十七條、白第三百八十九條)

(理由) 法律上ノ認免ヲ得サルキハ必ス後見ヲ承諾スヘキハ後見ノ原則タリ佛國民法ニ於テハ之ヲ明示セルモノ無シト雖モ此原則ヲ採用シタルヤ疑ヲ容レヌ然レモ既ニ此原則ヲ採用スルヤ之カ制裁ヲ設ケサルヘカラス即チ若シ後見人カ其後見ノ管理ヲ爲サ、ルキハ如何ナル方法ニ依テ之ヲ要強スヘキヤ普通法ニ從ヘハ之ヲ損害賠償ニ止メサルヘカラス。○然レモ單ニ損害賠償ニ依テ後見ヲ免カル、ヲ得ルモノト爲サハ後見ノ其實ヲ舉クルコトヲ得サルニ至ラン是レ本條ノ如ク規定シ裁判所ノ命スル管理者ニ依テ實際ノ管理ヲ爲サシメ尙ホ後見人ニ其責任ヲ有セシメ且ツ其管理ノ費用ヲ負擔セシムル所以ナリ。

第一節 後見人

第三百七十條 父母ノ中生存シテ親權ヲ行フ者ハ其生前ニ血族姻族若クハ他人ノ中ニテ後見人ヲ指定スル權ヲ有ス(佛第

三百九十七條、白第三百九十條、伊第二百四十二條)

(理由) 後見人ノ指定ハ父母ノ中生存スル者ノ親權ヲ行フ者ニアラサレハ之ヲ爲スヲ得ス生存中己レ躬ラ親權ヲ失ヒタル者ニ對シテ後見人ヲ指定スルノ權ヲ剝奪スルハ事理ノ最モ當然ナルモノナラン

第二百七十一條 前條後見人ノ指定ハ遺囑書又ハ公正證書ヲ以テシ若クハ區裁判所判事及ヒ其書記ノ面前ニ於テスル申述ヲ以テスルヲ要ス(白第三百九十一條、佛第三百九十八條、第三百九十二條、伊第二百四十二條)

(理由) 伊國民法第二百四十二條第二項ニ於テハ後見人ノ指定ヲ遺囑書若クハ公正證書ヲ以テスルニ箇ノ場合ニ限リ白國民法ハ佛國民法ニ從テ判事ノ前面ニ於テスル申述ヲ採用シタリ今佛國及ヒ白國ノ例ニ從テ判事ノ前面ニ於テスル申述ヲ採用シタルハ文字ヲ解セサル父母ヲシテ後見人ヲ指定スルノ權ヲ行ハシムルニ便益ヲ與ヘントスルニ在リ

第二百七十二條 父若クハ母後見人ヲ指定セサリシキハ當然

父系ノ祖父ヲ以テ後見人ト爲シ父系ノ祖父之ヲ辭避シ又ハ既ニ死去セシキハ母系ノ祖父ヲ以テ後見人トス(伊第二百二十四條、白第三百九十二條、佛第四百二條、第四百四條)

(理由) 愛情ノ最モ深重ナルハ祖父ノ孫ニ於ケルニ如クハ無シ是レ佛、伊、白諸國ニ於テ尊屬親ヲ以テ法律上ノ後見人ト爲ス所以ナリトス佛國民法第四百二條ニ從ヘハ祖父ヲ欠クキハ曾祖父高祖父ヲ以テ後見人ト爲スヲ見ル今白國民法草案ニ從テ之ヲ祖父ノミニ限ル所以ノモノハ他ナシ後見ノ管理ハ單ニ愛情ノミヲ以テ爲スヲ得ス之ヲ管理スルノ能力ヲ有スルヲ要スレハナリ然ルニ普通ノ場合ニ於テハ曾祖父ノ如キハ多クハ衰老シテ其曾孫ノ教育及ヒ其財産ノ管理ヲ爲スニ堪ヘサルヘシ其老ユルニ從テ愛情ハ益深カルヘキモ其愛情ハ却テ未成年者ノ真正ノ利益ニ反スルナキヲ保シ難シ若シ曾祖父高祖父カ其年老ナルニ拘ハラス後見ノ管理ニ堪ユル者アルキハ尙ホ



次條ニ從テ親族會之ヲ撰定スルヲ得ヘシ○白國草案ニ據レハ父系母系ノ區別ヲ爲サスシテ年少ノ祖父ヲ以テ先ツ法律上ノ後見人ト爲セリ是レ蓋シ年少者カ管理ノ事務ニ適當ナル理由ニ基ケルモノナリ然レモ本邦ニ於テハ尙ホ母系ヨリハ父系ヲ尊フノ慣習ナルヲ以テ本條ノ如ク規定シタリ○佛國及ヒ伊國民法モ共ニ母系ヨリハ父系ヲ先ニセリ

第二百七十三條 未成年ナル子、父若クハ母ノ指定スル後見人モ父系若クハ母系ノ祖父ナル後見人モ有セサルキ又此後見人認免又ハ斥除セラレ若クハ死去スルキハ親族會後見人ヲ撰定ス(白第三百九十三條、佛第四百五條、伊第二百四十五條)

(理由) 本條コ豫見スル場合ニ於テハ後見人ノ指定ハ之ヲ親族會ニ任スルノ外別ニ民法ナカルヘシ佛、伊、白、皆十本條ノ如ク規定セリ○認免又ハ斥除ノ下第四節第五節ニ於テ之ヲ規定ス

第二百七十四條 身分取扱人ハ未成年者ヲ遺セシ人ノ死去シ

タル申述ヲ聽受シ又ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻ヲ爲シ他家ニ入りタルヲ知リタルキハ直ニ未成年者ノ住所ノ區裁判所判事ニ之ヲ通知セサル可カラス  
未成年者ノ親族ハ親族會ノ招集ヲ請求スルヲ得  
何人ヲ問ハス後見人ヲ設定ス可キ事實ハ之ヲ區裁判所判事ニ通告スルヲ得(白第三百九十四條、佛第四百六條、伊第二百五十條)

(理由) 後見人ニ係ル事件ハ總テ區裁判所判事ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ身分取扱人ヲシテ後見ヲ開始スヘキ事實ヲ區裁判所判事ニ通知セシムルハ必要ノ事ニ屬ス○本條第一ノ場合即チ未成年者ヲ遺セシ人ノ死去シタル場合ハ別ニ説明ヲ要セス第二ノ場合即チ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻ヲ爲シ他家ニ入りタル場合ハ聊カ之ヲ説明セン此場合ハ即チ二箇ニシテ其一ハ前婚ニ擧ケタル子ヲ有スル母カ再婚シテ他家ニ入ル場合ニシテ他ノ一

ハ前婚ノ子ヲ有スル父カ再婚シテ他家ノ入夫(特例婚姻)若クハ婿養子(婚姻ニ由ル縁組)ト爲ル場合ナリ此二箇ノ場合ニ於テハ未成年者ノ利益ノ爲メニ或ハ後見ヲ設クルノ必要アルヤ否ヤヲ決定セサルヘカラス即チ區裁判所判事ハ親族會ヲ招集シテ之ヲ決定スルノ任務ヲ有ス

第二百七十五條 親子ノ分限確定セサル未成年者アルキハ檢事ノ請求ニ依リ其地ノ地方裁判所判事後見人ヲ指定ス  
父母共ニ知レサル子ノ出生シタル申述ヲ受クル身分取扱人ハ之ヲ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ通知セサル可カラス(白第三百九十六條)

(理由) 親子ノ分限確定セサル子トハ即チ其父モ母モ知レサルモノナルカ故ニ親族ノ存スヘキ無シ既ニ親族無キ以上ハ遺囑後見人モ法律上ノ後見人モ設クルヲ得ス是レ裁判所ヲシテ後見人ヲ指定セシムル所以ナリ○此後見人指定ノ請求ハ檢事ニ委任スルノ外別ニ良法ノ存スル無シ○第二項ハ別ニ説

明ヲ要セス

第二百七十六條 父母雙方若クハ父ノミニ對シ親子ノ分限確定セル庶出未成年者ノ父死去スルキハ後見ハ遺託後見人ニ屬シ之ヲ欠クキハ父系ノ祖父ニ屬シ又之ヲ欠クキハ親族會後見人ヲ撰定ス  
母ノミニ對シ親子ノ分限確定セル庶出未成年者アリテ其母死去スルキハ後見人ノ設定ハ前項ノ例ニ從フ

(理由) 父母雙方ニ對シ親子ノ分限確定セル庶出未成年者ニ二種アリ其一ハ婚姻セサル父母ノ子ニシテ他ノ一ハ正妻ニアラサル女子(妾)ノ生ミタル子ナリ是等ノ子ノ爲メニ後見人ヲ指定スルニ母系ノ祖父其他一切ノ親族ヲ斥除シタルハ情理ニ背馳スルノ誹リヲ免レサルヘシト雖モ本邦社會ノ現狀ニ於テ已ムコトヲ得サルモノアルヲ以テ斯ノ如ク規定シタリ○父ノミニ對シテ親子ノ分限確定セル庶出未成年者ノ後見人ニ關シテハ別ニ説明ヲ要セス○本

條第二項ニ於テハ後見ハ第一項ノ例ニ從テ母ノ遺託後見人ニ屬シ之ヲ欠ク  
キハ母系ノ祖父又ハ親族會ノ指定ニ屬ス

第二百七十七條 育兒院ニ在ル未成年者ノ後見ハ特別法ヲ以  
テ之ヲ規定ス

(理由) 育兒院ノ規則ト其入院セル未成年者ノ親族ノ權利トハ抵觸セサルコ  
ト必要トス故ニ後見ノ事モ亦特別法ニ讓ラサルヲ得ス

### 第二節 副後見人

第二百七十八條 後見ニハ一名ノ副後見人ヲ附スルヲ要ス  
此副後見人ハ親族會之ヲ撰定ス(白第三百九十五條、佛第四百  
二十條、伊第二百六十條)

(理由) 副後見人ハ後見ノ事務ヲ監視スルノ職務コシテ欠クヘカラサルモノ  
トス今佛伊諸國ノ例ニ從テ副後見人ヲ置キタリ其撰定モ亦佛白ノ例ニ倣フ  
テ之ヲ親族會ニ委セリ蓋シ親族會モ亦後見人ノ任務ヲ監視スルノ權ヲ有ス

然レハナリ

第二百七十九條 遺託後見人及ヒ尊屬後見人ハ後見ノ事務ヲ  
執ル前ニ副後見人撰定ノ爲メ親族會ヲ召集セシメサル可カ  
ラス若シ後見人カ副後見人ノ撰定前其事務ニ干涉シ詐欺ノ  
所爲アリタルキハ親族會ハ後見人ノ任務ヲ解クヲ得(白第  
三百九十九條、佛第四百二十一條)

(理由) 遺託後見人及ヒ尊屬後見人モ監視者無クシテ後見ノ事務ヲ執ルヲ得  
ス故ニ監視者タル副後見人ヲ命セシムル爲メニ親族會ヲ召集スルノ義務ヲ  
有ス此指定以前ニ後見ノ事務ニ干涉スト雖モ惡意ノ所有無キ限りハ親族會  
之ヲ解任スルヲ得然レモ若シ後見執務上過失アルキハ普通ノ原則ニ從  
テ其責ニ任スヘキヤ言ヲ待タス

第二百八十條 親族會後見人ヲ撰定スルキハ副後見人ハ同時  
ニ之ヲ撰定スルヲ要ス

副後見人ハ後見人ノ屬セサル親族若クハ他人ノ中ニ就テ之ヲ撰定ス但シ庶出子ノ副後見人ニハ必ス他人ヲ撰定ス可シ未成年者ノ同父母兄弟ハ其一人ヲ後見人ト爲シ他ノ一人ヲ副後見人ト爲スモ妨ケナシ(白第四百條、佛第四百二十二條、第四百二十三條)

(理由) 本條第一項ハ別ニ説明スルノ必要ナシ○若シ副後見人ヲ後見人ト同系ノ親族中ニ於テ撰定スルキハ立法者ノ目的タル後見事務監視ノ趣意ヲ違スルヲ得ス是レ第二項ノ如ク規定セル所以ナリトス○庶出子ノ後見人ハ或ル場合ニ於テハ同系ヲ斥除シ或ル他ノ場合ニ於テハ同系ノミニ限ルヲ以テ副後見人ニハ他人ヲ撰定スルハ自然ノ結果タリ○第三項ハ佛國民法ニ據ルト雖モ其規定ハ解釋者ノ間ニ疑義ヲ存シ未タ一定ノ說アルナシ今未成年者ノ利益ノ爲メニ斷定シテ本文ノ如ク規定セリ

第二百八十一條 後見人ヲ改定スル場合ニ於テハ副後見人ノ

任務ハ罷ム然レモ其副後見人ハ再撰セララル、ヲ得(白第四百一條、佛第四百二十五條)

(理由) 後見人死去其他ノ事由ニ因テ更ニ後任ノ後見人ヲ撰定スル場合ニ於テハ副後見人ヲ再撰スヘキト否トハ親族會之ヲ決定ス蓋シ後任ノ後見人若シ前任ノ副後見人ト同系ノ親族ナルキハ前任副後見人ヲ再撰スルヲ得ス(白第四百二十二條 本章第四節及ヒ第五節ノ條例ハ之ヲ副後見人ニ適用ス(白第四百二條佛第四百二十六條)

(理由) 本條ハ理由ヲ附スルノ必要ナシ

### 第三節 親族會

第二百八十三條 親族會ハ區裁判所判事及ヒ未成年者ノ最近親族四名ヲ以テ組成ス  
區裁判所判事ヲ以テ親族會ノ會長トス(白第四百三條、佛第四百七條)

(理由) 佛國民法ニ從ヘハ親族會ハ勸解判事ノ外六名ノ親族ヲ以テ組成シ其ノ三名ハ父系ノ者ニ係リ他ノ三名ハ母系ノ者ニ係ルヲ要セリ今親族會ノ人員ヲ四名ニ減少セルハ起草者ノ反對說ヲ取リタルニ拘ラス多キヲ要セスト云ヘル議場ノ決定ニ依レリ○父母兩系ヨリ各二名ヲ取ルノ制ヲ用サスシテ最近ノ親族四名ト爲シタル所以ノモノハ最近ノ親族ハ能ク未成年者ノ利益ヲ圖ルヘシト想定セルヲ以テナリ若シ佛國ノ制ニ從フキハ一系ニ於テ殆ント他人ニ均シキ最遠親族ヲ取ルノ必要ヲ生スヘシ是レ決シテ未成年者ノ利益ニアラサルナリ○區裁判所判事ヲ以テ親族會ノ會長ト爲スハ佛、伊、白、諸國ノ例ニ倣ヘルモノニシテ之ヲ除クノ外他ニ此職ニ充ツル適當ノ人ヲ見サレハナリ

第二百八十四條 未成年者ノ尊屬親、同父母兄弟、伯叔父ハ其順序ヲ逐フテ權利上親族會員ト爲ル  
若シ四名以上ノ尊屬親ヲ存スルキハ最近親族ヲ以テシ兄弟

ノ間若クハ伯叔父ノ間ニ於テハ年長者ヲ以テス  
此等ノ親族ヲ欠クキハ區裁判所判事ハ未成年者ノ父系若クハ母系ノ親族ノ中ニ就テ未成年者ト親等ノ關係及ヒ其利益ヲ酌量シ親族會員ヲ撰定ス  
親族ヲ欠クキハ區裁判所判事ハ未成年者ノ父母ト親懇ナルヲ以テ知ラレタル人ヲ撰ンテ會員ト爲ス(白第四百四條、佛第四百七條、伊第二百五十二條)  
(理由) 權利上ノ親族會員ハ未成年者ニ愛情ノ最モ深キ者ヲ以テ之ニ充テリ且ツ其會員ト爲ル順序ノ如キモ亦其愛情ノ輕重ニ從テ之ヲ定メテ兄弟伯叔父ノ間ニ於テ年長者ヲ取ル所以ノモノハ年長者ハ未成年者ノ利益ヲ圖ルニ適當ナルヘキヲ以テナリ○尊屬親、同父母兄弟、伯叔父以外ノ親族ハ之ヲ權利上親族會員ト爲サスシテ其撰定ノ權ヲ區裁判所判事ニ與ヘタリ只未成年者トノ親等ノ關係及ヒ未成年者ノ利益ヲ酌量シテ會員ヲ撰定シ彼ノ佛國民法ニ定ム

ル如ク半部チ一系ニ取り他ノ半部チ他ノ一系ニ取ルチ要セス蓋シ茲ニ於テモ亦佛國民法ニ倣フノ必要チ存セサルヲ以テナリ○末項ハ別ニ説明ヲ要セス但シ第三項及ヒ末項ノ場合ニ於テハ區裁判所判事ハ全權チ有スルモノトス

第二百八十五條 後見人、副後見人及ヒ臨時保管人ハ管理事務ニ係ル説明ヲ與フル爲メ親族會ノ會議席ニ加列ス然レモ會議ノ可否決ニ與ルヲ得ス

滿十六年ニ達セル未成年者モ亦其席ニ列スルヲ得(白第四百五條、伊第二百五十一條)

(理由) 後見人、副後見人及ヒ臨時保管人ハ親族會員ニアラスト雖モ各自其執ル所ノ事務ハ常ニ親族會ノ會議ト關係チ有スルヲ以テ其會議ニ列スルノ權チ有セサルヘカラス然レモ是等ノ人ハ會員ニアラサルヲ以テ可否決ニ與カ  
ルヲ得サルモノトス○未成年者ハ漸チ逐テ自己ノ財産管理ヲ習練スルチ要ス是レ滿十六年ニ達セル未成年者チテ會議ニ列セシムル所以ナリトス

然レモ只習練ノ爲メ議席ニ列スルモノナルヲ以テ議決ニ與カルチ得サルヤ言ヲ待タス

第二百八十六條 若シ親族會員タル人隔遠ノ地ニ住スルノ原由其他正當ナル事由ノ爲メ會員タルヲ得サルモハ區裁判所判事ハ之ヲ認免シ第二百八十四條ノ規則ニ從ヒ其替代者ヲ撰定ス

後見ノ繼續中ニ會員ノ任務罷ムキ其替代者ヲ撰定スルモ第二百八十四條ノ規則ニ從フ(白第四百六條、伊第二百五十四條)

(理由) 區裁判所判事ノ親族會員ヲ撰定スルヤ第二百八十四條ニ從ヒ親等ノ關係等ハ之ヲ酌量スト雖モ土地ノ距離ノ如キハ之ヲ酌量スルチ要セス然レモ隔遠ノ地ニ住スル人ノ如キハ假令未成年者ニ對スル愛情ノ深キ者ト雖モ實際ニ未成年者ニ利益スルチ得サルヲ有ル可シ故ニ區裁判所判事ニ與フルニ此會員ヲ認免シ其替代者ヲ命スルノ權ヲ以テス○其他正當ナル理由トハ

多病ニシテ事務ヲ執ルニ堪ヘサル者等ヲ云フ○第二項ハ第一項ノ結果ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

第二百八十七條

親族會員タル者ハ親族ナルト朋友ナルトヲ問ハス躬ヲ會議ニ臨席スルヲ要ス

正當ノ事由無クシテ會議ニ列セサル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス此科料ハ區裁判所判事之ヲ宣告ス

毎ニ欠席スル會員アルキハ區裁判所判事ハ之ヲ罷免シ地方裁判所ノ檢事ニ其旨ヲ通知シ裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルヲ得

區裁判所判事其替代者ヲ撰定スルハ第二百八十四條ニ從フ(白第四百七條、佛第四百十二條第四百十三條)

(理由) 佛國民法第四百十二條ニ於テハ會員カ躬ヲ會議ニ臨席セスシテ特定委任者ヲシテ己レヲ代表セシムルヲ許シタリ然レモ此會員ハ不能力者ノ

利益ヲ保護スル親族ノ代表者タルヲ以テ普通ノ原則ニ從ヒ代理者ヲ以テ會議ニ臨席スルヲ許サ、ルヲ以テ適當トス且ツ會員ハ未成年者ニ愛情ヲ有スルヲ以テ撰定セラル、モノニアラスヤ愛情ハ決シテ代理ヲ以テ之ヲ表スルヲ得サルヤ言ヲ待クス故ニ白國民法ニ從ヒ本條ノ如ク規定セリ○正當ノ事由無クシテ會議ニ列セサル者ニ對シテハ相當ノ制裁ナカルヘカラス依テ本條ノ科料ヲ設ケタリ○前項ノ科料ニ拘ラス毎ニ欠席スル會員ニ對シテハ更ニ他ノ制裁ナカルヘカラス故ニ本條ノ罰金ヲ設ケタリ

第二百八十八條

親子ノ分限確定セル庶出未成年者ノ親族會

ハ前數條ノ規則ニ從ヒ之ヲ組成ス但シ父子ノ分限確定セル場合ニ於テハ父ノ姻族、母及ヒ母系ノ血族會ハ會員タルヲ得ス

親子ノ分限確定セサル未成年者アルキハ區裁判所判事ハ管内ニ於テ市町村會議員タル資格ヲ有スル者ノ中ニ就テ親族

會員ヲ撰定ス(白第四百八條、伊第二百六十一條)

(理由) 親子ノ分限確定セル場合ト雖モ父ニ對シテ庶出子タル分限確定セル場合ナルトハ父ノ姻族ハ即チ庶出子ノ繼母族タルヲ以テ之ヲ除斥シテ會員ヲラシメス又母及ヒ母系ノ血族ハ第二百七十六條ノ例ニ從テ之ヲ親族會員ヲラシメス○親子ノ分限確定セサル未成年者ハ其親族ヲ有セサルヲ以テ本條ノ如ク規定シテ而シテ親族ニアラサル者ノ集會ニ親族會ノ名義ヲ與フルハ妥當ナラサルカ如シト雖モ是等ノ人ヲ以テ親族ニ充ツルノ意ニ因テ親族會ノ名義ヲ保存シテ

第二百八十九條 未成年ナル養子ノ親族會員ニハ實家ノ親族ヲモ撰定スルヲ得

(理由) 養子ハ第二百二十八條ニ從ヒ實家ヲ去リ養家ニ入ルヲ以テ其親族會ハ本節ニ從ヒ養家ノ親族ヲ以テ之ヲ組織スヘキヤ論ヲ待タズ然レモ養家ノ親族ニ權利上ノ會員ヲ欠クトハ區裁判所判事ハ實家ノ親族ヲ會員ニ撰定ス

ルヲ得ルモノト爲セリ蓋シ法律上養子ハ實家ヲ去ルト雖モ愛情上天然ノ關係ヲ斷ツモノニ非サレハ實家ノ親族ヲ斥除セサルハ至當ノ事トス

第二百九十條 親族會ハ後見開始ノ時ニ於テ未成年者ノ住所ノ區裁判所判事前數條ノ規則ニ從ヒ之ヲ組成ス

此親族會ハ會員ノ死去認免若クハ罷黜ニ因リ替代スルノ外常存ス

後見人若クハ會員ノ請求ニ依リ裁判所カ親族會ノ在所ヲ移サ、ル限リハ未成年者ノ原住所ヲ以テ其在所トス(白第四百九條、伊第二百四十九條)

(理由) 佛國民法ニ從ヘハ親族會ハ後見ヲ開始スル邑内ノ人ヲ以テ之ヲ組織シ後見人及ヒ未成年者其住所ヲ變更スルヤ亦此組織ヲ變更セサルヘカラス是レ最モ困難ナルヲナリトス今伊白ノ民法ニ從ヒ後見開始ノ時ニ組織スル親族會ハ會員ノ死去等ニ因テ變更スルノ外ハ常存セシム○未成年者ノ住所



ト其後見人ノ住所ト別市町若クハ別村ニ存スルコアルヘシ此場合ニ於テハ  
未成年者ノ住所即チ其生存セル父若クハ母ノ死去セル所ヲ以テ親族會ノ在  
所ト爲ス可キヤ又ハ後見人ノ住所ヲ以テ親族會ノ在所ト爲スヘキヤヲ決定  
セサルヘカラス即チ本條ニ於テ未成年者ノ原住所ヲ以テ親族會ノ在所ト爲  
シ後見人若クハ會員ノ請求アルヤ裁判所ヲシテ之ヲ決定セシム

第二百九十一條 區裁判所判事ハ職權ヲ以テ親族會ヲ招集シ  
又ハ後見人、副後見人、保管人、親族會員、關係人若クハ檢事ノ請  
求ニ依リ之ヲ招集ス

招集ハ豫メ會議ノ目的ヲ知ラシムルコトヲ要ス(白第四百十條、  
佛第四百六條、伊第二百五十七條)

(理由) 區裁判所判事ハ親族會ノ會長ナルニ因リ其職權ヲ以テ親族會ヲ招集  
スルコトヲ得ヘキノミナラス利益ノ關係人ノ請求アルヤ之ヲ招集セサルヘカ  
ラス檢事ハ不能力者ノ保護者ナルヲ以テ亦其招集ヲ請求スルヲ得ヘシ今伊

白民法ノ例ニ倣フテ本條ノ如ク規定セリ○會議ノ目的ハ會議以前ニ之ヲ知  
ラシムルコトヲ要ス若シ之ヲ知ラサルキハ之ニ關スル取調ヲ爲サスヤ會議  
ニ列スルヲ以テ不充分ナル討論ヲ爲スニ至ラン故ニ白民法ニ從テ本條第二  
項ヲ設ケタリ

第二百九十二條 親族會集會ノ期日ハ區裁判所判事之ヲ定メ  
若シ會員盡ク一市町村内ニ住シ又ハ三里以内ニ住スルキハ  
集會ノ當日ト集會通達ノ日トニ少クトモ三日ノ期間ヲ存ス  
ルコトヲ要ス若シ此里程外ニ住スル會員アルキハ八里毎ニ一  
日ヲ加フ可シ八里ニ滿タサルモノト雖モ三里以上ナルキ亦  
同シ(佛第四百十一條、白第四百十一條)

(理由) 集會ノ當日ト集會通達ノ日トニ三日ノ期間ヲ存スルハ會員ヲシテ此  
期間ニ會議ノ目的ニ關シテ調査ヲ爲サシムル爲メナリトス○八里毎ニ一日  
ヲ加フ云々ノ規定ハ治罪法第十九條ノ例ニ倣フテ之ヲ定メタリ

第二百九十三條 參集セサル親族會員ヲ待ツノ必要アルキ又ハ其替代者ヲ指定スルヲ要スルキハ區裁判所判事ハ集會ヲ延期スルヲ得  
未成年者ノ利益カ延會ヲ要スルキ亦同シ(白第四百十二條、佛第四百十四條)

(理由) 別ニ理由ヲ附スルノ必要ナシ

第二百九十四條 親族會ノ集會ハ區裁判所判事ノ宅ニ於テ之ヲ開ク但シ區裁判所判事他ノ場所ヲ指定スルハ此限ニ在ラス(白第四百十二條、佛第四百十五條)

(理由) 親族會ハ會長ノ宅ニ於テ開クハ當然ノヲナルヘシ然レモ會長カ親族會ノ便益ノ爲メ若クハ自己ノ都合ニ依リ他ノ場所ヲ指定スルキハ之ヲ許スヘキナリ

第二百九十五條 親族會ノ會議ヲ爲スニハ總テノ會員ヲ招集

シ區裁判所判事ノ外少クトモ二名以上ノ會員ノ臨席ヲ要ス會議ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ同數ナルキハ區裁判所判事之ヲ決ス(白第四百十四條、佛第四百十五條、第四百十六條、伊第二百五十八條)

(理由) 總テノ會員ヲ招集スルハ會議ニ係ル必要ノ條件トス二名即チ半數ノ臨席ヲ要スルハ議事ノ通則ノ適用タリ即チ半數ノ外ニ會長ヲ加ヘテ會員過半數ノ臨席トナルナリ又過半數ヲ以テ之ヲ決スルハ議事ノ通則タリ○會長ニ議決ノ權ヲ與フルモ亦タ普通ノ事ニシテ佛白等ノ民法共ニ同様ノ規定ヲ爲セリ

第二百九十六條 親族會員ハ自己ノ利益ノ關係スル會議ニ列スルヲ得ス(伊第二百五十九條第一項、白第四百十五條第一項)

(理由) 本條モ亦議會ノ通則ノ適用タルニ過キス

第二百九十七條 親族會ノ決議全會一致セサルキハ各會員ノ意見ハ其理由ト共ニ會議録ニ之ヲ登載ス可シ(佛第四百十六條、伊第二百六十條、佛訴第八百八十三條)

(理由) 親族會ノ決議ハ全會一致ナラサルキハ決議ニ反對スル所ノ會員ハ此決議ヲ訟撃スルヲ得此場合ニ於テ裁判所ハ各會員ノ意見及ヒ其理由ヲ知ルヲ要ス故ニ本條ノ如ク規定シ各會員ノ意見及ヒ其理由ヲ會議録ニ登載セシム

第二百九十八條 後見人、副後見人、保管人、檢事及ヒ決議ニ同意セサル親族會員區裁判所判事ハ親族會ノ爲シタル決議ノ本案ヲ訟撃スルヲ得(白第四百十七條、佛訴第八百八十三條第二項)

(理由) 佛國訴訟法第八百八十三條第二項ニ於テハ勸解判事ヲ掲ケサルニ依リ勸解判事ハ訟撃ノ權ヲ有セサルヤノ疑ナキヲ得ス勸解判事ハ此權ヲ有セ

スト爲ス論者ハ曰ク勸解判ノ親族會事ニ於ケルヤ務メテ會議上ノ刺激ヲ避ケ協和ヲ圖ルニ在リ故ニ多數ノ決定ニ對シ之ヲ訟撃スルヲ得スト余思フニ勸解判事ノ會議ニ列スルヤ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メニ其意見ヲ主張セサルヲ得ス其意見ニシテ行ハレサルキハ之ヲ訟撃スルハ其職務ニ於テ爲サ、ルヲ得サルモノトス反對論者ハ又曰ク若シ勸解判事ニ訟撃ノ權ヲ與フルキハ勸解判事モ亦訟撃ノ訟權ヲ受クルニ至ルヘシ之レ職務上許スヘキコアラスト余思フニ之レ決シテ法官ノ職務ニ牴觸スルモノニアラス何トナレハ親族會ニ於テ其決定スル所ノモノハ勸解判事タル者ノ職務上ニ於テ決定セルモノニアラサレハナリ○檢事ニ訟撃ノ權ヲ與フルニ付テモ亦疑義ノ存スルアリ然レモ檢事ハ未成年者ノ利益ヲ保護スル點ニ於テ此權利ヲ有セサルヘカラス且ツ親族會員ニアラサル親族ハ親族會ノ決議ヲ訟撃セントスルキハ之ヲ檢事ニ申告シ檢事ヲシテ訟撃ヲ爲サシムルノ便益ノ存スルアリ此理由ノ存スルニ因リ白民法草案ノ例ニ倣ヒ區裁判所判事及ヒ檢事ニ訟撃

ノ權ヲ與ヘタリ○決議ノ本案トハ決議ノ法式ニ反對セテ之ヲ云ヘルナリ即チ後見人ヲ指名シ斥除スルノ決議未成年者ノ教育法ヲ規定スル等ノ決議是レナリ佛國訴訟法ニ於テハ此點ニ付疑義ヲ存スルヲ以テ白國民法ニ從ヒ本條ノ如ク規定セリ

第二百九十九條 親族會ノ決議ハ左ノ場合ニ於テハ不成立ト

ス

一 區裁判所判事欠席シ若クハ關係セスシテ會議ヲ爲シタルキ

二 總會員ヲ招集セザリシキ

三 會議ノ際區裁判所判事ノ外會員二名以上ナラザリシキ

四 會議カ第二百九十五條ニ定ムル多數ニ依リ決セラレザリシキ(白第四百十八條)

(理由) 本條ニ掲クル四箇ノ場合ニ於テハ決議ハ總テ不成立トス不成立ナル

決議ハ何等ノ効力ヲモ生スヘカラス故ニ何人ト雖モ常ニ其不成立ヲ申立ルヲ得

第三百條 前條ノ場合ヲ除キ他ノ違法ノ所爲アリテ未成年者ノ利益ヲ害スルキハ其決議ヲ無効ト爲スヲ得(白第四百十九條)

(理由) 親族會ノ會議ニ法式ニ違背スルノ所爲アリト雖モ未成年者ノ利益ヲ害セサル限リハ之ヲ無効ト爲スノ必要ナシ本條ハ佛國ノ斷例及ヒ白民法ノ例ニ倣フテ之ヲ規定セリ

第三百一條 第三者ハ自己ノ權利ヲ害スル決議ヲ訟撃スルヲ得

然レモ法式違背ニ關スル第三者ノ訟撃ハ第二百九十九條ニ違フキニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス  
未成年者ノ利益ノ爲メニ設ケタル其他ノ法式ニ關シテハ第

三者ハ其利益カ未成年者ノ利益ト混同スルキニ非サレハ其法式ノ違背ヲ申立ルヲ得ス(白第四百二十條)

(理由) 本條第一項ハ普通ノ原則ニ基クモノタルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス○第二項ハ即チ不成立ノ決議ニ關スルモノニシテ此場合ニ於テハ何人ト雖モ之ヲ訟撃スルヲ得是亦普通ノ原則トス○未成年者ノ利益ノ爲メニ設ケタル法式ニ關シテハ未成年者ニアラサレハ其行爲ノ無効ヲ請求スルヲ得サレヲ以テ通則トス然レモ第三者ノ利益ト未成年者ノ利益ト混同スルキハ第三者ヲシテ法式ノ違背ヲ申立シムルヲ以テ便益トス今一例ヲ舉ケテ之ヲ示サシ後見人カ不動産訴訟權ヲ行ハントスルキハ親族會ノ允許裁判所ノ認可ヲ受クルヲ要ス然ルニ此允許及ヒ認可ヲ受ケスシテ之ヲ行ヒタリトセンニ此場合ニ於テ其對手人(第三者)ハ法式ノ違背ヲ申立ルヲ得ヘシ蓋シ若シ對手人之ヲ申立スシテ對手人ノ勝訴ト爲リタルキト雖モ未成年者ハ後見人カ訴訟權ヲ行フノ允許及ヒ認可ヲ得サリシ理由ニ基キテ裁判ノ無効ヲ請求スルヲ得

ヘシ是ヲ以テ對手人ハ豫メ違法ノ申立ヲ爲シテ未成年者ノ排訴權ヲ免カ  
ル、ノ利益ヲ有ス而シテ此利益ハ未成年者ノ利益ト混同セリ何トナレハ未  
成年者モ亦對手人カ最初ニ違法ノ申立ヲ爲セシニ於テハ二回ノ訴訟ヲ爲ス  
ヲ要セサルヘキヲ以テナリ

第三百二條 如何ナル場合ト雖モ親族會ヲ招集スル必要アル

キハ總テ本節ノ規則ニ從フ

(理由) 本條ハ第二百五十三條第二項ノ場合等ヲ云フナリ

#### 第四節 後見ノ認免

第三百三條 左ニ掲クル者ハ後見人タルヲ認免ス

- 一 現役ニ服スル軍人、軍屬
- 二 後見ヲ設定スル府縣ノ外ニ於テ官ノ職務ニ従事スル人
- 三 公務ヲ帶ヒテ外國ニ在ル人(白第四百二十一條、佛第四百二十七條、第四百十八條、伊第二百七十二條)

(理由) 佛國千八百四年五月十八日ノ法令及ヒ伊國民法第二百七十二條ニ從  
ハ皇族及ヒ最高等官吏ニ後見ノ任務ヲ認免セリ本邦ニ於テ皇族ニ關シテ  
ハ皇族令ヲ以テ特別ニ定メラルヘキヲ以テ茲ニ之ヲ削除シタリ○最高等官  
吏ノ如キハ假令其公務ノ繁劇ナルモ後見人ノ任務ヲ兼ルヲ得スト爲ス  
ヘキニアラス且ツ後見人ノ任務ハ國民ノ義務タルヲ以テ特例ノ多カラサ  
ルヲ要ス故ニ是等ノ官吏ニ對シ後見人ノ任務ヲ認免セス○今茲ニ掲クル三  
種ノ人ハ實際ニ於テ後見人タルヲ得サルヲ以テ之ヲ認免スヘキモノト爲セ  
リ

第三百四條 前條ニ掲クル人其職務ヲ有スルニ拘ラス後見人  
承諾セルキハ此原由ニ依リ更ニ認免セラル、ト無シ  
其職務ノ終ニ當リ現任後見人其解任ヲ請求シ又ハ後見ノ認  
免ヲ得タル人就任ヲ請求スルキハ親族會ハ此請求ヲ認許ス  
ルヲ得(白第四百二十二條、佛第四百三十條、第四百三十一條)

(理由) 後見ノ任務ハ其人ノ變更スルナキヲ要スルヲ以テ認免セラレヘク  
テ之ヲ請求セス後見人承諾スルキハ此人ハ果シテ後見人ノ事務ヲ執ルニ適  
合スル者ナルヲ以テ又之ヲ認免スルノ理由ナシ○職務ヲ基トスル所ノ認免  
ハ即チ定期ノ認免ナルヲ以テ職務ノ終リニ當リ親族會ヲシテ解任就任ヲ允  
許セシムルハ當然ノトス

第三百五條 未成年者ノ親族ニ非サル者ハ後見人ヲ設定スル地  
方裁判所管内ニシテ五里以内ニ後見ニ適スル親族アル  
キハ後見人ヲ承諾セサルヲ得  
若シ親族タル者後見人ヲ認免セラレタル原由罷ムキハ親族ニ  
非サル後見人ハ其後見ノ解任ヲ請求スルヲ得(白第四百二  
十三條、佛第四百三十二條)

(理由) 後見ノ任務ハ國民ノ義務ナリト雖モ其先ツ之ヲ擔任スヘキ者ハ親族  
タルヘキヤ言ヲ待テ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリトス

第三百六條 後見人ハ其認免若クハ解任ヲ得ル爲メニ法律ニ揭ケサル原由ヲモ申立ルヲ得(白第四百二十四條、佛第四百三十三條以下)

(理由) 佛民法第四百三十三條乃至第四百三十七條ニ於テ年齡痼疾等諸種ノ法律上ノ認免ヲ掲記ス此認免ハ法律上ノモノナルヲ以テ制限セルモノト解釋スヘキカ如シ然レモ尙ホ疑義ノ存スルアリ故ニ立法上ニ於テハ之ヲ法律上ノ原由ト爲サシテ寧ロ之ヲ事實ノ原由ト爲シテ申立テシムルヲ可トス

○法律上ノ認免ト事實上ノ認免ノ異ナル所ノモノハ法律上ノ認免ハ其事實ノ明瞭ナルヤ親族會ハ必ス之ヲ聽許セサルヘカラス事實上ノ認免ハ之ヲ聽許スルト否トハ親族會ニ屬ス

第三百七條 認免及ヒ解任ハ總テ親族會ノ會議ニ付ス  
認免及ヒ解任ノ請求ヲ拒却セラレタル人ハ地方裁判所ニ抗告スルヲ得但シ其裁判宣告マテハ後見ノ任務ヲ執行セサ

ル可カラス(白第四百二十五條、佛第四百三十八條、伊第二百七十五條)

(理由) 裁判所ニ抗告スルハ審ニ法律上ノ認免ニ關シテノミナラス事實上ノ認免ニ付テモ亦之ヲ爲スヲ得事實上ノ認免ハ親族會ニ全權ヲ與フヘキカ如シト雖モ親族會ハ事實ニ於ケルモ亦法律ニ於ケルカ如ク錯誤ナキヲ保シ難キニ依リ尙ホ抗告ヲ許スヲ以テ當然ノコトス

第三百八條 後見人解任ヲ請求スルキハ親族會ハ何時ニテモ未成年者ノ利益ノ爲メニ之ヲ許スヲ得若シ全會一致ニテ之ヲ決定セサリシキハ裁判所ノ認可ニ付スルヲ要ス(白第四百二十六條、伊第二百七十六條)

(理由) 後見ヲ承諾セル人ハ其管理中ニ認免スヘキ事由生スルキハ親族會ハ未成年者ノ利益ニ於テ之ヲ解任スルヲ得ヘシ佛民法ハ第四百三十一條ニ於テ一箇ノ場合ヲ定メタルノミ今伊白民法ニ從テ其欠缺ヲ補フ但シ此場

合ニ於テハ之ヲ鄭重ニスヘキヲ以テ全會一致ノ決定ヲ要シ若シ一致セサル  
キハ裁判所ノ認可ヲ要スルモノトナシタリ

第五節 後見人及ヒ親族會員ノ欠格、斥除及ヒ罷黜

第三百九條 左ニ掲クル者ハ後見人タルヲ得ス又親族會員

タルヲ得ス

- 一 未成年者
  - 二 民事上禁治産者及ヒ准禁治産者
  - 三 婦女但シ未成年者ノ尊屬親ヲ除ク
  - 四 未成年者ノ身分若クハ財産ノ主要ナル部分ニ關シテ訴訟ヲ爲ス人及ヒ其尊屬親、卑屬親、配偶者
- 若シ此等ノ欠格者カ後見事務ヲ管理スルキハ親族會ノ決議ニ依リ之ヲ拋棄セシム(白第四百二十七條、佛第四百四十二條、伊第二百六十八條)

(理由) 第一第二ニ掲クル者ハ身躬ヲ財産ノ管理ヲ爲ス可能ハサル者ナルヲ以テ欠格者トス○佛伊白ノ諸國皆ナ婦女ヲ以テ欠格者ト爲シ伊白ノ民法ニ從ヘハ尊屬親及ヒ未タ結婚セサル同父母姉妹ニ限リ例外トシテ後見人タルヲ許セリ然レモ本邦ノ慣習ニ於テ普通ニ婦女ハ財産ノ管理ニ適當ナラス故ニ佛民法ニ倣ヒ尊屬親ノミニ限リ例外ヲ設ケタリ蓋シ父母共ニ存セサル未成年者ノ後見ニ尊屬親ヲ斥除スルハ苛酷ニ失スルヲ以テナリ○第四ニ掲クル所ノ各人ハ未成年者ノ利益ニ反對スルノ嫌アル人ナルヲ以テ之ヲ欠格者ト爲セリ

第三百十條 左項ニ掲クル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ斥除セラ

- ル可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ罷黜ス
- 一 太甚シキ不行跡ナル者
- 二 後見人ニシテ其管理ニ不能力若クハ不正實ヲ彰示スル者



三 裁判所ニ於テ子ノ財産ノ管理ヲ止メラレタル者  
 四 不能力不行跡若クハ不正實ノ理由ニ依リ後見ヲ解任、斥  
 除、罷黜セラレ若クハ親權ヲ喪失シタル者  
 五 任務ヲ免セラレタル裁判上ノ保管人  
 六 剝奪公權、停止公權及ヒ刑事上禁治産ノ宣告ヲ受ケタル  
 者  
 七 復權ヲ得サル被産者(白第四百二十八條、佛第四百四十三  
 條第四百四十四條第四百四十五條、伊第二百六十九條)  
 (理由) 欠格ノ爲メニ後見人又ハ親族會員タルヲ得サルモ斥除若クハ罷黜ニ  
 因テ後見人又ハ親族會員タルヲ得サルモ其結果ニ至テハ異ナルコトアルナシ  
 只其異ナル所ハ其理由ニ在リ即チ本條ニ掲ケル所ノ者ハ總テ德義上若クハ  
 能力上社會ニ信用ヲ失ヒ爲メニ擯斥セラル、人ニ係ル反之前條ノ不合格者  
 ハ之ニ異ニシテ是等ノ事情アルコトナシ○本條第三ハ本草案第二百五十八條

ノ場合ナリトス○第四ハ本草案第二百五十四條以下ノ場合ナリトス○第五  
 ハ草案第四百十三條ノ管理人等ヲ云フ  
 第三百十一條 後見人ヲ斥除若クハ罷黜ス可キハ副後見人  
 ノ請求ニ依リ又ハ區裁判所判事ノ職權ヲ以テ招集スル親族  
 會ニ於テ之ヲ爲ス  
 未成年者ノ親族ニシテ從兄弟以內ノ親等ノ者此招集ヲ請求  
 スルハ區裁判所判事ハ之ヲ爲サ、ル可カラス(白第四百二  
 十九條、佛第四百四十六條、伊第二百七十一條)  
 (理由) 副後見人ハ後見人ノ任務ヲ監視スルノ職ナルヲ以テ其請求アルヤ親  
 族會ヲ招集セサルヘカラス區裁判所判事ハ親族會ノ會長ナルヲ以テ其職權  
 ヲ以テ招集スルコトヲ得ルハ當然ノコトス○未成年者ノ親族ニモ亦此招集ヲ  
 請求スルノ權ヲ與フヘシト雖モ之ヲ總テノ親族ニ與フルハ權利ヲ濫用ス  
 ルノ恐レアルヲ以テ佛白民法ノ例ニ倣ヒ從兄弟以內ノ親等ニ限レリ

第三百十二條 後見人ノ斥除若クハ罷黜ニ關スル親族會ノ決議ハ其理由ヲ附ス可シ但シ此決議ハ後見人ノ陳述ヲ聽キ又其召喚ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(白第四百三十條、佛第四百四十七條、伊第二百七十一條)

(理由) 本條ノ場合ニ於テハ後見人ハ被告者ノ地位ニ在ルヲ以テ躬ヲ辯護スルノ權ヲ有ス故ニ親族會ハ其決議ノ以前ニ後見人ヲ召喚シ其陳述ヲ聽クヲ要ス然レモ若シ後見人召喚ニ應セサルハ後見人其辯護ノ權ヲ拋棄セタリト看做スヘキヲ以テ直チニ決議ヲ爲スヲ得ヘシ

第三百十三條 若シ後見人會議ノ決議ヲ承認スルハ之ヲ會議録ニ載セ後任ノ後見人直チニ其任務ニ從事ス若シ後見人決議ヲ承認セサルハ副後見人ハ地方裁判所ニ其決議ノ認可ヲ請求シ裁判所ハ後見人ノ陳述ヲ聽キ裁判ス此裁判ニ對シテハ抗告スルヲ得

斥除若クハ罷黜セラレタル後見人ハ其任務ヲ保有スル爲メ副後見人ニ對シテ起訴スルヲ得  
第三百十一條 第二項ニ從ヒ親族會ノ招集ヲ請求セル親族ハ其訴訟ニ參加スルヲ得  
此訴訟ハ要急事件トシテ審理シ裁判スルヲ要ス(白第四百三十一條、佛第四百三十二條、佛第四百四十九條)

(理由) 裁判所ノ認可後見人ノ抗告及ヒ其副後見人ニ對スル起訴總テ後見人ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ之ヲ設ケタリ○此抗告ハ副後見人モ亦之ヲ爲スヲ得ヘキヤ言ヲ待タス

第六節 後見人ノ管理

第三百十四條 遺託後見人及ヒ尊屬後見人後見ノ開始ヲ知ルキハ直チニ其任務ニ就クヲ要ス若シ其場所ニ在ラサルハ何人ニテモ此開始ヲ區裁判所判事ニ通知シ區裁判所判事

之ヲ後見人ニ通知ス

親族會ニ於テ後見人ヲ撰定シ其後見人列席スルキハ直ニ任務ニ就キ若シ列席セサルキハ區裁判所判事ノ之ヲ通知セラル當日ヨリ其任務ニ就クヲ要ス(白第四百三十三條、佛第四百十八條)

(理由) 尊屬後見人即チ法律上ノ後見人ハ後見開始ノ場所ニ在ルヤ直ニ其任務ニ就クヲ要ス然レモ其管理ヲ爲ス以前ニ先ツ親族會ヲ招集シ之ヲシテ副後見人ヲ指名シ及ヒ未成年者ノ法律上抵當權ヲ特定セシメサルヘカラス(抵當權ニ付テハボアソナード氏草案ヲ參看スヘシ)○若シ尊屬後見人其場所ニ在ラサルキハ公ケニ後見開始ノヲ之ニ通知スル官吏ナカルヘカラス此官吏ハ即チ區裁判所判事ナリトス其區裁判所判事ニ通知スル者ハ第二百七十四條ニ從ヒ父母ノ中生存者タル一人ノ死去證書ヲ作ル身分取扱人若クハ未成年者ノ親族タルヘシ○若シ遺託後見人カ第二百七十一條ニ從ヒ區裁

判所判事ノ前ニ於テ指名セラレタルキハ此區裁判所判事之ヲ後見人ニ通知ス○若シ同條ニ從ヒ後見人カ公正證書ヲ以テ指名セラレタルキハ公證人ノ之區裁判所判事ニ通知ス○若シ又同條ニ從ヒ後見人カ遺囑書ヲ以テ指名セラレタルキハ區裁判所判事ハ遺囑書ヲ開ク迄ハ其指名スル人ヲ知ルヲ得サルヘシ故ニ遺囑書ヲ開ク迄ニ親族會ヲ招集シ依リニ後見管理ノ方法ヲ定メサルヘカラス總テ是等ノ細目ハ法律ニ依テ之ヲ定メヨリハ寧ロ行政規則ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス○第二項ハ別ニ説明ヲ要セス

第三百十五條 後見人ハ懇切ニ未成年者ヲ待遇シ未成年者ハ後見人ニ對シ恭順ナラサル可カラス(白第四百三十四條、伊第二百八十條)

(理由) 本條ハ後見人ト未成年者トノ間ニ於ケル道德上ノ義務ヲ示シタルニ過キス

第三百十六條 後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス若

シ在來ノ住居若クハ教育方法ヲ變更セントスルキハ親族會ニ協議セサル可カラス協議諸ハサルキハ地方裁判所ニ申立テ裁判所ハ未成年者滿十二年以上ナルキハ其意見ヲ聽キ之ヲ裁判ス

副後見人及ヒ親族會員ハ未成年者ノ住居若クハ教育ニ付意見アルキハ何時ニテモ親族會ノ招集ヲ請求スルヲ得(白第四百三十四條、伊第二百七十八條)

(理由) 後見人ハ父母ニ代リ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス然レモ法律ハ後見人ニ對シテ父母ト一般ナル信用ヲ置クヲ得ス是ヲ以テ若シ其父母カ教育方法ヲ定メタルキハ後見人之ヲ繼續セサルヘカラス然レモ父母モ亦誤見ナキ能ハス故ニ後見人ニ於テ其在來ノ教育未成年者ニ適セスト爲スルハ之ヲ變更スルハ其義務ナリ然レモ此場合ニ於テハ之ヲ親族會ニ謀ラサルヘカラス若シ後見人ト親族會ノ間ニ議ノ合ハサル所アルキハ普通法ニ從ヒ裁判

所ヲシテ之ヲ決定セシム○住居ニ關シテモ亦同一ノ方法ニ依ル○凡ソ教育ハ其人ノ嗜好ニ從テ之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ未成年者ノ意見ヲ聽クヲ必要トス然レモ幼稚ナル者ニ向テ其意見ヲ聽クカ如キハ無益ニ屬スルヲ以テ滿十二年以上ノ年齢ニ達スル者ト爲セリ之レ白民法ノ規定ニ倣フタルモノナリ○第二項ハ別ニ説明ヲ要セス

第三百十七條 後見人ハ第二百四十三條ニ從ヒ未成年者ヲ懲戒スル權ヲ有ス

未成年者ノ行狀ニ付重大ナル不滿アルキハ後見人ハ親族會ニ之ヲ通知シ其允許ヲ得タル上第二百四十四條ニ從ヒ未成年者ヲ處分スルヲ得

若シ後見人其權ヲ妄用シ若クハ其義務ヲ怠ルキハ未成年者其他總テノ親族ハ親族會ニ之ヲ申告スルヲ得(白第四百三十五條、佛第四百六十八條、伊第二百七十九條、第二百八十條)

(理由) 後見人ハ未成年者ヲ監護スルノ責アルヲ以テ假令親族ヲサレモ懲戒ノ權ヲ有セサルヘカラス然レモ第二百四十四條ノ處分ノ如キハ人身ノ自由ニ關スル重大ナル處分ナルヲ以テ親族會ノ允許ヲ要スルヲ必要ト爲セリ之レ佛國民法ノ例ニ倣ヒタルモノナリ○第二項ハ後見人ノ所爲ニ付制裁ヲ設ケタルモノナリ而シテ親族會ニ申告スルノ權ヲ未成年者ニ與ヘタルノミナラス其總テノ親族ニ與ヘタル所以ノモノハ普通ノ場合ニ於テ未成年者ハ或ハ幼年ナルカ故ニ之ヲ爲スヲ得ス又或ハ假令之ヲ爲スノ年齢ニ達スルモ之ヲ爲スヲ憚カルヘキヲ以テナリ

第三百十八條 後見人ハ一切ノ權利行爲ニ於テ未成年者ヲ代表シ善良ノ管理者ノ如ク其財産ヲ管理シ管理ノ不良ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任ス(白第四百三十六條、佛第四百五十條、伊第二百七十七條)

(理由) 本邦從來ノ慣習ニ於テハ猶ホ羅馬法ニ於ケル如ク後見人ハ未成年者

ヲ代表スルニアラスシテ未成年者ノ權利行爲ニ立會フモノト爲セリ今近世ノ法律思想ヲ採リ佛白諸國ノ例ニ倣ヒ法律上ノ假想ニ依リ後見人ハ未成年者ヲ代表スルモノト爲シ後見人ノ爲セル行爲ハ不能力者躬ラ之ヲ爲セル如ク看做シ且ツ此行爲ハ能力者ノ爲シタルモノ、如ク有効ナルモノト爲セリ○婚姻、夫婦財産契約、遺囑等ニ關シテハ未成年者躬ラ之ヲ爲スヲ得之レ後見人代表ノ制ノ例外ナリトス

第三百十九條 後見人ハ當然其任務ニ就クヘキ日ヨリ起算シテ十日内ニ未成年者ノ財産ニ係ル封印ノ開放ヲ請求シ副後見人ノ立會ニ於テ直ニニ財産ノ調査ニ從事セサル可カラス財産目錄ノ調製ハ一个月内ニ之ヲ終ラサル可カラス區裁判所判事ハ事宜ニ依リ延期ヲ許スヲ得遺囑ヲ以テ目錄調製ヲ釋免セルキハ此釋免ハ不成立ト看做サル可シ(白第四百三十七條、佛第四百五十一條、伊第二百八十

一條第二百八十二條第二百八十三條

(理由) 佛國民法ニ從ハ後見人指名ノ日ヨリ十日内ト爲セリ是レ單ニ親族會ノ指名スル後見人ニ付テ云フカ如ク遺託後見人尊屬後見人ニ適セス故コ白民法ニ從ヒ任務ニ就クヘキ日ヨリト改正セリ○佛國民法ニ於テハ目錄調製ヲ終ルノ期限ヲ示サス今伊白民法ニ從ヒ本條第二項ノ如ク之ヲ定メタリ蓋シ普通ノ場合ニ於テハ一月内ニ之ヲ完了スルヲ得ヘシ若シ之ヲ完了セサルキハ區裁判所判事延期ヲ許スヲ得ルモノトナセリ○第三項ハ伊白民法ノ例ニ從テ之ヲ規定セリ佛國民法ニ於テハ解釋上疑義ヲ存スト雖モ立法上ヨリ觀察スレハ如斯規定セサルヘカラス蓋シ不能力者ノ利益ノ爲メニ法律ノ設クル所ノ保護ハ公ケノ秩序ニ關スルモノタルカ故ニ何人ト雖モ之ニ背クヲ得サレハナリ○未成年者ノ財産ニ係ル印封及ヒ其開放等ノ方法ハ宜シク訴訟法ニ於テ之ヲ規定スヘシ伊國民法第二百八十二條第二百八十三條及ヒ第二百八十四條ハ總テ訴訟法ニ入ルヘキモノナルヲ以テ今茲ニ之

ヲ採用セス

第三百二十條

若シ後見人カ未成年者ノ債務者或ハ債權者ナルキハ目錄ノ調製前之ヲ公證人ニ明言セサル可カラス後見人其債權ノ存在ヲ知リテ之ヲ明言セサリシキハ其債權ヲ喪失ス若シ債務ノ存在ヲ知リテ之ヲ明言セサリシキハ其後見人ヲ罷黜スルヲ得此終ノ場合ニ於テハ地方裁判所ハ後見人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルヲ得(白第四百三十八條、佛第四百五十一條、伊第二百八十五條、第二百八十六條)  
(理由) 佛國民法ニ於テハ後見人ハ未成年者ノ債權者タル場合ノミヲ掲ケ債務者タル場合ヲ示サス今伊白民法ニ從ヒ本條ノ如ク制定セリ○第二項ハ前項ノ制裁ナリトス第二項終リノ場合即チ後見ノ罷黜ハ却テ後見人タルヲ免カレ、ノ術策ト爲ルノ懼レナキニアラス故ニ更ニ罰金ノ制裁ヲ加ヘタリ此罰金ノ制裁ハ本組合ノ新案ニ係ルモノトス

第三百二十一條 適法ノ期限内ニ正確ナル目錄ヲ調製セザリシ後見人ハ其任務ヲ罷黜セラルヘシ此場合ニ於テハ前條ノ罰則ヲ適用ス

正確ナル目錄ヲ調製セザリシ動産ノ箇數及ヒ價直ハ世評ヲ以テモ之ヲ定ムルヲ得(白第四百三十九條、伊第二百八十八條)

(理由) 佛國民法ニ於テハ目錄調製ノ義務ヲ付テ何等ノ制裁ヲモ設ケス今白民法ノ例ニ倣ヒ罷黜ノ制裁ヲ設ケタリ然レモ此制裁ハ後見人タルヲ免カル、ノ方策ト爲ルヲ以テ茲ニ前條ノ罰則ヲ適用シタリ○第二項モ亦一ノ制裁ナリトス

第三百二十二條 財産目錄ノ調製ヲ終ラサル間ハ後見人ハ要急欠ク可カラサル管理行爲ノミヲ爲スヲ得(白第四百四十條、伊第二百八十九條)

(理由) 後見人目錄ノ調製ヲ終ラサル間ハ未成年者ノ資産ハ如何ナル狀況ニ在ルヤヲ知ル可ラス故ニ若シ其資産ニ關スル行爲ヲ爲スマヤ或ハ未成年者ノ利益ヲ害スルヲナキヲ保シ難シ是ヲ以テ其管理行爲ト雖モ要急欠クヘカラサルモノニ限り之ヲ爲スヲ得ルモノトセリ伊白ノ民法モ亦共ニ斯ノ如ク規定セリ

第三百二十三條 後見人ハ目錄調製ヲ終リタル後親族會カ保存ニ及ハスト認ムル有形動産ヲ一个月内ニ副後見人ノ立會ニテ糶賣ニ付ス

親族會ハ其動産ノ示談賣却ヲ後見人ニ許スヲ得(白第四百四十一條、佛第四百五十二條、伊第二百九十條、蘭第四百四十七條)

(理由) 有形動産ハ日月ヲ逐テ毀壞シ其價直ヲ減少スルノミナラス之ヲ保存スルニ若干ノ費用ヲ要スルモノトス故ニ親族會カ保存ニ及ハスト認ムルモ

ノ即チ未成年者ニ現ニ不用ナルモノハ之ヲ賣却シテ金額ト爲スニ若カス佛  
伊白皆ナ斯ノ如ク規定セリ○第二項ニ於テ示談賣却ヲ許スハ示談賣却ノ費  
用ハ競賣ヨリハ少ナキヲ以テ親族會ハ未成年者ノ利益ヲ酌量シテ方法ノ中  
ニ就キ其宜シキヲ撰ムヲ得伊白皆ナ此規定アリ

### 第三百二十四條

後見任務ノ執行ノ始ニ於テ親族會ハ未成年  
者ニ與フヘキ教育ノ程度ト其資産トニ從ヒ毎年費スヘキ金  
額及ヒ財産管理ニ係ル費用ヲ規定ス

親族會ハ相當ノ給料ヲ與フル一名若クハ數名ノ管理者ヲ後  
見人カ自己ノ責任ヲ以テ用ユルヲ許スヲ得(佛第四百五十  
四條、白第四百四十二條、伊第二百九十一條、第二、百九十五條)

(理由) 佛國民法ニ從ヘハ未成年者ノ毎年費スヘキ金額ヲ規定スルニ單ニ其  
貧富ノ程度ニ據レリ然レハ後見人ノ任務タルヤ單ニ財産ノ管理ニ止マラス  
シテ亡父ニ代リ其子ニ教育ヲ與フルノ義務ヲ有シ其教育ハ必スモ未成年

者ノ資産ノミチ程度ト爲スヘキニアラス即チ教育ハ未成年者ノ品性ニ適ス  
ルヲ要スルヲ以テ甚タ富マサル家ノ子ト雖モ天性鋭敏ナル者ナルハ其資  
産ニ比スレハ高等ナル教育ヲ與フルヲ要シ之ニ反シテ豪富ノ子ト雖モ鈍性  
ナル者ニ高尙ノ教育ヲ與フルハ無益ニ屬スヘシ之レ伊白民法ニ倣ヒ本條ノ  
如ク規定セル所以ナリ○第二項ニ於テ給料ヲ與フル管理者ヲ用ユルヲ後  
見人ニ許シタルハ未成年者カ巨大ノ動産不動産ヲ各地ニ有シ後見人カ一人  
ニシテ之ヲ管理シ得ヘカラサル場合等ヲ豫想スルナリ後見人ハ如斯俸給ヲ  
與フル管理者ヲ用ユルヲ得ルト雖モ後見人自己ハ俸給モ酬勞金モ受ルヲ  
ナシ夫レ後見人ノ職務ハ亡父ニ代リ未成年者ヲ教育スルノ職務ナリ故ニ普  
通ノ場合ニ於テハ親族中ノ最モ親懇ナル者ヲ撰ンテ後見人ト爲シ是等ノ親  
族ヲ欠クハ亡父母ノ親友ニ就テ後見人ヲ撰ハシム之ヲ要スルニ後見ノ職  
務ハ情義ニ基ク所ノ義務ト云ハサルヘカラス又或ル他ノ場合ヲ想像シテ情  
義ニ基カサルヲアリト爲スモ幼年者ヲ保護スル國民ノ義務ナリ果シテ然ラ



ハ之ヲ普通ノ財産管理者ニ例シテ俸給ヲ受クルノ職務ト爲スヘキニアラス  
是レ起草者カ佛伊白等ノ民法ニ從テ後見ヲ以テ無償ノ職務ト爲ス所以ナリ  
○然レハ後見ノ職務ヲ有償職務ト爲セル一二ノ邦國ナキニアラス  
瑞西聯邦中ゲキ一邦民法ノ如キ是レナリ

第三百二十五條 後見人ハ未成年者ノ資本及ヒ收入ノ剩額ヲ  
其都度貯金預所ニ預ケ置ク可シ其預ケサリシ金額ニ付テハ  
法律上ノ利息ヲ辨濟ス可シ  
後見人未成年者ノ資産ニ付他ノ利用法ヲ爲サントスルキハ  
親族會ノ允許ヲ必要トス  
後見人未成年者ノ財産ヲ自己ノ用ニ供セシキハ當然其利息  
及ヒ其利息ノ利息ヲ辨濟セサル可カラズ(白第四百四十三條  
佛第四百五十五條、伊第二百九十一條)  
(理由)凡ソ金額ノ多少ニ拘ラス利子ヲ生スヘキモノニシテ之ヲ頑守スルハ

財産管理ノ善長ナルモノニアラス若シ多額ノ金圓ナルキハ公債證書等ニ代  
フルヲ得策ト爲スヘキモ少額ノ金圓ニ付テハ之ヲ預クルノ方法ナカルヘカ  
ラス本邦貯金預所ノ制未タ之ヲ完全無疵ト云フヲ得スト雖モ金額ノ多少ニ  
拘ラス之ヲ預カルモノハ貯金預所ノ外ナキヲ以テ本條ノ如ク規定セリ要ス  
ルニ起草者ノ趣意タル不用ノ金額ハ之ヲ後見人ノ手中ニ留置セス必ス確固  
ニシテ利子ヲ生スル預ケ方ヲ爲サシメント欲スルニ在リ○他ノ利用方法ノ  
如キハ危險無キヲ保シ難シ故ニ之ヲ後見人ニ任セスシテ親族會ノ允許ヲ必  
要ト爲セリ○利息ノ利息ヲ辨濟セシムルハ管理ノ不良ニ對スル一ノ制裁ナ  
リトス

第三百二十六條 尊屬後見人ヲ除クノ外後見人ハ親族會ノ指  
定スル時期ニ一箇年内ノ管理ノ狀況ヲ親族會ニ報告セサル  
可カラズ親族會ハ會員一名ニ命シ之ヲ調査セシメ決議ノ上  
區裁判所書記局ニ其狀況書ヲ差出シ置ク可シ(白第四百四十

四條、佛第四百七十條、伊第三百三條

(理由) 後見管理ノ狀況ヲ年毎ニ調査スルハ監視上必要ノ事ニ屬ス佛國民法ニ從ヘハ後見人ハ親族會ノ請求アルニ於テ始メテ狀況書ヲ提出スルモノト爲セリ今伊白民法ニ從テ後見人ニ毎年狀況書ヲ提出スルノ義務ヲ命セリ

第三百二十七條

後見人ハ財産管理ノ權ヲ有スルニ止リ此權外ノ行爲ハ法律ニ定ムル條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スルヲ得ス

後見人ハ管理ノ爲メ其權内ニ於テ債務ヲ約スルヲ得(白第四百四十五條)

(理由) 後見人ハ管理者ナリ故ニ自己ノミニテ爲スルヲ得ル行爲ハ管理行爲ノミニ止ル○其他ノ行爲ト雖モ未成年者ノ資産ヲ増加スル等ノ行爲ノ如キハ法律ニ定ムル條件ニ據ラスシテ之ヲ爲スルヲ得ルヤ否ヤハ佛民法ノ解釋上ニ於テ疑義ヲ存ス然レモ立法上ヨリ之ヲ觀察スレハ後見人ノ管理ハ未成

年者ノ財産ヲ保存スルヲ以テ主眼ト爲シ之ヲ危險ニ置カシメサルヲ要ス蓋シ後見人カ未成年者ノ財産ヲ増加セント欲スルノ所爲ハ爲メニ損失ヲ受ケルノ結果ヲ生セサルヲ保シ難シ且ツ果シテ未成年者ノ財産ヲ増加セタルト否ヲ決定スルコト付テハ後見人ト未成年者トノ間ニ訴訟ヲ構起スルノ恐レ無キヲ保シ難シ○後見人ハ債務ヲ約シ從テ未成年者ノ財産ニ結果ヲ及ホスヲ得ヘキヤノ問題ハ佛國民法解釋上ニ於テハ疑義ヲ存ス然レモ立法上ヨリ觀察スレハ本條ノ如ク規定スヘキモノトス何トナレハ債務ヲ約スルハ管理ニ欠クヘカラサル所ナルヲ以テナリ

第三百二十八條

親族會ハ法律ニ規定セル後見人ノ權限ヲ變更スルヲ得ス(白第四百四十六條)

(理由) 後見人ハ公ケノ秩序ニ係ル是ヲ以テ親族會ト雖モ後見人ノ權限ヲ變更スルヲ得ス佛國民法ニ於テハ此點ニ關シ疑義ヲ存ス今白民法ニ從ヒ本條ノ如ク規定セリ

第三百二十九條 左ニ掲クル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ允許ヲ得サル可カラス

- 一 未成年者ノ資本ヲ領受シ之ヲ利用スル
- 二 動産不動産ヲ獲得スルヲ但シ未成年者ノ日用ノ爲メ及ヒ其財産ノ管理ノ爲メ獲得スルハ此限ニ在ラス
- 三 新築、改築、増築若クハ大修繕ヲ爲ス
- 四 第六百二十六條ニ定ムル時期ヲ超過スル賃貸ヲ爲ス
- 五 相續贈遺及ヒ贈與ヲ受諾スル
- 六 分派若クハ假分派ノ請求ヲ爲ス但シ分派訴權ヲ受クルニ付テハ親族會ノ允許ヲ要セス(白第四百四十七條、佛第一千七百十八條、第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十五條、伊第二百九十六條)

(理由) 本條ニ掲クル行爲ハ未成年者ノ利益ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ

後見人ノ單獨ニテ之ヲ爲スヲ許サス親族會ノ允許ヲ必要ト爲セリ○本條第一ノ行爲ハ佛國民法ニ從ヘハ親族會ノ允許ヲ要セス今伊白民法ニ從ヒ斯ノ如ク規定セリ蓋シ是レ第三百二十五條ノ主義ヲ適用スルニ過キス○第二ノ行爲即チ動産不動産ノ獲得ハ未成年者ノ利益ノ爲メニ危險ナキヲ保シ難シ故ニ親族會ノ允許ヲ要ス然レモ財産管理ノ爲メニスル獲得及ヒ未成年者ノ日々ノ需用ノ爲メニスル獲得ノ如キハ固ヨリ管理行爲ニ屬スルヲ以テ親族會ノ允許ヲ要セス○第三ノ行爲中修繕ノ如キハ普通ノ管理行爲ニ屬スト雖モ大修繕ヲ爲スハ未成年者ノ利益ニ危險ナキヲ得ス建築ノ如キモ亦然リ蓋シ建築大修繕等ハ多クハ其消費スル所ニ比スレハ其増加スル價直ハ大テラサレハナリ○第四ノ行爲即チ第六百二十六條ノ時期ヲ超過スル賃貸ハ管理行爲ニアラス是レ親族會ノ允許ヲ要スル所以ナリ○第五ノ各行爲ノ受諾モ亦危險ニ屬ス故ニ伊白蘭諸國ノ例ニ倣フテ親族會ノ允許ヲ必要トセリ○第六ノ行爲即チ分派ニ關シテハ佛伊白皆同一ニ決定セリ只假分派即チ享有

權ノ分派ニ關シテハ佛國民法解釋上疑義ナキヲ得ス然レモ立法上ヨリ觀察スレハ斯ノ如ク決定セサルヲ得ス○第六但シ以下ノ例外ハ何人ト雖モ未分ノ形狀ニ存スルヲ要強セラレスト云フ原則ニ由來ス

### 第三百三十條

左ニ掲クル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ允許及ヒ地方裁判所ノ認可ヲ得サル可カラス

- 一 未成年者ノ動産不動産ヲ移付シ若クハ之ニ物上權ヲ負ハシムルヲ但シ收買ヲ時價ニテ賣却シ又ハ毀損スヘキ動産ヲ賣却スルハ此限ニ在ラス
- 二 借財ヲ爲ス
- 三 相續贈遺若クハ贈與ヲ拒却スル
- 四 未成年者ノ動産不動産ノ權原ニ係ル訴權ヲ行フヲ訴權ヲ拋棄スルヲ訴權ニ抗辨スルヲ又此權利ニ關シ請求ニ承服スルヲ和解ヲ爲スヲ仲裁ニ付スルヲ(白第四百四十

### 條、佛第四百五十七條第四百六十一條第四百六十四條第四百六十七條、伊第二百九十六條第三百一條

(理由) 本條ノ各行爲ハ最モ重大ノ事ニ屬スルヲ以テ親族會ノ允許及ヒ地方裁判所ノ認可ヲ必要ト爲セリ○佛國民法第四百五十七條ニ於テハ後見人ハ(アリエチ)即チ財產ヲ移轉スルヲ得スト爲セリ之レ動産ヲ包含スルヤ疑義ノ存スル所トス然レモ立法上ヨリ觀察スレハ近代ニ於テ動産ノ重要決シテ不動産ニ劣ラサルヲ以テ之ヲ區別スヘキコアラヌ又佛國民法同條ニ於テハ後見人ハ不動産ヲ抵當ニ付スルヲ得スト爲セリ夫レ抵當權ハ所有權ノ支分權ナリ故ニ不動産ヲ抵當ニ付スルハ所有權ノ一部ヲ移付スルナリ是レ動産不動産ノ移附ト同視スル所以ナリ然レモ物上權ハ單ニ抵當權ニ止ラスシテ動産質、不動産質、地表權、地役等皆ナ物上權ナルヲ以テ總テ其設定ヲ財產ノ移付ニ同視セリ是レ伊白民法ノ規定ニ據ル○第一但シ以下ノ例外ハ管理上ノ便益ヲ圖リ之ヲ設ケタリ時價ニテ收買ヲ賣却スルハ未成年者ノ利益ヲ

害スルモノニアラス又毀損スヘキ動産ノ賣却ハ之ヲ保存行爲ト看做スヘキ  
ヲ以テ管理者ノ單獨ニテ爲スヘキ限リトス○第二借財ハ最モ危險ノ行爲ニ  
シテ未成年者ノ財産ノ移付ヲ來スヘキヲ以テ裁判所ノ認可ヲ必要トス○第  
三ノ行爲ノ拒却ハ前條第五ノ受諾ト同視スヘカラス蓋シ受諾スル者ハ權利  
ヲ獲得シ拒却スル者ハ之ヲ喪失ス權利ノ喪失ハ即チ權利ノ移付ナリ之レ起  
草者カ佛民法第四百六十一條ニ反シテ伊蘭白ノ民法ニ倣ヒ拒却ト受諾ノ區  
別ヲ爲シ拒却ニ關シテ裁判所ノ認可ヲ要スル所以ナリ○佛民法第四百六  
十四條ハ動産ノ訴權ニ付テハ何等ノ允許ヲモ要セス不動産訴權ニ付テハ親  
族會ノ允許ヲ要ストセリ然レモ動産訴權ト不動産訴權ノ區別ハ其理由ヲ存  
セス共ニ權利ノ喪失ヲ來スヘキコアルヲ以テ之ヲ動産不動産ノ移付ニ同視  
シテ裁判所ノ認可ヲ要スルモノト爲セリ○此訴權ノ拋棄ハ即チ權利ノ喪失  
ナルヲ以テ之ヲ訴權ノ行用ニ同視スヘキヤ言ヲ待タスト雖モ訴權ニ抗辯ス  
ル點ニ至テハ佛國民民法ニ於テ親族會ノ允許ヲ要セスト爲シ伊國民民法ニ於テ

モ亦同様ニ規定セリ斯ノ如ク規定セル理由ハ未成年者ノ訟聲ヲ受クルヤ之  
ニ抗辯セサルヘカラサルハ已ムヲ得サルノ地位ニ在ルヲ以テ親族會ノ允許  
ヲ要セストスルニ在リ然レモ或ル場合即チ未成年者ノ必ス敗訴スヘキ事實  
ノ明瞭ナル場合ニ於テハ訴訟入費ヲ避クル爲メ寧ロ始メヨリ訴權ニ抗辯セ  
サルヲ以テ未成年者ノ利益ト爲ストナキコアラズ是レ起草者カ白國草案ニ  
從ヒ訴權ノ抗辯ヲ其行用及ヒ拋棄ト同視セル所以ナリ○佛國民民法ニ從ヘハ  
權利ノ承服ハ親族會ノ允許ヲ以テ足レリトセリ然レモ此事タルヤ訴權ノ行  
用ヨリモ危險ナルヲ以テ裁判所ノ認可ヲ必要トス○佛國民民法ハ和解ニ付テ  
ハ三箇ノ條件ヲ要セリ親族會ノ允許三名ノ法學士ノ意見及ヒ裁判所ノ認可  
是ナリ然レモ和解ニ限リ法學士ノ意見ヲ必要トスルノ理由ナキヲ以テ伊白  
民法ニ從ヒ之ヲ削除セリ○佛國民民法ニ從ヘハ後見人ハ未成年者ノ爭訟ヲ仲  
裁人ニ付スルコトヲ得ス其理由タル仲裁ノ場合ニ於テハ未成年者ハ檢事ノ立  
會ヲ得サルヲ以テ保護ヲ欠クト云フニ在リ然レモ裁判所ノ認可ヲ得ルモノ

ト爲スヤ未成年者ノ保護ハ充分ナリト云ハサルヘカラス今伊國白諸國ノ例ニ倣ヒ本條ノ如ク規定セリ

第三百三十一條 親族會ノ允許ハ各行爲ニ對シテ特別ナラサル可カラス

財産ノ移付、物上權ノ設定、借財ハ必要ノ原由若クハ明確ノ利益ノ存スルニ非サレハ之ニ允許ヲ與フ可カラス  
親族會ハ賣却スヘキ財産及ヒ其賣却ニ係ル條件ヲ定ムルヲ要ス其賣却ハ訴訟法ニ定ムル條例ニ從フ但シ親族會ハ示談賣却ヲ允許スルヲ得(白第四百四十九條、佛第四百五十七條、伊第二百零九十七條)

(理由) 法律カ親族會ノ允許ヲ設定シタル理由ハ親族會カ各行爲ニ付未成年者ノ利益ヲ酌量シテ之カ爲メニ不利益ナル行爲ヲ爲サシメサラントスルニ在リ故ニ其性質上ニ於テ各行爲ニ特別ナラサルヲ得ス伊白民法皆此規定アリ

リ○本條第二項ハ佛國民法第四百五十七條ニ倣ヒタルモノニシテ是等ノ行爲ニ關シテハ更ニ後見人ノ權ヲ限定スルヲ可ナリトス但シ同條ニ於テ完全ナル必要ノ原由ト云ヘルヲ變更シテ單ニ必要ノ原由ト爲セルハ白民法ニ倣ヒタルナリ蓋シ完全ナル必要ノ原由ハ實ニ稀有ノ場合ナル可キヲ以テナリ  
○示談賣却ヲ允許スルヲ得ルハ費用ヲ省クノ趣意ニ出ルナリ

第三百三十二條 親族會ノ決議ニ付認可ノ請求アリタルハ地方裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ會議局ニ於テ之ヲ決定ス  
裁判所ハ未成年者ノ利益ニ必要ト認定スルハ親族會ノ決議ヲ改修スルヲ得(白第四百五十條、佛第四百五十八條)

(理由) 檢事ノ意見ヲ聽クハ不能力者ノ利益ニ關スルヲ以テナリ○第二項裁判所カ親族會ノ決議ヲ改修スルヲ得ルヤ否ヤノ點ニ關シテハ佛國民法解釋上疑義ヲ存ス然レモ立法上ニ於テハ斯ノ如ク決定セサルヲ得ス蓋シ若シ裁判所ニ改修ノ權ナシト爲サハ裁判所ノ干渉ハ徒法ニ屬ス可キヲ以テナリ

第三百三十三條 未成年者ニ未分ニテ屬スル財産ノ賣却ハ糶賣ニ依ル其手續ハ民事訴訟法ニ定ムル條例ニ從フ(白第四百五十一條、佛第四百六十條)

(理由) 理由ヲ附スルノ必要ナシ

第三百三十四條 後見人ハ未成年者ノ財産ヲ買得スルヲ得ス又未成年者ニ反對シテ權利ノ讓受人タルヲ得ス(白第四百五十二條、佛第四百五十條、伊第三百條)

(理由) 後見人ニ未成年者ノ財産買得ヲ禁スルハ後見人ヲシテ自己ノ利益ト自己ノ義務トノ中間ニ立ツ如キ困難ノ地位ニ在ラシメサルカ爲メナリ又未成年者ニ反對シテ權利ノ讓受人タルヲ禁スルハ未成年者ヲシテ詐欺ノ所爲ヲ免カレシメントスルノ目的ニ出ツ佛伊民法皆此規定アリ

第三百三十五條 後見人ハ親族會ノ允許及ヒ地方裁判所ノ認可ヲ得ルニ非サレハ未成年者ノ家屋土地ヲ賃借スルヲ得

ス(白第四百五十三條、佛第四百五十條、伊第三百條)

(理由) 前條ノ精神ヲ推シテ之ヲ論スレハ賃借モ亦之ヲ禁止スヘキカ如シ然レモ未成年者ノ爲メニ賃借者ノ多キヲ以テ利益ト爲スト云フノ理由ニ基キ本組合ノ多數ヲ以テ本條ヲ存シタリ

第三百三十六條 後見人其權内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年者ヲ羈絆ス

後見人適法ノ手續ヲ爲サスシテ爲シタル行爲ハ當然無効トス(白第四百五十四條)

(理由) 後見人カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年者カ合格ニシテ躬ラ爲セル行爲ト同視セサルヘカラス故ニ未成年者ハ損害ノ理由ニ依テ此行爲ヲ認撃スルヲ得ス若シ佛國舊時ノ法律ノ如ク未成年者ハ損害ノ訴權ヲ有スト爲スヤ不能力者ヲ保護セント欲シテ却テ其利益ヲ害スルモノトス何トナレハ第三者ハ自己ニ不利ナル契約ヲ爲スノ外後見人ト契約ヲ爲スヲ得

サルニ至ルヘキヲ以テナリ。○若シ後見人カ不良ノ管理ヲ爲スヤ未成年者ニ對シテハ其責ニ任セサルヘカラス之ヲ詳言スレハ未成年者ハ後見人ニ對シテ損害賠償ノ訴權ヲ有シ此訴權ハ法律上ノ抵當權ニ依テ擔保セラル、ヲ以テ未成年者ノ利益ハ充分ニ保護セラル、モノト云フヘキナリ。○未成年者ハ單ニ適法ノ手續ヲ爲サ、ルコトノミヲ證明シ復タ他ノ證明ヲ爲スヲ要セス。テ裁判所ハ其行爲ノ無効ヲ宣告セサル可ラス是レ第二項ニ謂フ所ノ當然ノ無効ナリ。

第七節 副後見人ノ任務

第三百三十七條 副後見人ハ後見人ノ管理ヲ監視スルノ任ヲ有ス

副後見人ハ後見人ヲ欠クキト雖モ後見任務ヲ行ハス此場合ニ於テハ直ニ後任ノ後見人撰定ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス此手續ヲ爲サ、ルキハ因テ生スル所ノ損害賠償ノ責ニ任

ス(白第四百五十五條、佛第四百二十四條)

(理由) 副後見人ハ後見人ヲ監視スルモノニシテ後見人ニ代ルモノニ非サルハ佛國民法ニ於テモ認定スル原則ナリト雖モ之ヲ明文ニ掲ケタルモノナシ。今白國民法ニ倣テ之ヲ明揭シタリ。○第二項ハ第一項ノ原則ヨリ出ル結果ニシテ別ニ説明ヲ要セス

第三百三十八條 未成年者ノ利益ト後見人ノ利益ト相反スル場合ニ於テハ副後見人ハ未成年者ヲ代表ス此場合ニ於テハ臨時副後見人ヲ撰定ス(白第四百五十六條、佛第四百二十條、伊第二百六十六條第二項)

(理由) 普通ノ場合ニ於テハ副後見人ハ後見事務ヲ監視スルノ義務ヲ有スルヲ以テ躬ヲ事務ヲ執ルコトナシ本條ノ場合ニ於テハ未成年者ニ代リ躬ヲ事務ヲ執ルヲ以テ之ヲ監視スル者ナカルヘカラス之レ臨時副後見人ヲ撰定スル所以ナリ



第三百三十九條 如何ナル場合ニ於テモ副後見人ハ保存行爲ヲ爲スコトヲ得(白第四百五十七條)

(理由) 本條ノ趣意ハ副後見人ノ本務ト相反スルヲ免カレズ然レモ保存行爲ハ未成年者ヲ利スルノミコシテ決シテ之ヲ害スルモノコアラサルヲ以テ如斯規定セリ

第三百四十條 法律上副後見人ノ立會フヘキ行爲ニシテ其立會無クシテ爲シタルモノハ無効トス(白第四百五十八條)

(理由) 副後見人ノ立會モ亦未成年者ヲ保護スル爲メナルヲ以テ之ヲ欠クハ其行爲ヲ無効トスルハ普通原則ノ適用ナリトス

第八節 後見ノ了終

第三百四十一條 後見ハ一身ノ任務ニシテ後見人ノ相續人ニ轉移スルモノニ非ス  
相續人ハ後見人ノ爲シタル管理ニ付責任ヲ有ス若シ相續人

成年者ナルキハ後任後見人ノ任務ニ就クマテ管理ヲ繼續セサル可カラス(白第四百五十九條、佛第四百十九條)

(理由) 後見ノ任務ハ後見人其人ニ密屬スルモノナルヲ以テ其相續人ニ轉移セサルハ事理ノ明白ナルモノトス又相續人カ其先人ノ管理ニ付テ責任ヲ有スルハ法理ノ當然ナルモノトス○後見人ノ相續人ハ後見ノ事務ヲ繼續セサルヲ原則ト爲スト雖モ新舊後見人更迭ノ際假管理人ナカルヘカラス是レ相續人ナシテ後見ノ事務ヲ繼續セシムル所以ナリトス

第三百四十二條 罷黜、認免若クハ解任セラレタル後見人ハ其後任者ノ任務ニ就クマテ仍ホ後見ニ係ル管理ヲ負擔ス(白第四百六十條)

(理由) 前條末項ニ掲ケタルト同一ノ理由ニ依リテ前任後見人ナシテ管理ヲ繼續セシム只前條ト異ナル所ハ前條ノ相續人ハ法律上ノ抵當權ヲ受ケサルモ本條ノ後見人ハ管理繼續中仍ホ法律上ノ抵當權ヲ受クヘキノ點ニ在リ

第三百四十三條 未成年者カ成年ニ達シ若クハ自治ニ至ルニ依リ後見罷ムキハ後見人ハ其計算ヲ終ルマテ其管理ヲ繼續ス(白第四百六十一條)

(理由) 未成年者成年ニ達スルト雖モ後見人後見ノ計算ヲ爲サ、ルキハ未成年者ハ其資産ノ狀況其後見人ニ對スル權利ノ如何ヲ知ル能ハサルヲ以テ躬ラ管理ヲ爲スト能ハス法律ハ後見人カ計算ヲ終ハラサル限リハ成年ニ達セル未成年者ヲ後見人ニ對シテハ猶ホ未成年者ト假想セリ是レ後見人ニ對シテハ下文ノ結果ヲ生ス即チ後見人ハ尙ホ法律上ノ抵當權ヲ受ケ第三百二十五條ニ掲クル利息ヲ辨濟スル等ノ如シ若シ後見人ニシテ之ヲ免カレントスルキハ速ニ其決算ヲ成年者ニ對シテ爲スヘキナリ之ヲ要スルニ本條ハ未成年者ヲ保護スルノ目的ヲ以テ斯ノ如ク規定セリ○佛國ニ於テハ學說上此點ニ付疑義ヲ存ス今規定スル所ハ白國草案ニ據レリ

第三百四十四條 假リニ後見ノ管理ヲ爲ス者ハ必要ナルカ若

クハ明瞭ニ有益ナル行爲ノミヲ爲ストテ得(白第四百六十二條)

(理由) 假ニ管理ヲ爲ス者ニ對シテハ本條ノ如キ制限ヲ設クルハ當然ノコナルヲ以テ別ニ説明ヲ爲サス

第九節 後見ノ計算

第三百四十五條 後見人ハ其管理ノ了終スルキニ管理ノ計算ヲ爲サ、ル可カラス

贈與者ノ爲ス管理計算ノ釋免ハ不成立ト看做サル可シ(白第四百六十三條、佛第四百六十九條、伊第三百二條、第三百四條)

(理由) 未成年者ノ財産ニ對スル計算ノ釋免ハ善良ノ風儀ニ反ス是レ法律カ不成立ト看做ス所以ナリトス○本條ノ計算釋免ノ制裁ハ第三百二十六條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三百四十六條 後見ノ決算ハ副後見人ノ立會ニテ未成年者

ノ成年ニ達シタル者又ハ自治ニ至リタル未成年者ニ對シテ  
之ヲ爲ス  
後見カ若シ後見人ノ身ニ係リ了終スルキハ決算ハ後任後見  
人ニ對シテ之ヲ爲シ親族會ノ認許ニ付ス  
後見カ若シ未成年者ノ死去ニ依リテ了終スルキハ決算ハ其  
相續人ニ對シテ之ヲ爲ス  
後見ノ決算ニ係ル費用ハ未成年者ノ擔任ニ屬ス後見人ハ其  
立替拂ヲ爲ス可シ(白第四百六十四條、佛第四百七十一條、伊第  
三百五條、第三百六條、第三百七條)  
(理由) 成年ニ達シタル未成年者及ヒ自治ニ至リタル未成年者ハ能力者ナル  
ヲ以テ躬ヲ後見人ノ決算ヲ受クヘキカ如シ然レモ是等ノ未成年者ハ法律上  
之ヲ能力者ト爲スヘキモ事實上ニ於テハ其成年ニ達シ若クハ自治ニ至ルヤ  
直ニニ能力者トシテ計算書ヲ調査スルヲ得ル者ト爲スヲ得ス是レ立會人ヲ

必要トセル所以ナリ而シテ此立會人ハ副後見人ヲ以テ最モ適當ナリトス何  
トナレハ副後見人ハ毎ニ後見ノ事務ヲ監視セルヲ以テ其計算ノ當否ヲ知悉  
得ヘキヲ以テナリ茲ニ於テハ又親族會ノ干與ヲ無用ナリトス蓋シ計算ノ  
調査ノ如キハ多人數ノ會議ヲ以テ之ヲ爲スハ得策ニアラサルヲ以テナリ○  
若シ後見人カ認免解任又ハ斥除セラレタルキハ其後任後見人ニ後見ノ決算  
ヲ爲サ、ルヘカラス然レモ新任後見人ハ從前ノ事務ヲ知ラサルヲ以テ親族  
會ノ之ニ干與スルヲ必要トス蓋シ此場合ニ於テハ前任副後見人ノ任務ハ罷  
ムヲ以テ已ムヲ得ス親族會ヲ以テ計算ノ調査ニ干與セムルナリ○第三項  
ノ場合ハ別ニ説明ヲ要セス○後見ノ計算ハ未成年者ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲  
シ且ツ後見ハ無償ノ任務ナルヲ以テ其計算ノ費用ヲ未成年者カ擔任スルハ  
當然ノコトトス  
第三百四十七條 後見ノ決算ハ管理了終ノ日ヨリ起算シ三箇  
月内ニ之ヲ爲サ、ル可カラス

地方裁判所ハ當事者ノ請求ニ依リ其延期ヲ許スヲ得(白第四百六十五條)

(理由) 佛國民法ニ於テハ決算ヲ爲スノ期限ヲ設ケス然レモ之ヲ規定スルハ未成年者ノ利益ニ於テ必要ナリトス今白民法ノ例ニ倣ヒ本條ノ如ク規定セ

第三百四十八條 後見人ト未成年者ノ成年ニ達セル者トノ合意ハ如何ナルモノタルヲ問ハス後見ノ決算ヲ爲シ親族會其決算ヲ查認シタル後ニ爲シタルモノニ非サレハ無効トス(白第四百六十六條、佛第四百七十二條、伊第三百七條末項)

(理由) 後見人カ後見ノ決算ヲ爲サ、ル前ハ成年ニ達セル未成年者ハ尙ホ後見人ノ勢力ノ下ニアルヲ免カレス從テ未成年者ニ不利ナル契約ヲ締結セシトシ恐ル是レ本條ニ於テ合意ノ如何ナルモノタルヲ問ハス總テ之ヲ禁スル所以ナリ

第三百四十九條 後見ノ費用ハ豫算ノ定額ヲ超ユルト雖モ後見人其有益タルヲ證明シタルキハ之ヲ後見人ニ辨償ス可シ(白第四百六十七條、佛第四百七十一條、伊第三百五條本項)

(理由) 未成年者ノ年費ハ後見任務ノ始メニ於テ親族會之ヲ規定スルト雖モ其規定スル所ハ大略ノ豫算ニシテ官府ノ豫算表ノ如ク各項一定ニシテ動カスヘカラサルモノニアラス且ツ物價ノ高低ニ從ヒ今年ノ年費ハ必ス前年ノ年費ト均シキヲ得ス又幼者ノ年費ハ年少者ノ年費ト同シキヲ得ス故ニ後見人ニ幾分ノ自由ヲ以テ財産ノ管理ヲ爲スヲ許スヲ必要トス是レ本條ノ規定ナカルヘカラサル所以ナリトス

第三百五十條 後見人ノ未成年者ニ返濟スヘキ金額ニシテ未タ返濟セサルモノハ決算完結ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス  
未成年者ノ後見人ニ返濟スヘキ金額ハ決算完結ノ後後見人ノ催告ニ因リ利息ヲ生ス(白第四百六十八條、佛第四百七十四

條伊第三百八條

(理由) 普通法ニ據レハ利息ハ裁判上ノ請求ニ依テ生スルモノトス本條第一項ハ未成年者ヲ保護スル點ニ於テ特例ヲ設ケタリ○後見人カ金額ノ返済ヲ裁判上ニ請求セスシテ單ニ之ヲ催告スルハ後見人ト未成年者トノ親密ナル關係ニ出ルモノナリ法律ハ後見人ノ思想ヲ酌量シテ其裁判請求上ニ有スル効力ヲ催告ニ與ヘタリ

第三百五十一條

後見管理ノ計算ニ係ル未成年者ノ訴權ハ十年ノ時効ヲ以テ消滅ス後見人其他後見管理ヲ爲シタル人ノ未成年者ニ對スル訴權モ亦同シ

未成年者ト副後見人若クハ親族會員トノ間ニ於テ後見ニ係ル訴權ニ關シテモ亦前項ヲ適用ス

此期限ハ未成年者ノ成年ニ達シ若クハ死去シタル日ヨリ起算ス第三百四十八條ノ場合ニ於テ管理ノ計算ニ係ル訴權ニ

付テハ契約無効ノ裁判宣告ノ日ヨリ之ヲ起算ス(白第四百六十九條、佛第四百七十五條、伊第三百九條)

(理由) 普通法ニ從ヘハ訴權ハ三十年ノ時効ニ依テ消滅スト雖モ後見管理ノ事務ハ速ニ落着スルヲ要スルヲ以テ伊白民法ニ倣ヒ之ニ係ル訴權ハ總テ十年ノ時効ヲ以テ消滅スルモノト爲セリ○第三項死去シタル日ヨリ起算ストハ未成年者ノ相續人ノ訴權ニ關シテ之ヲ云フ○第三百四十八條ノ場合ニ於テ後見人ハ其管理ノ決算ヲ爲サハル前ニ未成年者ト決算ニ關シテ契約ヲ爲シタルキハ其契約ハ無効ニシテ未成年者ハ十年以内ニ訴權ヲ行フテ其契約ヲ無効ト爲シタリトセシニ(此無効訴權モ亦十年ノ時効ニ因テ消滅ス)未成年者ハ尙ホ後見人ニ對シテ決算ノ請求ヲ爲スコヲ得ヘキヤ若シ本條末段ノ規定即チ契約無効ノ裁判宣告ヨリ時効ヲ起算セサレハ本條ノ訴權ハ其實用ヲ爲サハルヘシ蓋シ若シ未成年者カ成年ニ達スルヨリ十年ヲ經過スレハ訴權ハ消滅スヘキヲ以テナリ

第三百五十二條 後見人、副後見人、親族會員其他後見管理ヲ爲シタル者ハ代理契約ノ原則ニ從ヒ其過失ノ責ニ任ス(白第四百七十條)

(理由) 本條ニ掲クル各人ハ法律上ノ代理者ト看做スヘキヲ以テ白民法ニ倣ヒ本條ノ如ク規定セリ。○佛民法第九百九十二條ヲ參看スヘシ

### 第十章 未成年者ノ自治

(理由) 佛國民法ニ於テハ後見ノ章中ニ自治(エマンシパシヨシ)ヲ置キタルハ單ニ未成年者ノ後見權解除ノミヲ示スカ如キモ其實未成年者ノ親權解除ニモ關スルヲ以テ特ニ一章ヲ置テ未成年者ノ後見若クハ親權ヲ解除シ躬テ其資産ヲ治ムル幾分ノ權ヲ有スルノ地位ニ至リタル者ニ命スルニ自治ノ名ヲ以テテ本章ノ題目ト爲セリ

第三百五十三條 未成年者ハ其婚姻ニ依リ直テニ自治ノ權ヲ有ス(白第四百七十一條、佛第四百七十六條、伊第三百十條)

(理由) 結婚セル夫ハ其婦ニ對シテ夫權ヲ行ヒ其子アルヤ其子ニ對シテ親權ヲ行フ此地位タルヤ未成年者ノ地位ト並存スヘカラス是レ婚姻ハ法律上直テニ自治ノ權ヲ與フル所以ナリトス。○未成年ノ婦ハ婚姻ニ依テ夫權ニ屬シ而シテ此夫權ト親權トハ並ヒ存スヘカラサルヲ以テ親權ヲ解除ス

第三百五十四條 親權ヲ行フ父若クハ母ハ滿十五年ニ達セル未成年ノ子ニ自治ヲ許スヲ得

此自治ハ身分取扱人ニ爲シタル申述ニ依リ成立ス(白第四百七十二條、佛第四百七十七條、伊第三百十一條)

(理由) 親權ヲ喪失セル父母ノ其子ニ自治ヲ許スヲ得サルハ事理ノ當然ナリトス。○自治ヲ許ス方法ハ簡單ニシテ無費ナルヲ要ス是レ本條ノ規定アル所以ナリ。○父母共ニ存スルキハ自治ヲ許スノ權ハ父ニ屬シ父死去セル場合ニ於テハ母ニ屬ス又父母共ニ存スルキト雖モ父親權ヲ行フヲ能ハサルキハ此權ハ母ニ屬ス

第三百五十五條 父母ヲ有セサル未成年者滿十八年ニ達スル  
キハ親族會ハ未成年者ニ自治ヲ許スヲ得  
此場合ニ於テハ自治ハ親族會ノ決議ヨリ生ス(白第四百十三  
條、佛第四百七十八條、伊第三百十一條)

(理由) 法律ハ親族會ニ對シテハ父母ニ等シキ信用ヲ置クヲ得ス故ニ年齡  
ヲ十八年ト定メタリ

第三百五十六條 若シ後見人カ未成年者ニ自治ヲ許スノ發議  
ヲ爲サ、ルキハ區裁判所判事ハ職權ヲ以テ親族會ヲ招集シ  
之ヲ議セシムルヲ得  
親族ノ請求アルキハ區裁判所判事ハ此招集ヲ爲サ、ル可カ  
ラス(白第四百七十四條、佛第四百七十九條)  
(理由) 未成年者ノ事實上能力ヲ有スルヤ宜シク速ニ自治ノ權ヲ與ヘ其資產  
ノ管理ヲ練習セシムヘシ本條ハ之ニ便益ヲ與フル爲メニ區裁判所判事ノ職

權ヲ以テシ若クハ親族ノ請求ニ依リ親族會ヲ招集スルヲ許シタリ  
第三百五十七條 自治ノ未成年者ハ之ヲ保管ニ付ス

親權ヲ行ヒタル父若クハ母ハ當然其保管人トス  
父母ノ中生存シテ親權ヲ行フ者ハ生前第二百七十一條ニ從  
ヒ保管人ヲ指定スルヲ得  
夫ハ當然未成年ナル婦ノ保管人トス  
其他ノ場合ニ於テハ親族會保管人ヲ撰定ス(白第四百七十五  
條、伊第三百十四條、第三百十五條)

(理由) 自治者ハ完全ノ能力者ニ非ス宜ク之ヲ保管ニ付スヘシ○第二項父若  
クハ母ハ第三百五十四條ト同一ニ解釋セサルヘカラス○父母ハ遺囑ニ依リ  
後見人ヲ指定スルノ權ヲ有スルヲ以テ保管人ヲ指定スルヲ得ルハ當然ノコ  
トス○第四項ノ場合ニ於テ夫若シ保管人ヲ有スルキハ夫ノ保管人ヲ以テ婦  
ノ保管人ト爲ス

第三百五十八條 後見人ニ關シテ定メタル認免、欠格、斥除、罷黜ハ之ヲ保管人ニ適用ス(白第四百七十六條)

(理由) 別ニ理由ヲ付スルノ必要ナシ

第三百五十九條 自治ノ未成年者ハ單獨ニテ純然ノ管理行爲ノミヲ爲スヲ得(白第四百七十七條、佛第四百八十一條、伊第三百十七條)

(理由) 管理行爲ニ關シテハ自治者ハ之ヲ成年者ニ同視ス是レ自治ノ第一ノ結果トス

第三百六十條 父ニシテ其子ノ財産ヲ管理シタル者ハ保管人ノ立會ニテ其自治ノ子ニ管理ノ決算ヲ爲サ、ル可カラス  
此場合ニ於テ親族會ハ臨時保管人ヲ撰定ス(白第四百七十八條、佛第四百八十條)

(理由) 父ハ法律上其子ノ保管人ナルヲ以テ本條ノ管理ノ決算ニ付テハ親族

會ヲシテ臨時保管人ヲ撰定セシメサルヘカラス

第三百六十一條 自治ノ未成年者ハ其保管人ノ立會アルニ非サレハ資本若クハ所得ヲ領受スルヲ得ス  
保管人ハ自治ノ未成年者カ其日用ニ供セサル金額ヲ貯金預所ニ預クルヲ監視ス

金額ノ其他ノ利用法ハ親族會ノ允許ヲ要ス(白第四百七十九條、佛第四百八十二條、伊第三百十八條)

(理由) 未成年者ノ資本若クハ所得ヲ領受スルヤ之ヲ浪費スルノ恐レアリ是ヲ以テ之ヲ領受スルニ保管人ノ立會ヲ要シ且ツ保管人カ預金ノヲ監視スルヲ必要ト爲セリ○他ノ利用方法ハ危險ナキヲ保テ難キヲ以テ親族會ノ允許ヲ必要ト爲セリ○此親族會ハ前章第三節ニ從ヒ之ヲ組織ス

第三百六十二條 第三百二十九條ニ掲クル行爲ハ自治ノ未成年者其保管人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(白第



第四百八十條、伊第三百十九條、佛第四百八十條、第四百八十二條、第九百三十五條、第八百四十條)

(理由) 第三百二十九條ノ行爲ハ後見人カ親族會ノ允許ヲ得テ爲スヲ得ルモノナリ今親族會ノ允許ニ代フルニ保管人ノ立會ヲ以テス○佛國民法ニ於テハ是等ノ行爲ニ關シテ一定ノ原則ナキカ如シ今白民法ニ倣ヒ本條ノ如ク規定シタリ○本條コ左ノ一項ヲ加フルヲ要ス

〔分派訴權ヲ受クルニ付テモ亦保管人ノ立會ヲ要ス〕  
分派訴權ハ之ヲ避クルヲ得サルモノナルヲ以テ後見人ハ親族會ノ允許ヲ要セスシテ分派ヲ爲スヲ得ルト雖モ原ト分派ハ純然ノ管理行爲ニアラサルカ故ニ保管人ノ立會アルヲ必要トス

第三百六十三條 第三百三十條ニ掲クル行爲ハ自治ノ未成年者親族會ノ允許地方裁判所ノ認可及ヒ保管人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

第三百三十一條及ヒ第三百三十二條ハ此場合ニモ亦之ヲ適用ス(白第四百八十一條、伊第三百十九條、佛第四百八十三條、第四百八十四條)

(理由) 第三百三十條ノ行爲ハ重大ノ行爲ナルヲ以テ之ニ關シテハ自治ノ未成年者ヲ全ク單純ノ未成年者ニ同視セリ○本條ハ佛國民法ノ原則ニ基キ伊白民法ヲ斟酌シテ之ヲ規定セリ

第三百六十四條 自治ノ未成年者カ保管人ノ立會ヲ要スル行爲ヲ其立會無クシテ爲シタルキハ其未成年者ハ損失ノ原由ニ基キ契約ノ無効訴權ヲ有ス

法律ニ規定セル法式ニ依ラスシテ爲シタル行爲ニ付テハ自治ノ未成年者ハ損失ヲ證明セスシテ無効ヲ請求スルヲ得(白第四百八十二條、佛第一千三百五條、伊第三百二十二條)

(理由) 法律カ保管人ノ立會ヲ命スルハ未成年者ヲシテ損失ヲ蒙ラシメサ

ラントスルノ目的ニ在リ故コ其立會無クシテ爲メニ未成年者カ損失ヲ蒙  
ルヤ無効ノ訴權ヲ有ス○第二項ノ場合ニ於テハ行爲カ未成年者ノ利益ノ爲  
メニ設ケタル法式即チ親族會ノ允許裁判所ノ認可ニ依ラザルカ爲メ無効ナ  
リ故コ復タ損失ヲ證明スルヲ要セサルナリ○保管人ノ立會チ一ノ法式ト看  
做サ、ルハ普通ノ學說ニ據ル

第三百六十五條 保管人カ自治ノ未成年者ノ行爲ニ立會ノヲテ  
拒ムキハ其未成年者ハ親族會ヲシテ臨時保管人ヲ撰定セシ  
ムルヲ得(白第四百八十三條、伊第三百二十條)

(理由) 佛國民民法ニハ本條ノ場合ニ於ケル規定チ欠ケリ今伊白民法ノ例ニ倣  
ヒ本條ノ如ク規定シタリ但シ白民法草案ニ於テハ裁判所ヲシテ臨時保管人  
ヲ命セシムルモノト爲セリ今之ニ代フルニ親族會ヲ以テスルハ本組合ノ決  
議ニ因レルモノナリ

第三百六十六條 父母ヲ除クノ外保管人ハ後見人ト一般ニ其

過失ノ責ニ任ス(白第四百八十四條)

(理由) 後見人ハ財産ヲ管理シ保管人ハ單ニ行爲ニ立會ノミナルヲ以テ責任  
上之ヲ同視スヘカラサルコ似タリ然レモ未成年者ノ利益ヲ保護スル點ニ於  
テハ保管人ノ任務ハ後見人ノ任務ト同一ナリトス此任務ヲ有スルモノニシ  
テ之ヲ怠リタルキハ其責ニ任セサルヘカラス但シ父母ニ對シテ責任ヲ負ハ  
シムルハ苛酷ニ過タルヲ以テ例外ヲ設ケタリ

第三百六十七條 自治ノ未成年者ハ其不行跡若クハ財産管理  
ノ不良ニ依リ自治者タルニ適セサルキハ親族會ハ其自治ヲ  
止ムルヲ得

親權ヲ行ヒタル父母若シ父母チ欠クキハ親族會員及ヒ保管  
人ハ自治ノ廢止ヲ請求スルヲ得

自治廢止ノ當日ヨリ其未成年者ハ親權若クハ後見ニ屬シ成  
年ニ達スルマテ復タ自治ヲ許サル、ヲ得ス(白第四百八十

五條、佛第四百八十五條、第四百八十六條、伊第三百二十一條

(理由) 自治ノ目的ハ未成年者ヲシテ漸次ニ其資産ノ管理ヲ練習セシムルニ在リ今未成年者ニシテ其目的ニ反シ其自治ニ堪ヘサル事實ヲ顯ハシタルハ自治ヲ廢止スルヲ必要トス○自治ヲ與ヘタル父若クハ母ハ其子ニ對シテ親權ヲ喪失セルヲ以テ自治ヲ廢止スルヲ得ス故ニ親族會ニ廢止ノ權ヲ與ヘタリ○婚姻ニ依テスル自治ハ其婚姻中ハ之ヲ廢止スルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ婚姻ノ原因ト爲リテ自治ヲ與ヘタルカ故ニ其原因ノ存スル限りハ其効果モ亦存セサルヘカラサルヲ以テナリ○自治ノ廢止ヲ受ケタル未成年者ハ再ヒ自治ヲ許サレスト雖モ法律ハ其結婚スルヲ禁スルヲ得ス既ニ結婚ヲ許スキハ此結婚ニ依テ再ヒ自治ヲ得ルニ至ルヘシ蓋シ是レ已ムヲ得サルノ結果ナリ

### 第十一章 禁治產

#### 第一節 民事上禁治產

第三百六十八條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ假令時々本心ニ

復スルヲアルモ治產ヲ禁セラル可シ(白第四百八十七條、佛第

四百八十九條、伊第三百二十四條)

(理由) 本條ノ禁治產ハ自治ノ未成年者若クハ自治ヲ得サル未成年者ニモ亦之ヲ適用ス可キ場合アリトス故ニ廣ク心神喪失ノ常況ニ在ル者ト云ヘリ○佛國民法ニ所謂「アンベシリテ」(白痴)「アマンス」(瘋癲)「フニリヨール」(狂病)等ノ語ハ醫學上適當ノ語ニアラサルヲ聞ク故ニ伊白民法ニ倣ヒ「アンサニテ」(アフリ)「失心」ノ語ヲ採用ス○本條ノ「可シ」ハ「ヘシ」ニ改ムルヲ要ス即チ其治產ヲ禁スルヲ得ルノ意ナリ

第三百六十九條 禁治產ハ血族、配偶者及ヒ檢事之ヲ請求スル

ヲ得

禁治產ヲ請求スル權利ヲ有スル一人ノ申立ニ依リ宣告セル裁判ハ他ノ總テノ人ニ對シ既判ノ効ヲ有ス(白第四百八十八

條佛第四百九十條第四百九十一條伊第三百二十六條

(理由) 本條第二項ニ於テ普通ノ裁判ノ効ニ反スル規定ヲ爲シタルハ失心者トシテ訴權ヲ受クル者ヲ保護セント欲スルニ在リ蓋シ屢是等ノ訴權ヲ受クルヤ不狂人モ遂ニ狂スルニ至ルノ恐レアルヲ以テナリ

第三百七十條 禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス

配偶者ハ當然互相ニ後見人ト爲ル可シ若シ配偶者ヲ欠クキハ禁治產者ノ父ヲ以テ後見人ト爲ス之ヲ欠クキハ親權ヲ行フヲ得ヘキ母ヲ以テ後見人ト爲ス

法律上ノ後見人ハ第二百七十一條ノ法式ニ從ヒ後見人ヲ指定スルヲ得

若シ法律上ノ後見人及ヒ遺託後見人存セス又後見人認免斥除若クハ罷黜セラレタルキハ後見ノ章ニ定メタル法式ニ從ヒ親族會ニ於テ後見人ヲ撰定ス(白第四百八十九條伊第三百

三十條佛第五百五條第五百六條第五百七條)

(理由) 配偶者ヲ以テ互相ノ當然ノ後見人ト爲スハ本草案第九十九條ノ原則ノ適用ナリトス

第三百七十一條 配偶者、尊屬親、卑屬親ヲ除クノ外何人タリモ

十個年以上禁治產者ノ後見ヲ擔任スルニ及ハス(白第四百九十條佛第五百八條伊第三百三十三條)

(理由) 未成年者ノ後見ハ其成年ニ達スルヲ以テ終了ノ期ト爲スヲ得ルト雖モ禁治產者ノ後見ハ禁治產者ノ死去セサル限りハ數十年ニ涉リテ之ヲ繼續セサルヘカラス故ニ白伊佛ノ例ニ倣ヒ十年ノ期限ニ制限セリ○配偶者尊屬親卑屬親ニ對シテハ情愛上ヨリ觀察スルモ制限ヲ設クヘキモノニアラス

第三百七十二條 未成年者ノ後見ニ係ル規定ハ禁治產者ノ後

見ニ適用ス

禁治產者ハ其財産ニ付未成年者ト同視セラルヘシ(佛第五百

九條、白第四百九十一條、伊第三百二十九條

(理由) 別ニ理由ヲ附スルノ必要ナシ

第三百七十三條 禁治産者ノ所得ハ療治其他本人ノ保養ノ爲

メニ之ヲ用ユ可シ

其疾病ノ性質ト其資産ノ狀況トニ從ヒ自宅ニ於テ療養セシ  
メ若クハ病院ニ入ラシムルハ親族會之ヲ決ス但シ瘋癲病院  
ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監置スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定  
ム(白第四百九十二條、佛第五百十條)

(理由) 本條第二項ノ親族會ヲシテ決セシムルノ規定ハ之ヲ結婚セル禁治産  
者ニ適用スルヲ得ス婚姻ニ關スル法律ハ夫婦間ニ相扶助スルノ義務ヲ命  
タルヲ以テ夫婦ノ一人カ禁治産ヲ受クルノ狀況ニ陷ルキハ之ヲ自宅ニ於テ  
療養セ若クハ入院セシムル等ハ他ノ一人ノ義務ナリ其權利ナリ此場合ニ於  
テハ決シテ親族會ノ口吻ヲ容ルヘキモノニアラス○但シ以下ハ狂病ニ罹レ

ル者ノ處分コシテ是レ公ケノ秩序ニ關スルモノナルヲ以テ特別法ニ之ヲ定  
ムヘキモノトス

第三百七十四條 禁治産者ノ後見人ハ其住居ニ使用スル家具

ヲ賣却ス可カラス(白第四百九十三條、伊第三百二條)

(理由) 禁治産者ハ多クハ成年者ニシテ其住家ヲ有シ其親族ヲ有スルヲ以テ  
家具ヲ賣却スヘキニアラス

第三百七十五條 法律上ノ後見人ハ第三百二十六條ニ定ムル

管理ノ狀況ヲ報告スルヲ要セス(白第四百九十四條、伊第三  
百三十一條)

(理由) 第三百二十六條ニ於テ尊屬後見人ニ報告ヲ釋免セリ本條ハ之ヲ配偶  
者タル後見人ニ推及シタルナリ

第三百七十六條 配偶者ナキ禁治産者ノ財産ヲ以テ其子孫婚  
姻若クハ營業ノ爲メ資財ヲ與ヘントスルキハ親族會之ヲ決

シ地方裁判所ノ認可ニ付ス可シ(白第四百九十五條、伊第三百三十四條、佛第五百十一條)

(理由) 配偶者アルキハ配偶者ヲ禁治産者ノ後見トス此場合ニ於テハ第三百七十三條ニテ説明シタル如ク親族會ノ干涉ヲ許スヘキニアラス然レモ禁治産者配偶者ヲ有セサルキハ其子孫ヲシテ家ヲ成サシムルノ方法ナカルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三百七十七條 禁治産者ハ禁治産ノ裁判宣告ノ當日ヨリ無能力者トス

裁判宣告後ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ハ當然無効トス  
後見人禁治産者其相續人及ヒ承權者ハ無効ヲ請求スルコトヲ得(白第四百九十六條、佛第五百二條、伊第三百三十五條)

(理由) 無能力トハ產ヲ治スルニ於テノミノ無能力ナリ故ニ禁治産者ハ婚姻ヲ爲シ庶出子ノ認知等ヲ爲スヲ得ヘシ○禁治産ノ裁判宣告ハ無能力ヲ推測

スルナリ此推測ハ反對ノ證ヲ舉グルコトヲ許サス故ニ第二項ノ行爲ハ當然無効トス○禁治産ノ繼續中ハ後見人禁治産者ヲ代表スルヲ以テ後見人無効ノ訴權ヲ有シ禁治産者治産ノ禁ヲ解カレタル後ハ躬ラ此訴權ヲ有ス

第三百七十八條 禁治産ノ裁判宣告前ニ係ル行爲ト雖モ其行爲ノ當時ニ於テ失心明確ナルキハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得  
若シ禁治産者ト結約シタル者其失心ノ狀況ヲ知リタルキハ假令失心明確ナラスト雖モ契約ヲ無効ト爲スコトヲ得(白第四百九十七條、佛第五百三條、伊第三百三十六條)

(理由) 本條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ行爲ハ當然無効ナルニアラスシテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得ヘシ之レ前條ニ所謂無能力ノ推測ナケレハナリ故ニ若シ結約者ハ失心者本心ニ於テ契約ヲ爲シタルコトヲ證明スルキハ其契約ハ有効ナルヘシ○失心明確ナル者ト契約ヲ爲ス人ハ其失心明確ナルノ事實ニ依テ其惡意ヲ證スルニ足レリ此惡意ノ証タルヤ契約者カ失心ノ狀況ヲ知リタ

ルキハ愈々明瞭ナルヲ以テ其契約ハ之ヲ無効ト爲スヲ得ヘシ但シ結約者カ  
失心者ノ本心ニテ爲シタルコトヲ証明スルキハ此限ニアラス

第三百七十九條 禁治産ノ原由罷ミタルキハ本人、其配偶者、親

族若クハ檢事ノ請求ニ依リ其禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解禁ノ裁判宣告後ニ非サレハ其權利ヲ回復スル

コトヲ得ス(白第四百九十八條、伊第三百三十八條、佛第五百十二條)

(理由) 本條ハ解禁ノ方法及ヒ其結果ヲ示シタルニ過キス事理明白コレヲ別

ニ理由ヲ附スルノ必要ナシ

### 第二節 准禁治産

第三百八十條 心神耗弱者、聾啞者、生盲者及ヒ浪費者ハ之ヲ保  
管ニ付スルコトヲ得  
保管人ハ配偶者三親等マテノ血族及ヒ尊屬タル姻族ノ請求

ニ依リ地方裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ指定ス(白第  
五百三條、伊第三百三十九條、佛第五百十三條)

(理由) 本條ノ各人ハ純然タル無能力者トシテ其治産ヲ禁スヘキニアラサル  
モ法律ノ須ラク保護スヘキ者タルヲ以テ之ヲ保管ニ付ス○所有者ハ其財産  
ニ關シテハ完全ノ權利ヲ有スルヲ以テ或人ニシテ其財産ヲ浪費スルモ社會  
ハ之ニ干渉スルノ權ナキカ如シ然レモ浪費者ニシテ其財産ヲ蕩尽シ赤貧ニ  
至リタルキハ或ハ親族ニ養科ヲ仰キ或ハ公共ノ貧院ニ入ルニ至ルヘシ是レ  
浪費者ニモ亦保管人ヲ付スル所以ナリ○保管人指定ノ請求ニ付血族ヲ三親  
等ニ止メ姻族ヲ尊屬親ニ止メタルハ養料ノ義務ヲ負担スル人ニシテ心神耗  
弱者ノ財産ニ干渉スルヲ許スノ趣意ニ出テタルナリ

第三百八十一條 第三百五十八條、第三百五十九條、第三百六十  
一條、第三百六十二條、第三百六十三條第一項、第三百六十五條  
及ヒ第三百六十六條ハ親族會ニ係ルモノヲ除クノ外之ヲ准

禁治産ニ適用ス但シ第三百六十五條ニ於ケル臨時保管人ハ  
地方裁判所之ヲ指定ス  
裁判所ハ狀況ニ從ヒ准禁治産者保管人ノ立會フニ非サレハ  
管理行爲ヲモ爲スヲ得スト裁判スルヲ得(白第五百四條、  
伊第三百三十九條、佛第五百十三條)

(理由) 准禁治産者ハ之ヲ自治ノ未成年者ニ准視ス但シ准禁治産者ニ關シテハ  
親族會ヲ開設セサルモノト爲シ親族會ニ係ルモノヲ除クノ外ノ語ヲ加ヘタ  
リ是レ本組合ノ議決ニ因ル然レモ起草者ハ此數語ヲ削除シ第三百三十條ニ  
掲クル處分行爲ニ關シテハ准禁治産者ヲ全ク自治ノ未成年者ニ同視シ尙ホ  
親族會ノ允許及ヒ裁判所ノ認可ヲ得サル可カラサルモノト爲サントス○本  
條第三項ニ於テ准禁治産者ニ管理行爲ヲモ禁スルハ稍ヤ過嚴ナルカ如シト  
雖モ不能力者ノ程度ニ隨ヒ之ヲ保護スル亦必要ノ事ナル可シ

### 第三百八十二條 准禁治産ノ原因罷ミタルキハ本人及ヒ第三

百八十條第二項ニ掲クル者ノ請求ニ依リ其禁ヲ解ク可シ(白  
第五百五條、佛第五百十四條、伊第三百四十二條)

(理由) 別ニ理由ヲ附スルノ必要ナシ

### 第三節 刑事上禁治産

(理由) 刑事上禁治産ノ結果ハ佛白二國ニ於テハ刑法中ニ二三ノ條文ヲ掲ケ  
タリ(佛刑法第二十九條第三十條第三十一條、白刑法第二十二條第二十三條第  
二十四條ヲ參看スヘシ)然レモ禁治産ノ民事上ノ結果ハ之ヲ民法ニ掲クヘキ  
モノ、如シ之レ起草者カ茲ニ刑事上禁治産ノ一節ヲ設ケタル所以ナリ伊太  
利刑法草案ハ左ノ規定アリ今參照ノ爲メ其條文ヲ左ニ掲ク

第四十五條 死刑、徒刑、懲役ニ處セラレタル者ハ其刑期間治産ノ禁ヲ受  
ケ民法ニ因リ禁治産者ニ適用スヘキ規則ニ從フ

第三百八十三條 刑事上禁治産ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ管理  
スルヲ得ス又遺囑ヲ以テスルノ外ハ其財産ヲ處置スルヲ



ヲ得ス

禁治産ノ効果ハ裁判確定ノ當日ヨリ生ス(白刑第二十二條)

(理由) 受刑者ニ其財産ヲ管理シ及ヒ其處分スルヲ禁スルノ目的ハ民事上禁治産ト相反ス民事上ノ禁治産ハ其人ヲ保護スルニ在リ刑事上ノ禁治産ハ其人ヲ罰スルニ在リ即チ刑事上禁治産ニ於テハ受刑者ハ其財産管理ノ自由ニ依テ服刑ノ苦ヲ免カレ或ハ脱獄ノ便ヲ圖ラントスルノ恐れアリ是レ刑ノ趣旨ニ反スルヲ以テ立法者ハ其財産ヲ管理及ヒ處置スルヲ禁スル所以ナリ○然レモ遺囑ニ依テ財産ヲ處置スルハ服刑ノ趣意ニ妨ケナキヲ以テ之ヲ許サ、ルヘカラス蓋シ遺囑ハ遺囑者カ何時ニモ取消スルヲ得ルモノニシテ決シテ遺囑贈與ヲ約シテ脱獄ヲ圖ルヲ得サレハナリ○民事上ノ其他ノ行為即チ婚姻ヲ爲シ庶出子ヲ認知スル等ノ如キハ刑事上ノ禁治産者ニ之ヲ禁スヘキコアラズ

第三百八十四條 刑事上禁治産者ニハ治産人ヲ付シ其財産ヲ

治セシム此治産人ノ指定及ヒ治産ノ方法ハ民事上禁治産者ノ後見ニ係ル條例ヲ適用ス

第三百七十六條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ同意ヲ得ルヲ要ス(白刑第二十三條、佛刑第二十九條)

(理由) 禁治産者ニ代リ其産ヲ治ムル人ナカレハカラス今白佛ノ例ニ依リ治産人ノ指定治産ノ方法等總テ後見ノ條例ヲ適用ス○第三百七十六條ノ場合ニ於テハ禁治産者ハ失心者ナルヲ以テ其意見ヲ問フヲ得ス然レモ本條ノ場合ニ於テハ禁治産者ハ心神明確ナルヲ以テ其同意ヲ得ルヲ要ス

第三百八十五條 禁治産者ノ所得ハ領收ノ都度貯金預所ニ預ケ刑期間ハ之ヲ禁治産者ニ與フルヲ得ス(白刑第二十四條、佛刑第三十一條)

(理由) 本條中「領收ヨリ預ケ迄」ハ之ヲ削除ス可シ蓋シ第三百二十五條ト重複スルヲ以テナリ○禁治産者ニ金額ヲ與フヘカラサルハ第三百八十三條ニ説

明セル趣意ニ同シ

第三百八十六條 刑事上禁治産ノ効果ハ主刑ノ終ニ於テ罷ム

(理由) 禁治産ハ附加刑ナルヲ以テ其主刑ノ終ニ於テ罷ムハ當然ノコトス

附録 瘋癲者ノ假管理

(理由) 瘋癲者ニシテ公ケノ秩序ヲ害シ社會ニ危険ヲ與フル者アルキハ或ハ親族ノ請求ニ依リ或ハ其請求ヲ待タズシテ官衙ヨリ之ヲ瘋癲病院ニ入レ若クハ自宅ニ監置セシムルコトヲ要ス是ヲ以テ公私ノ瘋癲病院ノ組織入院ノ手續及ヒ自宅監置ノ方法等ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定セサルヘカラス○禁治産ヲ受ケタル者ト雖モ或ル場合ニ於テハ之ヲ病院ニ入ラシムルノ必要アルヘキモ今茲ニ規定スル所ノモノハ禁治産ヲ受ケサル者ニ關ス○佛國民法ニ於テハ千八百三十八年六月三十日ノ法律ヲ以テ瘋癲病院ノ組織入院ノ方法等ヲ規定セリ自宅監置ノ方法ハ佛國ニ於テ之ヲ見スト雖モ本邦ニ於テハ瘋癲病院ノ制未ダ完全ナラサルヲ以テ此方法ヲ規定スヘキモノ、如シ

第三百八十七條 禁治産ヲ受ケサル瘋癲者アルキハ配偶者親族及ヒ檢事ハ特別法ニ定ムル手續ニ從ヒ地方裁判所長ノ允許ヲ得テ之ヲ瘋癲病院ニ入レ若クハ自宅ニ監置スルコトヲ得

此場合ニ於テハ裁判所ハ關係人及ヒ檢事ノ請求ニ依リ會議局ニ於テ直ニ假管理人ヲ指定ス(佛千八百三十八年六月三十日法律第三十二條)

(理由) 未ダ禁治産ヲ受ケズシテ病院ニ入り若クハ自宅ニ監置セラレ、者ノ財産ニ關シ其管理人ナカルヘカラス然レモ其管理タルヤ入院若クハ監置中ニ止ルヲ以テ之ヲ假管理人トス

第三百八十八條 瘋癲病院ニ入り若クハ自宅ニ監置セラレタル者ハ其入院若クハ監置ノ間ハ其財産ヲ管理シ及ヒ處置スルコトヲ得ス(白第四百九十九條)

(理由) 本節ノ瘋癲者ハ其全治ノ望ミアル者ナルヲ以テ只其入院若クハ監置

中ノミ無能力ナリトス

第三百八十九條 假管理人ハ一切ノ權利行爲ニ於テ瘋癲者ヲ代表シ禁治産者ノ後見人ト同視セラレヘシ但シ必要ナルカ若クハ明瞭ニ有益ナル行爲ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(白第五百條)

(理由) 瘋癲者ノ入院若クハ監置中ハ禁治産者ト異ナルヲナシ故ニ假管理人モ亦之ヲ後見人ト同視ス然レモ其管理タルヤ假管理ナルヲ以テ但書ノ如ク規定セサルヲ得ス

第三百九十條 瘋癲者入院若クハ監置中ニ爲シタル行爲ハ本人其承權者及ヒ假管理人ノ之ヲ訟撃スルヲ得  
裁判所ハ瘋癲者入院若クハ監置中ニ行爲ヲ爲シタルノ證據アルキハ其行爲ヲ無効ト爲スヲ得但シ對手人ハ瘋癲者本心ニテ行爲ヲ爲シタルヲ證明スルキハ此限ニ在ラス(白第

五百一條、佛千八百三十八年六月三十日ノ法律第三十九條及ヒ民第千三百四條)

(理由) 瘋癲者ノ入院若クハ監置中ニ爲シタル行爲ヲ訟撃スル權ヲ本人及其承權者(即チ債主、相續人)ニ與フルハ普通法ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス○假管理人ハ瘋癲者ヲ代表スルヲ以テ訟撃ノ權ヲ有スルハ當然ナリ○普通ノ場合ニ於テハ若シ瘋癲者ノ行爲ヲ訟撃セントスルキハ訟撃者ハ瘋癲者カ實ニ瘋癲ノ際ニ之ヲ爲シタルヲ證明セサルヘカラス本條ノ場合ニ於テハ訟撃者ハ瘋癲ヲ證明スルニ及ハスシテ只瘋癲者カ入院若クハ監置中ニ爲シタルヲ證明スルヲ以テ足レリトス然レモ裁判所ハ此證明ニ依テ必ス之ヲ無効ト爲スコアラスシテ之ヲ無効ト爲スヲ得ルナリ故ニ若シ對手人カ瘋癲者ノ本心ニテ爲シタルヲ證明スルヤ之ヲ無効ト爲スヘカラス是レ純然タル禁治産者ト本節ノ瘋癲者ト異ナル所ニシテ禁治産者ノ行爲ハ禁治産ノ裁判宣告後ニ之ヲ爲シタルノ證明ヲ以テ當然無効ト爲リ本節ノ瘋癲者ノ行爲

ハ之ヲ無効ト爲スヲ得ルナリ  
第三百九十一條 瘋癲者ノ無能力ハ裁判所假管理ヲ解ク時ニ  
罷ム

假管理ハ入院若クハ監置ヲ求メタル原由ノ罷ムキハ特別法  
ノ手續ニ從ヒ之ヲ解クヲ得(白第五百二條)

(理由) 假管理ハ入院若クハ監置ヲ求メタル原由ノ罷ムキニ之ヲ解ク其原由  
ノ罷ムキトハ即チ瘋癲病ノ全治スル證明ヲ爲セルキナリ此證明ハ醫師ノ診  
斷書ニ基キ關係人之ヲ爲スヲ得ヘシ而シテ此等ノ手續ハ之ヲ特別法ニ讓ラ  
サル可ラス

## 第十二章 戸主及ヒ家族

(理由) 我邦戸主家族ノ習慣ハ千古ノ遺風ニシテ之ヲ保存スヘキハ固ヨリ當  
然ナリ然ルコ法律上戸主家族ナルモノハ如何ナル人ヲ指スヤ又戸主タルノ  
資格ハ家督相續ノ外如何ナル場合ニ於テ獲得スルヤ又家名ハ如何ナル場合  
ニ於テ興亡スルヤ示サ、ル可カラス是レ本章ノ設置アル所以ナリ

第三百九十二條 獨立シテ一家ヲ成ス者ヲ戸主ト爲シ其家内  
ニ在ル親族ヲ家族ト爲ス

戸主及ヒ家族ノ婦ハ其戸主ノ家族ト爲ス

(理由) 本條ハ戸主トハ生計上家居ノ構設即チ一世帯ヲ統括スルト否トニ拘  
ラス獨立シテ一ノ姓氏ヲ公稱シ戸籍ヲ特有シ眷屬ヲ董督シ社會ニ對シ其家  
ヲ代表スル者ヲ云ヒ家族ハ戸主タル者ノ戸籍ニ附屬スル血屬ヲ云フヲ明  
ニシ又戸主及ヒ家族ノ婦ハ固ヨリ其夫ニ隨從スヘキモノナルヲ以テ血屬ニ  
アラスト雖モ亦之ヲ家族ト爲スノ義ヲ示サンカ爲ニ設ケタルナリ(第三百九十四條)



リ但他日父母ノ認知ヲ受ケタルモハ新立シタル家ヲ廢シ父母ノ籍ニ從屬スルモ又ハ新立ノ儘一家ヲ維持スルモ本人ノ望ニ任スルノ意ナリ

### 第三百九十六條 第二百廿九條第一項ニ記載シタル養子ハ一家ヲ新立シタルモノトス

(理由) 第二百廿九條第一項ニ婦ノ養子ハ其養母ノ實家ノ氏ヲ稱シ夫ノ家ニ入ラストアリ此種ノ養子ハ曾テ本邦ノ習慣ニ無キ所ニシテ財産相續ノ必要ヨリシテ新ニ設ケタル制度ナルヲ以テ本條モ亦隨テ新設セサルヲ得ヌ何トナレハ此種ノ養子ハ實家ヲ離レ養母タル婦ノ家ニ入ルヘキナレハ亦其婦ノ夫タル者ノ家族ニ入ルヲ得サルモノナレハ已ムヲ得ヌ一家ヲ新立シタルモノト爲サ、ルヲ得サレハナリ

### 第三百九十七條 特例婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻ノ繼續中其夫ヲ以テ戸主ト爲ス

(理由) 從來本邦ニ於テ女戸主タル者夫ヲ迎ヘタルモハ其夫ニ戸主ヲ讓ルノ

例ナルヲ以テ其例ヲ襲用シ特例婚姻ヲ爲セタルモハ夫ヲ以テ戸主ト爲スコキヲ本條ニ示シタルナリ故ニ他日事故ヨリ婚姻解離スルコアルモハ其婦復ヒ戸主ト爲ルヲ得ルナリ

### 第三百九十八條 戸主失踪ノ宣告ヲ受ケタル後其家督ノ占有ヲ得タル者ハ其占有中戸主ト爲ス

(理由) 戸主失踪後其財産相續ノ事ハ失踪ノ章ニ規定アルヲ以テ差支無シト雖モ久シク戸主ヲ定メサルモハ一家整理上即チ家族ノ監督又ハ住所變更等ニ於テハ種々ノ差支ヲ生スルヲ以テ本條ニ於テ其家督占有者ヲ戸主ト爲スヲ示シタルナリ但此戸主ハ家督占有中トアルヲ以テ失踪戸主復歸スルモハ其届出ヲ爲シタルト同時ニ息止スルハ勿論ナリ

### 第三百九十九條 失踪ノ宣言ヲ受ケタル單身戸主ノ亡失若クハ最後音信ノ日ヨリ滿三十年ニ至リ又ハ其齡滿百年ニ至ルマテ家督相續ノ占有者無キモハ當然絶家トス

(理由) 單身戸主失踪ニ係ル財産上ノ處分法ハ華テ失踪編ニ在リト雖モ無形ナル家名ニ至リテハ其明文ナキヲ以テ本條ノ期限ヲ過キ家督相續占有者無キハ絶家トスルヲ明示シタルナリ

第四百條 戸主死去ノ後家督相續ヲ爲ス者無キハ當然絶家トス

此場合ニ於テ其家族ハ各一家ヲ新立シタルモノト看做ス戸主廢家シ若クハ國民分限喪失シタル場合ニ於テモ亦同シ

(理由) 此民法ニ於テハ相續ノ拋棄ヲ許シタルヲ以テ戸主死亡ノ後其相續ニ權利ヲ有スル者其相續ヲ望マス第千六百九條末項ノ期間ニ於テ拋棄ヲ爲シタルキ其家名ハ當然絶滅トナルナリ而シテ其家名ノ正統ハ絶滅スト雖モ其家ニ家族アルキハ家族各其姓氏ヲ稱用スヘキニ依リ法律上ニテハ新ニ一家ヲ創立シタルモノト做サ、ルヲ得サルナリ又戸主タル者其戸主ヲ止メテ他家ノ家族ト爲ルモ其家族ハ之ヲ望マサルキ又第一編第二章第二節ニ記載シ

タル場合ニ於テ戸主ハ日本人タルノ分限ヲ喪失スルモ家族ハ之ヲ喪失セサルキハ其家族モ亦各一家ヲ創立シタルモノト爲サ、ルヲ得サルナリ(第千六百九條第千六百二十八條參看ス可シ)

第四百一條 家督相續ニ因リ戸主ト爲リタル者ハ他家ノ入夫ト爲リ又ハ婦ト爲ルヲ得ス

(理由) 此條ハ第二百二條及ヒ第千五百三十六條ノ原則ニ應シテ設定シタルナリ家督相續ヲ爲シタル者他家ノ入夫トナリ又ハ他家ニ嫁スルキハ其既ニ家督相續シタル家名ハ絶滅スルニ至ルヘシ是則チ家督相續ヲ承諾シタル原旨ニ矛盾スルヲ以テ本條ノ如ク制定シタルモノトス

第十三章 住所

(理由) 人ノ社會ニ棲息スル或ハ此處ニ在リ或ハ彼處ニ在リテ去留常ナラズト雖モ政治上行政上及ヒ裁判上ニ於テ其定居ト看做スヘキ場所ヲ定ムルノ必要アリ町村郡縣ノ區劃ヲ定ムルト雖モ其區劃内ニ於テ支配ヲ受ケ其地ノ

諸官廳ノ管轄ニ服シ權利ヲ有シ義務ヲ負フ所ノ住民ノ定マルアルニ非サレハ施政ノ不便云フヘカラス人民相互ノ關係上ニ於テモ其間諸般ノ通知ヲ爲スノ必要アルモノコシテ若シ之ヲ本人ノ手裏ニ爲スヲ要スルモハ其事太ク困難ニシテ義務者惡意ナレハ如何モスヘカラサルニ至ルヘキヲ以テ本人不在ノ時之ヲ代表スヘキ場所ヲ定メサルヘカラス此ノ如ク公私ノ爲メ無數ノ必要アルヲ以テ法律上各人ノ定居ヲ定メ之ヲ稱シテ住所ト云フ

住所ノ事項ハ佛國舊法ノ時代ニ於ケルカ如ク全國一致ノ法律ナキ國ニ於テハ甚ク緊要ナルモノトス米國及ヒ獨逸ノ如キ是レナリ是等ノ國ニ於テハ數多ノ法律國內ニ行ハレ其法律ハ成年ノ時期、相續ノ順位、遺囑ノ能力等重要ノ点ニ於テ其規定ヲ異ニシ各人其住所ノ法律ニ依リ支配セラレヘキヲ以テ住所ノ重要ナルヤ知ルヘシ是レ法例第十三條ノ說明中ニ於テ既ニ論究シタル所ナリ然レモ此民法ハ帝國全般ニ施行シ法律ノ一致ヲ成就スルノ目的ニテ各人ノ住所ニ依リ其服從スヘキ法律ヲ異ニスルノ舊制ヲ變更スルカ故ニ

住所ノ重要ハ行政法又ハ訴訟法ニ屬シ民法ニ於テハ大ニ之ヲ減少スヘシ然レモ全ク無用ナルニ非スシテ尙ホ數多ノ效果ヲ存ス例之ハ義務ハ義務者ノ住所ニ於テ辨濟スルヲ原則トシ身分證書ハ住所ノ帳簿ニ之ヲ記載シ親族會ハ本人ノ住所ニ之ヲ招集スルノ類ノ如シ故ニ民法中住所ノ事ヲ規定スルハ其所ヲ得サルモノト云フヘカラス

#### 第四百二條 何人ト雖モ私權ノ行用ニ關シテハ其生計ノ中心タル所ノ地ニ其住所ヲ有ス(佛第二百二條、伊第十六條)

住所ニハ法定ノモノアリ又隨意ノモノアリ

(理由) 本條ハ住所ノ定義ヲ示スモノニシテ佛國法ノ規則ニ少シク修正ヲ加ヘタルニ過キス佛國法ハ總テ佛國人ノ住所云々ト爲スニ由リ外國人ハ佛國ニ於テ住所ヲ定ムルヲ得ヘキヤ否ヤニ付議論アリ立法上ヨリ見レハ外國人日本ニ於テ住所ヲ有スルヲ允許スヘキハ勿論ナリ日本ニ其居住ヲ定メ其生計ノ中心ト爲サント欲スルモハ何故ヲ以テ住所ヲ有スヘカラサルカ草案



ハ外國人コ一切ノ私權ヲ享有スルヲテ允許スレハ其住所ヲ定ムルヲ禁スルノ理由アルヘカラス故ニ汎博ノ語ヲ用ヒ何人ト雖モ其住所ヲ有スヘキモノトナシタリ此規則ハ現行ノ戶籍法ニ反スルハ勿論ナリ戶籍法ハ日本人取締ノ法律ナルカ故ニ居留外國人ハ我國ニ其本籍ヲ有スルヲ得サルモノナリ然レモ條約改正ノ日ニ至ラハ外國人我國ノ法律ニ服從スヘキヲ以テ又我國ノ法律ニ從ヒ私權ヲ享有スヘク從テ其住所ヲ帝國ニ有スルヲ得ヘシ民法ハ私權ノ行用ニ關シ住所ノ事ヲ規定スルモノニシテ政權ノ行用ニ關スル住所ハ行政法ニ規定スル所ナリ例ヘハ市町村制ニ於テ公民ノ權利執行ノ條件ヲ規定スルカ如シ是等ハ特別ノ住所ニ關スルヲナレハ之ヲ度外ニ置ク爲メ法律中特ニ私權ノ行用ニ關シテハノ一句ヲ加ヘタリ住所ハ各人其生計ノ中心ヲ有スル地ニ在ルモノニシテ此定義ハ現行戶籍法ト牴觸スルカ如シト雖モ大ニ然ラス住所ハ法律上ノ關係ニシテ其現在ノ住所ト異ナリ住所ハ其變更常ナキモノニシテ住所ハ此變更ニ拘ラス各人ノ定

居ヲ設クルノ目的ナレハ其事實ト相違スルハ必然ノ事ナリ戶籍法ニ於テモ其初メ各人ノ貫屬ヲ定メタルハ其生計ノ中心ヲ以テ本籍ト爲シタルモノナレモ今日ニ至リ其事實ト相違スルハ怪ムニ足ラサルナリ若シ各人ノ住所ヲシテ常ニ其現在ノ住所ニ在ラシメハ特ニ住所ヲ設クルノ必要ナカルヘシ然レモ住所ト居所ト相異ナルハ其弊害ナキコアラサレハ勉メテ之ヲ同一ナラシムルヲ便宜トス我國ノ戶籍法ハ少シク窮屈ニ失シ此弊害ヲ致スモノアリ此點ハ第四百五條ニ至リ之ヲ論究スヘシ何人ト雖モ其住所ヲ有セサルハナシト雖モ其住所ハ或ハ日本ニ在リ或ハ外國ニ在ルコアルヘシ若シ外國ニ生計ノ中心ヲ定メタルキハ日本ノ住所ヲ失フヘシ然レモ之カ爲メ國民分限ヲ失フニアラサルハ勿論ナリ此點ハ法文ニ明示セスト雖モ疑ヲ容ルヘカラス然レモ是レ現今ノ戶籍法ヲ改正スルモノナリ現今ニテハ日本人其本籍ヲ外國ニ移スヲ得サルハ勿論ナリ然レモ日本

法ノ如キ外國人ニ民權ノ享有ヲ許サスシテ特ニ佛國ニ住所ヲ定ムルノ免許ヲ得タル者ニ限り之ヲ享有スルヲ允許セリ故ニ我國ノ商人住所ノ免許ヲ得ルハ最モ便益ナルヘキヲ以テ法律ヲ以テ之ヲ禁ス可カラズ又別ニ之ヲ禁スルノ理由アルヲ見ス(佛國民法第十三條)

住所ハ生計ノ中心ニ在ルモノナレハ一個人ニシテ同時ニ二箇ノ住所ヲ有スルヲ得ヘカラス若シ二箇以上ノ住所ヲ有スルヲ得ルハ錯誤ヲ生シ詐欺ヲ行フノ弊害ヲ來タスヘシ外國法ノ中二箇ノ住所ヲ有スルヲ允許スルモノアレハ其弊害アルモノミナラス戸籍法ニ反スルヲ以テ敢テ之ニ從ハス若シ數多ノ商店又ハ住家ヲ有スルハ何レヲ住所ト決定スヘキヤハ全ク事實上ノ問題ニシテ裁判官ノ査定ニ放任スルモノトス然レモ民商會社ニ付テハ二箇以上ノ住所ヲ有スルヲ得ストノ原則ハ實際ノ不都合ナキコアラズ民商會社ハ其營業所ヲ有スル地ノ裁判管轄ニ服スヘシト雖モ全國ニ其營業ヲ及ホシ各地ニ支店又ハ出張所ヲ有スルハ之ヲ其住

所ニ准スヘキカ佛國裁判例ニ依レハ會社ハ其本店ニ限ラス數多ノ營業所ヲ有スルハ之ヲ其住所ニ准セリ而シテ其出張所ヲ以テ營業所ト看做スヘキヤ否ヤハ事實上ノ問題トナセリ此判決例ハ他ノ不都合ナキコアラズ何トナレハ出張所又ハ支店ノ支配人ハ其會社ヲ代表スルノ權利アルヤ否ヤ曖昧ニ屬スレハナリ佛國民法ハ會社ノ進歩ヨリ生スヘキ今日ノ狀況ヲ豫想セサリシカ故ニ更ニ此點ヲ規定セスト雖モ特別ノ條則ヲ設クルヲ要ス予カ意ヲ以テセハ會社ハ其支店ヲ設ケタル地ニ其住所ヲ撰定シタルモノト看做スモノト規定スルノ最モ適當ナラント信ス商法又ハ訴訟法ニ於テ既ニ此點ヲ規定シアルナラン何人ト雖モ其住所ヲ有セサルハナク而シテ其住所ハ隨意ニ之ヲ撰定スヘシト雖モ躬ラ之ヲ撰定スルヲ得サル者アリ此場合ニ於テハ法律ヲ以テ其住所ヲ定ム故ニ住所ニハ法定ノモノアリ又隨意ノモノアリ

第四百三條 家督相續ヲ爲シ戸主ト爲ル者ハ其前戸主ノ住所

ヲ以テ其住所ト爲ス

家族ハ能力者タリト雖モ其戸主ノ住所ヲ以テ其住所ト爲ス  
(理由) 本條ハ法定ノ住所ヲ規定スルモノニシテ專ラ慣習ニ從フ佛國民法第  
百八條ト比較セハ容易ニ其差異ヲ知ルヲ得ヘシ第一項ハ家督相續ノ場合ヲ  
規定シ相續人ハ死者ノ住所ヲ以テ其住所ト爲スモノトナセリ是レ家督相續  
ノ性質ニ適當スヘキカ如シ何トナレハ死者ニ代リ其家ヲ繼クモノナレハナ  
リ若シ相續人成年者タルキハ隨意ニ其住所ヲ變更スルヲ得ヘキヲ以テ此規  
則ハ別段緊要ナラスト雖モ相續人ノ未成年ナルカ又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル  
場合ニ於テハ死者ノ住所ヲ以テ其住所ト定ムルモノナリ佛國法ニ依レハ未  
成年者及ヒ禁治産者ハ其後見人ノ住所ヲ以テ其住所ト爲スモノナリ何トナ  
レハ諸般ノ呼出通知等ヲ知ルヲハ後見人其職務ヲ盡ス爲ノ緊要ニシテ之ヲ  
未成年者又ハ禁治産者ノ許ニ送達スルモ後見人之ヲ知ルヲ得サレハナリ然  
レモ我國ノ慣習ニ依レハ未成年者又ハ禁治産者ト雖モ戸主ト爲ルキハ固有

ノ住所ヲ有スルモノニシテ後見人ノ爲メ少シク不便ナルヘシト雖モ姑ク此  
慣習ヲ存スルヲト爲シタリ故ニ法文中「未成年者又ハ禁治産者ナルキハ」ノ一  
句ヲ加フルヲ良シトス

第二項ハ家族ノ住所ヲ定ムルモノニシテ家族ハ成年者タルキト雖モ其戸主  
ノ住所ヲ以テ自己ノ住所ト爲スモノナリ故ニ婦ハ其夫ノ住所ヲ其住所ト爲  
シ子孫ハ其父祖ノ住所ヲ其住所ト爲スヘシ此規則ハ佛國法ト相同シト雖モ  
成年ノ子ト雖モ其父ノ住所ヲ其住所ト爲スヲハ佛國法ト異ナレリ佛國法ニ  
依レハ法定ノ住所ハ未成年中ニ限り成年ニ至リ父ト同居スル子ハ隨意ニ其  
住所ヲ父家ニ定メタルモノト看做セリ  
佛國法ニ依レハ尙ホ二種ノ法定住所アリ第一、終身官ニ奉職スルキハ其奉職  
スル地ニ其住所ヲ移轉シタルモノト看做セリ何トナレハ是レ其生計ノ中心  
タレハ其他ノ地ニ住所ヲ有スルヲ理解スヘカラサレハナリ然レモ終身官  
ニ非スト雖モ總テ官吏ハ其奉職スル地ニ生計ノ中心ヲ有スルニ非スヤ且ツ

終身官ト雖モ轉任無數ニシテ其奉職ノ地ニ住所ヲ定ムルノ意思アリト看做スヘカラス鐵道ノ便漸ク開クルニ至レハ奉職ノ地ニ住所ヲ移サスト雖モ別ニ其職務ヲ妨ク可ラス故ニ關伊白諸國ノ法律ニ於テモ皆終身官ノ爲メ法定ノ住所ヲ廢シタリ我國ニ於テ新ニ之ヲ設クルノ理由アルヘカラス第二他人ノ家ニ使役シ其家ニ居住スル成年者ハ其主人ノ住所ヲ以テ其住所ト爲スモノト規定セリ蓋シ僱婢等ハ別ニ生計ノ中心ヲ有スルニ非スシテ使役ハ即チ其生計ナリ若シ主人ノ住所ヲ其住所ト爲サ、ルキハ其住所ヲ知ルコト極メテ困難ナルヘキヲ以テナリ然レモ此法定住所ハ實際ノ適用太ク稀ナルノミナラス我國ノ慣習ニ依レハ成年者ニシテ他家ニ使役スル者ト雖モ其本籍ヲ保有スルモノト看做セリ是レ有名無實ニ流ル、ノ不便ナキニ非サレモ暫ク之ヲ存スルコト爲シタリ

第四百四條 法定ノ住所ハ法律ノ之ヲ附與シタル理由ト共ニ止息ス

然レモ法定ノ住所止息シタル後反對ノ意ヲ申述セサル者ハ同處ニ住所ヲ定メタルモノト推測ス

(理由) 第一項ハ法定住所ノ止息スル場合ヲ示スモノニシテ少シク學說ニ流ル、カ如シト雖モ第二項ノ前置トシテ之ヲ設クルハ多少ノ利益アルヘシ法定住所ハ其理由ト共ニ止息スルハ當然ノコトナリ未成年又ハ禁治產ノ戶主成年ニ至リ又ハ禁治產ヲ解キタルキ若クハ家族一家ヲ成スルハ法定住所ハ止息スヘシ然レモ其止息シタル後他ニ住所ヲ定メサルキハ同所ニ其住所ヲ定ムルノ意思ナリト推測スルハ必要ノコトナリ之ヲ稱シテ原住所ト云フ是レ何人ト雖モ其住所ヲ有セサルハナシトスル所以ナリ現ニ其住所ヲ有セサル者ト雖モ其原住所ヲ有セスハアラズ或ハ何人モ原住所ノ何クニ在ルヤチ知ル能ハスト雖モ其存スルハ勿論ナリ

第四百五條 戶主其生計ノ中心ヲ他處ニ定ムルノ意思ヲ以テ其居所ヲ移スルハ住所ノ變更ヲ生ス

此意思ハ其居住セント欲スル地ノ身分取扱役所ニ爲シタル  
申述ヲ以テ其證トス  
民事上禁治産ヲ受ケタル戸主ノ住所ハ後見人本條ノ規則ニ  
從ヒ之ヲ變更スルヲ得

(理由) 本條ハ住所ノ變更ヲ規定スルモノトス戸主ニ非サレハ固有ノ住所ヲ  
有セサルニ由リ住所ヲ變更スルノ場合ヲ生スヘカラス戸主ハ隨意ニ其住所  
ヲ變更スルヲ得レト戸主ノ中無能力者ハ其意思ヲ表スル能ハサルヲ以テ其  
住所ヲ變更スルヲ得ス

住所ノ變更ハ二箇ノ條件完備スルヲ要ス第一、事實上ノ條件即チ其居所ヲ他  
處ニ移スル第二、意思上ノ條件即チ生計ノ中心ヲ他處ニ定ムルノ意アルヲ是  
レナリ故ニ他處ニ轉居スルヲ要スルノミナラス其處ニ生計ノ中心ヲ定ムル  
ノ意アルヲ要ス此意思ハ如何ニシテ之ヲ證明スヘキカ即チ其轉居セントス  
ル身分取扱役所ハ其旨ヲ陳述スヘキモノトス佛國法ハ二重ノ陳述ヲ要求セ

リ即チ其去ラントスル地ノ身分取扱役所及ヒ其移ラントスル地ノ身分取扱  
役所ニ住所變更ノ意思ヲ陳述スヘキモノトナセリ然レト實際ヲ察スルニ初  
メヨリ住所ヲ移スノ意アルヲ轉居スルハ極メテ稀ナリ轉居ノ後土地ノ其  
利益營業等ニ相當スルヲ以テ之ニ住所ヲ移スニ至ルモノナリ故ニ住所ヲ定  
メントスル地ノ身分取扱役所ニ意思ノ陳述ヲ爲セハ充分ト爲シタリ佛國法  
ニ依レハ明瞭ニ意思ヲ陳述セスト雖モ其意思ハ事實ノ狀情ヨリ生スルヲ得  
ヘキモノト爲セリ住所ノ變更ハ皆暗黙ノ意思ニ由ルモノニシテ一個人ノ住  
所ヲ定ムルニ付屢論争ヲ生スルノ弊アリ我國ノ戶籍法ハ明瞭ノ陳述ヲ要ス  
ルカ故ニ住所ノ曖昧ナルヲ稀ナリト雖モ却テ他ノ不都合ヲ生ス住所ノ變更  
ハ明瞭ノ陳述ヲ要シ人民敢テ此手續ヲ爲サ、ルヲ以テ住所ハ次第ニ事實ト  
相違シ生計ノ中心ヲ以テ住所ト思考スルヲ得スヤテ第三者ハ非常ノ困難ヲ  
見ルモノナリ

戸主無能力者タルハ其住所ヲ變更スルヲ得スト雖モ實際之ヲ變更スルノ

必要ヲ生スルコトアルヘシ例ヘハ其住家焼失シテ他處ニ轉居セントスルカ如シ此場合ニ於テハ後見人ヲシテ之ヲ變更セシムヘキモノトナセリ尤モ法文ニハ禁治産者ノミヲ記載スレバ之ヲ未成年者ニモ適用スルヲ至當ナラント信ス

第四百六條 家族タル者一家ヲ成スルハ其生計ノ中心ヲ定ムル地ノ身分取扱役所ニ其意見ヲ申述シテ其住所ヲ定ムルヲ得

外國人モ本條ノ規則ニ從ヒ其住所ヲ帝國內ニ定ムルヲ得  
(理由) 本條ハ住所設定ノ場合ヲ規定スルモノコトシテ家族一家ヲ成スルハ其固有ノ住所ヲ定ムルヲ得ヘシ其手續ハ身分取扱役所ニ其意思ヲ陳述スルコト在リ外國人我國ニ其住所ヲ定メントスルキハ本條ニ從ヒ其意思ヲ陳述スヘキモノトス

第四百七條 左ノ場合ニ於テハ居所ハ住所ニ代用ス

一 一個人ノ住所全ク知レサルキ  
二 帝國ニ住所ヲ定メサル外國人ニ關スルキ

(理由) 住所ト居所トノ別ハ前陳述シタル所ニシテ本條ハ居所ノ效果ヲ規定スルモノナリ居所ハ一般ニ法律上ノ效果ヲ生セスト雖モ本條ハ其例外ナリ其一ハ住所ノ知レサル場合ナリ何人ト雖モ法律上其住所ヲ有セサルハナシト雖モ其何クニ在ルヤ得テ知ルヘカラサルキハ殆ント住所ナキ者ト異ナルヲナシ又其一ハ外國人ニ關スル場合ナリ外國人ハ通常其住所ヲ帝國ニ有セサルヘシ是等ノ場合ニ於テハ居所ハ住所ニ代用スルモノトス此規則ハ少シク學說ニ流ル、カ如シト雖モ關伊民法ノ例ニ倣ヘリ

第四百八條 何人ト雖モ或ル行爲又ハ事務ノ爲メ臨時住所ヲ撰定スルヲ得

又法律ハ或ル場合ニ於テ臨時住所ノ撰定ヲ命スルコトアリ(佛  
第一百十一條、伊第十九條)

(理由) 住所ノ最モ重要ナル効果ハ裁判管轄ヲ定ムルニ在リテ呼出狀ハ之ヲ住所ニ發スヘキモノナリ然レモ此規則ハ場合ニ由リ不都合ヲ生スルコトアリ例ヘハ双方ノ住所相隔タル場合ノ如シ是等ノ場合ニ於テハ双方又ハ一方ハ近接便宜ノ地ニ其契約ノ執行ニ關シ臨時住所ヲ撰定スルヲ得ルモノトス又場合ニ由リテハ法律ヲ以テ臨時住所ノ撰定ヲ命スルコトアリ例之ハ第六十五條ノ如シ

#### 第四百九條 臨時住所ノ撰定ハ明瞭ナルコトヲ要シ合意ト同證書又ハ別證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

其撰定ハ其地ト人トヲ指シ若クハ單ニ其地ノミヲ指シテ之ヲ爲スコトヲ得

債務者ノ普通ノ住所ニモ亦其撰定ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ合意ヲ以テ臨時住所ノ撰定ヲ爲ス方法ヲ規定スルモノナリ然レモ第一項ヲ除クノ外別ニ必要ナラサルヲ以テ之ヲ削除シ第一項ヲ前條第

二項ニ追加スヘシ住所ノ撰定ハ管轄ノ爭論ヲ避クルニ在ルヲ以テ其明瞭ナラサルモハ其効用ヲ爲サス故ニ必ス筆記ヲ以テ之ヲ約スルヲ要ス佛國ニ於テハ暗黙ノ撰定ヲ允許スルノ說アレモ今之ニ從ハス

#### 第四百十條 臨時住所ノ撰定ハ債權者ノ利益ノ爲メニ爲シタル者ト推測シ普通ノ住所ヲ除斥セス但シ債務者ノ專一又ハ

共同ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲シタルコトノ證據アルモハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ臨時住所ノ撰定ヲ爲シタルモ普通住所ハ如何ナル効果ヲ有スルヤヲ規定スルモノナリ住所ノ撰定ハ權利者ノ利益ノ爲メ通常之ヲ爲スモノナレハ之ニ一ノ權能ヲ與フルモノニシテ之ヲ束縛スルモノニ非ス故ニ權利者ハ普通住所ニ於テ起訴スルノ權利ヲ失フヘカラス然レモ若シ義務者ノ利益ノ爲メニ此撰定ヲ爲シタル證據アルモハ普通住所ニ於テ起訴スルヲ得サルヤ勿論ナリ(訴訟法第五十九條)

法律ハ臨時住所ノ撰定ヨリ生スル効果ヲ明示セス是レ伊民法ニ倣ヒ佛國法ト異ナル所ナリ住所撰定ノ目的ハ裁判管轄ヲ變更スルコ在リト雖モ是レ双方ノ合意ニ由ルモノナレハ隨意ニ其効果ヲ増減スルヲ得ルモノニシテ必ス裁判管轄ヲ變更スルコアラズ故ニ其効果ハ全ク契約書ノ旨趣文面ニ從フヘキモノニシテ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ス若シ其効果ヲ指定セント欲セハ佛國法ノ如ク執行ニ係ル送達及ヒ訟求ハ撰定住所ニ之ヲ爲スヘシト定メ之ニ但書ヲ加ヘ契約ヲ以テ其効果ヲ増減スルヲ得ヘキコトヲ明示スヘシ

#### 第十四章 失踪

(理由) 失踪ハ生死ノ分明ナラサル人ノ身分ヲ云フモノニシテ權利ノ行用ニ關スル普通ノ條件ヲ變更スルモノトス刑事上ノ禁治産及ヒ民事上ノ禁治産ト其部類ヲ同フスル所ノ事實ナリ失踪ハ一個人ニ屬スル諸般ノ權利ノ行用ニ影響スレハ民法ノ全部ニ關係ヲ有スルモノトス失踪者ニ配偶者アルハ其婚姻ハ解離スルヤ否ヤ若シ其解離セサルハ如何ナル影響ヲ及ホスヘキ

ヤ失踪者ニ未成年ノ子アルハ其子ニ後見人ヲ命スヘキヤ否ヤ失踪者ニ財産アルハ其相續ヲ開始スヘキヤ否ヤ等ノ問題ヲ生スヘシ失踪者ノ婚姻及ヒ其子ニ關スル失踪ノ効果ハ既ニ其場所ニ規定シタレハ本章ノ規則ハ失踪者ノ財産管理及ヒ相續ノ事ヲ規定スルモノナリ  
本章ノ規則ハ之ヲ白耳義草案ニ採レリ同草案ハ和蘭民法ニ基キ佛國ノ裁判慣例ニ從ヒ大ニ佛國法ノ制度ヲ變更セリ佛國法ニ依レハ失踪者ハ其生死分明ナラスト雖モ之ヲ死者ト推測セサルヲ原則トシ其年月ヲ經ルニ從ヒ死去ノ推測漸ク鞏固トナルヘキヲ以テ失踪ヲ三段ニ區別セリ第一段ノ期間ニ於テハ生存ノ推測ハ死去ノ推測ヨリモ鞏固ナルヲ以テ法律ハ失踪者ノ利益ニミテ注意セリ裁判所ハ必要ノ場合ニ非サレハ其財産ノ管理ニ干涉セサルモノトス第二段ノ期間ニ於テハ生死ノ推測相同ク強弱ナキモノニシテ法律ハ稍重大ノ處分ヲ命セリ失踪者ノ利益ニミナラス親屬及ヒ債主ノ利益ヲ保護セリ失踪者ノ相續人ハ失踪ノ宣告ヲ爲サシメ其財産ノ假占有ヲ得ルモノ



トス然レハ假占有ハ財産保存ノ管理處分ニシテ相續人ハ善良ノ管理ヲ爲ス  
ニ付利益ヲ有スルヲ以テ之ヲ管理者ト爲シ其管理ノ報酬トシテ果實ノ一部  
ヲ與フルニ過キス第三段ノ期間ニ於テハ死去ノ推測漸ク鞏固ナルヲ以テ相  
續人ハ管理者ニ非スシテ失踪者ノ財産ヲ所有スルモノトス故ニ其財産ヲ處  
分スルヲ得ヘシ然レハ法律ハ之ヲ死者ト推測スルニ非サレハ相續ヲ開始ス  
ルモノニ非ス

此制度ハ理論上一點ノ非難スル所ナシト雖モ實際ノ必要ニ適セサルカ如シ  
失踪中ハ生死分明ナラスシテ其年月ヲ經ルニ從ヒ死去ノ推測次第ニ鞏固ト  
ナルハ勿論ナレハ失踪者ノ利益ヲ保護セシカ爲メ相續人ハ失踪ヨリ三十五  
年又ハ四十一年若クハ失踪者ノ年齢百歳ニ至ルマテ其相續權ヲ得ル能ハサ  
ルモノニシテ是レ長久ニ失スルニ非スヤ失踪ノ宣告ヲ受ル者ハ尋常既ニ死  
去シタル者ニシテ死者ニ屬セシ權利ヲ保護セントシ相續人ノ權利ヲ停止ス  
ルニ至ルヘシ且ツ失踪中ハ財産ヲ處分スルヲ得サルヲ以テ其流通ヲ妨ケ失

踪者ノ財産ハ貿易外ノ物ト爲リ社會ノ經濟ヲ害スルコト少クニ非ス故ニ失踪  
者ノ曖昧ナル利益ノ爲メ相續人及ヒ社會ノ利益ヲ捐棄セシテ失踪者ノ利  
益ヲ保護スルノ道ヲ求メサルヘカラス佛國法ノ如ク失踪ノ宣告ヨリ三十年  
ヲ待タスシテ其宣告ト同時ニ相續人所有者ト爲ルヘキモノト決定シ失踪者  
ノ利益ヲ保護スル爲メニハ相續人ヲシテ保證人ヲ立テシムレハ充分ナルヘ  
シ故ニ草案ハ財産ノ假占有ヲ廢シ失踪ヲ兩期ト爲シ第二期ニ至レハ相續人  
其財産ノ所有者ト爲ルモノト爲シタリ佛國民法制定ノ時ハ諸國ノ通交太ク  
不便困難ニシテ山海ノ盜賊横行シ失踪シテ其人ノ生死ヲ知ラサル者極メテ  
多カリキ殊ニ革命及ヒ帝國時代ノ大戰爭ニ於テ失踪者ノ數非常ニ増加セシ  
ハ怪ムヘキニアラス然レハ今日諸國ノ交通ハ容易安泰ニシテ數年間音信ヲ  
與フルヲ得サルカ如キ場合アルヘカラス實際ニ微スルモ失踪者ノ數日々ニ  
減シ一國內ニ於テハ行政ノ進歩ニ從ヒ大ニ其數ヲ減スルニ至レリ又海外ニ  
於テ死去シタル者ト雖モ其證據ヲ得ルコトハ甚ク容易ニシテ海外ノ音信ト雖

モ定期ニ到着スルモノナリ故ニ佛國法ハ今日之ヲ見レハ頗ル迂濶ノ制度ニシテ之ニ從フヲ得ス若シ諸人ノ希望スルカ如ク諸國ノ間身分證書交換ノ條約ヲ結フニ至レハ是レ決シテ違キニアラサルヘシ(失踪ノ規則ハ尙ホ其重要ヲ減スヘシ)

### 第一節 失踪ノ推測

第四百十一條 一個人其住所並ニ居所ヨリ亡失シ若クハ其音信ヲ絶止シテ其生死ノ分明ナラサルキハ之ヲ失踪者ト推測ス

失踪ノ推測ハ本人ノ住所ノ地方裁判所ニ之ヲ申訴シテ判決ヲ受ク可シ(佛第四百十二條、伊第二十條第二十一條)

(理由) 失踪ノ推測ハ何時ヨリ始マルヤヲ確定スルハ太ク困難ナリ失踪ハ生死ノ分明ナラサルト同時ニ始マルヘシト雖モ其分明ナラサルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ裁判所ノ査定ニ放任スルモノトス一個人其住所ヲ去リ音信

ヲ與ヘサルキハ直チニ失踪者ト推測スヘキニアラス其住所ヲ去ルモ其所在ヲ隱秘スルノ理由ヲ有スルコトアルヘシ其妻子ヲ遺棄シ又ハ其財産ヲ委棄シ音信ヲ與ヘサルキハ始メテ生死ノ不明ヲ生スヘシ何トナレハ音信ヲ與フルノ必要アリテ之ヲ與ヘサレハナリ故ニ代理人ヲ殘シ置キタルキハ其不在ヲ豫想シタルモノナルヘキヲ以テ容易ニ之ヲ失踪者ト推測スヘカラス然レハ代理ハ失踪ノ推測ヲ妨クルモノト思考スヘカラス若シ其代理ニ拘ラス失踪ノ推測ヲ認定セシムルノ必要アルキハ之ヲ裁判所ニ請求スルヲ得ヘシ例之ハ失踪者ノ爲メ開始シタル相續アルキハ其權利ヲ定ムル爲メ失踪ノ推測ヲ認定セシムルヲ要スヘシ

失踪ノ推測ハ何レノ裁判所ニ請求スヘキヤ佛國法ニハ明文ナキヲ以テ或ハ失踪者ノ住所ノ裁判所ヲ以テ管轄ト爲シ或ハ財産所在地ノ裁判所ニ之ヲ請求スルヲ得ヘシト云ヘリ草案ハ住所ノ裁判所ヲ以テ管轄ト爲シク何トナレハ失踪者ハ被告ノ地位ニ在ルヲ以テ其住所ノ裁判所ヲ管轄ト爲スハ訴訟

法ノ原則ニ適フノミナラス失踪者ノ親族知友又ハ近隣ノ者其音信ヲ得タリ  
ヤ否ヤチ知ルニ最モ適當ニシテ遠方ノ裁判所ハ之ヲ詳知スル能ハサルヘキ  
ヲ以テナリ且ツ財産所在地ノ裁判所ヲ管轄ト爲スルハ數多ノ管轄裁判所ア  
リテ抵觸セル判決ヲ與フルノ患アルヘシ

#### 第四百十二條

失踪ノ推測ヲ受ケタル者總括代理人ヲ定メ置  
キタルキハ其代理人ハ失踪ノ推測中本人ノ財産ヲ管理ス但  
シ裁判所ハ事宜ニ依リ其解任ヲ宣告シ若クハ其後任ヲ指定  
スルヲ得(佛第一百十二條第百二十二條、伊第二十一條第二項)

(理由) 本條ハ失踪者其代理人ヲ定メ置キタル場合ヲ規定スルモノニシテ此  
場合ニ於テハ失踪ノ推測ハ殆ント効果ヲ生スルヲナシ代理人ハ失踪ノ推測  
中財産ノ管理ニ任スヘシ然レモ代理人ノ權限充分ナラサルカ又ハ其代理ノ  
止息スル場合ニ於テハ裁判所ノ干涉ヲ要スヘシ是レ但書ニ規定スル所ナリ

#### 第四百十三條

失踪ノ推測ヲ受ケタル者總括代理人ヲ定メ置

カサリシキハ裁判所ハ現實ノ利益ヲ有スル關係人推測ノ相  
續人及ヒ檢事ノ請求ニ依リ其財産ノ管理人ヲ指定ス(佛第百  
十二條、伊第二十一條、蘭第五百十九條)此管理人ハ成ル可ク本  
人ノ推測相續人ノ中ニ就テ之ヲ指定スルヲ要ス然レモ現  
在ノ配偶者ハ當然共通財産及ヒ自己ノ特有財産ヲ管理ス(佛  
第百二十四條)

(理由) 本條ハ失踪者其代理人ヲ定メ置カサル場合ヲ規定スルモノニシテ裁  
判所ハ其財産ノ管理人ヲ命スヘキモノトナシタリ代理人ナキキハ其利益ヲ  
監督スルノ必要アリ親族又ハ知友好意ヲ以テ其事務管理ヲ爲スヲアラント  
雖モ之ヲ目雷トナスヲ得ス佛國法ニ依レハ必要アルキハ相當ノ處分ヲ命ス  
ヘキモノトナシ此必要如何ノ條件ハ制限ニ過クルカ如シ法律ノ意ハ必要ナ  
ク失踪者ノ私事ニ干涉スルヲ制スルニ在リ財産ヲ委棄スルハ其自由ニシテ  
之ニ干涉スヘカラサルカ如シ裁判所ノ干涉ヲ避ケント欲セハ代理人ヲ命シ

又ハ其音信ヲ與フルニ如カス此用意ヲナサ、ルハ其生死曖昧ニシテ本人ノ爲メ及ヒ社會ノ爲メ其利益ヲ監督スルヲ要ス  
此請求ヲ爲スヲ得ル者ハ利害ノ關係ヲ有スル者ナリ現實ノ利益ヲ有スル債主其他ノ者ハ勿論推測ノ相續人モ此權ヲ有スヘシ相續人ハ現實ノ利益ヲ有セサルヲ以テ佛國法ニ於テ多少ノ議論アリト雖モ立法上ヨリ見ルハ之ヲ與フルヲ當然トス此請求ヲ爲ス者ハ自己ノ爲メ權利ヲ求ムルニアラス只失踪者ノ財産ノ現狀ヲ裁判所ニ申立テ相當ノ處分ヲ乞フモノナリ此處分ヲ求ムルコト付最モ利益ヲ有スル者ハ相續人ニ如クハナシ是レ其將來ノ資産ヲ保存セントスルモノナリ況ンヤ其資産ハ既ニ相續人ニ屬スルヤモ知ルヘカラスナルニ於テオヤ此外檢事モ管理人ノ指定ヲ裁判所ニ請求スルヲ得ヘシ佛國法ハ相當ノ處分ト云ヒ其性質ヲ定メスト雖モ總括管理人ヲ命スルヲ最モ至當トス然レモ管理人ノ撰定ニハ充分注意ヲ用ヒサルヘカラス草案ハ成ル可ク相續人ヲ以テ管理人ト爲スヘキモノト定ム相續人ハ一日獲得スヘキ

財産ヲ管理スルモノナレハ善良ノ管理ヲ爲スハ其利益ナルカ故ニ充分注意スヘキノ擔保アリ然レモ之ヲ數人ニ命スルハ其管理不良ナルヘキヲ以テ相續人ノ中最モ適當ナル人ヲ撰ムヘシ  
然レモ失踪者ニ配偶者アリテ其間財産ヲ共通シタルハ共通財産ノ管理ハ當然現在ノ配偶者ニ屬スヘシ夫婦財産契約ハ失踪ノ宣言マテ繼續スルモノニシテ夫失踪シテ共通財産ヲ管理スル能ハサルハ婦之ヲ管理スヘシ然レモ現在ノ配偶者ハ如何ナル條件ニ從ヒ其財産ヲ處分スルヲ得ヘキヤハ夫婦財産契約ノ章ニ之ヲ規定ス法律ハ婚資ヲ設定シタル場合ヲ規定スト雖モ同一ノ規則ヲ適用スヘキハ勿論ナリ(第一千九百五十條)故ニ相續人ノ管理ニ付スルハ失踪者ノ特有財産及ヒ財産分離ノ場合ニ限ルヘシ  
第四百十四條 代理人若クハ管理人ハ單ニ管理ノ權限ノミヲ有ス其他ノ行爲ニ付テハ必要ノ場合ニ限り裁判所ノ允許ヲ得テ之ヲ爲スヲ得

代理人若クハ管理人ハ本人既得ノ利益ニ關係アル所ノ目錄  
調製計算分派及ヒ精算ニ於テ之ヲ代表ス(佛第百十三條、伊第  
二十一條)

(理由) 本條ハ代理人又ハ管理人ノ權限ヲ規定スルモノコシテ何レモ管理ノ  
ミノ行爲ヲナスニ止マルモノトス管理ニ非サル行爲ハ裁判所ノ允許ヲ得ル  
ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス且ツ必要ノ場合ニ非サレハ裁判所ハ其允許ヲ與  
フヘカラサルモノトス故ニ裁判所ニ於テ必要ト認ルルキハ管理人ハ失踪者ノ  
動産不動産ヲ讓渡スヲ得ヘシ是レ代理人ニ付テハ失踪者ノ意思ニ反シ處分  
ノ權ヲ與フルカ如シト雖モ委任者ノ失踪ニ由リ其地位大ニ變更シ委任者若  
シ失踪セシテ其意思ヲ表スルヲ得ハ讓渡ノ必要ナル場合ニ於テ之ヲ承諾  
セサルノ理由アルヘカラス然レモ讓渡ノ必要ナシト雖モ其有益ナルキハ之  
ヲ允許スヘキカ是レ至當ナルカ如シト雖モ失踪ノ推測中ハ本人ノ生存スヘ  
キノ望ミアレハ勉メテ其財産ヲ保存シ其復歸スルキハ原物ヲ回復スヘキコ

ニ注意スルヲ要ス利益ヲ得ントスレハ多少ノ危險アルモノニシテ之ヲ允許  
セサルヲ當然トス動産ノ如キハ之ヲ賣却シ其代價ヲ利用スルノ最モ有益ナ  
ラント雖モ法律ハ之ヲ命セス何トナレハ公賣ハ我國ノ現狀ニテハ相當ノ代  
價ヲ與ヘサルヲ常トシ其代價ヲ利用スルモ得失相償フハ極メテ稀ナルヘシ  
法文ニハ失踪者ノ財産賣却ノ方法ヲ規定セスト雖モ未成年者ノ財産ニ於ケ  
ルト同一ノ規則ヲ適用スヘキハ勿論ナリ故ニ之ヲ追加セサルヘカラス

第四百十五條 裁判所ノ指定シタル管理人ハ檢事ノ立會ニテ

公証人ヲシテ失踪者ノ動産及ヒ確書ノ目錄ヲ調製セシム可  
シ又管理人ハ其不動産ノ狀況ヲ証定セシムル爲メ裁判所ニ  
鑑定人ノ指定ヲ請求スルヲ得其報告書ハ裁判所ノ認可ニ  
付スルヲ要ス此等手續ノ入費ハ本人ノ財産ヲ以テ支辨ス  
此規則ハ關係人推測相續人若クハ檢事ノ請求ニ依リ本人ノ  
定メ置キタル代理人ニモ之ヲ適用スルヲ得

(理由) 佛國法ニハ失踪ノ推測中管理ノ擔保ニ關スル事ヲ規定セスト雖モ此管理ハ數年ニ渉ルヲ以テ其間財產ヲ破損シ消費スル等ノ患ナカラス檢事ハ失踪者ノ利益ヲ保護スヘキ義務アリト雖モ此監督ハ有名無實ニシテ其効アルヘカラス管理人ナキ場合ニ於テハ裁判所ニ於テ必要ノ處分ヲ命スルカ故ニ管理ノ擔保ヲ立ツルヲ得ヘシ然レモ何レノ場合ニ於テモ管理ノ証明トナルヘキ基礎ヲ設クルヲ必要トス故ニ草案ハ失踪者ノ動産及ヒ証書ニ付テハ目錄ヲ調製スヘキモノトナセリ不動産ニ付テハ管理人ノ請求ニ由リ其景狀書ヲ作ルヲ得ヘキモノトナセリ檢事ハ失踪者ノ利益ヲ保護スル爲メ其目錄調製ニ立會ヒ又ハ景狀書ノ認可ニ付其意見ヲ述フヘキモノトス

第四百十六條 代理人若クハ管理人ハ裁判所ノ定メタル給料ヲ受ク其管理及ヒ財產返還ノ擔保トシテ保證人又ハ相當ノ抵保ヲ立ツルヲ要ス(蘭第五百二十二條)

(理由) 失踪者ノ財產管理人ヲシテ保證人ヲ立テシムルハ其返還ノ擔保トシ

テ必要欠クヘカラサルモノナリ然レモ保證人ヲ立ツルノ義務アルキハ管理ヲ承諾スル者ナキノ恐アリ故ニ管理者ニ相當ノ給料ヲ與ヘサルヘカラス管理ハ隨分心力ヲ勞スルモノニシテ給料ヲ與フルハ當然ナリ代理契約ハ性質上無償ノモノナレモ是レ有名無實ノ原則ニシテ法律上ノ關係ニ於テ無償ヲ原則トナスハ一ノ避説ニ過キス給料ノ額ハ之ヲ一定スルヲ得サルヲ以テ裁判所ノ査定ニ放任セリ

管理ノ計算ハ管理人ヨリ之ヲ失踪者又ハ其財產ノ占有者ニ爲サ、ルヘカラス計算ノ義務ハ法文ニ明示セスト雖モ當然ノ事ニシテ更ニ疑ヲ容レス之ヲ追加スルモ固ヨリ不可アルヲナシ此外和蘭民法ハ後見人ノ場合ニ於ケルカ如ク年々假計算書ヲ呈出スヘキ義務ヲ命セリ失踪ノ推測ハ四ケ年又ハ七ケ年ヲ出テス且ツ檢事ハ失踪者ノ利益ヲ監督スヘキ義務アルニ由リ年々ノ假計算ヲ命セザリキ然レモ是亦有益ナレハ之ヲ追加スルモ可ナリ

第四百十七條 失踪ノ推測中ニ於テ現在ノ配偶者其共同子ノ

婚姻若クハ營業ノ爲メ資財ヲ與フルコトハ夫婦財産契約ノ章ニ之ヲ規定ス

失踪者ノ前婚又ハ庶出ノ子ノ婚姻若クハ營業ノ爲メ資産ヲ與フルコトニ付テハ第三百七十六條ヲ適用ス

(理由) 本條ハ失踪者ノ子ノ婚姻又ハ營業ノ爲メ其財産ヲ給與スヘキ場合ヲ規定スルモノニシテ其規則ハ夫婦財産契約ノ章及ヒ禁治産ノ章ニ送レリ

第四百十八條 檢事ハ特ニ失踪ノ推測ヲ受ケタル者ノ保護ニ任シ一般之ニ關係アル請求ニ付テハ其意見ヲ陳フルコトヲ要ス(佛第百十四條)

(理由) 本條ハ檢事ヲシテ失踪者ノ利益ヲ保護セシムルモノニシテ普通原則ノ適用ニ過キス無能力者ハ總テ檢事ノ保護ヲ受クルモノニシテ失踪者ハ躬ヲ其利益ヲ保存スルヲ得サレハ檢事ノ保護ヲ受クルモノトス故ニ失踪者ニ關スル總テノ請求ニ於テハ裁判所ハ必ス檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定セサル

ヘカラス

第二節 失踪ノ宣告

第四百十九條 失踪者代理人ヲ定メ置カサルキハ滿三ヶ年又其代理人ヲ定メ置キタルキハ其任期ノ長短ヲ問ハス滿六ヶ年ニ至ルモ其生死ノ音信ヲ得サルニ於テハ失踪者ノ死去ニ發起スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ住所ノ地方裁判所ニ失踪ノ宣言ヲ請求スルコトヲ得(佛第百十五條第百二十一條、伊第二十二條)

(理由) 失踪ノ推測ヨリ數年ニ渉ルモ失踪者ノ音信ヲ得サルキハ其生死一層曖昧トナリ死去ノ推測漸ク鞏固トナルヲ以テ法律ハ相續人其他失踪者ノ死去ニ由リ發開スル權利ヲ有スル者ヨリ失踪ノ宣言ヲ請求スルコトヲ允許ス此宣言ヲ請求スルヲ得ヘキ年數ハ失踪者代理人ヲ殘シタルキハ六ヶ年又之ヲ殘シタルキハ三ヶ年トナセリ此規定ハ伊國民法ニ倣フモノニシテ大ニ佛國

法ノ期限ヲ減縮セリ蓋シ今日ハ諸國ノ通交容易ナルヲ以テ稍短キ時間ト雖モ音信ヲ與ヘサルハ太ク奇怪ナレハナリ然レモ草案ハ假占有ヲ廢スルカ故ニ佛國法ノ期限ヲ維持スルコト或ハ適當ナラント雖モ現今ノ慣習ニ由レハ失踪三年ヲ過クレハ之ヲ死去ト推測スルモノナレハ姑ク之ニ從フコト爲セリ失踪者其代理人ヲ殘シタル場合ニ於テ期限ヲ異ニスルハ大ニ其理由アリ是レ失踪者其不在ヲ豫想シタルモノト推測スルヲ得レハナリ然レモ其代理ハ總括ナルヲ要ス特定ノ代理ハ失踪者長ク不在スヘキ事由ヲ豫知シタルニ出ツルモノト推測スルヲ得ス若シ其事由ヲ豫知セシナラハ總括代理人ヲ殘サハルノ理ナシ何トナレハ特定代理人ノ權限ヲ以テ取捌クヲ得サルヘキ事情困難ノ發生スヘキハ之ヲ豫想セサルヲ得サレハ若シ長ク不在スルノ意思アレハ總括代理人ヲ殘スヘケレハナリ尤モ總括ノ代理アルトハ其任期ノ長短如何ヲ問フニ及ハス任期ノ六ケ年以上ナルト雖モ六ケ年ノ後ハ失踪ノ宣言ヲ爲スヲ得ヘク又任期ノ六ケ年以下ナルト雖モ六ケ年前ニ失踪ノ宣言

ヲ爲スヲ得ヘカラス失踪ノ宣言ヲ請求スルヲ得ヘキ者ハ一切ノ關係人ニシテ茲ニ關係人ト云フハ全部又ハ一部ニ付失踪者ノ財産ノ占有ヲ請求スルヲ得ヘキ者ヲ云フナリ故ニ死去ニ發起スル權利ヲ有スル云々ノ語ヲ用ヒタリ又佛國法ニハ此請求ヲ爲スヘキ管轄裁判所ヲ明示セサルニ由リ普通ノ說ニ從ヒ住所ノ裁判所ニ請求スヘキモノトナシタリ

第四百二十條 此請求ノ允許スヘキモノナルトハ裁判所ハ其證據書類ニ拘ラス失踪者ノ住所及ヒ最後居所ノ地ニ於テ檢事ト對審ニテ證人訊問ヲ開クコトヲ命ス可シ此證人訊問ニ付テハ訴訟法ニ定ムル期限及ヒ忌避ノ規則ヲ適用セス(佛第一百十六條伊第二十三條第一項)

(理由) 本條ハ失踪ノ宣言ニ關スル裁判ノ手續ヲ定ムルモノニシテ佛國法ノ規則ヲ再提スルニ過キス關係人ヨリ證據書類ヲ呈出シ失踪推測ノ期限ヲ過クルモ失踪者ノ音信ナキコトヲ證スルトハ其請求ハ允許スヘキモノナリ然レ



是等ノ證據書類ヲ以テ直チニ失踪ノ宣言ヲ爲スヲ得ス此場合ニ於テハ裁判所ハ失踪ノ實否ヲ檢定スル爲メ更ニ証人訊問ヲ命スヘキモノトス此証人訊問ハ失踪者ノ住所并ニ居所ノ地ニ於テ之ヲ開キ廣ク失踪者ノ生死如何ニ關スル証言及ヒ音信ヲ聚ムルニ在リ檢事ハ失踪者ノ利益ヲ保護スヘキモノナレハ失踪ノ宣言ヲ排撃スルヲ得ヘシ此証人訊問ニ付テハ訴訟法ノ期限及ヒ忌避ノ制限ヲ適用セサルモノトス此終リノ點ハ佛國訴訟法ニ依ルモノナレハ草案ニモ同様ノ規定アルヘキヤ否ヤ之ヲ詳カニスル能ハス

第四百二十一條 証人訊問ヲ命スル判決ノ宣告アリタルキハ檢事ハ直チニ其判決書ノ謄本ヲ司法大臣ニ進達シ司法大臣ハ適宜ニ其判決ヲ公示ス可シ(佛第一百十八條、伊第二十三條第二項及ヒ第三項)

(理由) 証人訊問ハ失踪者ノ住所及ヒ居所ニ於テ開クモノナレハ其目的ヲ達セシメハ失踪者ヲシテ其事ヲ了知セシメサルヘカラス失踪者ハ其住所及ヒ

居所ヨリ亡失シタルモノナレハ廣ク証人訊問ノ判決ヲ公示スルヲ要ス此公示ノ方法ハ法律ニ之ヲ規定セシメテ司法大臣ノ適宜處分ニ從フモノナリ是レ内外新聞紙ニ廣ク判決ヲ掲載スルノ外アルヘカラス檢事ハ其判決謄本ヲ進達スルニ當リ其意見ヲ添フルヲ得ヘシ

第四百二十二條 裁判所ハ失踪宣言ノ請求ヲ裁判スルニ當リ失踪ノ理由及ヒ失踪者ノ音信ヲ得ル妨碍ノ原由ヲ斟酌ス可シ(佛第一百七條)

(理由) 本條ハ失踪ノ宣言ヲ爲スニ付裁判所ニ査定ノ權利ヲ與フルモノトス裁判所ハ生存ノ音信ナキト雖モ決シテ失踪ノ宣言ヲ言渡スノ義務アルニアラズ其請求ヲ却下スルヲ得ヘキモノナリ此事項ハ全ク事實上ノ問題ニシテ失踪者死去シ又ハ生存スルノ何レカ最モ近事ナルヤヲ知ルニ在リ故ニ裁判所ニ充分ノ査定權ヲ與フルヲ當然トス且ツ草案ニ依レハ失踪宣言ノ期限太ク長カラヌヲ佛國法ニ反シ宣言後直チニ財産ノ占有ヲ開始スルモノナ

レハ裁判所ハ事宜ニ由リ法律上ノ期限ヲ過クルト雖モ尙ホ死去ノ推測充分  
鞏固ナラサルモハ失踪宣言ヲ猶豫スルヲ得ヘキモノト爲サハルヘカラス

第四百二十三條 失踪宣言ノ判決ハ證人訊問ヲ命シタルヨリ  
滿一十年ノ後ニ非サレハ之ヲ宣告ス可カラス  
此判決ハ第四百二十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ公示ス可シ(佛第  
百十九條、伊第二十四條、第二十五條)

(理由) 失踪宣言ノ判決ハ證人訊問ノ判決ヨリ一ケ年ヲ過クルニアラサレハ  
之ヲ宣告スヘカラスモハ他ナシ失踪者遠方ニ隔タリ其實事ヲ了知シ音  
信ヲ與フルニハ相當ノ時間ヲ要スレハナリ

第三節 失踪宣言ノ効果

第四百二十四條 失踪宣言ノ裁判アリタル後失踪者ノ遺囑書  
ハ關係人又ハ檢事ノ請求ニ依リ之ヲ開封ス可シ失踪者ノ配  
偶者其亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推測相續人其他失踪

者ノ死去ニ發起スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ相續ノ開  
始シタル如ク直チニ其權利ヲ行フヲ得(佛第二百十條第百  
二十三條、伊第二十六條、第三十六條)

(理由) 佛國民法ニ依レハ失踪ノ宣言アリタルモハ失踪者ノ死去ニ由リ發起  
スル權利ヲ有スル者ハ假ニ其權利ヲ行フヲ得ヘキモノトナセリ然レモ此假  
占有ハ一ノ寄託ニシテ占有者ハ其財産ヲ管理スルモノニシテ所有者ノ權利  
ヲ行フヲ得サルモノトス其占有ノ確定シ所有者ノ權利ヲ得ンニハ失踪ノ宣  
言ヨリ三十ケ年ヲ過キ又ハ失踪者ノ年齢百歳ニ達スルヲ要ス草案ハ白耳義  
草案ニ倣ヒ假占有ヲ廢シ失踪宣言ノ後ハ直チニ失踪者ノ相續ヲ開始スルモ  
ノナリ是レ前既ニ詳論シタル所ニシテ本條以下ハ失踪者ノ財産占有ノ事ヲ  
規定スルモノトス故ニ失踪ノ宣言アルモハ失踪者ノ死去ニ發起スル權利ヲ  
其財産上ニ有スル者ハ相續ノ開始シタル如ク直チニ其權利ヲ行フヲ得ルモ  
ノトス此關係人中第一ニ位スルハ失踪者ノ配偶者ナリ配偶者ハ共通財産ノ

分派ヲ請求シ其特有財産ヲ取戻シ其他夫婦間ニ約シタル權利ヲ行フヲ得ヘシ夫婦ノ間共通ニ非サル制ヲ採用シタルキト雖モ亦同シ次ニ推測ノ相續人ナリ是レ一切ノ相續人ヲ指スモノニシテ其相續人ハ亡失ノ日又ハ最後音信ノ日ニ由リ之ヲ定ムヘシ故ニ失踪ノ宣言前ニ死去シタル者ハ其權利ヲ自己ノ相續人ニ移轉スヘシ終リニ受屬者ナリ失踪宣言ノ後ハ失踪者ノ遺囑書ヲ開封スルモノニシテ受屬者ハ包括又ハ特定名義ナルヲ問ハス其遺物ヲ請求スルヲ得ヘシ其他受贈者債主等ニ付テモ普通法ヲ適用スヘシ

第四百二十五條 失踪者ノ財産占有ニハ總テ相續ノ規則ヲ適用ス(蘭第五百三十三條)

此占有ヲ得タル者ハ第三者ニ對シ其財産ノ所有者トス(佛第二百二十五條第百二十九條、伊第二十八條第三十七條)然レモ占有者ハ財産返還ノ擔保トシテ裁判所カ相當ト認ムル保證人又ハ抵保ヲ立ツ可シ若シ之ヲ立ツルヲ能ハサルキ

ハ動産ニ付テハ裁判所ノ命スル利用法ヲ爲サ、ル可カラス其保證人ノ義務又ハ抵保ハ滿十五个年ノ後當然止息ス(伊第二十六條第四項第三十六條、佛第二百二十九條、伊第二十七條(理由) 失踪宣言ノ後ハ失踪者ノ相續ヲ始開スルモノナレハ失踪者ノ財産占有ニハ總テ相續ノ規則ヲ適用ス故ニ相續人間ニ財産ノ分派ヲ爲シ贈與ヲ受ケタル者ハ之ヲ算還シ若シ贈與カ處置ヲ得ヘキ財産ヲ超過スルキハ之ヲ減殺スル等佛國ニ於テハ無數ノ議論アリト雖モ草案ニ依レハ皆之ヲ適用スヘシ此外相續ノ受諾及ヒ負債ノ負擔ニ付テモ亦同シ又佛國法ニ依レハ仮占有者其財産ヲ處分スルヲ得ヘキ否ヤハ頗ル困難ナレモ草案ハ相續ヲ開始スルカ故ニ占有者ハ直チニ其財産ノ所有者トナリ自由ニ之ヲ處分スルヲ得ヘシ是レ第二項ニ明示スル所ナリ然レモ法律ハ失踪者ヲ以テ死者ト同視スルモノニアラサレハ失踪者若シ生存シテ現出スル場合ニ於テハ占有者ハ之ニ其財産ヲ返還セサルヘカラサル

ハ勿論ナリ故ニ失踪者ノ利益ヲ保護スル爲メ財産返還ノ擔保ヲ設ケサルヘ  
カラス是ヲ以テ占有者ハ裁判所ノ認可ヲ得テ保證人ヲ立テ又ハ相當ノ抵保  
ヲ供セサルヘカラス若シ是等ノ擔保ヲ立ツル能ハサルハ如何此場合ニ於  
テハ裁判所ヨリ動産ノ利用法ヲ命スヘキモノトス是等ノ保證及ヒ抵保ハ十  
五ケ年ノ後ハ當然止息スルモノトナセリ何トナレハ今日交通ノ容易安泰ナ  
ル失踪者若シ生存セハ十五ケ年間其音信ヲ與フル能ハサルコトハ萬一ニモ之  
レアルヘカラサレハナリ

第四百二十六條 若シ失踪者現出シ又ハ音信ヲ與フルハ失  
踪宣言ノ効果ハ即時ニ止息ス(佛第三百三十一條、伊第三百三十三條)  
失踪者ハ其財産ヲ現狀ノ儘ニテ回復シ又占有者カ其處置行  
爲ニ因テ不當ニ利益シタルモノヲ取還スコトヲ得(佛第二百二十  
八條、伊第三百二十二條、伊第三百二十九條)

(理由) 第一項ハ別ニ説明ヲ要セス失踪者生存スルコトノ證據アルハ失踪宣

言ノ効果止息スヘキハ當然ナリ第二項ハ財産取戻ノコトヲ規定スルモノニシ  
テ現物ニテ存スルモノハ其現狀ノ儘ニテ之ヲ回復スヘク占有者之ヲ處分シ  
タルモノハ其不當ニ利益シタルモノヲ取還スヲ得ヘシ是レ占有者ヲ以テ第  
三者トノ關係上所有者ト爲スノ結果ナリ第三者ノ權利ヲ解除スルハ其利益  
ヲ害シ且ツ社會ノ利益ニ反スヘシ

第四百二十七條 然レモ果實ニ付テハ失踪者其亡失又ハ最後  
音信ノ日ヨリ滿十五ヶ年前ニ現出スルキハ其五分ノ一又滿  
十五ヶ年後ニ現出スルキハ其十分ノ一ノミヲ取還スコトヲ得  
滿三十ヶ年後ハ果實ノ全部ヲ失フ(佛第三百二十七條、伊第三  
十條、第三十一條)

(理由) 失踪者ノ財産占有者ハ第三者ニ對シ所有者ト同視スト雖モ失踪者ニ  
對シテハ管理者ニ過キス故ニ失踪者ノ現出スルキハ其收穫シタル果實ヲ返  
還セサルヘカラス然レモ其管理ニ注意セシムル爲メ果實ノ一部ヲ與ヘ其勞

力ニ報ユルヲ要ス此規則ハ佛國民法ヨリ採用シ來ルモノナリ聞伊民法ニモ同様ノ規則アリト雖モ少シク異ナル所アリ伊國民法ハ占有者ノ親等如何ニ從ヒ或ハ果實ノ全部ヲ與ヘ或ハ其一部ノミヲ與ヘリ然レモ占有者ハ總テ其名義ヲ均フシ其勞力ヲ同フスルモノナレハ親等ニ從ヒ權利ヲ異ニスルノ謂ハレナキカ如シ

第四百二十八條 失踪者ノ卑屬親ハ他ノ相續人カ財產占有ヲ得タルヨリ滿三十個年間其財產ノ返還ヲ請求スルヲ得  
財產占有ヲ得タル相續人ヨリ最近ナル傍系ノ血族アルキ亦同シ(佛第三百三十三條、伊第四十條)  
右何レノ場合ニ於テモ果實ハ前條ノ規則ニ從ヒ之ヲ取還ス  
ヲ得(伊第三十三條第二項)

(理由) 失踪者ノ財產占有ハ其亡失又ハ最後音信ノ日ニ於テ相續人ノ順位ニ在ル者ニ之ヲ與フルモノナレモ若シ錯誤ヨリ前位ノ親屬アルニ拘ラス之

ヲ與ヘタルキハ前位ノ相續人ハ占有者ニ對シ其財產ノ返還ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス此請求ハ三十年ノ時効ニ由リ消滅スヘシ佛國民法ハ失踪者ノ卑屬親ニ限り三十年ノ後ト雖モ財產ノ返還ヲ請求スルヲ允許ス然レモ此特例ハ別ニ必要ナキカ如シ若シ卑屬親失踪ノ節既ニ生レタル者ナレハ財產占有ヲ請求スルヲ得ヘシ若シ之ヲ請求セザリシキハ三十年ノ間財產ノ返還ヲ求ムルヲ得ヘシ若シ失踪中ニ外國ニ於テ生レタル卑屬親ナレハ其父母ノ死去ヲ了知スヘキニ由リ之ヲ証明シテ其相續ヲ請求スルヲ得ヘシ此點ハ即チ次條ニ規定スル所ナリ

第四百二十九條 失踪者死去ノ確證アルキハ其相續ハ死去ノ日最近ナル相續人ノ爲メニ開始スヘシ其相續人ハ相續開始ノ日ヨリ滿三十個年間相續財產ヲ請求スルヲ得  
失踪者ノ財產ヲ占有スル者ハ之ヲ返還セサル可カラズ但シ  
第四百二十七條ニ依リ獲得シタル果實ハ此限ニ在ラス(伊第

四十條第三百三十條

(理由) 本條ハ失踪者ノ相續ヲ規定スルモノトス財產占有ハ失踪者ノ亡失又ハ最後音信ノ日ヨリ於テ相續人ノ順位ニ在ル者ニ之ヲ與フルモノナレド失踪者ハ其亡失又ハ最後音信ノ日ニ死去セシトハ至テ稀ナルヘシ其財產占有ヲ得タル者ハ失踪者ニ先テ死去シ失踪者ニ相續スルノ權利ヲ有セサルコトアルヘシ故ニ失踪者死去ノ確証ヲ得タルキハ其相續ヲ開始セサルヘカラス其相續人ハ死去ノ日最先ノ順位ニ在ル者タルヘシ相續人ヨリ財產占有者ニ對シ失踪者ノ遺物ヲ請求スルハ三十年ノ間ニ限ルヘキモノトス是レ普通ノ時効ヲ相續ノ請求ニ適用スルニ過キス

第四節 失踪ノ推測及ヒ宣言ノ兩期ニ通用スル規則

第四百三十條 生存確實ナラサル人ニ歸シタル權利ヲ請求スル者ハ其人カ其權利開始ノ當時ニ生存セシコトヲ證明スルヲ

要ス此證明ヲ爲サ、ル間ハ其請求ヲ受理ス可カラス(佛第三百三十五條、伊第四十二條)

(理由) 本條ハ權利發開ノ日生存スルニ非サレハ獲得スルヲ得サル權利ノ失踪者ニ歸シタル場合ヲ規定スルモノニシテ失踪者ニ付テハ其生存ヲ證明スルヲ得サルヲ以テ其代理人又ハ債主ハ此種ノ權利ヲ請求スルヲ得ヘカラス何トナレハ之ヲ請求スルニハ失踪者ノ生存ヲ證明セサルヘカラス而シテ失踪ハ生死ノ不分明ヲ云フモノナレハ其生存ヲ證明スルヲ得ヘカラスレハナリ故ニ相續遺囑年金ノ如キ權利ニシテ失踪者ニ歸スルキハ其代理人又ハ承繼人ヨリ失踪者ヲ代表シ之ヲ請求スルヲ得サルモノトス本條ノ法文ニハ緊要ノ一字ヲ脱シタルヘ之ヲ追加スルヲ要ス佛文ニハ「ドローワ、エバンチエ」ト稱シ「エバンチエ」ハ即チ生存スルニ非サレハ獲得スルヲ得スト云フノ意ナリ故ニ之ヲ譯セハ生存ニ係ル權利ト云フヘシ此語ヲ法文ニ追加スルハ困難ナルヲ以テ少シク之ヲ修正シ失踪者ニ歸シタル生存ニ係ル權利ヲ請

求スル者ト爲スモ可ナラン

第四百三十一條

生存確實ナラサル人ノ爲メニ相續ノ開始スルキハ其相續ハ之ト同順位ヲ有スル者又ハ其次キノ順位ヲ有スル者ニ屬ス(佛第三百三十六條、伊第四十三條)

失踪者ニ歸スヘキ財産ヲ相續スル者ハ其目錄ヲ調製シ且ツ第四百二十五條ニ從ヒ利用法ヲ爲シ若クハ其返還ノ擔保トシテ保證人又ハ抵保ヲ立テサル可カラス其保證人ノ義務又ハ抵保ハ滿十五个年ノ後ニ止息ス(伊第四十三條第二項)

(理由) 本條ハ前條ニ掲ケタル原則ノ適用ニ過キス失踪者ノ爲メ相續ノ開始スルキハ其債主又ハ代理人ハ失踪者ヲ代表シ相續ヲ請求スルヲ得ヘキカ曰否何トナレハ是レ失踪者ノ生存ニ係ル權利ニシテ其生存ヲ証明スルヲ得ヘキカサレハナリ然ラハ則チ此相續ハ何人カ之ヲ獲得スヘキヤ是レ失踪者ト同順位ニ在ル共同相續人又ハ其次位ノ順位ニ在ル相續人タルヘシ

佛國ニ於テハ失踪者ノ子ハ代承相續ニ由リ其父ノ除斥セラレタル相續ニ加列スルヲ得ヘキヤ否ヤニ付議論アリ若シ代承相續ノ原則ヨリ論スルキハ死者ニ非サレハ代承スルヲ得サルヲ以テ失踪者ノ子ハ其父ノ死去ヲ証明スルヲ得サレハ之ヲ代承スルノ權利ナキカ如シ然レハ失踪者ノ相續ヨリ除斥セラレハ即チ生存ノ證據ナキヲ以テ之ヲ死者ト看做セハナリ然レハ其子ニ代承ノ權利ヲ與フルヲ當然トス否ラサレハ子ニ對シテハ失踪者ヲ生存セル者ト看做スニ異ナラサレハナリ

此ノ如ク失踪者ハ其當然獲得スヘキ相續ヨリ除斥セラレ、ト雖モ若シ現出スルニ於テハ其權利ヲ相續シタル者ニ對シ財産ヲ取還スヲ得ヘキハ勿論ナリ然レハ佛國法ハ失踪者ノ權利ヲ保護スル爲メ更ニ擔保ノ處分ヲ命スルヲ草案ハ白耳義新案ニ做ヒ此欠缺ヲ補ヒタリ故ニ失踪者ニ歸スヘキ財産ヲ相續スル者ハ財産ノ目錄ヲ調製シ及ヒ動産ノ利用法ヲ爲サ、ルヘカラス若シ利用法ヲ爲サ、ルキハ保證人又ハ抵保ヲ立ツヘキモノトス是等ノ規定

ハ失踪者ノ財産占有者ニ命スルモノト更ニ異ナルコトナシ然レモ失踪者ニ歸スヘキ財産ニ相續スル者ト失踪者ノ財産占有ヲ得タル者トノ間ハ唯一ノ差異アリ是レ第四百三十三條ニ規定スル所ナリ

第四百三十二條 前二條ノ規則ハ失踪者又ハ其相續人及ヒ承權人ニ屬スル相續ノ訟求其他ノ權利ヲ害スルコト無シ此等ノ權利ハ普通ノ時効ニ依ルニ非サレハ消滅セス(佛第三百三十七條、伊第四十四條)

(理由) 前條ニ一言シタルカ如ク失踪者現出スルキハ其除斥セラレタル相續ヲ受ケタル者ニ對シ之ヲ取戻スノ權利アルモノナリ若シ失踪中行フコト得サリシ其他ノ權利ニ關スルキハ其現出シタル後之ヲ行フコト得ヘシ若シ失踪者死去セシキハ其死去前ニ係ル相續其他ノ權利ハ失踪者ノ相續人及ヒ承繼人之ヲ行フコト得ヘシ然レモ失踪者ノ權利ハ時効ニ由リ消滅スルコトアルヘキハ勿論ナリ未成年及ヒ禁治産ハ時効ヲ停止スルモノナリト雖モ失踪ハ決シ

テ時効停止ノ効力ヲ有セス故ニ失踪者ノ權利ハ普通ノ時効ニ從ヒ消滅スヘシ法文ニ普通ト云ヒ三十年ト云ハサルモノハ時効ノ期限ハ權利ノ種類ニ由リ異ナレハナリ相續ノ訟求ハ三十年ヲ以テ消滅スヘシト雖モ所有權ノ取戻訴權ハ善意ノ場合ニ於テハ十年乃至二十年ノ時効ニ由リ消滅スヘシ加之畢生間ノ年金ニ關スルキハ時効ノ期限ハ尙ホ一層短縮ナルヘシ

第四百三十三條 失踪者若クハ其相續人及ヒ承權人其權利ヲ行ハサルハ間ハ相續ヲ爲シタル者其善意ニテ收穫シタル果實ヲ保有ス(佛第三百三十八條、伊第四十五條)

(理由) 本條ハ失踪者ニ歸スヘキ相續ヲ受ケタル者其果實ヲ獲得スヘキコトヲ規定ス是レ善意ノ占有者ハ果實ヲ獲得スヘキ原則ノ適用ニ過キス此點ニ付テハ失踪者ノ財産占有者ト大ニ異ナル所アリ財産占有者ハ第四百二十七條ニ規定スル如ク三十年前ハ果實ノ一部ノミニ非サレハ獲得スルコト得サルモノナリ蓋シ財産占有者ハ失踪者トノ關係ニ於テハ管理者ニシテ所有者ノ名



義ヲ以テ占有スルニ非サレハ善意ノ占有ト云フヘカヲサレハナリ然レモ失  
踪者ノ共同相続人ハ法律ニ由リ相続ヲ得ルモノニシテ所有者ノ名義ヲ以テ  
占有スルモノナリ故ニ其善意ナルキハ果實ノ全部ヲ獲得スヘク若シ失踪者  
ノ生存スルコトヲ知リ惡意ニテ果實ヲ收穫スルキハ其全部ヲ返還セサルヘカ  
ラス

#### 附錄 不在者ニ關スル規則

第四百三十四條 生存確實ナル者住所又ハ居所ヲ去リ其財產  
ヲ管理スル者アラサルキ若クハ裁判所失踪ヲ認定セスト雖  
モ本人不在ノ爲メ其財產棄置カル、キ若クハ失踪者失踪ノ  
推測中又ハ宣言後ニ其生存分明ト爲リタルキハ裁判所ハ關  
係人推測相続人又ハ檢事ノ請求ニ依リ必要ノ保存處分ヲ命  
スルコトヲ得(佛第三百三十一條、伊第三十三條)

(理由) 以上ノ規則ハ失踪者ノミニ關シ失踪トハ一個人ノ生死分明ナラサル

ヲ云フモノナレハ之ヲ不在者ニ適用スルヲ得ヘカラス不在者トハ其生存ニ  
付更ニ疑ナキモ其現在スルコトノ必要ナル場所ニ居ラサル者ヲ云フ此場合ニ  
於テハ其權利々益ヲ保護スルノ方法ヲ設クヘキヤ否ヤ大ニ躊躇スルヲ得ヘ  
シ或ハ云ハシ何人ト雖モ他人ノ家宅ニ侵入シ其私事ニ干渉スルヲ許サ、ル  
ハ公法ノ原則ニシテ若シ不在者トシ他人ノ私事ニ干渉シ其秘密ヲ知ルヲ  
得ルキハ各人ノ自由ヲ害スルコト頗ル大ニシテ其危險云フヘカラス財產ヲ委  
棄シ其破損ニ放任スト雖モ各人ノ自由ニシテ他人ノ干渉スヘキニ非スト此  
說頗ル當レリト雖モ如何ナル場合ニ於テモ不在者ノ利益ヲ保護スル爲メ相  
當ノ處分ヲ命スルヲ得ヘカラスト云フハ極端ニ奔ルモノナリ若シ一切他人  
ノ干渉ヲ禁スルキハ不在者ノ利益ヲ害スルノミナラス第三者及ヒ社會ノ利  
益ニモ反スヘキ相續ノ場合ニ於テハ不在者ノ利益ヲ保護スル爲メ特別ノ規  
則アリト雖モ(第千六百四十三條)尙ホ其他止ムヲ得サル場合アルヘキ例ハ  
暴風其他天災ノ後急ニ不在者ノ家屋ヲ修復スルノ必要ナルコトアルヘキ又ハ

不在者ノ義務者身代限ヲ爲サントスルニ臨ミ其處ニ加入スルノ必要ナルコトアルヘシ是等ハ事務管理ノ場合ナリト雖モ第三者其一己ノ權力ヲ以テ他人ノ家宅ニ侵入スルヲ肯シスルコトハ太々稀ナルヘシ故ニ不在者ノ財産委棄セラレ急ニ其保存ヲ爲スノ必要アルキハ裁判所ハ關係人推測相續人又ハ檢事ノ請求ニ由リ其處分ヲ命スルヲ得ヘキモノトナセリ佛國ニ於テハ失踪推測ノ規則ヲ不在者ニ適用スルノ說アレハ是レ決シテ允當ナラス況ンヤ草案ニ於テハ失踪ノ推測アルキハ管理人ヲ命ジ目錄ヲ調製スル等一般ノ處分ヲ爲スヲ以テ之ヲ不在者ニ適用スルヲ得ヘカラス故ニ法律ニ其處分ヲ定メシテ裁判所ヨリ必要ノ處分ヲ命スルモノトナシタリ此處分ヲ請求スルヲ得ヘキ者ハ關係人及ヒ檢事タルヘシ之ニ推測相續人ヲ加フルハ或ハ不當ナルヘシ何トナレハ生存ノ確實ナルキハ相續人ハ更ニ利害ノ關係ヲ有セザレハナリ

第四百三十五條 帝國ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人失踪シ

其財産ヲ棄置キタル場合ニモ亦前條ヲ適用スルコトヲ得  
(理由) 失踪ハ人ノ身分ニ變更ヲ生スルモノニシテ所謂管人法ナレハ外國人ニハ本章ノ規則ヲ適用スルヲ得サルモノトス然レモ外國人失踪シ其財産ヲ棄置キタル場合ニ於テハ保存處分ヲ命スルノ必要アルヘシ佛國ニ於テハ失踪推測ノ場合ニ於ケル處分ヲ命スルヲ得ヘシトノ說アレハ允當ナラサルヲ以テ不在者ニ關スル規則ヲ適用スヘキモノトナシタリ

第十五章 身分證書

第一節 總則

第四百三十六條 身分證書ハ各個人ノ身分ニ關スル事件ヲ記載スルモノニシテ其簿冊ハ身分取扱人之ヲ掌ル  
身分取扱人ハ管轄市町村内ニ於テ其職ヲ行フ(獨逸身分及ヒ結婚ノ認證ニ關スル法律〔以下獨逸〕第一條第二條、伊第一條、蘭第十三條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ性質並ニ之ヲ取扱フ官吏及ヒ其管轄權限ヲ定ム  
社會ニ於ケル各人ノ身分即チ資格ハ法律上權利義務ノ由テ生スル所ニシテ  
最モ重要ナルモノトス若シ之ヲ放置シテ確認スルノ方法ナキハ契約ニ訴  
訟ニ其他諸般ノ行爲ニ於テ身分ノ證明ヲ求ムル極メテ困難ナルヘシ故ニ法  
律ハ爲メニ特定ノ簿冊ヲ設ケ專任ノ官吏ヲシテ之ヲ記載セシメ社會ニ向テ  
公證スルヲ希圖セリ其官吏ノ職權ヲ行フ管轄區域ヲ限定スルハ事件ノ知  
リ易クシテ錯誤ナカラシメンカ爲メナリ  
身分取扱人ノ職務ハ佛蘭西ニ於テハ邑長及ヒ副邑長ニ兼行セシメ獨逸ニ於  
テハ高等行政廳ノ任命シタル官吏又ハ町村長ニ之ヲ行ハシム其他歐洲諸國  
中邑廳ノ官吏ヲシテ管掌セシムルモノ多シ而シテ其官吏身分證書ニ關スル  
職務ニ付テハ佛蘭西伊太利諸國ハ司法官ニ屬セシメ獨逸ハ行政廳ノ監督ニ  
付シタリ  
今我草案ハ之ヲ市町村長ニ兼任セシメ地方裁判所檢事ノ監督ヲ受ケ司法大

臣ニ屬スル組織ナリトス

第四百三十七條 身分證書ノ簿冊ハ一箇又ハ數箇ヲ設備シ出  
生、婚姻、緣組及ヒ死去ノ證書ニ付テハ正本二冊ヲ調製シ其他  
種々ノ證書ニ付テハ正本一冊ヲ調製ス可シ(獨第十二條、佛第  
四十條、第六十三條、蘭第十四條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ簿冊製設ノ方法ヲ定ム  
各人ノ身分種々アリト雖モ法律ハ專ラ其首タル事項即チ出生、婚姻、緣組、死去  
ノ爲メニ各正本二冊ヲ設備セシム蓋シ二箇ノ正本ヲ設ケル所以ハ證書保存  
ノ安全ヲ圖ルナリ其他種々ノ證書ニ至テハ其事項ノ關係スル所差小ナルヲ  
以テ之ヲ設備スルノ費用ト手數トヲ省クカ爲メ各正本一冊ニ止メタルナリ  
人口少ナキ町村ニ於テハ一箇ノ簿冊ヲ二本備ヘ置キ出生、婚姻、緣組、死去ヲ部  
門ヲ分テ記載シ人口多キ市町村ニ於テハ四箇ノ簿冊ヲ各二本備ヘ置キ出生  
婚姻、緣組、死去ヲ各別ニ記載シ總テ證書ハ二本トモ同一ニ記載シ同一ノ効力ヲ

有セザルモノトス又別一本ノ簿冊ヲ備ヘ置キ專ラ婚姻公告ノ事ヲ記載ス  
歐洲諸國ニ於テハ出生婚姻死去ノ簿冊三箇ヲ設ケ養子ノ事ハ其出生證書ノ  
簿冊ニ記入スト雖モ本邦ニ於テハ縁組即チ養子ノ事件ハ歐洲諸國ト其實チ  
異ニシ且ツ其事件ノ夥多ナルヲ以テ之ヲ出生證書中ニ記入スルキハ簿冊大  
都ニ過キ搜索不便ナルニ因リ別ニ簿冊ヲ設クルノ必要ヲ感ゼタルナリ其他  
種々ノ證書ヲ特設スル理由モ略ホ同シ

第四百三十八條

身分證書ニハ之ヲ作ル年月日時ト其證書ニ  
記載ス可キ人ノ氏名、年齢、族稱、職業、住所及ヒ居所トヲ記載ス  
可シ(獨第十三條第二項、佛第三十四條、伊第三百五十二條)

(理由) 本條ハ總テノ身分證書ニ記載ス可キ條件ヲ定ム  
身分證書ニ官吏其申述ヲ受ケ又ハ實見シテ之ヲ作リタル年月日時ヲ詳記ス  
ルハ其證書記載ノ別時ニアラサルヲ明證スル爲メナリ又證書ニ記載ス可キ  
人ノ氏名、年齢、族稱、職業、住所及ヒ居所ヲ記載スルハ世間往々氏名ヲ同クシテ

其人ノ異ナルモノアルヲ以テ其人ノ別人ナラサルヲ確認スル爲メナリ故ニ

此二則ハ證書ヲ作ルニ最モ緊要ニシテ欠ク可カラサル條件ナリトス

第四百三十九條

身分證書ニハ法律ノ命シタルモノ、外何事  
タリトモ附記スルヲ得ス(佛第三十五條、伊第三百五十五條)

(理由) 本條ハ身分證書ニ記載ノ制限ヲ定ム  
凡ソ身分證書ニ記載ス可キ事ハ法律上各條ニ之ヲ明示セリ故ニ身分取扱人  
ハ法律ノ命シタル事ノ外何事ヲ論セス證書ニ記載スルヲ得ス例ヘハ亂倫  
姦通ノ子タルヲ又ハ父ノ認知セサル庶出子ニ付テハ届出人其父ノ氏名ヲ申  
述スト雖モ之ヲ出生證書ニ記載ス可カラサルノ類ナリ

第四百四十條

身分證書ニ記載ス可キ事件ノ届出人ハ證人ヲ  
同伴シ身分取扱人ノ面前ニ於テ口頭又ハ書面ヲ以テ申述ス  
可シ  
其申述ハ失踪、死去其他特別ニ規定スルモノヲ除クノ外本人

之ヲ爲ス可シ若シ本人家族ナルキハ戸主若クハ其後見人ヲ  
同伴シ又ハ其申述書ヲ添ヘテ之ヲ爲ス可シ但シ止ムヲ得  
サル場合ハ此限ニ在ラス(伊第三百五十一條)

(理由) 本條ハ身分證書ニ記載ヲ請求スル者ノ申述手續ヲ定ム

證人ヲ要スル所以ハ届出人ノ別人ナラサル事ト其申述ノ正實ナル事トヲ證  
明セシムルカ爲メナリ

申述人口頭ヲ以テ爲スルハ身分取扱人直チニ之ヲ簿冊ニ記載シ書面ヲ以テ爲  
スルハ其書面ノ事件ヲ簿冊ニ騰載シ其書面ニハ證書記載ノ年月日時ヲ附記シ  
申述人證人ト共ニ署名捺印シテ之ヲ其證書ノ簿冊ニ添ヘ置クヘキモノトス  
本人ニシテ申述スル者家族ナルキハ其戸主若シ戸主未成年ナルニ於テハ其  
後見人ノ同伴又ハ添申書ヲ要スル所以ハ獨立ノ資格ナキ者ナレハナリ

第四百四十一條 本人躬ラ出席スルニ及ハサル場合ニ於テハ  
公正ニシテ特別ノ委任狀ヲ以テ任シタル代理人ヲ差出ス

ヲ得(佛第三十六條、伊第三百五十四條)

(理由) 本條ハ關係本人ニ代理人ヲ許ス場合ヲ定ム

本人トハ證書ニ記載セラル、者又ハ事件ノ申述ヲ爲ス者ヲ云フ婚姻及ヒ縁  
組ノ契約ヲ爲スニハ主タル本人自身出席スルヲ要ス其他ハ代理人ヲ出ス  
ヲ得然レモ其代理人ハ二箇ノ性質ヲ具備セサル可カラス第一代理ノ特別即  
チ委任狀ニ其事件ヲ代理セシムル者ヲ特ニ記載シタルヲ第二其委任狀ハ公  
証人ノ記シタル公正證書ナリトス

第四百四十二條 證人及ヒ代理人ハ親族ト否トニ拘ラス日本  
人ニシテ成年ノ男子タル可シ(佛第三十七條、伊第三百五十一  
條、蘭第二十條)

(理由) 本條ハ證人及ヒ代理人タル者ノ資格ヲ定ム

身分證書ノ證人タル資格ハ歐洲諸國ノ法律ヲ案スルニ佛蘭西ニ於テハ二十  
一歳以上ノ男ニ限ル可シトスルモ佛蘭西人タル分限ヲ要セサルヲ以テ外國人

チモ證人ト爲スヲ得荷蘭ニ於テハ佛法ニ制限ヲ加ヘ王國內ニ住居スル者  
チ要ストシ伊太利ニ於テハ滿二十一歳ニ達シ同邑ニ居住スル者チ要スト爲  
シタリ又英吉利ニ於テハ男女チ問ハス誠實ニシテ其證スル所ノ何事ナルヤ  
チ辨別シ得ヘキ年齢ニ達セシ者タル可シトシ獨逸ニ於テハ婚姻契約ノ證人  
ハ丁年者ナラサル可カラスト定メ其他ノ事件ニ付テハ別ニ其資格ヲ限ラサ  
ルチ以テ身分證書ヲ記載スル官吏ノ知ル人ノ紹介ニ由リ證書ヲ記載スル  
チ得ルモノ、如シ之チ要スルコ身分證書ハ短縮ナル期限間ニ之チ記載セサ  
ルチ得サルニ因リ法律上其證人ニ對シ容易ニ有ル可カラサルノ資格ヲ要シ  
以テ其記載ヲ妨クヘカラスト云フ理由ニ基キタルモノナルヘシ然レモ今日  
社會ノ景狀ヲ察スルニ此等重要ナル事件ノ證人タルモノハ成ル可ク國民中  
ニ求ムルチ善トス故ニ我草案ハ證人及ヒ代理人チ日本人ニシテ成年ノ男子  
タル可シトス但シ外國人ニ關スル身分證書ニ付テハ外國人證人又ハ代理人  
タルチ得ルハ勿論ナリ此場合ニ於テハ其外國人充分ニ日本語ヲ解スルカ又

ハ其外國人ノ國語ヲ解スル日本人チ第三證人トシテ伴フ可キモノトス

第四百四十三條 身分取扱人ハ届出人ノ申述ヲ受ケ證人ノ面  
前ニ於テ直チニ其事件ヲ簿冊ニ記載シ之チ出席人ニ讀ミ聞  
カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ出席人其氏名ヲ手署スルヲ能  
ハサルキハ身分取扱人代署シテ捺印セシメ且ツ其旨ヲ附記  
ス可シ

其證書ニハ之ヲ讀ミ聞カセタルヲ記載ス可シ(佛第三十八  
條第三十九條、伊第三百五十二條第三百五十三條)

(理由) 本條ハ身分證書記載ノ法式ヲ定ム

身分取扱人正本二冊ヲ設ケタル簿冊ニ記載ス可キ事件ニ係ルキハ引續キ同  
一ノ手續ヲ爲ス可キモノトス

第四百四十四條 身分取扱人ハ身分證書ノ記載ニ從ヒ簿冊毎  
ニ氏ノ「イロハ」順ヲ以テ氏名、種目、番號ヲ摘記シタル見出目錄

ヲ作り添へ置ク可シ

(理由) 本條ハ見出目録調製ノ事ヲ定ム  
一年間記載シタル身分證書ノ搜索ヲ便ニスル爲メ其見出目録ヲ作り各簿冊ニ  
添へ置クハ必要ノコトナリ佛蘭西ニテハ毎年ノ終リニ證書ニ依リ「アベセ」ノ順序  
ヲ以テ氏名ヲ記シ證書ノ一覽表ヲ製シ簿冊ノ結尾ニ附スルコトス我草案ハ每  
年身分證書ノ簿冊ト共ニ見出目録帳ヲ設ケ置キ本證書ノ記載ニ從ヒ逐次記入  
セシム是レ其脱漏ヲ防キ且ツ年末ニ至リ一時調製スルノ勞ヲ省ク爲メナリ

#### 第四百四十五條

身分取扱役所ニハ身分證書ノ外別ニ戸籍ヲ  
設備シ身分證書ニ據リ各戸ヲ區別シ戸主家族ヲ編録シ其續  
柄ヲ簡明ニ記載ス可シ但シ其編録ノ方法ハ特別法ノ定ムル  
所ニ從フ

(理由) 本條ハ別ニ戸籍設備ノ事ヲ定ム  
本邦従前戸籍ヲ設ケ戸主家族ノ續柄及ヒ出生婚姻縁組死去其他身上ノ異動

ヲ記載セ世治ノ要具ト爲スト雖モ其方法不完全ニシテ身分ヲ證スルニ充分  
ナラサルヲ以テ今ヤ改テ身分證書ノ制ヲ設クルニ至レリ然レモ身分證書ノ  
体裁ハ人ヲ主トシテ記載スルニ因リ各人各簿冊ニ記載セラレ一戸即チ一家  
内ノ人口戸主家族ノ續柄等ヲ一目瞭然タラシムル能ハス本邦ノ如キ家ヲ主  
トシ戸主ヲ立テ家族ヲ統括スル組織ニ於テ俄ニ戸籍ヲ廢スルハ世治上頗  
ル不便ヲ感スルニ至ラン故ニ暫ク戸籍ヲ存セ更ニ簡易ナル編録方法ヲ定ム  
ルヲ可トス但シ戸籍ノ事タル身分取扱人ノ擔任スヘキモノニ非ラスト雖モ  
行政官ヲ以テ別ニ之ヲ作ラシムルハ更ニ手數ヲ増加シ人民其煩ニ堪ヘサ  
ルヘシ寧ロ身分取扱人ニ之ヲ兼掌セシムルノ便利ナルニ如カス

#### 第四百四十六條

身分證書ノ簿冊ハ公用野紙ヲ以テ調製シ其  
記載ヲ爲ス前ニ地方裁判所長若クハ其代理判事之ヲ檢閲シ  
其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ掲記シ之ニ官氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ  
初葉ト末葉トニ記號ヲ附シ且ツ每葉ノ綴目ニ契印ヲ捺ス可

シ(獨第八條、佛第四十一條、伊第三百五十七條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ簿冊調製ノ方法ヲ定ム  
法律ハ身分證書ノ増減變更廢棄又ハ際急ノ偽造ヲ防止センカ爲メ簿冊ノ調製ヲ嚴格ニセリ

身分證書ノ簿冊ハ佛蘭西ニテハ印紙ニテ之ヲ作り其費用ハ邑ノ負擔トシ獨逸ニテハ聯邦中央廳ヨリ無代價ニテ各町村ニ給與スルトス我草案ハ其費用ノ點ニ於テ官民ノ別ヲ明言セスト雖モ地方裁判所長ノ檢閱完成ヲ經テ檢事ノ監督ニ屬スルモノナレハ國庫ノ支辨ニ歸スルヲ允當ナリトス

第四百四十七條 身分證書ハ其簿冊上日次ヲ逐ヒ空行ナク連續シテ記載ス可シ

欄外ノ追記ハ證書ノ本文ト同シク出席人及ヒ身分取扱人共ニ之ヲ承認シテ署名捺印ス可シ  
身分證書ヲ作ルノ際錯誤脱漏ヲ發見シタルキハ其所ニ誤脱ヲ

記入シタル上其字數ヲ欄外ニ記載シ身分取扱人出席人ト共ニ之ニ捺印ス可シ但シ其消スヘキ文字ハ之ヲ線抹シ尙ホ讀得ヘキヲ要ス(獨第十三條、佛第四十二條、伊第三百五十八條)  
(理由) 本條ハ身分證書ノ書式ヲ定ム  
身分證書ノ記載方ヲ嚴密ニスルハ詐偽變更ヲ豫防スルカ爲メナリ

第四百四十八條 身分證書ニ記載スル文字ハ明瞭ニシテ讀ミ易キヲ要ス又年月日時及ヒ年齡ニ係ル數字ハ一二三六八十ノ字ニ限リ必ス壹貳參陸捌拾ノ字ヲ用フ可シ(同上)

(理由) 本條ノ主旨前條ニ同シ  
數字ハ一二三六八十ノ字ニ限リ必ス壹貳參陸捌拾ノ字ヲ用フ可シトシタルハ通常用フル數字中變更易キ字ノミチ多量ノ字ニ換ヘ身分取扱人筆記ノ便利ヲ圖リタリト雖モ再考スルニ既ニ公證人規則第三十一條ニ於テ數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾ノ字ヲ用フ可シト定メラレタル



ヲ以テ身分證書ニ於テ僅ニ肆伍漆玖ノ四字ヲ用ヒサルハ却テ迷誤ヲ致スノ  
恐レナキニ非ス故ニ本條「數字ハ」以下ヲ「數字ハ壹貳參肆伍陸漆捌玖拾ノ字ヲ  
用フ可シ」ト改正アラント希望ス

第四百四十九條 本人住所外ノ他ノ身分取扱人身分證書ヲ作  
リタルキハ十日内ニ其謄本ヲ本人住所ノ身分取扱人ニ送付  
シ其送付ヲ受ケタル身分取扱人ハ直ニ之ヲ簿冊ニ記載ス  
可シ

身分取扱人欄外追記ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其役所ニ原證書  
アラサルキハ其原證書ノ存スル所ノ身分取扱人ニ其追記ノ  
事ヲ通知ス可シ(獨第四十三條、佛第八十條、伊第三百七十九條  
第三百九十七條)

(理由) 本條ハ第四百三十六條第二項ノ例外法ヲ定ム  
身分取扱人ハ他管内ノ身分證書ヲ作ルノ權ナシト雖モ若シ他管内ノ人民ニ

シテ我管内ニ於テ出生死去又ハ庶出子ヲ認知スル等ノ事アルキハ其證書ヲ  
作ルノ權アリ  
婚姻ヲ行フコト付テハ雙方ノ中一方ノ住所又ハ居所ヲ管轄スル身分取扱人其  
證書ヲ作ル可キモノナレトモ若シ雙方ノ住所又ハ居所ニ非サル地ニ於テ婚姻  
ヲ行フノ必要アルキハ管轄身分取扱人ノ囑託ニ依リ其他ノ身分取扱人證書  
ヲ作ルコトヲ得

然レモ是例外法ナルヲ以テ其作リタル證書ノ謄本ヲ期限内ニ本人住所ノ身  
分取扱人ニ送付シ管轄證書ヲ完成セシメサル可カラズ欄外追記ニ係ル場合  
ニ於テモ亦同シ

第四百五十條 身分取扱人ハ毎年十二月末日ニ於テ最終ノ證  
書ノ後ニ閉結ノ旨ヲ記シ署名捺印シ正本二冊ノ内一冊ハ其  
役所ニ保藏シ一冊ハ翌年一月中ニ地方裁判所ノ檢事局ニ差  
出ス可シ但シ正本一冊ノミノ簿冊ハ其役所ニ保藏ス可シ

身分證書ニ添へ置ク可キ申述書及ヒ其他ノ書類ハ身分取扱人其都度出席人ト共ニ署名捺印シ其書類ノ數ヲ本證書ニ附記シ之ヲ整頓シテ檢事局ニ差出ス可キ簿冊ニ附添ス可シ(獨第十四條第二項佛第四十三條第四十四條伊第三百六十條第三百六十一條)

(理由) 本條ハ身分證書並ニ附屬書類保存ノ方法ヲ定ム  
正本二冊ヲ設ケタル身分證書ハ一冊ノミノ證書ヨリ重要ナルモノナルニ因リ法律ハ其亡失ヲ豫防スル爲メ二冊ノ正本ヲ設テ各其場所ヲ異ニシテ保藏セシム此方法タルヤ證書ノ保存ニ關シ最モ實益アルモノトス何トナレハ非常ノ事變ニ遇フニ非サレハ之ヲ保藏セタル一所ヲ掠奪セラレ若クハ水火等ノ災ニ罹ルコト有ルモ他ノ一所ハ尙ホ之ヲ免カル可キヲ以テナリ

**第四百五十一條** 地方裁判所ノ檢事ハ身分證書ノ簿冊ノ設備ヲ監督シ常ニ其整頓ニ注意シ其領收シタル簿冊並ニ附添書

類ヲ檢查シ書記ノ立會ニテ其結果ヲ記シ之ニ認印シテ其裁判所ノ書記局ニ保藏セシム可シ

檢事若シ身分證書ニ付犯則アルコトヲ發見シタルキハ其裁判所ニ相當ノ處分ヲ請求ス可シ(佛第五十三條伊第三百六十五條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ監督檢查及ヒ犯則處分ノ事ヲ定ム  
地方裁判所ノ檢事ハ常ニ身分證書ノ設備ヲ監督シ毎年其裁判所ニ保藏ノ爲メ領收スル身分證書ノ簿冊并ニ附添書類ヲ檢查シ若シ犯則アルコトヲ發見セタルキハ犯則者ニ對シ刑事裁判所ニ求刑ス可キモノトス  
又檢事ハ公ケノ秩序又ハ貧民ノ爲メニ非サレハ身分證書ノ訂正ヲ求ムルコトヲ得ス

其結果ヲ記スルトハ犯則ノ有無ヲ零記スルヲ云フ例ハ簿冊證書共ニ皆完備シテ瑕瑾ナキモノハ無反則ト記スルカ如シ

**第四百五十二條** 既ニ記載シタル身分證書ニ追記ヲ爲ス可キ

ハ當事者ノ請求ニ依リ身分取扱人ハ其證書ノ欄外ニ之ヲ  
記入ス可シ但シ地方裁判所ノ書記局ニ保藏スル證書ニ其追  
記ヲ爲スニ付テハ身分取扱人ハ三日内ニ其旨ヲ檢事ニ報告  
シ檢事ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ記入セシメ且ツ其記入ノ彼  
此同一ナルヘキヲ檢視ス(獨第十四條第三項佛第四十九條  
伊第三百五十九條)

(理由) 本條ハ身分證書ヲ補充セ若クハ更改スル所ノ諸證書ヲ確カニ保存ス  
ル爲メ官吏ノ踐行ス可キ規則ヲ定ム  
追記ス可キ事項若シ其身分證書ヲ記載シタル年内ニ發生セテ當事者其記入  
ヲ請求スルハ身分取扱人ハ尙ホ二箇ノ簿冊ヲ管守スルコ依リ直チニ其簿  
冊ニ記入ス可シ又既ニ其一冊ヲ地方裁判所ノ書記局ニ保藏シタル後ニ係ル  
ハ唯其役所ニ在ル簿冊ニノミ記入シ裁判所ノ書記局ニ在ル所ノ簿冊ニハ  
記入ノ爲メ其旨ヲ檢事ニ報告ス可キモノトス

第四百五十三條 身分證書ノ簿冊ハ何人ニ限ラス身分取扱役  
所ニ於テ展閱ヲ乞ヒ且ツ費用ヲ出シテ其謄本ヲ身分取扱人  
ニ求ムルヲ得  
身分取扱人ハ各個人ノ請求ニ應シテ其證書ノ搜索ヲ爲サ、  
ル可カラス  
其謄本ハ原本ト同一ニ謄寫シ之ニ相違ナキ旨ヲ附記シ署名  
捺印シテ授付ス可シ(獨第十六條、佛第四十五條、伊第三百六十  
二條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ簿冊ヲ公明ニス可キ事ヲ定ム  
公證人ノ記シタル證書類ハ夫婦財產契約書ヲ除クノ外其證書ニ關係セタル  
本人若クハ代理人ニアラサレハ其謄本ヲ得ルノ權利ナシト雖モ身分證書ハ  
然ラス何事ニ拘ラス他人ト取引ヲ爲サントセハ先ツ其人ノ身分(成年ナルヤ  
否ヤ婚姻セシヤ否ヤ死去セシヤ否ヤ其他身上ノ分限如何ヲ知ルヲ以テ大ニ

利益アルモノトス故ニ其身分證書ノ簿冊ハ之ヲ公明ニシ且ツ衆人ノ縦覽ヲ許スヲ要ス是何人ニ限ラス其簿冊所在ノ身分取扱役所ニ於テ展開ヲ乞ヒ其謄本又ハ證書ノ搜索ヲ身分取扱人ニ求ムルノ權利アル所以ナリ  
本證書ノ記載及ヒ之ニ關スル手續ハ手数料ヲ要セスト雖モ謄本請求ニ付テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘキモノトス但シ官用若クハ請求者ノ無資力ナルルキハ此限ニ在ラス

謄本ハ其證書ノ原本ニアル總テノ記載ヲ其儘ニ謄寫シ身分取扱人ニ於テ其原本ニ相違ナキヲ認證シ署名捺印ニテ授付スル所以ハ原本ト同一ノ効力ヲ有セシムルカ爲メナリ又其謄本ヲ作リタル役所及ヒ年月日ヲ記スルハ法文ニ明示ナシト雖モ之ヲ記スヘキハ勿論ナリトス  
佛蘭西ニ於テハ身分證書ノ謄本ヲ身分證書ノ官吏ノミナラス其簿冊ヲ管守スル郡裁判所ノ書記ニ對シテ求ムルヲ得セシメ其謄本ヲ郡裁判所ノ管轄外ニ使用スルルキハ郡裁判所長若クハ其代理判事謄本ノ末ニ之ヲ付與セタル

官吏ノ姓名手署ハ法ニ適シ正實ナルヲ認證スル(佛語レガリザイシヨシ)ニアレサレハ真正ノモノトスルヲ得スト雖モ伊太利ニ於テハ之ニ反シ謄本付與ノ任ヲ身分證書官吏ニ限リ隨テ裁判所長ノ認證ヲ要セサルヲトセリ我草案ニ於テモ身分取扱人ノミ謄本ヲ授付スルヲ得裁判所長ノ認印ヲ要セサルヲニ定メタルハ身分取扱人ノ信用ヲ重クシ手續ノ煩ヲ省キタルナリ

第四百五十四條 有効ノ身分證書并ニ其正式ノ謄本ハ身分取扱人ノ自認スル事實ノ真正ナルヲ證ス但シ偽造ノ訴ヲ妨ケス

出席人ノ申述ハ反對ノ證據アルマテ真正ナルモノト看做ス  
法律ノ命セサル記載及ヒ資格ナキ者ノ申述ハ無効トス(獨第十五條、佛第四十五條、伊第六十三條)

(理由) 本條ハ身分證書并ニ其謄本ノ證據力ノ程度如何ヲ定ム  
正當ノ手續ヲ經タル身分證書并ニ其謄本ヲ真正トスル推測即チ偽造ノ訴ニ

由ルニ非サレハ取消ス能ハサル程度ハ其證書ニ記載シタル諸般ノ事件ニ之ヲ推及スルヲ得ス左ノ如ク其區別ヲ爲サ、ル可カラス是其事件ノ種質ニ因リ自然ニ生スル所ノモノナリ

第一 身分取扱人ノ現ニ檢視シ且ツ聽キタリト證スル所ノ事件ハ偽造ノ訴アルマテ真正ノモノト看做サル可シ

第二 出席人ノ申述ニ依テ記載シタル所ノ事件モ亦真正ノモノト看做サルレモ若シ之ヲ排斥セントスル者ハ單ニ反對ノ證憑ヲ擧テ以テ之ヲ取消スルヲ得可シ

第三 法律ノ命令スル所ニ非サルカ又ハ申述スヘキ資格ナキ者ノ爲シタル所ノ事件ハ更ニ其効力ヲ有セサルモノトス  
蓋シ自分取扱人ノ保證ハ申述人ノ保證ニ比スレハ特ニ真正ノ力ヲ有スルモノナリ此差異ハ官吏ト平民トノ間ニ自カラ存スルモノトス何トナレハ官吏ハ政府ノ撰擢ヲ得テ其品行ノ正シク其廉直ナル可キハ固ヨリ論ナク世ニ信

用セラル可キ者ナレハナリ平民ハ則チ然ラス凡ソ身分證書ノ申述人タル可キ者ハ何人ニ限ラス行フヲ得ルモノナレハ其品行ヲ證スル爲メ特殊ノ情況アルニ非ス又其廉直ニ於ケルモ官吏ノ如ク嚴ニ擔保セラル、者ニ非サレハナリ

#### 第四百五十五條 身分證書ノ記載上ノ違式若クハ誤脱ハ其證書ヲ無効ト爲サス但シ左ノ場合ハ此限ニ在ラス

- 一 身分取扱人之ヲ作ラサルキ
- 二 簿冊ニ之ヲ記載セサルキ
- 三 身分取扱人之ニ署名捺印セサルキ(獨第十五條第三項、白耳義民法草案第九十五條第九十六條)

(理由) 本條ノ主旨前條ニ同シ

法律ハ身分證書ノ完成ヲ嚴格ニスト雖モ又其記載上ニ違式若クハ誤脱アルカ爲メ容易ク人ノ身分ヲ廢斥スルヲ欲セス之ヲ裁判官ノ判定ニ任カセタ

リ然レモ身分取扱人ノ之ヲ作ラサルキ又ハ零紙ニ記載シタルキ又ハ身分取扱人ノ署名捺印セサルキノ如キハ決シテ信用ヲ置ク可カラサルヲ以テ當然無効トス

第四百五十六條 身分證書ノ簿冊ノ設備ナク若クハ中絶シタルキ又ハ其全部若クハ一部ノ毀損亡滅シタルキ又ハ其記載上ニ甚シキ違式若クハ誤脱アリテ信用ヲ置ク可カラサルキ又ハ身分取扱人ノ詐欺若クハ過失ニ因リ身分證書ヲ作ラサリシキハ戸籍證人若クハ私ノ書類ヲ以テ其身分上ノ事件ヲ證明スルヲ得但シ詐偽ヲ以テ其事由ヲ釀成シタル者ハ此限ニ在ラス(佛第四十六條、伊第三百六十四條)

(理由) 本條ハ身分證書ニ據リ身分ヲ證明スルヲ能ハサル場合ニ於テ之ヲ補充スル方法ヲ定ム  
元來各人ノ身分ハ身分證書ニ據ルコアラサレハ之ヲ證明スルヲ得サルヲ

以テ常規トス然レモ非常ノ事故アリテ其身分ノ法ニ適シタル證據ヲ得ルヲ能ハサル者ノ爲メ更ニ例外ヲ設ケ普通法ニ從ヒ證明スルヲ許サハル可カラス抑モ法律ハ到底爲シ難キノ事件ヲ強テ要スルヲ能ハサルモノナリ是本條ニ於テ其規則ヲ設ケタル所以ナリ

〔證明スルヲ得〕トアルハ裁判官ニ探證ノ自由ヲ與ヘタルナリ

第四百五十七條 日本人外國ニ於テ其國ノ法式ニ從ヒ作ラシメタル身分證書ハ有効トス

此場合ニ於テハ本人其證書ノ謄本ヲ三個月内ニ其國駐在ノ帝國公使若クハ領事ニ差出ス可シ

若シ其國ニ帝國公使若クハ領事ノ駐在ナキハ本人歸國ノ後三個月内ニ其證書ノ謄本ヲ住所ノ身分取扱人ニ差出シ其記載ヲ求ム可シ(佛第四十七條、伊第三百六十七條)

(理由) 本條及ヒ第四百五十八條ハ日本人外國ニ於テ作ル身分證書ノ法式効

第四百五十八條 外國在留ノ日本人ハ帝國公使館又ハ領事廳

力并ニ其取扱手續ヲ定ム  
法律ハ外國ニ在留スル日本人ノ便宜ノ爲メ其身分證書ヲ作ラシムルニ二様  
ノ方法ヲ認許セリ即チ本人ノ意ニ任カセ帝國ノ法式ニ從ヒ帝國公使若クハ  
領事ニ請求スルカ又ハ其在留スル國ノ法式ニ從ヒ外國ノ身分證書官吏ニ請  
求スルヲ得可シトス  
本條ハ場所ハ證書ヲ定ムト云フ原則ヲ採用シ外國官吏ノ作リタル身分證書  
ヲ真正ノモノトス然レモ唯其證書ニ真正ノ力ヲ附スルノミニシテ其効ノ如  
キハ日本人ニ關スルモノハ固ヨリ帝國ノ法律ニ定メタル能力ヲ得可キノ諸  
要件ニ從フ可シ

膽本チ其國駐在ノ帝國公使若クハ領事ニ差出サシムルハ唯國民保護ノ爲メ  
ノミナラス其證書ハ眞ニ適法ノモノナルヤ否ヤヲ知ルノ益アルニ因ル然レ  
モ公使領事ノ駐在ナキ國ニ於テハ此例ニ在ラス

ニ於テ帝國ノ法式ニ從ヒ身分證書ヲ作ラシムルヲ得  
公使館又ハ領事廳ニ於テ作り若クハ本人ヨリ受取りタル身  
分證書ノ膽本ハ三個月内ニ外務大臣ニ送致シ外務大臣ハ之  
ヲ本人住所ノ身分取扱人ニ送付ス可シ但シ本人ノ住所不詳  
ナルキハ之ヲ司法省ニ藏置ス(佛第四十八條伊第三百六十八  
條)

(理由) 本條ノ主旨ハ前條ニ見ユ

外國ニ駐在スル帝國公使又ハ領事ハ其國ニ在留スル日本人ノ身分證書ヲ作  
ルノ權ヲ有ス然レモ其管轄ハ日本人ニ限ルヲ以テ獨リ外國人ニ關スル證書  
又其一人ハ日本人一人ハ外國人タル者ノ證書ハ之ヲ作ルヲ得ス故ニ日本  
人若シ外國ニ在テ外國ノ婦女ト婚姻ヲ行フキハ必ス外國ノ身分證書官吏ノ  
面前ニ於テセサル可カラス是其本人等ハ專ラ外國身分證書官吏ノ管轄ニ屬  
ス可キ者ナルニ因ル蓋シ外國官吏ハ其國ノ法律ニ從ヒ該婦女ニ對シテ管轄

權ヲ有シ又日本人ニ對シテハ場所ハ證書ヲ定ムト云フ理由ニ依リ同シク管轄權ヲ有スル者ナリ之ニ反シテ我官吏ハ其本人雙方ノ中外國人ニ對シテハ更ニ管轄權ナキ者ナレハナリ

#### 第四百五十九條

前二條ニ掲クル身分證書ノ謄本ヲ受取リタル身分取扱人ハ直ニ之ヲ簿冊ニ記載ス可シ

(理由) 本條ハ第四百四十九條ノ法意ヲ外國ニ於テ作リタル身分證書ニ推及シテ本人住所ノ身分證書ヲ完成スル規則ヲ定ム  
以上本節ニ定メタル諸規則ハ一般ニ關涉スルモノニシテ身分證書ノ總則ナリトス故ニ第二節以下各證書ノ上ニ之ヲ適用ス可シ但シ各證書ニ於テ又特別ノ規則ヲ具フ是第二節以下ノ趣旨ヲ組成スルモノナリ

#### 第二節 出生證書

#### 第四百六十條

出生アリタルキハ届出人ハ分娩ヨリ十日内ニ證人一名ヲ同伴シ其所ノ身分取扱人ニ申述ヲ爲ス可シ

身分取扱人ハ必要ト思料スルキハ醫師ヲ派遣シ又ハ躬ラ其子ヲ臨視スルヲ得(獨第十七條第二十一條、佛第五十五條、伊第三百七十一條)

(理由) 本條ハ出生申述ノ期限及ヒ身分取扱人ノ職權ヲ定ム

出生ハ親族及ヒ社會中ニ於テ新ニ一個人タルノ權利ヲ授クルモノナレハ甚ク重大ナル事トス故ニ其申述ノ精密且ツ正實ナルヲ證スルニ足ラシメシカ爲メ期限ヲ定メ必ス其申述ヲ爲スヲ要ス  
法律ニ於テ短キ期間ニ申述セシメシテ欲シタルハ其事實ヲ變更シ爲メニ利益スル所ノ者ヲシテ其時間ヲ偷マシメサランカ爲メト其申述人ニ於テモ多ク時日ヲ經過セサルキハ其出生ノ日時ヲ最モ明確ニ記憶シ得ヘキトノ目的ニ因ル

申述期限佛蘭西ハ三日内伊太利ハ五日内獨逸ハ一週日内英吉利ハ四十二日内ト定メタルハ現行戶籍法ノ届出期限ニ依リタルナリ



又佛蘭西伊太利ニ於テハ出生申述ノ時其子ヲ携持シテ身分證書ノ官吏ニ示  
ス可キ規則ナリト雖モ生レテ未タ時日ヲ經サル子ヲ他所ニ移動スルニ於テ  
ハ或ハ生命ニ危害ヲ與フルノ恐レアルヲ以テ我草案ハ之ニ倣ハス然レモ其  
子ノ男女生死又ハ申述期限ノ遲怠等ニ關シ疑フ可キ景狀アルキハ其申述人  
ノ詐欺ヲ防クカ爲メ身分取扱人ノ職權ヲ以テ醫師ヲ派遣シ又ハ躬ラ臨視シ  
テ検査スルヲ得セシメタリ

第四百六十一條 出生ノ後十日ヲ過キタルキハ地方裁判所ノ  
命令アルニ非サレハ其證書ヲ作ル可カラス(獨第二十七條、伊  
第三百七十二條)

(理由) 本條ハ申述ヲ怠ラタル者ノ制裁ヲ定ム  
出生ノ申述ヲ爲ス可キ者若シ期限内ニ申述ヲ爲サ、ルキハ第五百十條ノ處  
分ヲ受ケタル上地方裁判所ノ許可アルニ非サレハ其出生證書ヲ記載スルコ  
ト得ス

第四百六十二條 出生ハ父ヨリ申述ス可シ若シ父ノ在ラサル  
キハ同居ノ親族若クハ分娩ノ時臨席シタル醫師產婆其他ノ  
人ヨリ申述ス可シ若シ常ニ住居セサル他ノ家ニ於テ分娩シ  
タルキハ父ニ次キ其家主若クハ管理人ヨリ申述ス可シ  
母モ亦其申述ヲ爲スコト得

右申述ヲ受ケタル身分取扱人ハ直チニ其證書ヲ作ル可シ(獨  
第十八條、佛第五十六條、伊第三百七十三條)

(理由) 本條ハ出生ヲ申述ス可キ義務アル者ノ順序ヲ定ム  
第一父第二同居ノ親族親族中ニ於テハ親等ノ遠近ヲ以テ順序ヲ定ム(第三醫  
師第四產婆第五其他ノ人又若シ母其住所外ニ於テ出産シタルキハ第一父第  
二其家主若クハ管理人第三以下前ニ同シ第六母ノ已ニ申述ヲ爲シ得ルニ至  
リタル者但シ申述ノ義務ヲ行フハ上記ノ順序ニ從ヒ前者不在若クハ事故アリ  
テ申述ヲ爲スコト能ハサルキニノミ後者申述ヲ爲ス可キモノトス

右ニ記列シタル者若シ申述ヲ爲サ、ルニ於テハ第五百十條ノ刑ニ處セラル  
ヘシ

第四百六十三條 出生證書ニハ出生ノ年月日時場所子ノ男女、  
其子ニ命シタル名、及ヒ其父母申述人證人ヲ記載ス可シ  
若シ雙兒以上ノ分娩ニ係ルキハ其出生ノ前後ヲ記ス可シ(獨  
第二十二條、佛第五十七條、伊第三百七十四條)

(理由) 本條ハ出生證書ニ記載ス可キ事件ヲ定ム

第一出生ノ年月日時ヲ記スルハ初生ノ期ヲ明確ニシ且ツ成年期ヲ算スルノ  
用ニ供センカ爲メナリ第二出生ノ場所ヲ記スルハ身分取扱人其管轄内ニ於  
テ記載セシヤ否ヤヲ知ラシムルカ爲メナリ第三男又ハ女タルヲ記スルハ  
女子ノ權利ハ諸般ノ場合ニ於テ男子ト同シカラサルヲ以テナリ第四其子ニ  
命シタル名ヲ記スルハ其別人タラサルヲ示サンカ爲メナリ第五其父母ヲ  
記スルハ適出ノ子タルヲ證センカ爲メナリ第六申述人ヲ記スルハ其申述

人ノ適法ナルヲ證センカ爲メナリ第七證人ヲ記スルハ其申述人ノ別人ナ  
ラサルヲ其申述スル所ノ事ノ正實ナルヲ證センカ爲メナリ但シ其父  
母申述人證人ニ付テハ各氏名年齢族稱職業住所及ヒ居所ヲ詳記ス可キモノ  
トス本條之ヲ言ハサルモノハ總則第四百三十八條ニ規定シタルヲ以テ再言  
ノ勞ヲ省キタルナリ  
又一產二兒若クハ三兒ヲ舉クルモノ其出生ノ前後ヲ記スルハ兄弟姉妹ノ倫  
序ヲ明カニセンカ爲メナリ

第四百六十四條 庶出子ニ付テハ父之ヲ認知シタル場合ニ非  
サレハ届出人其父ノ氏名ヲ申述スト雖モ之ヲ出生證書ニ記  
載ス可カラズ(伊第三百七十六條、蘭第三十二條)

(理由) 本條ハ前條ノ例外法ヲ定ム

本條ノ規則ハ第六章第二節第三款第百八十三條ノ結果ナリトス

第四百六十五條 病院、監獄其他公立院舎ニ於テ出生アリタル

キハ二十四時内ニ院長、典獄又ハ管理人ヨリ其所ノ身分取扱人ニ報告ス可シ

身分取扱人ハ其報告ニ據リ直チニ出生證書ヲ作ル可シ(獨第二十條、伊第三百七十三條第一項末段)

(理由) 本條ハ第四百六十二條ノ例外法ヲ定ム

病院監獄其他公立院舎ニ於テハ院長典獄又ハ管理人ニ出生申述ノ義務ヲ負ハシム此場合ニ於テハ職務上ノ方式ニ依ル書面ヲ以テ報告ヲ爲サシムルモ

#### 第四百六十六條

棄兒ヲ發見シタル者ハ其兒并ニ附屬シタル衣服其他ノ物品ヲ其所ノ身分取扱人ニ差出シ且ツ發見ノ場所日時其他ノ景況ヲ申述ス可シ

身分取扱人ハ調書ヲ作り其兒ヲ貌閱シタル年齢其男女其兒ニ命シタル氏名及ヒ其兒ヲ引渡ス所ノ育兒院若クハ之ヲ引

受ケ養育スル者ノ氏名年齢族稱職業住所又ハ居所ヲ記入シ其調書ヲ身分證書ノ簿冊ニ記載ス可シ(獨第二十四條、佛第五十八條、伊第三百七十七條第三百七十八條)

(理由) 本條ハ棄兒ノ身分證書ニ關スル規則ヲ定ム

法律ハ棄兒發見ノ狀況ヲ詳密ニシ他日父母ヨリ其子ヲ認知シ又其子ヨリ其父母ヲ搜索スルノ用ニ供セント欲スルナリ

#### 第四百六十七條

出生證書ヲ作ラサル前ニ其生レタル子又ハ發見シタル棄兒死去シタルキハ生レタル子ニ付テハ醫師ノ診斷書又棄兒ニ付テハ保安官ノ檢視調書ヲ身分取扱人ニ差出シ申述ヲ爲ス可シ身分取扱人ハ死去證書ノ簿冊ニ其申述ノミヲ記載ス可シ(獨第二十三條、伊第三百七十四條第四項)

(理由) 本條ハ身分取扱人未タ出生證書ヲ作ラサル前ニ死去シタル子ノ身分證書記載方ヲ定ム

凡ソ胎兒ハ既ニ其權利ヲ得ルニ適スル者ナレド尙ホ未必ノ條件ニ附セラレ即チ分娩ノ時生出シ且ツ健康ニシテ後來生長シ能フヘキノニ要件ニ屬セラ  
ル、者トス故ニ其子ノ死出タルヤ否ヤヲ知ルハ最緊要ノ事ニシテ法律ハ身  
分取扱人ノ記載セル證書ハ此件ノ決定ニ毫モ干渉ス可カラサルヲ欲シタ  
リ是ヲ以テ生レタル子又ハ瘵兒ノ死去シタルコトノ申述ヲ受ケタル身分取扱  
人ハ其出生證書ヲ作ラヌシテ直チニ死去證書ノ簿冊ニ死去ノ事ノミヲ記載  
ス可キモノトス

第四百六十八條 航海中ニ出生アリタルキハ官ノ艦船ニ在テ  
ハ其艦船ノ事務官其他ノ船舶ニ在テハ船長二十四時内ニ其  
父ト乗組人中ヨリ撰ミタル證人一名トノ面前ニ於テ證書ヲ  
作ル可シ  
其證書ハ乗組人名簿ノ末ニ記載ス可シ(獨第六十一條、佛第五  
十九條、伊第三百八十條)

(理由) 本條ハ航海中ニ出生シタル者ノ身分證書ヲ作ル規則ヲ定ム  
證書ヲ作ル期限ヲ二十四時内ニ短縮シタルハ航海ハ平常ノ場合ニ異ナルヲ  
以テナリ

本條ヲ再考スルニ其父ト乗組人中ヨリ撰ミタル證人一名トアルハ其父在ル  
ニ於テハ其父ト乗組人中ヨリ撰ミタル證人一名若シ其父在ラサルキハ證人  
二名ト改メラレシコトヲ希望ス何トナレハ其父在ラサル場合ニ於テ證人一名  
ノミノ立會ニテハ信用上充分ナラサレハナリ

第四百六十九條 前條ノ手續ヲ爲シタル後其艦船帝國ノ海港  
ニ着シタルキハ其證書ノ謄本ヲ其港ノ身分取扱人ニ送付シ  
身分取扱人ハ父母ノ住所ノ身分取扱人ニ之ヲ送致ス可シ  
又外國ノ海港ニ着シタルキハ其謄本ヲ其國ニ駐在スル帝國  
ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使領事ハ之ヲ外務大臣ニ送致シ  
外務大臣ハ之ヲ父母ノ住所ノ身分取扱人ニ送付ス可シ

前二項ノ謄本ヲ受取りタル身分取扱人ハ直ニ之ヲ簿冊ニ記載ス可シ(獨第六十二條乃至第六十四條、佛第六十條第六十一條、伊第三百八十一條)

(理由) 本條ハ前條證書ノ謄本送致ノ手續ヲ定ム

第四百七十條 正出子ノ否認ハ地方裁判所書記ヨリ送致スル裁判宣告書ノ謄本ニ依リ其子ノ出生證書ノ欄外ニ之ヲ追記ス可シ

(理由) 本條ハ正出子ノ否認證書ノ記載方ヲ定ム

第六章第一節第二款中ノ否認訴權ヲ行フタル結果ナリ

第四百七十一條 庶出子ノ認知ハ身分取扱人之ヲ其出生證書ノ欄外ニ記入ス可シ

公證人若クハ裁判所書記ハ認知證書又ハ裁判宣告書ノ謄本ヲ其出生證書ノ存在スル所ノ身分取扱人ニ送付シ身分取扱

人ハ其證書ノ欄外ニ之ヲ追記ス可シ(獨第二十五條、佛第六十二條、伊第三百八十二條)

(理由) 本條ハ庶出子ノ認知證書ノ記載方ヲ定ム

庶出子ハ其出生證書若クハ後ノ證書又ハ裁判言渡ヲ以テ認知セラル、コトヲ得可シ

出生證書ニ於テ認知スルキハ其證書ヲ以テ出生ト其子タル事トヲ證ス(第四百六十四條見合)本條ハ出生證書ヲ作りタル後ニ認知スル場合ニ係ル佛蘭西等ニ於テハ後ノ證書ヲ以テ認知スル者ハ公證人若クハ曾テ其出生證書ヲ作りタル身分證書ノ官吏若クハ他ノ身分證書ノ官吏ノ面前ニ於テ認知ヲ爲スコトヲ得ル規則ナリ故ニ曾テ出生證書ヲ作りタル身分證書ノ官吏ノ面前ニ於テ認知スルキハ本年所用ノ出生證書ノ簿冊ニ記載シ且ツ其子ノ出生證書ノ欄外ニ之ヲ記入ス可シ若シ他ノ身分證書ノ官吏又ハ公證人ノ面前ニ於テ認知スルキハ其認知證書ノ謄本ヲ曾テ其子ノ出生證書ヲ作りタル身分證書ノ

官吏ニ送付シ該官吏ハ之ヲ本年所用ノ簿冊ニ登寫シ且ツ其出生證書ノ欄外ニ記入ス可キモノトス我草案ハ此ノ如キ重複ナル手數ヲ省キ庶出子ノ認知ハ其子ノ出生證書ヲ管守スル身分取扱人ノ面前ニ於テ爲シ之ヲ其子ノ出生證書ノ欄外ニ記入スルニ止メ若シ公證人ノ證書又ハ裁判言渡ヲ以テ認知シタルキハ其原本ヲ管轄身分取扱人ニ送付シ其子ノ出生證書ノ欄外ニ追記セシムルコトセリ

#### 第四百七十二條 庶出子ノ准正ハ身分取扱人之ヲ其出生證書ノ欄外ニ記入スヘシ(獨第二十六條)

(理由) 本條ハ庶出子准正ノ證書ノ記載方ヲ定ム  
庶出子其父母ノ婚姻ニ由リ正出子ニ准スルコトハ其父母ノ婚姻前若クハ婚姻ノ時若クハ婚姻後ニ於テ認知セラレタルニ拘ラス其身分確定シタルキハ身分取扱人之ヲ其子ノ出生證書ノ欄外ニ記入ス可キモノトス  
欄外記入ノ理由前條ニ同シ

### 第三節 婚姻及ヒ離婚證書

#### 第四百七十三條 婚姻公告書ハ特別ノ簿冊ニ記載ス可シ(佛第六十三條、蘭第十四條)

(理由) 本條ハ婚姻公告證書ノ程式ヲ定ム  
婚姻ノ公告ハ其目的雙方本人婚姻ノ企圖アルコト外人ニ公告シ外人チシテ若シ其婚姻ニ故障ヲ爲スヘキ事由アルキ故障ヲ爲スノ方便ヲ得セシムルニ在リ元來婚姻證書ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリト雖モ此證書タル特別ノ簿冊ニ記載スルヲ以テ足レリトス

#### 第四百七十四條 婚姻證書ニハ左ノ諸件ヲ記載ス可シ

- 一 夫婦
- 二 父母、養父母
- 三 婚姻ニ必要ナル許諾
- 四 婚姻公告ノ日附又ハ免除

五 夫婦ノ承諾

六 證人

七 夫婦財産契約ノ有無其契約アルキハ其契約ノ制並ニ日  
 附及ヒ之ヲ作りタル公證人ノ氏名居所

八 特例婚姻ナルカ又ハ婚姻ニ由ル縁組ナルキハ其事由

九 婚姻公式ヲ行ヒタル年、月、日、時、場所(獨第五十四條、佛第七  
 十六條、伊第三百八十三條)

(理由) 本條ハ婚姻證書ニ記載ス可キ事件ヲ定ム

第一夫婦ヲ記スルハ結婚本人ヲ確定スルナリ第二父母、養父母ヲ記スルハ其  
 親系ヲ明示スルナリ第三婚姻ニ必要ナル許諾トハ婚姻ノ章第四十七條乃至  
 第五十一條ニ規定シタル各人ノ身分ニ付許諾ヲ與フ可キ者ノ許諾ヲ受ケタ  
 ルヲ云フ之ヲ記スルハ其由ル所ノ適法ナルヲ證センカ爲メナリ第四婚姻公  
 告ノ日附又ハ免除ヲ記スルハ其法式ヲ行フタルヲ及ヒ故障ナキヲ證セン

カ爲メナリ第五夫婦ノ承諾ヲ記スルハ最緊要ナル事件ニシテ婚姻ノ自由任  
 意ニ出テタルヲ證センカ爲メナリ第六證人ヲ記スルハ總テノ事件ノ正實  
 ナルヲ證センカ爲メナリ第七夫婦財産契約ノ有無等ヲ記スルハ夫婦タル  
 者ノ爲メタル財産上ノ契約ノ如何ナルヤヲ其夫婦ト取引ヲ爲サントスル他  
 人ニ知ラシメシカ爲メナリ第八特例婚姻又ハ婚姻ニ由ル縁組ノ事由ヲ記ス  
 ルハ入夫若クハ養子ノ婚姻ハ普通婚姻ト結果ヲ異ニスルヲ證センカ爲メ  
 ナリ第九婚姻公式ヲ行ヒタル年月日時ヲ記スルハ婚姻ニ由リ權利義務ノ生  
 スル初期ヲ證センカ爲メナリ其場所ヲ記スルハ身分取扱人ノ適法ナルヲ明  
 ラカニ且ツ其婚姻ヲ確カムルカ爲メナリ又此事件中夫婦、父母、養父母、證人  
 ヲ記スルニ付テハ總則第四百三十八條ニ照シ各人ノ氏名、年齢、族稱、職業、住所  
 及ヒ居所ヲ記載ス可キハ勿論ノトス

第四百七十五條 婚姻ノ不成立及ヒ無効又ハ離婚ノ確定裁判  
 アリタルキハ其裁判所書記ヨリ十日内ニ宣告書ノ謄本ヲ彙

ニ婚姻ヲ爲シタル所ノ身分取扱人ニ送達シ身分取扱人ハ婚姻證書ノ欄外ニ之ヲ追記ス可シ(獨第五十五條、佛第二百九十四條、蘭第四十八條、伊第三百八十四條)

(理由) 本條ハ婚姻ノ不成立及ヒ無効又ハ離婚證書ノ記載方ヲ定ム

本條身分取扱人ヲシテ別ニ證書ヲ記載セス裁判宣告書ノ謄本ニ依リ本人ノ婚姻證書ノ欄外ニ追記セシムルニ止メタルハ第四百七十一條ノ理由ニ同シ

#### 第四節 縁組證書

第四百七十六條 縁組證書ニハ左ノ諸件ヲ記載ス可シ

- 一 養子
- 二 養父母及ヒ實父母
- 三 養子ヲ爲ス者ノ配偶ノ承諾若シ承諾ヲ得ルヲ能ハサル  
キハ其事由
- 四 養父母及ヒ養子ノ承諾又ハ遺囑養子ノ受諾

五 未成年者ヲ養子ト爲スキハ其父母又ハ親族會ノ許諾

六 育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ハ院長ノ許諾

七 實子アル者ノ縁組ニ付テハ其特許

八 遺囑養子ハ遺囑證書ノ日附及ヒ遺囑者死去ノ年、月、日、時

九 證人

十 婚姻ニ由ル縁組ナルキハ其事由

十一 養子ト爲リタル年、月、日、時、場所(獨第二十六條、佛第三百

五十九條、伊第二百十九條)

(理由) 本條ハ縁組即チ養子證書ニ記載ス可キ事件ヲ定ム

養子ノ事タル人爲ヲ以テ天然ノ如ク親子ノ關係ヲ組成スル契約ナルヲ以テ必ス當事者ノ承諾ヲ要ス若シ之ヲ欠クキハ其契約成立セス故ニ第三乃至第六ノ事件ヲ記スルハ其適法タルヲ證センカ爲メナリ第七實子アル者ノ縁組ニ付特許ヲ記スルハ縁組ノ章第一節第九十八條ノ規則ニ觸レサルヲ證



セシカ爲メナリ第八遺囑書ノ日附ヲ記スルハ遺囑ノ有効ヲ確カメシカ爲メナリ又遺囑者死去ノ年月日時ヲ記スルハ養子タル身分確定ノ時期ヲ證センカ爲メナリ第十婚姻ニ由ル縁組ナルキ其事由ヲ記スルハ普通縁組ト結果ヲ異ニスルコトヲ證センカ爲メナリ第十一養子ト爲リタル年月日時ヲ記スルハ養子タル權利義務ノ生スル初期ヲ證センカ爲メナリ其場所ヲ記スルハ管轄官吏ノ適法ナルヲ明ラカニ且ツ其縁組ヲ確カムルカ爲メナリ第一第二第九ニ掲ケタル各人及ヒ其氏名年齢族稱職業住所及ヒ居所ヲ記載ス可キ理由ハ第四百七十四條ニ同シ

第四百七十七條 婚姻ニ由ル縁組ニ於テハ婚姻證書ノ外別ニ

縁組證書ヲ作ル可シ

理由 本條ハ婚姻ニ由ル縁組證書ハ婚姻證書ノ外別ニ證書ヲ作ル可キヲ決定ム

縁組ノ章第四節第二百二十六條ニ於テ婚姻ニ由ル縁組ノ無効ノ規則ヲ定メ

縁組ノ無効ハ婚姻ノ無効ヲ帶有セストセリ故ニ養子ノ契約ニ付テハ婚姻ト縁組ト各別ニ證書ヲ記載スルヲ要ス

第四百七十八條 地方裁判所ニ於テ未成年者ノ縁組ノ認可ヲ

リタルキハ當事者ハ二个月内ニ其裁判宣告書ヲ縁組證書ノ欄外ニ追記セシム可シ

縁組ノ認可アラサルキハ其裁判所書記ノ通知ニ依リ欄外追記ヲ爲ス可キモノトス

(理由) 本條ハ未成年者ノ縁組ニ付地方裁判所ノ認可不認可ヲ縁組證書ニ記載スル方法ヲ定ム

欄外追記ノ理由ハ第四百七十一條ニ同シ

第四百七十九條 縁組ノ不成立及ヒ無効ノ確定裁判アリタル

キハ其裁判所書記ヨリ十日内ニ裁判宣告書ノ謄本ヲ身分取扱人ニ送達シ身分取扱人ハ縁組證書ノ欄外ニ之ヲ追記ス可

(理由) 本條ハ縁組ノ不成立及ヒ無効證書ノ記載方ヲ定ム  
本條ノ理由ハ第四百七十五條ニ同シ

#### 第五節 死去證書

第四百八十條 死去アリタルキハ葬送前ニ其死去ヲ實見シタル戸主若クハ親族又ハ其他ノ者證人一名ヲ同伴シテ其所ノ身分取扱人ニ申述ヲ爲ス可シ但シ主治醫ノ診斷書ヲ差出ス可シ(獨第五十六條第五十七條佛第七十八條伊第三百八十六條)

(理由) 本條ハ死去申述ノ期限及ヒ申述ヲ爲ス可キ義務アル者ノ順序ヲ定ム  
死去ノ申述ヲ爲ス可キ期限ハ歐洲諸國一定セス獨逸ハ遅クトモ次ノ一週間ニ爲ス可シトシ英吉利ハ八日內トシ佛蘭西ニテハ千七百九十二年十二月十九日ノ法律ヲ以テ三日內ニ申述ス可シトシモ現今ノ法律(民法第七十七條第八十條第八十四條第八十六條見合)ニ據レハ二十四時內ニ爲ス可シトスル

モノ、如シ我草案之ヲ葬送前ニ爲スコシト定メ其時日ヲ限ラサルハ死者ヲ嫌疑シ埋葬ヲ急忽ニスルノ弊害ヲ豫防セシカ爲メナリ

主治醫ノ診斷書ヲ要スルハ其人ノ眞實ニ死去セシカ又其死去ハ果シノ犯罪ノ結果ニアラサルカヲ檢知セシカ爲メナリ

死去證書ノ目的ハ人ノ死去セシ事ト死者ノ別人ヲラサル事トヲ確證スルニ在リ故ニ其死去ヲ實見シタル者ニ申述ノ義務ヲ負ハシム其順序ハ第一死者アリタル家ノ戸主第二親族(親族中ニテハ同居ノ者ヲ先トシ別居ノ者之ニ次ク同順位ニ於テハ親等ノ近キ者ヲ先トス)第三其他ノ者トス若シ其住所外ニ於テ死去シタルキハ其家主若シハ管理人ヨリ申述ヲ爲スコキトハ本文戸主トアル中ニ包含スルモノトス

第四百八十一條 死去證書ニハ左ノ諸件ヲ記載ス可シ

一 死者

二 死去ノ年、月、日、時、場所

- 三 配偶者ノ有無
- 四 死者ノ父母養父母
- 五 申述人并ニ證人

右諸件中若シ知悉スル能ハサルコトアルキハ其旨ヲ附記ス可シ(獨第五十九條、佛第七十九條、伊第三百八十七條、蘭第五十一條)

(理由) 本條ハ死去證書ニ記載ス可キ事件ヲ定ム

本條ニ掲ケタル各事件ハ總テ死去セシ者ノ相違ナキコトヲ證明スルカ爲メナリ  
 死去ノ日時ヲ記スルコトニ付テハ佛蘭西民法第七十九條ニ明文ナキヲ以テ彼國學者中議論一定セスト雖モ實際日時ヲ記スルヲ可トスル者多キノミナラス現ニ佛蘭西民法ヲ採用セル荷蘭ノ如キモ死去ノ日及ヒ日時ヲ記ス可トト追加セタリ其他獨逸伊太利ハ勿論近時白耳義民法草案モ亦日時ヲ記スルコト

セリ抑死去ノ日時ヲ詳カニスルハ死者ヲ以テ他人ノ相續ヲ受ク可キ能力ヲ失ハシメ又遺子ノ正出タルコト及ヒ遺產相續ノコト等ニ關シ至要ノ事ナルヲ以テ之ヲ其證書ニ記載セサル可カラズ反對論者ノ主トスル所ハ死去ノ日時ハ利害ニ關スルコト頗ル重大ナルコト因リ之ヲ申述者ノ言ニ任セテ記載スルキハ危害ノ恐レアルヲ以テ專ラ裁判官ノ判定ニ委スルニ如カスト云フニ在リ然レモ此ノ如キハ獨リ死去證書ノミナラス出生婚姻等ノ證書ニ至リテモ皆然ラサルヲ得ス果シテ然ラハ身分證書ノ効用ヲ狭クシ或ハ訴訟ヲ滋スルノ弊ニ堪ヘサラントス故ニ我草案ハ年月日時ヲ記載ス可トト定メタリ

又第一死者第三配偶者アレハ配偶者第四父母養父母第五申述人證人ヲ記スルニ付テハ各其氏名年齢族稱職業住所及ヒ居所ヲ記載ス可キハ言ヲ待タス

第四百八十二條 遺骸ハ身分取扱人ノ認許證書ヲ得ルニ非サレハ之ヲ葬送スルコトヲ得ス  
 身分取扱人ハ死去後二十四時ヲ過クルニ非サレハ送葬ノ認

許證ヲ與フ可カラス且ツ必要ト思料スルキハ死者ノ形狀ヲ  
臨視シ又ハ醫師ヲ派遣スルヲ得但シ衛生取締ノ爲メ特別  
ノ規則アル場合ハ此限ニ在ラス(獨第六十條、佛第七十七條、伊  
第三百八十五條)

(理由) 本條ハ葬送ノ規則ヲ定ム

二十四時前ニ葬送スルヲ許サ、ルハ誤テ昏睡病者等ヲ埋葬セシメテ恐ル  
、カ爲メナリ

然レモ警察上ノ諸規則ヲ以テ特ニ定メラル、所ノ場合例ヘハ傳染病等ニテ  
死去セタルキハ通常ノ定期ニ先テ之ヲ葬送スルヲ得

身分取扱人ハ司法警察ノ職務アルニ據リ其必要ト思料スルキハ死者ノ形狀  
ヲ檢視スルヲ得ルモノトス

第四百八十三條 變死又ハ變死ト思料ス可キ模様アルキハ保  
安官醫師ノ立會ヲ以テ死体ノ形狀及ヒ之ニ關スル諸般ノ景

況ト死者ノ男女、氏名、年齢、族稱、職業、住所及ヒ居所トテ検査シ  
且ツ届出人、證人ノ氏名、年齢、族稱、職業、住所ヲ併セテ調書ヲ作  
リ之ヲ其所ノ身分取扱人ニ報告シ身分取扱人ハ其調書ニ據  
リ直ニ死ニ死去證書ヲ作ル可シ  
遺骸ハ其手續ヲ爲シタル上保安官ノ認許ヲ得ルニ非サレハ  
之ヲ葬送スルヲ得ス(佛第八十一條、第八十二條、伊第三百八  
十九條、第三百九十條)

(理由) 本條ハ變死又ハ變死ト思料ス可キ模様アル者ノ死去證書ヲ作ル方法  
及ヒ其葬送ノ規則ヲ定ム

身分取扱人ハ保安官ノ報告調書ニ據リ死去證書ヲ作ル可シト云フト雖モ是  
其調書ニアル所ノ事件ヲ悉皆記載スルニ非ラス第四百八十一條ノ規則ニ依  
リ作ル可キモノトス

本條第二項ハ第四百八十二條第一項ノ例外法ナリ

第四百八十四條 災害ニ罹リタル者ノ形体ヲ發見又ハ認識スルヲ能ハサルキハ保安官前條ニ從ヒ臨檢調書ヲ作り地方裁判所ノ檢事ニ報告シ檢事ハ裁判所ノ認可ヲ得テ其調書ヲ身分取扱人ニ送付シ之ヲ死去證書ノ簿冊ニ添ヘ置ク可シ(伊第三百九十一條)

(理由) 本條ハ災害ニ罹リ死亡セタル者ノ證書ニ關スル方法ヲ定ム法律ハ或人ノ死去ヲ推測ヲ以テ定ムルヲ欲セス爲ノニ慎重ヲ加ヘ身分取扱人ヲシテ直ニ證書ヲ作ラス唯其調書ヲ一般ノ死去證書ノ簿冊ニ添ヘ置カシノ他日搜索ノ用ニ供ス  
佛蘭西ニ於テハ此場合ヲ民法ニ規定セカリシカ爲メ千八百十三年一月三日ノ勅令ヲ以テ之ヲ補充セリ

第四百八十五條 病院、學校其他公立院舎ニ於テ死去アリタルキハ院長、校長若クハ管理人ヨリ二十四時内ニ其所ノ身分取

扱人ニ報告ス可シ(佛第八十條、伊第三百八十八條)

(理由) 本條ハ病院、學校其他公立院舎ニ於テ死者アリタルキノ報告手續ヲ定

第四百八十六條 監獄ニ於テ死去アリタルキハ典獄ヨリ在監人名簿ニ據リ二十四時内ニ其所ノ身分取扱人ニ報告ス可シ(死刑ノ執行アリタルキ亦同シ(佛第八十三條、第八十四條、伊第三百九十三條、第三百九十四條))

(理由) 本條ハ監獄ニ於テ死去セタル者及ヒ刑死ノ者ノ報告手續ヲ定ム

第四百八十七條 前二條ノ場合ニ於テ身分取扱人ハ其報告ニ據リ直ニ死去證書ヲ作ル可シ(佛第八十條、第八十三條、第八十四條、伊第三百九十四條)

(理由) 本條ハ第四百八十五條及ヒ第四百八十六條ノ場合ニ於テ死去證書ヲ

作ル方法ヲ定ム

第四百八十八條 變死又ハ監獄内ニ於テ死去若クハ刑死シタル者ノ死去證書ニハ其事故ヲ記載ス可カラス(佛第八十五條伊第三百九十五條)

(理由) 本條ハ普通ノ死去ニ非サル者ノ證書ノ記載方ヲ定ム

變死又ハ監獄内ニ於テ死去シ或ハ死刑ニ處セラレタル者ノ事故ヲ死去證書

ニ記載セシメサルハ一家ノ榮譽ヲ汚スカ如キ事ヲ以テ之ヲ後世ニ記念セシ

ムルヲ欲セサル法律ノ精神ニ因ルモノナリ

第四百八十九條 航海中ニ死者アリタル其死去證書ヲ作り及ヒ之ヲ送付スルノ方法ニ付テハ第四百六十八條第四百六十九條ノ規則ヲ適用ス

艦船ノ難破ニ因テ乗組人并ニ乗客悉皆死去シタル場合ニ於テハ管轄官廳其確報ヲ得テ死者住所ノ身分取扱人ニ報告ス

可シ

若シ乗組人又ハ乗客ノ一部死去シ乗組人名簿ノ管守者モ死者中ニ在ルキハ其生存者ノ證言ニ據テ調書ヲ作り死者住所ノ身分取扱人ニ報告ス可シ

報告ヲ受ケタル身分取扱人ハ直ニ死去證書ヲ作ル可シ(獨第六十一條、佛第八十六條、第八十七條、伊第三百九十六條)

(理由) 本條ハ航海中ニ死去シタル者ノ身分證書ヲ作り及ヒ之ヲ送付シ又ハ調書ヲ作り報告スル規則ヲ定ム

第一項航海中ニ死去シタル者ノ死去證書ハ航海中ニ出生シタル者ノ出生證書ニ於ケル法式ト同一ノ式ヲ用フ可キモノトシ第二第三項異常ノ場合ニ於テハ特別ノ手續ヲ爲サシム

管轄官廳トハ其船舶ヲ管轄スル官廳ヲ云フ例ヘハ海軍ニ屬スル艦船ナレハ海軍省、人民ノ所有ニ屬スル船舶ナレハ地方廳ノ如キ是ナリ

第六節 種々ノ證書

第四百九十條 家督相續又ハ其他ノ事由ニ因リ戸主ト爲リタル者ハ十日内ニ證人一名ヲ同伴シ其所ノ身分取扱人ニ申述ヲ爲ス可シ但シ辭産相續ノ場合ニ於テハ辭産者モ亦其申述ヲ爲ス可シ

(理由) 本條ハ家督相續又ハ其他ノ事由ニ因リ戸主ト爲リタル者ノ申述方法ヲ定ム

戸主證書ノ事タル歐洲諸國其例ナシ我草案ニ之ヲ設ケタルモノハ本邦從來ノ成法ニ依リ之ヲ斟酌シタルナリ

辭産(即チ隱居)相續ノ場合ニ於テ隱居シタル者ノ申述ヲモ要スルハ本人ノ隨意ニ出タルヲ證シ且ツ辭産相續ニ付詐偽ノ弊ヲ防カンカ爲メナリ

第四百九十一條 戸主證書ニハ左ノ諸件ヲ記載ス可シ

一 戸主

二 戸主無能力者ナルキハ其代表人

三 前戸主其續柄及ヒ生死

四 父母其生死

五 戸主ト爲リタル事由

六 證人

七 戸主ト爲リタル年、月、日

(理由) 本條ハ戸主證書ニ記載ス可キ事件ヲ定ム

第三項前戸主ノ續柄ヲ記スルハ相續者ノ合格ナルコトヲ證センカ爲メナリ又其生死及ヒ第五項戸主ト爲リタル事由ヲ記スルハ死跡相續ト辭産相續トノ別ヲ證センカ爲メナリ第四項父母其生死トアルハ再考スルニ(父母養父母及ヒ其生死)ト改メラレシテ希望ス本件ヲ記スルハ戸主タル者ノ別人ヲラサルコトヲ證センカ爲メナリ但シ前戸主タル者現戸主ノ父母若クハ養父母ノ一人ニ係ルキハ其配偶者ノミヲ記ス可キモノトス

各項ニ掲ケタル各人ノ氏名年齢等ヲ記載スルハ外證書ノ例ニ同シ

#### 第四百九十二條

國民分限ヲ獲得シ若クハ回復スルノ申述アリタルキハ身分取扱人直ニ其證書ヲ作り其者原日本人ニ係ルキハ其出生證書ノ欄外ニ追記ス可シ

(理由) 本條ハ國民タル分限ヲ獲得シ若クハ回復シタル者ノ證書記載方ヲ定

ム

外國人ニシテ日本國民タル分限ヲ獲得シ若クハ本ト日本國民ニシテ其分限ヲ喪失シタル者再ヒ日本國民ノ分限ヲ回復スルハ其權利義務ニ關スル頗ル大ナルヲ以テ別ニ簿冊ヲ設ケ其身分證書ヲ記載スルヲ必要トス故ニ國民分限ノ章第一節及ヒ第二節ノ規定ニ據リ日本國民タル分限ヲ獲得シ若クハ回復スル者ノ申述ヲ受ケタル身分取扱人ハ直ニ其證書ヲ作り且ツ其者本ト日本人ナルキハ其出生證書ノ欄外ニモ之ヲ追記ス可キモノトス

#### 第四百九十三條

國民分限喪失ノ裁判アリテ確定シタルキハ

其裁判所書記ヨリ十日内ニ裁判宣告書ノ謄本ヲ本人原住所ノ身分取扱人ニ送達シ身分取扱人ハ之ヲ簿冊ニ記載シ且ツ其出生證書ノ欄外ニ追記ス可シ

(理由) 本條ハ前條ノ反對ニテ國民タル分限ヲ喪失シタル者ノ證書記載方ヲ

定ム

#### 第四百九十四條

未成年者自治ヲ得タルキハ身分取扱人直ニ之ヲ其出生證書ノ欄外ニ記入ス可シ  
自治ヲ廢止スル親族會ノ決議ハ十日内ニ保管人ヨリ身分取扱人ニ申述シ身分取扱人ハ其欄外追記ヲ爲ス可シ(伊第三百四十三條第三百四十八條)

(理由) 本條ハ未成年者自治ヲ得又ハ自治ヲ廢止セラレタル證書ノ記載方ヲ

定ム

本條乃至第四百九十七條ノ規則ハ第九章後見第十章未成年者ノ自治第十一



章禁治產ノ部ニ掲ケタル各人身分ノ變更ニ關スル事件ヲ證明セシカ爲メ設ケタルモノトス

佛蘭西ニ於テハ未成年者ノ後見ヲ免カル、事及ヒ治產ノ禁ヲ受クル事ハ之ヲ身分證書ノ簿冊ニ記載セシメス未成年者ノ後見ヲ免カル、ハ治安裁判所ノ書記局ニ備ヘタル簿冊ニ記載シ又治產ノ禁ヲ受ケタル者ノ如キハ其裁判言渡ヲ爲シタル郡裁判所ノ書記局ニ備ヘタル簿冊ニ記載ス可キモノトセリ伊太利民法ハ之ヲ改新シテ其第三百四十三條ニ於テ各治安裁判所ヲシテ未成年者若クハ禁治產者ニ關スル公簿ト成年權ノ認許ヲ得タル未成年者及ヒ其他ノ不合格者(心神ノ耗弱ナルモ治產ノ禁ヲ受ク可キニ至ラサル者、浪費者、生來ノ聾啞者及ヒ盲目者ノ類ヲ云フ)ノ保管ニ關スル公簿トヲ設備セシメ此公簿ハ後見及ヒ保管ニ係ル一切ノ事件ヲ包載ス可キモノト規定セリ此ノ如キ改新ハ實際上ニ於テ此事ニ關係ヲ有スル第三者及ヒ未成年者ヲシテ能ク後見人ノ管理ノ成跡ヲ知悉セシムルニ足ル可キ有益ノ方法ナリトノ評ア

リ(佛蘭西人ユツク氏著伊佛民法比較論評中ニ見ユ)我草案ハ更ニ又一步ヲ進メテ凡ソ未成年者自治ノ未成年者禁治產者准禁治產者刑事上禁治產者又ハ瘋癲者ニ關スル事件ニ付身分取扱役所ニ簿冊ヲ設備シ身分取扱人ヲシテ當事者ノ申述ニ依リ其證書ヲ記載セシメ他ノ身分證書ト同シク何人ニ限ラズ之ヲ展閱シ若クハ其謄本ヲ求ムルヲ得セシムルモノトセリ但シ刑事上禁治產ヲ受ケタル者ノ治產人ニ關スル事件ヲ身分證書ノ簿冊ニ記載スルハ第四百八十八條ノ精神ニ抵觸スルモノ、如シト雖モ彼レハ死去ヲ證スルニ止マルヲ以テ無益ノ事故ヲ記スルニ及ハス此ハ民事上ノ關係ニ於テ第三者ニ之ヲ知ラシムルハ甚ク有益ノ事ナルヲ以テ亦一家人ノ榮譽ヲ顧ミルヲ能ハサルニ因ル

第四百九十五條 後見人、保管人、治產人及ヒ假管理人ハ其就任ヨリ十日内ニ其後見、自治、禁治產若クハ假管理ノ事由ヲ具シテ後見、自治、禁治產若クハ假管理ヲ受クル本人住所ノ身分取

扱人ニ申述ス可シ

身分取扱人ハ直ニ之ヲ其簿冊ニ記載ス可シ(伊第三百四十  
四條)

(理由) 本條ハ後見人保管人治産人及ヒ假管理人就任ノ申述方并ニ身分取扱  
人其證書ノ記載方ヲ定ム

後見人保管人治産人及ヒ假管理人ニ申述ノ義務ヲ負ハシムルモノハ本人ハ  
無能力ナルト各就任者ノ確實ナルヲ證スルトニ因ル獨リ自治ヲ得タル未成  
年者ハ半能力ヲ有スルヲ以テ前條ニ於テ本人ヨリモ申述セシムルトモセリ

### 第四百九十六條

後見、自治、禁治産及ヒ假管理ニ付テハ左ノ諸

件ヲ記載ス可シ

一 未成年者、自治ノ未成年者、禁治産者、准禁治産者又ハ瘋癲  
者

二 後見人及ヒ副後見人、保管人、治産人又ハ假管理人

三 後見、自治、禁治産若クハ假管理開始ノ年、月、日(伊第三百四  
十五條第三百四十八條)

(理由) 本條ハ後見自治禁治産及ヒ假管理ノ各證書ニ記載ス可キ事件ヲ定ム

第一第二ニ掲ケタル各人ノ氏名年齢族稱職業住所及ヒ居所ヲ記載ス可キ  
ハ外證書ノ例ニ同シ

我草案ハ伊太利民法ノ例ニ倣ハサルヲ以テ親族會ノ記日及ヒ會議ノ事由後  
見人ノ財産管理ニ關スル年報等ハ總テ之ヲ裁判所ノ記録ニ委シ身分證書ニ  
ハ唯其人ト其事件開始ノ年月日ヲ證明スルニ止メタリ

### 第四百九十七條

未成年者成年ニ達シ、禁治産者准禁治産者其

禁ヲ解カレ、刑事上禁治産者主刑終リ、瘋癲者其原ノ罷ムニ固  
リ後見人保管人治産人若クハ假管理人ヲ廢シタルキハ十日  
内ニ本人ヨリ事由ヲ具シテ其所ノ身分取扱人ニ申述ス可シ  
身分取扱人ハ直ニ其事件ヲ記載シタル簿冊ノ欄外ニ追記

ス可シ

(理由) 本條ハ後見人保管人治産人若クハ假管理人ヲ廢止セタル者ノ申述方並ニ身分取扱人其證書ノ記載方ヲ定ム  
本條ノ規則ハ第四百九十五條ノ反對ニテ能力ヲ得タル本人ニ申述ノ義務ヲ負ハシメタリ

第四百九十八條

失踪ノ推測又ハ宣言ノ裁判アリタルキハ十日内ニ請求人ヨリ其所ノ身分取扱人ニ其謄本ヲ差出シ簿冊ニ記載セシム可シ

失踪者其生存ヲ届出タルキハ身分取扱人ハ失踪ヲ記載シタル簿冊ノ欄外ニ追記ス可シ

(理由) 本條ハ失踪ノ申述及ヒ失踪者生存ノ届出ヲ爲シタルキ其證書ノ記載方ヲ定ム

失踪推測ノ時期ト失踪宣言ノ時期トハ失踪在ノ身分稍々變更シ隨テ其財産

保管方ニ差異アルヲ以テ之ヲ關係人ニ知ラセムルヲ必要トス故ニ其裁判ヲ請求セタル人ニ申述ノ義務ヲ負ハセム  
又失踪者現出スルカ若クハ音信ヲ與フルキハ失踪宣言ノ効果即時ニ止息スルヲ以テ其生存ヲ届出タルキハ身分取扱人直チニ失踪證書ノ欄外ニ追記ヲ爲ス可キモノトス

第四百九十九條

氏名變更ノ許可ヲ得タルキハ其許可書ヲ具シテ本人ヨリ其住所ノ身分取扱人ニ申述ス可シ

身分取扱人ハ直チニ其出生證書ノ欄外ニ追記ス可シ(蘭第六十六條第六十九條)

(理由) 本條ハ氏名變更ノ申述并ニ其證書ノ記載方ヲ定ム  
氏名更改ノ事ハ歐洲各國多クハ政府(國王又ハ大統領)ニ請願シ政府ハ行政ノ處分ニ依テ之ヲ許可スル例ナルヲ以テ佛蘭西伊太利等ノ民法ニ之ヲ掲載セズ獨リ荷蘭民法ニ於テ其官令ヲ出產證書ノ端ト其簿冊トニ記載ス可シトセ

リ我草案ハ本邦從來氏名ヲ改ムル願ハ行政官ニ於テ許可ヲ與ヘ而シテ其許可ヲ得タル本人ノ届出ヲ以テ之ヲ戸籍ニ記載スル成例ナルニ仍リ本條ヲ規定シタルモノトス

第五百條 住所變更又ハ設定ノ申述アリタルキハ新住所ノ身分取扱人ハ其證書ヲ作り其變更ニ係ルモノハ謄本ヲ舊住所ノ身分取扱人ニ送付ス可シ舊住所ノ身分取扱人ハ直ニ原簿冊ノ欄外ニ追記ス可シ(伊第十七條第二項)

(理由) 本條ハ住所變更又ハ設定ノ證書ニ關スル方法ヲ定ム

本條ノ規定ハ住所ノ章第四百五條第四百六條第一項ノ結果ナリ

第五百一條 外國人帝國ニ住所又ハ居所ヲ定ムルキハ其本國、氏名、年齢及ヒ身分ヲ其所ノ身分取扱人ニ申述ス可シ若シ其外國人ニ妻子アルキハ其名及ヒ年齢并ニ居留中ニ生レタル子ノ名及ヒ生年月日ヲ申述ス可シ

其他自治又ハ禁治産ニ因リ其身分ニ變更アルキハ之ヲ申述ス可シ

其申述ヲ受ケタル身分取扱人ハ之ヲ簿冊ニ記載ス可シ

(理由) 本條ハ外國人帝國ニ住所又ハ居所ヲ定ムルキ及ヒ其身分ニ變更アル

キノ申述方并ニ身分取扱人其證書ノ記載方ヲ定ム

本條ノ規定ハ國民分限ノ章第十條第十三條第十四條ニ掲ケタル外國人カ住所ノ章第四百六條第二項ニ據リ帝國ニ住所ヲ定ムル場合ニ於テ爲ス可キ申述及ヒ其住所又ハ居所ヲ定メタル後身分ノ變更ニ係ル事件ノ申述ヲ要スルモノニシテ其目的タル外國人ノ身分ヲ確實ニ證明センカ爲メナリ

第五百二條 本節ニ掲クル證書ヲ作ルニ付テハ證人ヲ要セス但シ戸主證書ハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ本節ニ掲クル種々ノ證書ニ於ケル特別ノ規則ヲ定ム

本節戸主證書ノ外各證書ヲ作ルニ證人ヲ要セサル所以ハ其事件タル或ハ政

府ノ許可ニ由リ或ハ裁判宣告ニ由リ或ハ法律若クハ父母親族會ノ許可ニ由  
リ他ニ證據ノ見ルヘキモノアルヲ以テ更ニ證人ノ證明ヲ待ツニ及ハサレハ  
ナリ但シ住所變更又ハ設定ハ此例ニアラスト雖モ是亦本人現ニ其地ニ住居  
ヲ占ムルニ由リ別ニ疑フヘキコトナキモノトス

#### 第七節 特別ノ身分證書

第五百三條 出征中ノ軍人軍屬ニ係ル身分證書ハ陸海軍ノ規  
則ニ定メタル士官之ヲ作ル可シ(獨第七十一條、佛第八十八條  
乃至第九十八條、伊第三百九十八條)

(理由) 本條ハ出征中ノ軍人軍屬ニ係ル身分證書ノ特別法ヲ定ム

本條ノ規則ハ專ラ外國出征中ノ者ニ適用ス可シト雖モ本國內ニ在ルキト雖  
モ非常出征中ニ係ル者ハ之ヲ適用スルコト得可キモノトス

佛蘭西法律ニ於テハ外國ニ在ル軍人軍屬ノ身分證書ノ爲メニ例外規則ヲ設  
ケ此規則ハ唯外國ニ在ル者ニノミ適用シ其他內國ニ於ケル從軍ノ兵士及ヒ

軍中ニテ使用スル者ハ入寇叛亂ノ場合ニ於テ身分證書ノ官吏ニ依頼スルノ  
便ヲ得サルキヲ除ク外總テ普通法ノ管理ヲ受ク可キモノトス獨逸ニ於テ  
モ獨逸國外ノ兵營ニ屯在シ又ハ出陣ノ爲メ獨逸國ヲ去リ又ハ役ニ服スル軍  
艦或ハ其他海軍ノ船舶ノ乗組者ニ付特別法ヲ定メタルノミ伊太利ニ於テハ  
民法第三百九十八條ニ單ニ從軍ノ軍人若クハ軍隊所屬ノ人トアルヲ觀レハ  
内外國ノ區別ヲ爲サ、ルモノ、如シ我草案ハ國ノ内外ニ拘ハラズ出征中ノ  
者ニ付テハ特別法ヲ以テ管理セシム蓋シ出征中ハ獨リ外國ニ在ルキノミナ  
ラス國內ニ在リト雖モ戰亂非常ノ場合ニ於テハ普通法ニ依ルヲ得サルヲ以  
テナリ

第五百四條 出征中作りタル身分證書ノ正本ハ其士官ヨリ陸  
海軍大臣ニ差出シ陸海軍大臣ハ其謄本ヲ本人住所ノ身分取  
扱人ニ送付ス可シ  
謄本ノ送付ヲ受ケタル身分取扱人ハ直ニ之ヲ簿冊ニ記載

ス可シ(伊第四百條)

(理由) 本條ハ出征中作リタル身分證書送付ノ手續及ヒ身分取扱人主管ノ簿冊ニ記載方ヲ定ム

文意明瞭ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

第八節 身分證書ノ訂正

第五百五條 身分證書ノ訂正ヲ要スルハ其事ニ關係アル者ヨリ地方裁判所ニ請求スルヲ得(獨第六十五條第六十六條、佛第九十九條、伊第四百一條、蘭第七十一條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ訂正ヲ請求スル規則ヲ定ム

身分證書ハ之ヲ記載シタル後ハ直チニ社會ニ對シ公證ノ具ト爲ルヲ以テ身分取扱人其他證書ニ關係シタル者ニ於テ如何ナル訂正ヲモ私ニ施スヲ得ス若シ此證書ニ關係アル者之ヲ訂正セシムヲ欲スルハ其證書ノ簿冊ヲ管轄スル地方裁判所ニ請求スルヲ要ス

身分證書ノ訂正ハ左ノ場合ニ於テ請求スルヲ得ヘシ

第一 證書ニ法律ノ命シタル事件ヲ記載セス又ハ其命セサル事件ヲ記載シ

又ハ偽造不實ノ事件ヲ記載シタルハ

第二 其法式ノ規則ニ違ヒタルハ

第三 其證書ノ編成ナシ又ハ零紙ニ記載シタルハ

右ノ外錯誤脱漏等アルハ亦同シ

第五百六條 地方裁判所ノ檢事ハ公ケノ秩序又ハ貧民ノ爲メ

身分證書ノ訂正ヲ其裁判所ニ請求スルヲ得

(理由) 本條ハ前條ノ例外法ヲ定ム

身分證書ノ訂正ハ必ス其證書ニ關係シタル者ナラテハ之ヲ請求スルヲ得ス檢事ト雖モ亦其訂正ヲ求ムルヲ得サルヲ原則トス然レモ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ職權ヲ以テ之ヲ請求スルヲ得セシム

第一 公ケノ秩序ニ關スルハ

第二 貧民ノ利益ト爲ルキ

佛蘭西ニ於テハ法律上明文ナシト雖モ實際裁判例ヲ以テ檢事ニ此ノ如キ職權アルヲ認許セリ千八百六十二年一月二十二日覆審院ノ裁決

第五百七條 訂正ノ裁判ハ請求人及ヒ適法ニ召喚ヲ受ケタル關係人ニ對スルニ非サレハ其効力ヲ有セス(佛第一百條、伊第四百二條、蘭第七十二條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ訂正ニ關スル確定裁判ノ効力ヲ定ム

本條ノ規定ハ裁判ヲ經タル事項ハ關係各人ニ非サル他人ニ對シ害ト爲ル能ハス又利ト爲ル能ハスト云フ原則ヲ採用シタルナリ

第五百八條 訂正ノ裁判確定シタルキハ其謄本ヲ請求人ヨリ身分取扱人ニ差出シ身分取扱人ハ直ニ訂正スヘキ身分證書ノ欄外ニ追記ス可シ(佛第一百一條、伊第四百三條、蘭第七十三條)

(理由) 本條ハ身分證書ノ訂正ノ記載方ヲ定ム

凡ソ訂正ヲ經タル身分證書ハ原文ノ儘之ヲ保存シ塗抹又ハ削除スルヲ許サス蓋シ證書ノ訂正ハ其證書ニ關係スル者ト雖モ其訴訟ニ付召喚ヲ受ケサル者ニ對シ之ヲ執行ス可カラサルヲ以テ此等ノ者ニ關シテハ仍ホ當初ノ力ヲ有ス可キ所ノ證書ヲ保存スルヲ要ス故ニ其訂正ハ原證書ノ欄外ニ追記スルニ止メタリ

第九節 罰則

第五百九條 本章ノ條則ニ違背シタル身分取扱人若クハ其職務ヲ行フ者及ヒ身分證書ノ管守人ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四百五十五條ノ但書ニ據リ身分證書ノ無効ヲ惹起スル所爲アリタルキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス(佛第五十條、伊第四百四條、蘭第二十七條)

(理由) 本條ハ身分取扱人若クハ其職務ヲ行フ者及ヒ身分證書ノ管守人其義

務ヲ怠リタルトキ之ヲ懲罰スルノ法ヲ定ム  
法律ハ其示定シタル規則ヲ遵守セシメシカ爲メ其義務ヲ怠リタル官吏ニ對  
シ刑典ヲ設ケテ之ヲ懲罰ス但シ刑ノ輕重權衡ハ佛蘭西伊太利等ニ比較シ本  
邦ノ適度ヲ考量シタルナリ  
又罰金ハ刑事裁判所ニ於テ言渡スヲ常規トスレモ佛蘭西伊太利等ニ於テハ  
身分證書ノ官吏ニ對スル罰金ハ特ニ民事裁判所ニ於テ言渡ス可トス是該  
官吏ノ職タル常給ナキヲ以テ之ヲシテ刑事裁判所ノ言渡ヲ受ケ衆庶ノ輕蔑  
ヲ招カシムルヲ欲セスト云フニ在リ然レモ我草案ハ之ニ倣ハス他ノ處刑ト  
同シク刑事裁判所ニ付シタリ  
第五百十條 本章ニ於テ申述期限又ハ報告期限ノ定メアル事  
件ヲ其期限内ニ申述又ハ報告セサル者ハ二十錢以上一圓九  
十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第四百五十七條第二項ニ違背シタル者亦同シ(獨第六十八條、

佛刑法第三百四十六條第三百四十七條

(理由) 本條ハ申述又ハ報告ヲ爲ス可キ者其義務ヲ怠リタルトキ之ヲ懲罰スル  
ノ法ヲ定ム

本條犯則者ヲ罰スルニ罰金ヲ以テセスシテ科料ニ處スルモノハ現行戶籍法  
届出規則ニ違背シタル者ヲ罰スルノ例ニ依リ差其範圍ヲ廣メタルノミナリ





